日本国憲法

大嶽 浩

【授業の概要】

日本国憲法について、その成立の事情や明治憲法との比較を通じ、現行憲法の内容と主要な問題点を講義する。憲法問題における具体的事例にもふれる。

【授業計画】

1．憲法と理想
2．憲法と法律
3．憲法と憲法典
4．国民の司法参加
5．憲法の最高法規性
6．憲法の改正

【評価方法】

試験とレポートによる評価。

【テキスト】

使用せず。プリントを配布。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

日本国憲法

初谷良彦

【授業の概要】

法と国家は人間のためにある。憲法は、このような法の目的と国家の責務を明らかにしようとするものである。なるべく具体的な現実の問題と関連させて説明したり、裁判例などにも触れ、憲法はわれわれの生活の中に入り込んでいる身近な、確かな存在であることを実感できるようにしたい。

【授業計画】

第１回　近代国家と憲法
第２回　日本国憲法制定の経緯
第３回　日本国憲法の基本原理
第４回　人権の歴史
第５回　人権の内容・享有主体
第６回　人権規定の効力
第７回　生命・自由・幸福追求権
第８回　法の下の平等
第９回　信教の自由と政教分離
第10回　表現の自由
第11回　人身の自由と刑事手続
第12回　国会・内閣
第13回　司法制度
第14回　地方自治
第15回　期末試験

【評価方法】

主として単位認定試験の成績によって評価する。

【テキスト】

憲法講義Ⅰ（第２版）（初谷良彦著　成文堂）

【参考文献・資料】

授業の際、随時紹介する。

民主主義と人権

初谷良彦

【授業の概要】

民主主義の根本原則は人権（人間としての権利）の尊重にある。人権の理想と実現が民主主義のあり方と人間の生き方に大きく影響する。民主主義の制度と仕組みについて、人権を保障する法律やその実態にふれながら、現代の課題として講義する。

【授業計画】

第１回　民主主義の歴史（ペリクレスからウィルソンまで）
第２回　近代民主主義の変容（市民社会から大衆社会へ）
第３回　現代民主主義の問題点
第４回　国家の正統性について
第５回　国家と社会契約の思想
第６回　議会制民主主義の歴史
第７回　議院内閣制と大統領制
第８回　多数決原理と民主主義
第９回　代議制民主主義と選挙制度
第10回　現代の民主主義体制
第11回　人権総論
第12回　人間の尊厳と人権
第13回　障害者の国務請求権
第14回　少数者の人権
第15回　平等権

【評価方法】

主として単位認定試験の成績によって評価する。

【テキスト】

概説　デモクラシーと国家（初谷良彦他　成文堂）

【参考文献・資料】

講義の際、随時紹介する。

民主主義と人権

本 秀紀

【授業の概要】

日本国憲法は人権と民主主義を保障しているが、その制度と仕組みについて、人権をまもる法律やその実態にふれながら、現代の課題として講義する。

【授業計画】

新聞報道などから、できるかぎり身近で具体的な素材を取り上げつつ、まずは現実を知り、その上で諸問題への対応を考える力を養う。

基本的には講義形式で行うが、受講生の問題関心を高めるため、適宜質疑をしたり、ビデオを観る予定である。

授業内容は現在のところ、以下の項目から適宜選択する予定だが、そのときどきのトピックによって変更もありうる。

1　はじめに：「民主主義と人権」って?
2　企業社会と人権：過労死、育児休業、労働者差別
3　女性と人権：ドメスティック・ヴァイオレンス、労働と女性差別
4　マスメディアと人権：プライバシー侵害、メディア規制立法
5　子どもと人権：校則・体罰、少年法、いじめ・児童虐待
6　医療と人権：インフォームド・コンセント、安楽死・尊厳死、代理出産
7　外国人と人権：参政権、出入国管理、外国人差別、難民問題
8　平和と人権・民主主義：有事法制、イラクへの自衛隊派遣、憲法改正
9　ゴミ問題と民主主義：廃棄物処分場と環境、住民投票
10　政治の仕組みと民主主義：選挙制度、国会・内閣、政党法制

【評価方法】

学期末の筆記試験（受講者数によってはレポート）を基本とし、ビデオへの感想などを加味する。

【参考文献・資料】

テキストブック現代の人権〔第３版〕（川人博編著　日本評論社　2004年）
人権ウォッチング（前田朗　凱風社　2000年）
ハンドブック国際化のなかの人権問題〔第４版〕（上田正昭編　明石書店　2004年）
それぞれの人権〔第２版〕（憲法教育研究会編　法律文化社　2002年）
など。なお、必要に応じて、講義の際に資料・レジュメ等を配布する。

哲学的人間論

高畑祐人

【授業の概要】

東西の著名な哲学者の古典的な哲学論にふれながら、現代社会がかかえる諸課題についていかに対応し、対処すべきかについて講義をする。

【授業計画】

今日の環境問題は、人間と自然の関わり方の問題である。つまり、近代以降、技術の力で自然を自分たちのために改造し続けて来たことの問題である。そして、自然への関わり方は、「自然観」によって規定されている。だから、自然との関わり方・自然観は、人間の生き方を反映している。自然との関わり方を考え直すことが、人間の善い生き方を考えることにもなるのである。ところで近代的な自然科学的な自然観の以前に自然観の長い歴史が知的遺産として横たわっている。そこから学ばない手はない。そこで、この講義では西洋哲学の歴史の中の主な哲学者の思想を「自然」の概念を手がかりにして通覧し、「自然とのよりよい関わり方＝人間のより善い生き方」の本質的要素を考えてみたい。

1．なぜ自然の哲学か
2．神話的自然観－ギリシャ神話におけるプロメテウス観の移り変わり－
3．ソクラテス以前の自然哲学－タレスからアナクサゴラスまで－
4．ソフィストとソクラテス・プラトン
5．アリストテレス
6．デカルト
7．カント
8．シェリングとロマン主義的自然観
9．進化論的自然観

【評価方法】

学期末の筆記試験あるいはレポート、授業への参加態度などで総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献・資料】

西洋哲学史　上・下（シュヴェーグラー　岩波文庫）
西洋哲学史（岩崎武雄　有斐閣）
哲学の原風景（荻野弘之　NHKライブラリー）
野生の歌が聞こえる（レオポルド　講談社学術文庫）
エマソン論文集　上（エマソン　岩波文庫）

生命倫理学

加藤太喜子

【授業の概要】

生命科学の進歩と発達に伴い、倫理的・法的・社会的視点の重要性が指摘されるようになった。新旧さまざまな問題を挙げながら、依拠する規範のあり方をともに考えたい。

【授業計画】

次の主な項目に従って授業を展開する。

1．生命倫理学の成り立ち
2．インフォームド・コンセント
3．脳死と移植医療
4．生殖医療
5．代理母
6．人工妊娠中絶
7．出生前診断
8．優生思想とは
9．よりよい自己決定に向けて

【評価方法】

レポート及び期末に行う筆記試験により評価する。

【テキスト】

授業中に指示する

【参考文献・資料】

優生学と人間社会（米本昌平他著　講談社現代新書）
クローン人間（粥川準二著　光文社新書）

現代社会と倫理

大野波矢登

【授業の概要】

民主主義社会と自由主義社会は人々に多くの権利を保障しているが、それは人々がモラルや義務を守ることを前提としている。現代社会の守るべき倫理と課題について講義する。

【授業計画】

科学技術の進歩によってもたらされた現代の社会問題を、ビデオ等の資料を使って紹介し、その解決のためにわれわれは何をすべきかを考える。

1．倫理的視点から見た現代の社会問題
2．倫理学の概念と理論に関する若干の考察
3．倫理学理論の応用（道徳的意思決定の方法）
4．社会の安全性と科学技術者の責任
　クローン技術はどのように応用されるべきか？
5．環境倫理の主張
　自然保護は何をめざしているのか？
6．インターネット時代の倫理
　知的財産は誰のものか？
7．内部告発と社会の浄化
　内部告発は行なうべきか？

【評価方法】

小レポート（3、4回授業時に書いてもらう予定）と期末レポートの成績によって評価する。

【テキスト】

特に指定しない。プリントを配布する。

【参考文献・資料】

入門講義　倫理学の視座（新田孝彦著　世界思想社）
先端技術と人間　21世紀の生命・情報・環境（加藤尚武著　NHKライブラリー）
環境と倫理　自然と人間の共生を求めて（加藤尚武編　有斐閣アルマ）

ジェンダーと社会Ⅰ

國信潤子　星山幸子　佐藤光　林かぐみ　生江明

【授業の概要】

この講義は、まずジェンダーとは何かについて解説し、それらが日本社会において、また開発途上国においてどのように現象化しているかを紹介するオムニバス講座である。5名の開発協力の現場で活躍する講師によって日本、フィリッピン、トルコ、バングラデシュ、ネパールなどでの現場の開発協力活動を基礎にジェンダー関係の多様性と開発協力におけるジェンダーに敏感な視点とは何かを紹介する。

持続可能な開発、基本的生活ニーズの確保、参加型開発、地域住民の意識化など、近年の開発論の理論的展開をもとにジェンダー関係の変容を考察する。

【授業計画】

まず、本講座のコーディネーターである國信（本学教授）がジェンダーとは何か、日本社会におけるジェンダー関係の実態、国際開発におけるジェンダー視点の展開について講じる。次に生江明（日本福祉大学教授）による国際統計にみるジェンダー格差の意味を参加型小グループ討議で読み取り、発表、討議する。第三番目の講師は星山幸子（金城学院大学講師）によってトルコ南東部アナトリア地方の綿摘み女性労働者の生活実態とイスラム農村社会にみるジェンダー規範を紹介する。第四番目の講師はアジア保健研修所（AHI）の佐藤光医師および、林かぐみ研究員によって愛知県日進市にある国際的なNGOであるAHIの活動、つまりアジア諸国で実施されている保健リーダーの参加型学習による医療・保健、ジェンダー平等化の促進活動を紹介する。

各講師が3・4回ずつ講義を行うリレー講義である。大半は講義形式である。必要に応じて、小グループ討議、ビデオ視聴なども取り入れる。

【評価方法】

期末のレポート、出席状況、履修態度、感想カード内容などの総合評価による。

【テキスト】

資料配布

【参考文献・資料】

開発とジェンダー（田中他　国際開発事業団出版刊　2001年）

ジェンダーと社会Ⅱ

中島美幸　山下智恵子

【授業の概要】

ジェンダーの観点から文学作品を分析することによって、<女/男>の規範がどのようにテクストにおりこまれているかを読み解き、さらにテクストがどれほど現実の女と男の生と性を規定してきたかを検証する。

（中島美幸兼任講師）「女性の表現」の観点から日本文学を歴史的に跡づける。特に近代以降の女性表現については外国の女性文学と比較しつつ読み解いていく。

（山下智恵子兼任講師）現代の文学作品を中心に、家族、母娘などの人間関係を、ジェンダーの視点から検証する。

【授業計画】

第１回　オリエンテーション
第２回　〈ことば〉とジェンダー
第３回　〈書く女〉の登場（１）
第４回　〈書く女〉の登場（２）
第５回　女性を描く男性作家のまなざし（１）
第６回　女性を描く男性作家のまなざし（２）
第７回　母と娘の物語（１）
第８回　母と娘の物語（２）
第９回　家族の物語
第10回　文学の政治性
第11回　文学と映像文化
第12回　まとめ
＊内２回は山下智恵子担当。他は中島美幸担当。

【評価方法】

出席状況、毎回の感想、学期末のレポートを総合して評価する。

【テキスト】

なし。随時、プリントを配布する。

【参考文献・資料】

講義の中でその都度紹介する。

女性学・男性学

竹信三恵子

【授業の概要】

男女についての定説化した知識やその内面化が日本の戦後の政策や働き方に及ぼした影響を、新聞記者としての取材の成果やマスメディアの検証から明らかにし、これらが生んだ社会病理をどう克服するかを考える。

【授業計画】

1．戦後経済政策を男女分業はどう支えたか～高度経済成長からバブル崩壊まで
2．日本の男女分業型経済と海外の動き～男女雇用機会均等法・男女共同参画社会基本法と「ワークライフバランス」
3．男女分業型経済の浸透とマスメディアの役割～戦後経済政策の背骨となった男女分業主義に新聞報道はどう関わったかを検証
4．男女分業型経済の乗り越え～マスメディア報道からは見えにくい現実の男女関係の変化とこれに見合った新しい働き方の展望

【評価方法】

出席状況、授業後のフィードバックシートの提出状況と内容、授業内での質問や意見発表などの貢献度で評価する。

【テキスト】

『家事の値段』とは何か
（久場嬉子・竹信三恵子著　岩波ブックレット　1999年）

【参考文献・資料】

ジェンダーから見た新聞のうら・おもて～新聞女性学入門（田中和子・諸橋泰樹著　現代書館　1996年）、ワークシェアリングの実像～雇用の分配か、分断か（竹信三恵子著　岩波書店　2002年）

女性学・男性学

中島美幸

【授業の概要】

男女についての定説化した知識、それによって作り出された役割、人格の内部に及ぶ性別化の影響とその結果生まれる病理などについて、さまざまな事例や理論を紹介し検討する。

【授業計画】

第１回　オリエンテーション
第２回　女性学・男性学の誕生
第３回　男女をめぐる国際比較
第４回　作られる「女らしさ」「男らしさ」
第５回　恋愛と結婚
第６回　リプロダクティブ・ヘルス/ライツ
第７回　女性と労働
第８回　男性と労働
第９回　家族をめぐる諸問題（１）
第10回　家族をめぐる諸問題（２）
第11回　将来展望・男女のライフスタイル
第12回　まとめ

【評価方法】

毎回の授業の感想と中間レポート（２～３回）の内容、さらに学期末テストで総合的に評価する。

【テキスト】

なし。随時、プリントを配布する。

【参考文献・資料】

講義の中でその都度紹介する。

大衆文化論

鈴木 亙

【授業の概要】

大衆に愛され、大衆に浸透した文化について構造的に把握するように試みたい。そのためには、戦後若者世代がどのような動向をしたかを確認する。次いで各世代に共通して見られる「消費」というキーワードを軸に、大衆文化を支える消費社会のあり方を探る。最終的には、21世紀というポスト・モダンの社会でどう生きるかに迫りたい。

【授業計画】

１　戦後世代の特徴からみた大衆文化の諸相を探る
１：１　団塊の世代（1965～1975）
１：２　新人類（1980年代）
１：３　団塊ジュニア（1990年代）
１：４　新人類ジュニア（2005～2015）

２　大衆文化を支える消費社会を分析する
２：１　現状認識
２：２『消費社会の神話と構造』（ボードリヤール）
２：３　人間の本源的な欲求としての消費（G・バタイユ）

３　モダンの脱構築=21世紀の大衆文化との戯れ方を探る

【評価方法】

出席、受講態度、提出物によって総合的に評価する。学習意欲のある、明るく元気な学生の受講を歓迎します。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

必要に応じて、授業中に指示する。

暮らしの法律

辻田芳幸

【授業の概要】

私たちの生活に身近な法律問題について考察する。たとえば、とても有益な発明の結果である製品がよく売れて会社が大儲けした場合、発明者である従業員の見返りはどうあるべきか。ブランドのマークを勝手に付けた商品（いわゆるコピー商品）はどうしていけないのだろうか。またネット上に他人が作成した写真や音楽をアップロードするときの注意点、さらにはネット上で商品を購入するときの注意点などについて解説したい。本講義ではできるだけ具体例を挙げながら話を進めたいと考えている。

【授業計画】

第1回　導入（情報社会と知的財産・契約）
第2回　特許というシステム
第3回　著作権というシステム
第4回　Webへの写真掲載と肖像権
第5回　インターネット上の名誉毀損
第6回　オンラインショッピングと契約法
第7回　オンラインショッピングと契約法
第8回　インターネット犯罪
第9回　著作権ビジネス
第10〜12回　その他の問題点

【評価方法】

出席状況、試験の結果などを総合的に考慮する

文化人類学

三木 誠

【授業の概要】

人間は無意識のうちに自然に生れ育った文化からさまざまな影響を受けている。世界中の社会に見られるさまざまな文化的事象を、できるだけ多くの事例をあげて講義する。

【授業計画】

以下のようなテーマで講義を行う。それぞれのテーマを総合的に理解するのに不可欠な概念や用語の解説と、テキスト、プリント等を利用した事例研究が主になる。異文化に対する興味や好奇心を喚起するためにVTR資料なども活用する。

1．文化
2．性別と社会
3．婚姻と家族
4．独特の民族文化
5．宗教と信仰
6．民族と国家

【評価方法】

定期試験により評価する。ノートは持ち込み可とする。

【テキスト】

指定せず。

【参考文献・資料】

興味を持った学生にはそのつど指示する。

全教養

文化人類学

藤井麻湖

【授業の概要】

文化人類学は「人間社会をトータルに捉えて認識しようとする学」である。そこには、人間社会におけるあらゆる領域が含まれる。民族、親族組織、政治、経済、宗教、医療、音楽等々あらゆるものが含まれる。本講義では、伝統的な文化人類学で蓄積された興味深い成果を中心に解説する。

【授業計画】

1．文化人類学の基本
（1）文化人類学の起源
（2）文化人類学の方法論
2．集団が構成される原理
（1）親族組織と親族名称
（2）縁組み理論
（3）クラとポトラッチ
（4）リネージ・システム
3．集団が維持される原理
（1）衣
（2）食
（3）住
（4）儀礼
（5）他界観

【評価方法】

定期試験により評価する。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

文化人類学キーワード（山下晋司・船曳健夫編　有斐閣双書）

文化人類学

水口千里

【授業の概要】

人間の生活や行動様式は、帰属する社会の固有の文化から多くの影響を受けている。本講義では、さまざまな分野にわたる国内外の事例を取り上げ、その文化的背景を学ぶ。

【授業計画】

講義形式による。デジタル画像、VTRなど視聴覚教材を併用する。

1．概論　文化人類学の調査、研究方法
2．精神文化をひも解く
（異界からのメッセージ/願い・占い・おまじない/幽霊と妖怪）
3．食文化を読む
（飲酒と宴会/家庭食と外食）
4．贈答文化を探る
（ギフトとプレゼント/贈与交換）
5．フィールドワークを知る
（ニッポンと日本/ヨーロッパの日本コレクション）
6．総論　異文化理解と自文化理解

【評価方法】

単位認定試験（論述形式）で評価する。講義時間中に小レポートを提出させた場合は、これを成績評価に反映する。

【テキスト】

なし。プリント配布。

【参考文献・資料】

参考文献リストを講義時間中に配布。

比較文化論

文 嬉眞

【授業の概要】

国際化が進み、世界の異文化が日本に入り、日本の文化も世界に伝わるようになった。世界の文化の特徴をあげ、日本の文化との比較を考察しながら、異文化交流についても講義する。

【授業計画】

本講義では、主に「日本の文化」に焦点を当て考えることにする。特に、外国人（見る側）が日本という異文化（見られる側の文化）と直接接触した際、どのように評価（表現方法）・認識したかを考察し、その考察からなぜそのような評価・認識があらわれるかを分析する。そして、得られた分析によって外国人（見る側）がもつ「文化」を再分析する。すなわち、外国人（見る側）が「異文化」（見られる側の文化）を見るまなざしに関して考察することによって、自文化（見る側の文化）を再認識するだろう。

1．異文化との理解・誤解に関する一般的な概論
2．異文化交流史における本講義の位置付け
3．前近代の外国人（見る側）における「日本認識」および外国人（見る側）がもつ「文化」に関する考察
4．近・現代の外国人（見る側）における「日本認識」および外国人（見る側）がもつ「文化」に関する考察
5．異文化としての「日本文化論」

【評価方法】

1．出席、受講態度、講義時の課題等で全体の50%を評価する。
2．学期末レポートで残る50%を評価する。

【テキスト】

講義の中で随時、配布する。（必ず事前に読んでおくこと）

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

比較文化論

星山幸子

【授業の概要】

国際化が進み、世界の異文化が日本に入り、日本の文化も世界に伝わるようになった。世界の文化の特徴をあげ、日本の文化との比較を考察しながら、異文化交流についても講義する。

とくに、イスラームの文化を事例として取り上げ、異文化に対する視座について検証する。この授業をとおして、多様な文化や価値観を学ぶことにより自分自身の社会や文化を見つめ直すことを目標とする。

【授業計画】

1．文化と文明
2．文化の理解
3．民族と国家と文化
4．南北問題と発展途上国の文化
5．人の移動と異文化接触
6．グローバル化とローカル化
7．イスラームの文化
8．イスラームとジェンダー
9．文化摩擦と国際問題
10．中央アジアの人びと
11．トルコの人びとの暮らしと文化
12．日本社会における異文化交流

【評価方法】

出席、授業中の提出物、討論と質疑応答　30%
期末試験　30%
期末レポート　40%

【テキスト】

テキストは使用しない。授業中に適宜プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業のなかで参考文献リストを配布する。また、ビデオなどの視聴覚資料を使用する。

国際政治論

草間秀三郎

【授業の概要】

現代がパクス・アメリカーナ（アメリカ中心の世界平和）であることを重視して、建国以来のアメリカ外交の理念と展開を概観し、第一次大戦、第二次大戦、米ソ冷戦の各諸問題を学習する。国連とPKOの諸問題、EUやAPECなどの地域国際協力組織をも学習する。

【授業計画】

1）歴代アメリカ大統領の外交理念と特徴
2）第一次世界大戦（1）勃発の原因とアメリカの中立
3）第一次世界大戦（2）アメリカの参戦とロシア革命
4）ウィルソン大統領の14か条の提案とパリ講和会議
5）両大戦間の國際政治- ワシントン会議・条約-
6）第二次世界大戦（1）日独の動きと大西洋憲章
7）第二次世界大戦（2）日米戦争と捕虜の問題
8）第二次世界大戦（3）連合国の対日占領政策
9）米ソ冷戦　トルーマン・ドクトリンと日米安保条約
10）日米関係　国連と日米安保体制
11）国連とPKOの諸問題（中東を重視して）
12）地域的国際協力組織（EU,APEC、ASEAN）

【評価方法】

期末試験（筆記）による。毎回の出席を重視して欠席回数が多い場合には受験資格を失う。

【テキスト】

なし。毎回プリントを配布する。

国際政治論

瀬戸裕之

【授業の概要】

国際関係は冷戦時代の東西対立の時代から、相互依存の時代へと変化し、グローバル化が進んでいる。しかし、民族・宗教・地域に関する紛争は今も絶えない。国際政治の実情を具体的事象にふれながら講義する。

【授業計画】

1．国際関係の基本概念
2．国際関係理論
3．冷戦構造の展開と終焉
4．国際経済と地域統合
5．国連と安全保障体制
6．南北問題と開発
7．地球環境問題
8．地域紛争とテロリズム
9．アジアにおける日本の戦争
10．戦後日本と安全保障
11．アジアと日本の国際協力

【評価方法】

成績評価は、期末試験（筆記）により行う。出欠は考慮しないが、中間試験を受験しないものは、期末試験の受験資格を失う。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。

【参考文献・資料】

国際関係学講義　新版（原彬久編　有斐閣）

国際交流論

松本一子

【授業の概要】

国際化時代といわれる現代社会は、さまざまな形で国際交流や国際協力が行われている。最近ではNGOやNPOの活躍がめざましい。国際交流の歴史を概観しながら、主として日本に滞在する多くの外国人との異文化接触を通しての国際交流のあり方について講義する。

【授業計画】

1．国際交流とは
2．国際交流の歴史
3．国際交流活動の現状
・自治体と国際交流
・地域の国際化と多文化共生
・地球市民教育
・ネットワークの形成と活用
4．実践国際交流
・先進的組織運営のさまざまな事例

【評価方法】

レポート及び平常点で評価する

【テキスト】

国際交流の組織運営とネットワーク（榎田勝利編著　明石書店　2004年）

【参考文献・資料】

実践国際交流（国際交流基金・大阪国際交流センター編　1997年）
草の根の国際交流と国際協力（毛受敏浩編著　明石書店　2003年）

全教養

初めての外国語1（ドイツ語）

藤井たぎる

【授業の概要】

ドイツ語の基礎を学び、初歩的な語学力を身につけ、ドイツの文化への関心を高める。ヨーロッパの中でも独特なものを持つドイツ・オーストリアの歴史・文化についても学び、地理的な位置付けや風土を理解し、違いを共に生きる認識を深める。

【授業計画】

授業はパートナー練習を中心にして、現在（および未来）のことがらに関する表現練習を行います。

学習する主な項目は、以下のとおりです。

（1）自己紹介、他人の紹介の練習
（2）数字に関する練習（ビンゴ・ゲームつき）
（3）冠詞の用法と表現練習
（4）名詞・人称代名詞の用法と表現練習
（5）動詞・助動詞の用法と表現練習

その他、ビデオやCDを使ってヒアリング、場面理解、会話理解などの練習をします。このクラスでは、受講生のみなさんは毎回、ペアを組んでもらいます。積極的に参加して下さい。ドイツ語の知識を増やすことがねらいではありません。使いものにならないドイツ語ならいくら知識があっても宝の持ち腐れなのです。使いものになるドイツ語をマスターしましょう。上手な発音である必要はさらさらありませんが、理解される発音でないと意味がありません。きちんと正確に発音できる言葉が増えていくにつれて、ヒアリング能力も確実に向上します。

【評価方法】

試験の成績と受講生の授業中の積極性の両面から総合的に評価する。

【テキスト】

行ってらっしゃい！（西村祐子/Rudolf Petrik著　朝日出版社）

初めての外国語2（フランス語）

清水ベアトリックス

【授業の概要】

ヨーロッパの文化や近代精神の発祥の地ともいわれるフランスの旅に行ってみませんか？イラストや写真が多い教科書の「はじめてのパリ」が首都のパリでの様々な発見への旅先案内人になりながら実際の旅にも役に立つフランス語を覚えるような内容を盛り込んでいます。会話とコミュニケーションを中心にフランスの慣習を述べながらすぐ使えるフランス語を楽しく学びます。

【授業計画】

毎回、担当教員（フランス人）が文法と語彙のメインポイントをしっかり説明した後、楽しい会話の練習をしたいと思います。
様々なシチュエーションによる必要な単語や表現を覚えて、身に付くまでクラス全員と一緒に練習を繰り返して、喫茶店での注文の仕方、メトロの乗り方、道の尋ね方、電話のかけ方、デパートの使い方、お土産の買い方などを学びます。

【評価方法】

定期試験を重視するが、出席率、受講態度なども考慮に入れる。

【テキスト】

Partir pour Paris（はじめてのパリ）（大津俊克・瀧川広子・藤井宏尚著　朝日出版社）

初めての外国語3（ロシア語）

杉本一直

【授業の概要】

ロシア語の基礎を学び、初歩的な語学力を身につけ、ロシア語への関心を高める。ヨーロッパとアジアにまたがるロシアの風土と文化について学び、その歴史や日本とのかかわりなども理解し、違いを共に生きる認識を深める。

【授業計画】

みなさん、知っていますか？日本の大学のなかでロシア語を学ぶことができるところは本当に少ないんですよ。ということは、「ロシア語がわかる人」は日本ではとても希少価値があるのです！「芸術の国ロシア」の言葉を今すぐ学んでみませんか？映画の鑑賞会もありますから、楽しみにしていてくださいね。

初級のわかりやすい辞書を「テキスト」として授業を進めてきます。まず、例の不思議な形をしたキリル文字を憶え、発音を憶え、そのあとは辞書で遊び（？）ながら「使える単語」「使えるフレーズ」を集めていきます。たくさんたくさん集めたら、あれ、いつのまにかロシア語の達人！

辞書以外に補助教材として会話用プリントを配布します。学ぶ項目は以下のとおりです。

a．キリル文字と発音
b．大きな声であいさつしよう
c．買い物に行ってみよう
d．乗り物に乗ろう
f．おなかがすいたら…
g．自分について話してみよう

【評価方法】

定期試験の成績による。

【テキスト】

ロシア語ミニ辞典（白水社）

初めての外国語４（スペイン語）

木下まりあ

【授業の概要】

スペイン語の基礎を学び、初歩的な語学力を身につけ、スペイン語への関心を高める。世界でも屈指の言語圏を持つスペインの歴史と文化的影響について学び、独特の風土について理解し、違いを共に生きる認識を深める。

【授業計画】

講義方式による。授業中、適宜プリントを配布する。

1．スペイン語とスペイン語圏の世界
2．スペイン語のアルファベット、音節、アクセント
3．挨拶、自己紹介の仕方
4．名詞の性数、定冠詞と不定冠詞
5．形容詞（性数の一致）
6．人称代名詞、ser動詞とestar動詞
7．数詞と時刻の表現
8．スペイン語の手紙の書き方
9．旅行に役立つスペイン語会話
10．まとめ

【評価方法】

筆記試験またはレポートに出席状況を加味して評価。

【テキスト】

授業中に指示。

日本と外国の歴史１（日本）

岩口和正

【授業の概要】

社会のもっとも基礎的な構造のひとつである家族や親族関係は、時代とともに大きく変貌してきました。そして、このような変貌こそが歴史の最も大きな変動要因のひとつとなっているものです。そこで、日本歴史における家族や・親族関係の特徴・変遷の意味について、東アジア諸国のそれとも比較しながら、政治制度や経済制度とのかかわりを中心に考えます。

【授業計画】

（1）戸と戸籍と姓
（2）明治民法の成立と日本近代の「家制度」
（3）婚姻の諸形態１＜妻問婚の特徴＞
（4）婚姻の諸形態２＜婿取婚と嫁取婚の成立＞
（5）前近代日本社会における離婚法と密懐法の展開
（6）イエの成立と展開１　貴族社会とイエ
（7）イエの成立と展開２　開発領主とイエ
（8）イエの成立と展開３　主従制と家父長制の展開
（9）東アジア諸国の家族・親族制度と日本

【評価方法】

成績評価は学期末の試験でおこないます。

【テキスト】

使用しません

【参考文献・資料】

授業の中で別途に紹介いたします

全教養

日本と外国の歴史２（郷土）

秦 達之

【授業の概要】

東海地方が戦国統一の舞台になったのは周知の事実だが、その後の歴史については意外に知られていない。東西の文化を巧みに吸収した近世・近代について、一見地味だが、重要な事件や人物を取上げ、受験時の暗記的歴史から脱皮し、考え、愉しみ、哀しみつつ、生きるための歴史を目指したい。

【授業計画】

一回一話の読み切り、いや、語り切りで、さまざまなテーマ・内容を取上げる。通史ではないので、時代の前後を往き来する。その時代を生きた人びとの鼓動が聞こえてくるようなものにしたいが、果してうまくいきますか、どうか？

内容は、「尾張のキリシタンたち」「元禄名古屋の世相」「伊勢湾の漂流民たち」「江戸時代の農民運動」「名古屋とその周辺の山車（だし）」「渡辺崋山とその周辺」「お札降りと「ええじゃないか」」「戦争と女性」「モルフィと廃娼運動」「新聞記者・市川房枝」「シーメンス事件と太田三次郎海軍大佐」その他。私自身の研究と共に、他の地道な研究成果も積極的に取上げたい。

こちらで一回毎の史料を用意し、それにもとづいて講義する。必要に応じてヴィデオ、スライドも使用。出席票に感想を書いて貰い、受講者の声を聞く工夫をしている（受講者もぜひご協力を）。

【評価方法】

出席状況（特に厳しいので注意！）と単位認定試験の成績などによるが、毎時間最後に感想を書いて貰い、参考にしている。

【参考文献・資料】

愛知県の百年（塩沢君夫・斎藤勇・近藤哲生共著　山川出版社）
愛知県の歴史（三鬼清一郎編　山川出版社）
東海・近代へのまなざし（都築亨・大嶋光義編　中部日本教育文化会）

日本と外国の歴史３（東洋）

土屋 洋

【授業の概要】

東洋、特に中国を中心にした東アジア地域やその歴史を概説し、通史を学ぶ。日本は中国や朝鮮半島と歴史的・文化的に関係が深く、相互に影響を強く受けていることについても認識を深めたい。

【授業計画】

1．期間計画指示・授業内容の説明
2．歴史学とは何か？：歴史リテラシーを身につけよう
3．現代中国の雰囲気を知ろう
4．アジアを考えるということ：日本においてアジアの歴史を学ぶとは？
5．中国近現代史への眼差し：歴史観の諸相
6．中国の近代：「近代」という時代をどう考えるか？
7．中国の近代と日本：東アジアの近代を日本との関係から考える
8．近代日本の中国観
9．日中戦争を考える：南京事件をめぐる歴史認識の溝
10．「文革」、「改革開放」、「六四」：東西冷戦構造の狭間で
11．「台湾」という問題
12．現代中国と日本：特に歴史認識問題をめぐって
13．21世紀の日本、中国、東アジア

【評価方法】

中間レポートと期末レポート（人数によってはテスト）、および随時課す感想・意見等の提出状況によって評価する。

【テキスト】

基本的に毎回レジュメを配布する。

【参考文献・資料】

授業中に提示する。

日本と外国の歴史４（西洋）

北村陽子

【授業の概要】
ヨーロッパ、アメリカ合衆国を中心にした西洋の歴史を概説する。近代以降の日本にも影響を与えた「国民国家」が形成される過程を追い、「国民意識」とは何かについて理解を深める。

【授業計画】
1．はじめに－国民国家とは何か
2．近代国民アイデンティティ形成の前段階
（1）「個人」の覚醒：ルネサンス
（2）「他者」の認識：大航海時代
（3）普遍性の否定：宗教改革
3．イギリスの国民国家
（1）イギリス国教会の成立と絶対主義国家
（2）二つの市民革命－「イングランド」から「イギリス」へ
（3）パクス・ブリタニカ－ジェントルマンが支える「大英帝国」の時代
4．アメリカ合衆国の国民国家
（1）対イギリス独立革命
（2）フロンティア開拓時代の「他者」認識
（3）奴隷制と南北戦争
5．フランスの国民国家
（1）ルイ14世治下における絶対主義の確立
（2）フランス革命とナポレオン
（3）「国民」の創出－「単一にして不可分のフランス」成立
6．ドイツの国民国家
（1）三十年戦争とプロイセン・オーストリアの絶対主義
（2）対ナポレオン解放戦争と諸国民の春
（3）ビスマルクによる「ドイツ」統一
7．おわりに－20世紀のナショナリズムと国民国家

【評価方法】
成績評価は、出席と学期末テストにより綜合的に行う。

【テキスト】
とくに定めない。

【参考文献・資料】
○国民国家とナショナリズム（谷川稔　山川出版社）
○国民国家を問う（歴史学研究会編　青木書店）
その他講義中に指示する。

全教養

地域コミュニティ論

安藤純子

【授業の概要】
現代社会は都市化が進み、地域社会と人々のかかわりが希薄になっている。人々の生活にとって地域社会の果す役割と問題点について具体例にふれて講義する。

【授業計画】
1　イントロダクション
2　地域社会の歴史と構造１
3　地域社会の歴史と構造２
4　コミュニティの概念
5　コミュニティの組織論
6　地方分権とコミュニティ
7　コミュニティとネットワーキング１
8　コミュニティとネットワーキング２
9　コミュニティ活動と実践例 1
10　コミュニティ活動と実践例２
12　まとめ

【評価方法】
定期試験と出席率など総合的に評価する。

【テキスト】
特になし。

【参考文献・資料】
授業中に適宜紹介する。

東アジアの生活と文化

楊 衛平

【授業の概要】
日本は東アジアに位置し、歴史的にも東アジアの影響を強く受けている。日本と関係の深い近隣の国を中心にその生活や文化について講義する。

【授業計画】
1．中国の少数民族の構成
2．儒教、仏教と道教の相異
3．中国の年中行事
4．南北食文化の比較
5．中医学と西洋医学
6．気の文化と気功術
7．飲茶の文化と歴史
8．伝統武術と映画
9．少数民族の音楽
10．少数民族の服装
11．中国人の姓の色々
12．中国の名勝物語
13．中国人と日本人の考え方の相異

【評価方法】
出席状況とレポートによって総合的に評価する。

【テキスト】
プリントを配布する。

【参考文献・資料】
中国人・文字・暮らし（李順然　東方書店）
中国仏・道・儒教史話（劉克蘇　河北大学出版社）
中国伝統文化導論（劉栄興　河北大学出版社）

ビジネスの世界

伊藤義明

【授業の概要】
会社の組織やマネジメント、人の働き方、法律を含む社会のあり方など「ビジネスの世界」は21世紀に入り大きく変化しつつあります。
“Free,　Fair,　Global”の３つのキーワードをもちいて、その変化の全体像を具体的実例を挙げながら学習します。特にFinancial Literacyの重要性も学習します。
第一区分では“ビジネスを取り巻く環境変化”を、第二区分では“環境変化に適応する企業組織”を、第三区分では現在“社会から求められる企業経営”について、「日本経営品質賞基準」を参考に学習します。
（Q&Aを重視しますので学生の積極的な発言を期待します。）

【授業計画】
第１講　Introduction：ビジネスモデルと日本の国際競争力
第２講　企業活動の環境変化
Free, Fair、Global－規制緩和と自己責任
第３講　制度変革と企業活動
第４講　企業を取り巻く社会システムの変化
環境、労働市場、金融市場の進化とFinancial Literacyなど
第５講　市場（マーケット）について
第６講　企業の組織（その１）
ビジネスとは何か?会社とは何か?（その法的要件）
第７講　企業の組織（その２）
組織の分解と再編、財務の重要性
第８講　企業のマネジメント
第９講　主要産業の動向
第10講　求められる企業経営：「日本経営品質賞基準」と「Malcolm Baldrige National Quality Program」
第11講　マネジメント：リーダーシップと企業の社会的責任
第12講　市場と顧客本位の経営－企業戦略：人材、プロセス、情報
第13講　総括（テストと評価）

【評価方法】
学期末テストの成績で評価（出席率は成績に反省させない）

【テキスト】
ビジネスの世界（伊藤義明著　（印刷予定））

【参考文献・資料】
特になし、新聞を読むことが望ましい。

健康と医学

渡邊一功

【授業の概要】

日本はますます高齢化社会に入っているが、長生きするための健康は自分で管理し、自立自助が必要である。健康を保ち、命を守るためにどうすればよいか、医学の立場から講義する。

【授業計画】

1）性感染症
　感染症とは　性感染症の現状と予防　後天性免疫不全症候群
2）免疫とアレルギー
　免疫のメカニズム、アレルギー反応の分類
　アレルギー疾患
3）嗜好品と健康
　アルコール　タバコ　薬物依存
4）生活習慣病の予防
　糖尿病　がん　高脂血症　高血圧
5）生殖の医学
　性機能　避妊　妊娠　分娩
6）胎児からの子育て
　母子相互作用　母と子の絆　小児虐待
7）子どもの成長と発達
　身体的発育　生理機能の発達　精神的発達
　しつけ
8）乳幼児期の主な病気
　一般的症状　主な病気　障害児
　染色体と遺伝子異常

【評価方法】

主に筆記試験による。

【テキスト】

健康と保健の科学（坂口他著　日本小児医事出版社）

メンタルヘルス

長谷川純子

【授業の概要】

複雑な現代社会において、こころの病はもはや人ごとではない。なぜ多くの人のこころが病んでいくのだろうか。そもそも”こころ”とは一体何なのだろうか。この授業では、こころに影響を及ぼす様々な要因について、主に心理学モデルや幾つかの事例などをもとに論じながら、こころの健康（メンタルヘルス）について考える。

【授業計画】

1．こころの構造～心理モデル
2．こころの病～歴史・分類・症状
3．こころの発達
4．パーソナリティからこころを考える
5．ストレスのメカニズムとコーピング
6．ライフスタイルと健康
7．病と性格・行動パターン
8．脳とこころ～認知障害から見たこころの風景
9．社会の変化がもたらすこころの問題
10．こころの病を解決するために～心理療法
11．こころの健康を考える～セルフケアを中心に

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

なし。プリント配布。

健康とくすり

永井愼一

【授業の概要】

現在の日本は飽食の時代といわれ、運動不足やストレス過多のため、くすりの助けがなければ健康の維持が難しい。病気とくすりについて正しい知識を学び、くすりの効き方と副作用について理解を深める。

【授業計画】

第１回　受講生に、すべての授業で学ぶ内容をまとめた［病気とくすりについて］の知識調査を実施後、医薬品業界と最近の傾向、新薬開発にかかわる動物実験と治験について解説
第２～３回　くすりの基礎知識として、投与法と生体内運命、受容体拮抗薬と酵素阻害薬、危険なくすりの飲み合わせ、医薬分業、徐放薬など２回にわたり解説
第４回　くすりの正しい知識のすべてを、イラスト入りの質問形式でわかりやすく教える
第５～６回　近年発売されたピルなどの生活改善薬をはじめ、繁用される一般用医薬品（OTC）500種と医者が処方する医療用医薬品200種を薬効別に解説
第７回　頭痛、生理痛の原因物質と治療薬のメカニズム
第８回　アトピー性皮膚炎、花粉症の発症メカニズムとくすりの効き方
第９回　病気の早期発見に役立つ成人病検査値の見かたと最新の画像診断法
第10～13回　成人病検診で見つかる生活習慣病を中心に、高血圧、ガン、糖尿病、エイズなどの発症原因と最先端の医療用医薬品が効くしくみを解説

【評価方法】

レポートの内容と出席授業時間数で評価する。

【テキスト】

プリントを毎回配布し講義する。

【参考文献・資料】

初回授業で紹介する。

ライフサイクルと健康

松田秀子

【授業の概要】

人間は年齢に伴い体型も変化し、健康も害しやすくなる。ライフサイクルにあわせた運動と健康の維持について、身近な問題をとりあげて講義する。

【授業計画】

1．ライフサイクルと健康とは
2．姿勢
3．プロポーション（理想と現実）
4．肥満とやせ
5．隠れ肥満
6．骨密度・体脂肪測定
7．自分のからだを判定しよう
8．体脂肪を正しく落とす方法
9．筋肉と運動神経
10．健康づくりのための運動
11．Walking
12．性への理解
13．学生生活と健康

【評価方法】

出席状況・レポート・単位認定試験によって総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。
必要に応じて参考資料を配付する。

スポーツ科学

杉山 和　山本啓子　松田秀子　門間 博　寺田邦昭　丸山治美

【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学ぶ。テニス、ゴルフ、バドミントンなどの各種スポーツをはじめ、ストレッチ体操・トレーニングなど、運動の基礎的技術を習得することに努める。

【授業計画】

・第１週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
・原則として、半期間に２種目を行う。（天候によって種目を変更する場合があります。）
・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。
・授業内容については、担当教官の欄を参照のこと。
・ゴルフについては、実習費（300円）を必要とする。

月曜日	２限	杉山	テニス・卓球
	３限	杉山	ゴルフ・バドミントン
	４限	杉山	ゴルフ・バドミントン
火曜日	３限	山本	卓球・バレーボール
	４限	山本	卓球・バレーボール
水曜日	１限	門間	テニス・バドミントン
	２限	門間	テニス・バドミントン
	３限	山本	バレーボール・卓球
	３限	門間	テニス・バスケットボール
	４限	山本	バレーボール・卓球
	４限	門間	テニス・バスケットボール
木曜日	１限	寺田	スキルトレーニング
	２限	寺田	スキルトレーニング
	３限	杉山	バドミントン・卓球
	３限	山本	卓球・バレーボール
	４限	山本	卓球・バレーボール
金曜日	２限	松田	テニス・ニュースポーツ
	３限	松田	テニス・ニュースポーツ
	３限	丸山	エアロビクス＆フィットネス
	４限	松田	テニス・ニュースポーツ
	４限	丸山	エアロビクス＆フィットネス

【評価方法】

70点－（欠席回数/授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

全教養

スポーツ科学

杉山 和

【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学ぶ。テニス、ゴルフ、バドミントンなどの各種スポーツをはじめ、ストレッチ体操・トレーニングなど、運動の基礎的技術を習得することに努める。

【授業計画】

・第１週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
・天候によって種目を変更する場合がある。
・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。
・ゴルフについては、実習費（300円）を必要とする。

〔ゴルフ〕
1.　クラブに慣れる
2.　フォーム作り（回転運動のイメージ作り）
3～6.　スイングの基本を身につける
7.　学外の練習場にてスキルテスト

〔卓球〕
1.　ガイダンス、競技の概略
2.　ラケットのグリップと打法
3.　フォアハンド・バックハンド
　（ロング・ショート・カット・スマッシュ）
4.　サービスとレシーブ
5.　シングルスゲーム（審判）
6～7.　ダブルスゲーム（審判とスコア）、テスト（スキル）

〔バドミントン〕
1.　ガイダンス、競技の概略
2.　ラケットとシャトルに慣れる
3.　シャトルをコントロールする
4.　ルールとマナーを身につける
5～8.　ミニゲーム

【評価方法】

70点－（欠席回数/授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

スポーツ科学

山本啓子

【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学ぶ。テニス、ゴルフ、バドミントンなどの各種スポーツをはじめ、ストレッチ体操・トレーニングなど、運動の基礎的技術を習得することに努める。

【授業計画】

・第１週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

〔卓球〕
1.　ガイダンス、競技の概略
2.　ラケットのグリップと打法
3.　フォアハンド・バックハンド
　（ロング・ショート・カット・スマッシュ）
4.　サービスとレシーブ
5.　シングルスゲーム（審判）
6～7.　ダブルスゲーム（審判とスコア）、テスト（スキル）

〔バレーボール〕
1.　ガイダンス、競技の概略
2.　パスワーク（オーバーハンド・アンダーハンド）
3.　サーブとレシーブ（サーブレシーブ・パスアタックレシーブ）
4.　トス・アタック・ブロック
　（アタックカバー・ブロックフォロー）
5～7.　ゲームと審判（ルール）、テスト（スキル）

【評価方法】

70点－（欠席回数/授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

スポーツ科学

松田秀子

【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学ぶ。テニス、ゴルフ、バドミントンなどの各種スポーツをはじめ、ストレッチ体操・トレーニングなど、運動の基礎的技術を習得することに努める。

【授業計画】

・第１週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
・天候によって種目を変更する場合がある。
・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

〔テニス〕
1.　ガイダンス
2.　ラケットとボールに慣れる
3.　ボールをコントロールする
4.　サービスを練習する
5.　ルールとマナーを身につける
6～8.　ミニゲーム・スキルテスト

〔ニュースポーツ〕
1.　ガイダンス
2～8.　ユニホッケー
　ペタンク
　ソフトバレーボール
　ミニテニス

上記のニュースポーツを実践する。

【評価方法】

70点－（欠席回数/授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

スポーツ科学

門間 博

【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学ぶ。テニス、ゴルフ、バドミントンなどの各種スポーツをはじめ、ストレッチ体操・トレーニングなど、運動の基礎的技術を習得することに努める。

【授業計画】

・第１週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
・天候によって種目を変更する場合がある。
・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

〔テニス〕
1.　ガイダンス、競技の概略
2.　ラケットとボールに慣れる
3.　ボールをコントロールする
4.　サービスを練習する
5.　ルールとマナーを身につける
6～8.　ミニゲーム・スキルテスト

〔バドミントン〕
1.　ガイダンス、競技の概略
2.　ラケットとシャトルに慣れる
3.　シャトルをコントロールする
4.　ルールとマナーを身につける
5～8.　ミニゲーム

〔バスケットボール〕
1.　ガイダンス、競技の概略
2.　ボールに慣れる
3.　基本的な個人技能の確認
4.　チームでの基本的な練習
5.　ルールとマナーを身につける
6～8.　ゲーム・スキルテスト

【評価方法】

70点－（欠席回数/授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

スポーツ科学

丸山治美

【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学ぶ。テニス、ゴルフ、バドミントンなどの各種スポーツをはじめ、ストレッチ体操・トレーニングなど、運動の基礎的技術を習得することに努める。

【授業計画】

・第１週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。
・この授業では、1．エアロビクスの特性・効果を理解する　2．エアロビクスを通して運動する楽しさ・表現する楽しさを味わう　3．自分の身体への感覚を敏感にし、自分の身体と対話し、自分の身体をよく知る　の３点を目標に行う。

〔エアロビクス＆フィットネス〕
1.　ガイダンス
2.　エアロビクスとは何か　その理論と特性
3.　目標心拍数の設定と主観的運動強度
4.　筋力トレーニング　筋肉と骨格
5～6.　ボールを使って
7.　体脂肪
8.　ウェイトコントロール
9.　骨を強くする
10～15.　エアロビック ダンス パフォーマンス
動きづくり練習　発表・相互評価

【評価方法】

70点－（欠席回数/授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

スポーツ科学

寺田邦昭

【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学ぶ。テニス、ゴルフ、バドミントンなどの各種スポーツをはじめ、ストレッチ体操・トレーニングなど、運動の基礎的技術を習得することに努める。

【授業計画】

・第１週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
・天候によって種目を変更する場合がある。
・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

〔スキルトレーニング〕
オールラウンドプレーヤーを目指し、下記のスポーツスキルを週毎に種目を変えながら練習し、その基本的な動きのコツの獲得を目指す。
打つ技術の獲得
バッティング（ソフトボールでの打つスキル）
ショット（ゴルフ・バスケットボールでの打つスキル）
ストローク（卓球・テニス・バドミントンでの打つスキル）
スマッシュ（卓球・テニス・バドミントンでの打つスキル）
アタック（バレーボールでの打つスキル）
キック（サッカー・ラグビーでの蹴るスキル）
投げる・送る技術の獲得
スローイング及びパス（ソフトボール・バレーボール・バスケットボール・フライングディスク・サッカー・ラグビーでの投げる・送るスキル）
捕る技術の獲得
キャッチング（ソフトボール・バスケットボール・ラグビー・フライングディスクでの捕るスキル）
1.　ガイダンス
2～7.　主にアウトドア種目を中心に実施する。
8～13.　主にインドア種目を中心に実施する。
14～15.　テスト（各種スポーツにおけるスキルテスト）

【評価方法】

70点－（欠席回数/授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

健康と運動

杉山 和　山本啓子　松田秀子　門間 博　寺田邦昭　蛭田秀一

【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

【授業計画】

・第１週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
・天候によって種目を変更する場合がある。
・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。
・授業内容については、担当教官の欄を参照のこと。

月曜日	２限	杉山	バレーボール
	３限	杉山	バドミントン
	４限	杉山	バドミントン
火曜日	３限	山本	バドミントン
	４限	山本	バドミントン
水曜日	１限	門間	バドミントン
	２限	門間	ソフトボール
	３限	山本	バドミントン
	３限	門間	サッカー
	４限	山本	バドミントン
	４限	門間	サッカー
木曜日	１限	寺田	バドミントン
	２限	寺田	ニュースポーツ
	３限	杉山	テニス
	３限	山本	バドミントン
	４限	山本	バドミントン
金曜日	１限	蛭田	卓球
	２限	松田	バドミントン
	２限	蛭田	卓球
	３限	松田	バドミントン
	４限	松田	バドミントン

【評価方法】

70点－（欠席回数/授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

健康と運動

杉山 和

【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

【授業計画】

・第１週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
・天候によって種目を変更する場合がある。
・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

〔バレーボール〕
1.　ガイダンス、競技の概略
2.　ボールに慣れる、構え、動きの基本姿勢
3.　サーブの種類と打ち方
4～6.　パス、トス、レシーブ、スパイク、ブロック
7～15.　ゲームの進め方、ルール説明、ゲーム

〔バドミントン〕
1.　ガイダンス、競技の概略
2～3.　ラケットワーク
4.　ストローク練習（アンダーハンドを中心に）
5.　ストローク練習（サイドハンドを中心に）
6.　ストローク練習（オーバーヘッドを中心に）
7～15.　ゲームの進め方、ルール説明、ダブルスゲーム

〔テニス〕
1.　ガイダンス、競技の概略
2.　ラケットとボールに慣れる（グリップ、スタンス）
3.　グランドストローク（フォアハンドを中心に）
4.　グランドストローク（バックハンドを中心に）
5.　サービス、レシーブ
6.　ボレー、スマッシュ
7.　ゲームの進め方、ルールとマナー
8.　ダブルスゲーム（フォーメーションを中心に）
9～15.　ダブルスゲーム、スキルテスト

【評価方法】

70点－（欠席回数/授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

全教養

健康と運動

山本啓子

【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

【授業計画】

・第１週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

〔バドミントン〕
1.　ガイダンス
2.　歴史的ゲームの追体験（シングルスゲーム）
3.　ラケットワーク
4.　ストローク練習（アンダーハンドを中心に）
5.　ストローク練習（サイドハンドを中心に）
6.　ストローク練習（オーバーヘッドを中心に）
7.　ゲームの進め方、ルール説明
8.　ダブルスゲーム（フォーメーションを中心に）
9～15.　ダブルスゲーム

【評価方法】

70点－（欠席回数/授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

健康と運動

松田秀子

【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

【授業計画】

・第１週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

〔バドミントン〕
1．ガイダンス
2．記録への挑戦（打ち続けよう）
3．歴史的ゲームの追体験
4．用具の特徴（貴重な水鳥の羽根）
5．フォーム作り（格好良いフォームで打とう）
6．攻撃的なショット（初速はどれくらい？）
7．守備的なショット
8．基本の戦術
9．ダブルスのフォーメーション
10．世界のバドミントンプレーヤーを観よう（VTR）
11．ゲームの特徴（心拍数、運動強度はどれくらい？）
12．ゲームのルールとマナーを身につけよう
13．ハーフコート・ミニゲーム
14．ダブルスゲーム
15．スキルテスト

【評価方法】

70点－（欠席回数/授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

健康と運動

門間 博

【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

【授業計画】

・第１週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
・天候によって種目を変更する場合がある。
・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

〔バドミントン〕
1.　ガイダンス
2～3.　ラケットワーク
4.　ストローク練習（アンダーハンドを中心に）
5.　ストローク練習（サイドハンドを中心に）
6.　ストローク練習（オーバーヘッドを中心に）
7～15.　ゲームの進め方、ルール説明、ダブルスゲーム

〔ソフトボール〕
1.　ガイダンス
2.　キャッチボールの基本、練習、ゲーム
3～5.　バッティングの基本、練習、ゲーム
6～8.　守備の基本、練習、ゲーム
9～11.　リーグ戦　1
12～15.　リーグ戦　2、まとめ（記録整理・レポート）

〔サッカー〕
1.　ガイダンス
2.　個人技能の確認
3～5.　ボールコントロールの正確性、巧みに運ぶための基本技術、基本技術を生かしたミニゲーム
6～7.　個人技能をもとにチーム編成をし、ミニゲーム
8～10.　ミニゲームのリーグ戦
11～15.　リーグ戦、まとめ（記録整理・レポート）

【評価方法】

70点－（欠席回数/授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

健康と運動

寺田邦昭

【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

【授業計画】

・第１週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
・２～８週までのうち、雨天の場合には、９～12週に予定しているインドア種目に変更して実施する。
・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

〔ニュースポーツ〕

1.　ガイダンス
2～6．フライングディスク
7～8．ペタンク、ターゲット・バード・ゴルフ
9～10．インディアカ、ミニテニス
11～12．ダーツ、ソフトバレー
13～15．グループによる遊びの創作と発表会

【評価方法】

70点－（欠席回数/授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

健康と運動

蛭田秀一

【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

【授業計画】

・第１週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

〔卓球〕

1.　ガイダンス
2.　用具の使用法と安全に関する注意点の説明、連続ラリー、簡易ゲーム
3～6．卓球における各種基本打法の説明と学習（ルール、姿勢、位置どり、グリップ、スウィング、フットワークなど）、サービスとレシーブの学習、簡易ゲーム
7～11．シングルス・ゲームの進め方の説明、打球技術の定着を図るための多人数との対戦、個別指導
12～13．一流選手の打球技術に関するビデオ学習、ダブルス・ゲームの進め方の説明と実施
14.　実技テスト、まとめ

上記は標準的な実施計画であり、受講者の技能レベルに応じて順序や時間配分を変更する場合がある。

【評価方法】

70点－（欠席回数/授業実施回数×70点）＝出席点
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

全教養

現代社会と福祉

見平 隆

【授業の概要】

現代社会において、なぜ「福祉」が必要なのか。当然のように「福祉」ということばが一般化しているが、そもそも「福祉とは何なのか」を考えるとき現代社会のしくみが見えてくる。人々が生活を営むには「福祉」は避けられない問題であるが、「福祉はいかにあるべきか」という課題と解決策は難しい問題でもある。現代社会の福祉について具体的事例にふれながら講義する。

【授業計画】

1．現在の生活から社会の現状を知る
2．ライフサイクルと福祉の関わりを考える
3．日本と世界の福祉の歴史をふり返る
4．日本と世界の福祉の現状を知る
5．現代社会の福祉をめぐる問題を考える
6．これからの福祉の課題を考える

一つのテーマについて１回から数回講義するが、授業についての質問、感想などを適宜出してもらい、授業に反映したい。配布プリントを講義ノートとして使ってもらう。

【評価方法】

定期試験の結果および授業で指示した課題提出により評価する。出席率は受験資格にはしない。

【テキスト】

講義プリントを授業計画にそって配布する。

【参考文献・資料】

授業中に紹介する。

ボランティア論

矢島洋子

【授業の概要】

ボランティアは今や新しい時代を生きて行くための行動様式のひとつになっている。ボランティア先進国アメリカの実例にふれながら、ボランティアの成り立ち、その存在意義や方法論などについて講義する。

【授業計画】

1．ボランティアの思想
2．イギリスのボランティア
3．アメリカのボランティア（1）
4．アメリカのボランティア（2）
5．アメリカのボランティア（3）
6．日本のボランティアの変遷
7．特定非営利活動促進法（NPO法）
8．日本のボランティア活動（1）災害とボランティア
9．日本のボランティア活動（2）高齢者とボランティア
10．日本のボランティア活動（3）障害者とボランティア
11．日本のボランティア活動（4）難民とボランティア
12．日本のボランティア活動（5）開発とボランティア
13．ボランティアの課題

ビデオの活用や当事者による講義も予定している。ボランティアを具体的に理解できる授業を心がけたい。

【評価方法】

出席、授業中の提出物　30%。
期末レポート　70%。

【テキスト】

使用しない。適宜、資料などを配布する。

【参考文献・資料】

○ボランティア学を学ぶ人のために（内海成治他編　世界思想社）
○フィランソロピーの思想：NPOとボランティア
（林雄二郎他　日本経済評論社）他

手話・点字

堀 正和

【授業の概要】

手話・点字について聴覚障害者や視覚障害者のコミュニケーションや文化におけるその役割や歴史と実践的技術・方法論を講義する。

【授業計画】

1．視覚障害概要
2．視覚障害者のコミュニケーション方法
3．点字の概要
4．点字演習
5．聴覚障害概要
6．聴覚障害者のコミュニケーション方法
7．手話の概要
8．手話演習

【評価方法】

点字や手話の読み取りや表現のテストにより行う。

【テキスト】

点訳のしおり・点字器付き（日本点字図書館）及び
手話教室入門（全日本ろうあ連盟出版局）

スポーツ文化論

勝部篤美

【授業の概要】

スポーツが文化であることを歴史的社会的事実から論証し、スポーツの生成、発展、衰退に関する諸要因について考え、現代社会における「人間性復権」について展望する。

【授業計画】

1．スポーツは遊びから出発し、技能を追求する。
2．スポーツは競争と協力の両面をもち、フェアプレイの精神によって成り立つ。
3．スポーツには富と閑暇が関係し、社会生活と関係が深い。
4．スポーツには教育、政治、科学が関係する。
5．スポーツは地理的環境に影響されることが大きい。
6．スポーツは「強いもの」から「弱いもの」へと対象を拡げつつある。
7．スポーツは「強いこと」から「美しいこと」へと対象を拡げつつある。
8．スポーツは今や人間性の復権へ向って進む。

【評価方法】

単位認定試験の成績と出席状況によって評価する。

【テキスト】

使用せず。参考図書は授業のとき指示する。

全教養

スポーツ文化論

松田秀子

【授業の概要】

スポーツが文化であることを歴史的社会的事実から論証し、スポーツの生成、発展、衰退に関する諸要因について考え、現代社会における「人間性復権」について展望する。

【授業計画】

1．スポーツは遊びから出発する
2．スポーツは技能を追究する
3．スポーツは競争と協力の両面をもつ
4．スポーツはフェアプレーの精神によって成り立つ
5．スポーツは自己実現を志向させる
6．スポーツは舞踊とともに祭礼と結びついていた
7．スポーツには富と閑暇が関係する
8．スポーツは社会生活と関係が深い
9．スポーツには教育が関係する
10．スポーツには政治が関係する
11．スポーツには科学が関係する
12．スポーツには地理的環境に影響されることが大きい
13．スポーツには民族性が反映される
14．スポーツには商業主義がつきまとう
15．スポーツにはジャーナリズムがつきまとう
16．スポーツはガス抜き装置としての役割を果たす
17．スポーツのルールは法の体系に似た構造をもつ
18．スポーツは「強いもの」から「弱いもの」へと対象を拡げつつある
19．スポーツは「強いこと」から「美しいこと」へと対象を拡げつつある
20．スポーツは今や人間性の復権へ向って進む
21．スポーツの生成・発展・衰退の過程は、文化の場面と同じである

【評価方法】

出席状況・レポート・単位認定試験によって総合的に評価する。

【テキスト】

使用せず。
必要に応じて参考資料を配付し、参考書籍を指示する。

生き物の世界

石崎宏矩

【授業の概要】

地球上には多種・多様な動物や植物が生存しているが、それぞれ進化しながら今日の生態系を成している。動物や植物の分類、分布、食性などの基礎知識を学ぶとともに、自然環境保護の視点を視野に入れながら、生き物の世界について講義する。

【授業計画】

次のような項目について講義する。○カイコはどうしてクワしか食べないのか○モンシロチョウの雄はどのようにして雌を見分けるか○モンシロチョウの蛹はどのようにして寒い冬をのりこえるか○ミツバチの本能について。特に、蜜源を発見したハチは、どのようにしてその場所を仲間のハチに伝えるか。○生命が地球上に生まれてから40億年、さまざまの生物はどのようにして進化してきたのか、DNAの性質、遺伝子の突然変異、自然淘汰とは。

他に、NHKスペシャル「生命－40億年はるかな旅」他のVTRを放映し、解説を加える。エイズについてのビデオも放映し、エイズについての基礎知識を講義する。

全体として、生物の進化、近未来における地球上の生命－人間を含めて－の危機について、正しく理解してもらえるようにつとめる。

【評価方法】

出欠、レポート、試験によって総合評価する。欠席した時は、友人のノートを写させてもらって、内容を理解しておくこと。試験問題が、たまたま欠席した日の授業内容だったからといって白紙であれば、特に区別はしない。

【テキスト】

進化とはなんだろうか（長谷川真理子著　岩波ジュニア新書）。これを読んで要約をレポートとして提出してもらうことを単位修得のための必須作業として課する。

【参考文献・資料】

随時、授業で指示する。図書館に備えつけてあるので、自主的に勉強してほしい。

生き物の世界

服部一三

【授業の概要】

地球上には多種・多様な動物や植物が生存しているが、それぞれ進化しながら今日の生態系を成している。動物や植物の分類、分布、食性などの基礎知識を学ぶとともに、自然環境保護の視点を視野に入れながら、生き物の世界について講義する。

【授業計画】

第１回　　1．生物界の分類
　　2．生物の進化
第２－６回　3．植物と人の関わり
　　1）農耕の始まり
　　2）世界の農耕文化
　　3）日本農耕文化の起源と発展
　　4．人が手を加えた植物一作物
　　1）作物とは?
　　2）世界の作物の起源
第７－８回　5．作物改良の原理と方法
　　1）作物改良の原理
　　（1）メンデルの法則一遺伝学
第９回　　（2）遺伝の物質的基礎
第10回　　2）作物の改良方法
第11－12回　6．バイオテクノロジー
　　1）バイオテクノロジーとは?
　　2）作物の改良とバイオテクノロジー
　　（1）細胞・組織培養
　　（2）遺伝子操作
　　（3）バイオテクノロジーで得られた作物をいかに考えるか?
　　（1）倫理
　　（2）安全性

【評価方法】

受講資格についてはあえて問わないが、成績評価には出席点を重視し、単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【参考文献・資料】

下記の書籍を参考書籍として使用するが、テキストなどを作成して講義を進めるので、特に買い求める必要はない。
生物的自然と人間（平田豊著　開成出版）

生命の科学

林 博司

【授業の概要】

生命の誕生、生命の維持、生体を構成する物質の特徴、遺伝の仕組み、遺伝子変異のメカニズムと機能などについてヒトの身体を例に講義する。

【授業計画】

1．命の惑星地球
2．命の理解に必要な物理と化学のエッセンス
3．命を支える器官
4．器官を作る細胞。
5．細胞の仕組み
6．分子機械としての生命
7．分子機械の設計図：遺伝子
8．遺伝子の働き
9．遺伝子を操作する
10．細胞を操作する
11．器官を操作する
12．遺伝子と環境のかかわり

以上12講を実験・映像資料も用いておこなう。

【評価方法】

出席点と小テストの得点で総合的に評価する

【テキスト】

指定しない

【参考文献・資料】

講義中に適宜触れる

人類と宇宙

安野志津子

【授業の概要】

宇宙観の始まり、星の生と死、地球の生成と進化など、日進月歩の宇宙の科学の課題をふまえつつ、人類にとっての宇宙についても考察する。

【授業計画】

－地球のまわり、太陽系、銀河系を知り、宇宙を身近に引き寄せるために－

1．宇宙観の変遷
2．宇宙を観測する手段
3．太陽系を探る
4．星の世界
5．銀河から宇宙へ
6．宇宙の始めと未来

毎回プリントを配布し、講義を主とするがその内容を中心としたOHP、ビデオ等も利用する。また、講義に関連した質問を出してもらい次回に解答する。なお、随時ホットな話題も取り入れたい。

【評価方法】

基本的には、期末テスト（配布プリント、ノート持ち込み可）によるが、出席状況も考慮して判定する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

（1）宇宙論のすべて（池内了　新書館）
（2）星と宇宙の物理学読本（並木雅俊　丸善）
（3）見えてきた宇宙の神秘（野本陽代　草思社）
（4）太陽　－その素顔と地球環境との関わり－（ケネス.R.ラング著　渡辺堯・桜井邦朋訳　シュプリンガー・フェアラーク東京）

環境保護論

田部一史

【授業の概要】

現在、地球規模で自然破壊・環境破壊が進んでいる。自然を守り環境を保護する立場から、生物とそれをとりまく外的環境の問題点を、身近な例をあげて講義する。

【授業計画】

第１講　序論：自然に学ぶ
第２講　森林破壊：森はいのちの母である
第３講　砂漠化：世界は水を失いつつある
第４講　地球温暖化と異常気象：人為による地球の異常
第５講　大気汚染と酸性雨：自然も文明も溶かし去る
第６講　フロンとオゾンホール：降りそそぐ有害紫外線
第７講　いのちのしくみ１：細胞レベル
第８講　いのちのしくみ２：個体レベル
第９講　環境汚染とがん：人工化学物質の氾濫
第10講　環境ホルモン：いのちのつながりを絶つ
第11講　生態系のバランス：人の手で壊される自然
第12講　生命の多様性：大量絶滅
第13講　環境保護：いのちと自然を守る

【評価方法】

出席状況、レポートおよび単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

使用せず。必要に応じてプリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

食品の科学

千葉善根

【授業の概要】

基礎的な科学と食品の科学とのかかわり、食品の持つ機能や性質、貯蔵などを学び、食品と酵素の関係や科学物質としての理解を深め、多様化した食生活や加工食品の氾濫の中で生活に役立つ講義をする。

【授業計画】

1．現代食生活の問題点
　食生活の変化と食糧資源について。
2．糖質と食品
　デンプンの機能と利用、食物せんい、最近の甘味料について。
3．たんぱく質と食品
　変性と加工・調理との関係、加工食品と食物性たんぱく質の利用。
4．脂質と食品
　脂肪の性質と脂肪酸、油脂の劣化、乳化と乳化食品。
5．無機質と食品
　骨粗鬆症等。
6．ビタミン
　食品加工・調理との関係、生物学的触媒としての働き。
7．発酵食品
　食品と酵素・微生物との関係。

【評価方法】

定期試験にて評価。

【テキスト】

使用しない（プリント配布）。

暮らしの化学

永井愼一

【授業の概要】

私たちの生命や健康で豊かな暮らしは化学の力で支えられている。日々の暮らしにかかわる物質や現象を、事例をあげながら化学の目で学ぶ。

【授業計画】

生命と健康の化学、豊かな暮らしの化学、身近な現象の化学、環境・資源・エネルギーの化学、日用雑貨の化学、ホルモンと生体の化学、くすりと作用の化学、毒とくすりの化学、生老病死の化学、未来をひらく化学などの分野から数例をあげ、図やイラストを多用しながらこれはなぜ？どうして？という［素朴な疑問］に答える。また、かってマスコミやテレビコマーシャルを賑わしたヒット商品のカラクリを化学的に解説、化学のおもしろさや楽しさを学ぶ。さらに、病院・診療所でうける検査値の見かたと最先端医療についても紹介する。

【評価方法】

レポートの内容と出席授業時間数で評価する。

【テキスト】

毎回プリントを配布。

【参考文献・資料】

初回授業で紹介。

全教養

文学１（日本）

堀尾幸平

【授業の概要】

日本の文学史について概説し、日本文学の特色や外国文学の影響などについてもふれる。古典から近・現代までの著名な作品や名作も鑑賞し、日本文学への興味と関心を高める。

【授業計画】

1．文学とは何か
2．明治期の文学
3．坪内逍遥．二葉亭四迷
4．三輪弘忠．巌谷小波
5．大正期の文学
6．小川未明．鈴木三重吉
7．千葉省三．浜田廣介
8．少年詩．童謡．金子みすゞ
9．昭和期の文学
10．佐藤紅緑．江戸川乱歩
11．宮澤賢治
12．新美南吉．坪田謙治
13．平成期の文学
14．創作方法理論
15．試験

【評価方法】

定期試験．レポート．出席状況等によって総合的に評価する。

【テキスト】

新日本児童文学論（堀尾幸平著　中日文化　2,200円）

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

文学２（中国）

寺尾 剛

【授業の概要】

中国の歴史と文化は古く、その影響は世界に与えているが、特に日本文学が受けたものは大きい。中国の代表的な古典を中心に紹介し、鑑賞するとともに、中国文学への興味と関心を高めたい。

【授業計画】

毎回、一つのテーマを取り上げ、それにまつわる文学作品を鑑賞していく。

1．男装の麗人・木蘭の物語
2．和蕃公主・王昭君の物語
3．亡国の美女・西施の物語
4．万里の長城秘話・孟姜女の物語
5．詩仙李白と酒の歌
6．詩聖杜甫とそのヒューマニズム
7．南宋の詩人・陸游～その愛の悲劇
8．中国の詩人とその妻～悼亡詩の系譜
9．『封神演義』～中国小説の世界
10．中国の笑い話～下ネタは下品か？
11．『論語』の世界～孔子、人生を語る

などを予定している。

【評価方法】

出席、平常点と試験。

【テキスト】

プリント

【参考文献・資料】

教場で指示する。

文学３（欧米）

小野迪雄

【授業の概要】

西洋の文学史や文学思潮を概説し、特にイギリス文学・アメリカ文学を中心に代表的な作品について紹介し、鑑賞して、外国の文学への興味と関心を高める。

【授業計画】

本年度はアメリカ文学を中心に講義をする。アメリカは移民の国として、先進国の中では非常に遅い出発をした国であるが、それだけに歴史の古い国にみられる伝統に欠ける面があるものの、他の先進国にみられない文学の活力や著しい特徴がある。アメリカの文学作品には、どんな特質や問題があるのか考えていく。時間の制約上、個々の作品を細かく扱うことが難かしいので、中心は作品を生みだした社会的背景や文学思潮におく。話の展開の中でイギリス文学や日本文学にもふれる。

【評価方法】

リポートや受講態度を加味するが、評価の中心は定期試験による。

【テキスト】

未定。必要に応じてプリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

現代の芸術１（書道）

森美恵子

【授業の概要】

現代の芸術としての書道の意味と意義について概説し、中国や日本の名筆についても鑑賞する。書写は楷書・行書・草書などを書作し、技法の向上をはかり、書道への関心を高める。

【授業計画】

楷書・行書・草書の古法帖を拡大臨書コピーし、その手本に基づき書作した清書作品を提出する。

書写中心であるが、中国の書論に則り、古法帖の概略等も講ずる。

【評価方法】

授業内で提出する平素の成績物及び出席状況等にて総合的に評価する。

【テキスト】

書の鑑賞と学び方（上田桑鳩　教育図書研究会）

全教養

現代の芸術１（書道）

小川晃治

【授業の概要】

現代の芸術としての書道の意味と意義について概説し、中国や日本の名筆についても鑑賞する。書写は楷書・行書・草書などを書作し、技法の向上をはかり、現代社会に於ける文字、書の美について考え、書道への関心を高める。

【授業計画】

講義、実技を一日の時間内に進める。前後期共通の為、各時代の書美、他の美術、文学の対比についての講義は概論とする。現代社会に於ける書美と、日本人の美意識を探求することを基準として進める。

【評価方法】

レポート二種、実技作品、学習態度、出欠状況などによる。

【テキスト】

担当者の小文、古典法帖。

現代の芸術２（音楽）

志水博子

【授業の概要】

現代芸術としての音楽の意味と意義について概説し、洋楽・邦楽の名曲についても鑑賞する。音楽に関する基礎や知識を学び、歌唱力や鑑賞力の向上をはかり、音楽への関心を高める。

【授業計画】

第１回	名演奏家によるオペラのビデオ鑑賞
第２回	声の出るしくみを知る
第３回	腹式呼吸と身体のつかい方の練習
第４回	ビデオ鑑賞
第５回	発声練習と歌唱
第６回	ビデオ鑑賞
第７・８回	ピクニックや集会でのやさしいハーモニーの楽しみ方練習
第９～12回	各自の課題による実技発表とアドバイス

【評価方法】

授業内での実技演奏（各自の得意とする歌唱又は楽器の演奏、アンサンブル可）と出席状況

【テキスト】

楽譜プリントは配布

現代の芸術２（音楽）

浅田まり子

【授業の概要】

現代芸術としての音楽の意味と意義について概説し、洋楽・邦楽の名曲についても鑑賞する。音楽に関する基礎や知識を学び、歌唱力や鑑賞力の向上をはかり、音楽への関心を高める。

【授業計画】

第１講　音楽について
第２講　発声のしくみ
第３講　ヴォイストレーニング１（自然体）
第４講　音楽療法　１（歴史と原理）
第５講　ヴォイストレーニング２（呼吸法）
第６講　サウンドスケープ（音の風景）
第７講　音楽療法　２（音楽の作用）
第８講　音のしくみ１（メロディーとリズム）
第９講　ヴォイストレーニング（楽器の確保）
第10講　音のしくみ２（コードなど）
第11講　音楽と旅
第12講～発表

＊さまざまな方向から音楽を考え、音楽の機能を健康的に活かし、人とコミュニケーションができる音楽を目指します。
＊発表は、個人・またはグループでジャンルを問わない演奏の発表。（歌・ギター・ピアノ・コンピューターミュージックなど）

【評価方法】

実技・感想・出席状況・授業態度

【テキスト】

プリント・MUSIK（貸与）

現代の芸術３（美術）

藤井健仁

【授業の概要】

現代芸術としての美術の意味と意義や東西の流派を概説し、西洋や日本の名画についても鑑賞する。写生などの実作の実技指導も行い、美術や絵画への興味と関心を高める。

【授業計画】

前半
キュビスム、ダダイズム、シュルレアリスム、ポップアート等、現代美術のムーブメントをそれぞれの時代背景と照らし合わせながら講義する。

後半
小彫刻を制作することによって、表現が立ち現れる地点を体験する。教材として（樹脂パテ）等を各自が購入する。

【評価方法】

授業内で提出する制作物、レポートを重視する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

なし

全教養

現代の芸術４（映画）

吉村英夫

【授業の概要】

現代芸術としての映画の意味と意義を概説し、映画の歴史についてもふれ、名作を鑑賞する。ヨーロッパやアメリカ映画などとの比較の視点から日本映画の特徴などを講義し、映画への興味と関心を高める。

【授業計画】

ミュージカル映画の楽しさを味わおう。たとえばミュージカル映画の代表的傑作『雨に唄えば』は、映画の歴史の教科書のような側面をもっている。映画の歴史がはじまって現在は約110年だが、大きなヤマは二つあった。一つは映画が「音」を持ったことで、サイレントからトーキーの出現である。二つは「色」を持ったことであり、白黒からカラーになったことである。『雨に唄えば』はミュージカルの歌と踊りに酔いながら、同時に1927年のトーキー出現という映画技術の決定的革新についても教えてくれる映画である。

参考上映する作品として検討中のもの
＊『ウエスト・サイド物語』
＊『ロミオとジュリエット』
＊『キス・ミー・ケイト』
＊『雨に唄えば』
＊『パリの恋人』
＊『掠奪された七人の花嫁』
＊『トップ・ハット』
＊『ブラス!』
＊『ザッツ・エンタテインメント』
＊『コーラスライン』その他

木曜日昼食時に「映画雑談会」を有志で実施する。

【評価方法】

＊学期末のテスト　＊随時提出のレポート　＊出席　＊テキストは使用しない

【テキスト】

なし。ただし、随時、講座通信『Limelight』を配布。４年前から続いており、これは講座生とつくる楽しい交流の広場。

現代の芸術４（映画）

HIGH, Peter B.

【授業の概要】

映画の意味と意義を概説し、映画の歴史についてもふれ、名作を鑑賞する。アメリカ映画を題材として使って、映画芸術とは何かを考察

【授業計画】

授業のやり方としては、映画（全体又は部分）を見終わってから教室で、ディスカションを行った後、各自、次の授業までに自分の分析を短い文章（原稿用紙２・３枚程度）にまとめて提出する。

課題：「古典ハリウッド映画」の表現手法

今学期、四つの映画を分析対象とする：
1）「駅馬車」（STAGECOACH, 1939年作品、監督：John Ford）
2）［マルタの鷹］（MALTESE FALCON, 1941年作品、監督：John Huston）
3）「市民ケーン」（CITIZEN KANE, 1941年作品、監督：Orson Welles）
4）「第三の男」（THE THIRD MAN, 1949年作品、監督：Carol Reed）

現代の芸術４（映画）の学期末評価は３つの宿題に基づく（学期末試験はなし）：
宿題１：「マルタの鷹」の対極的分析の図（文章化する必要はない）
宿題２：「市民ケーン」の対極的分析（原稿用紙３－４枚の文章）
宿題３：「第三の男」の対極的分析（原稿用紙３－４枚の文章）：この三つ目の宿題は学期末試験として扱われる

＊今学期学ぶこと：
1）映画分析ための技術：
　a．セグメンテーション（SEGMENTATION＝映画を見ながら、ノーツの取り方）
　b．対極的分析法（映画ドラマにおける対立。競争、衝突などに焦点を絞って、ドラマの構造を分析すること）
2）典型的なハリウッド映画（1930年代から現在の「スター・ウォーズ」や「ターミネーターⅢ」等にいたるまで）のスタイルとストーリーの語り方：
　a．「因果的関係」とドラマの盛り上げ方
　b．FABULA（ファビュラ）＝観客が頭の中で作る“映画のストーリーの世界”対SUZHET（シュージェット、つまり”プロット”）＝画面から与えられた（“映画のストーリーの世界”を作るための"材料“やヒント
　c．ハリウッド映画はどうやって「リアリズム」の感覚を作り上げるのか
　d．ハリウッド映画を見ている時に、どうして観客は「自分が映画を見てるんだ」ということを忘れるのか
3）ハリウッド映画におけるGENRE（ジャンル）の役割

【評価方法】

出席と宿題によって、評価される

【テキスト】

テキストはありません。教材は適時配布します。

現代の芸術５（演劇）

海上宏美

【授業の概要】

現代芸術としての演劇の意味と意義について概説し、ヨーロッパや日本の演劇の歴史についてもふれる。内外の代表的な演劇について解説し、演劇への興味と関心を高める。

【授業計画】

1．現代芸術としての演劇は多様であるため、演劇を軸としながら国内外のダンス、パフォーマンス、アートを重要な参照項として見ていく。
2．身体を用いる表現であるため現代の思想やジェンダーとも切り離して考えることはできないので、その関わりを探っていく。
3．戯曲＝テクストの存在が演劇にとって大きな要素なので、演劇における戯曲＝テクストの位置の変遷を概説する。
4．演劇が行われる「劇場」というものがどのような時代思潮を具現しているものなのかを、ヨーロッパと日本の劇場を比較しつつ検討する。
5．演技というものを身体と言語の関係から見直し、演技というものの在り方を歴史的視点から批評的に見ていく。

授業は上演ビデオや参考スライドを鑑賞しながら進めていく。

【評価方法】

レポートの提出と出席状況で評価する。また、実際に劇場等で上演される現代の上演芸術（演劇に限定しない）を見ることを求める。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献・資料】

授業内で適宜指示する。

伝統芸能

林 和利

【授業の概要】

国際化が進み、さまざまな異文化にふれる機会も多くなったが、日本の伝統文化にも目を向けることが大切だ。伝統文化の中の芸能・演劇を中心に講義する。舞楽・能・狂言・歌舞伎・文楽など、実際の舞台をビデオ等で確認しつつ、その歴史や演技・作品などについて講じる。

【授業計画】

1．授業の目的と方針を提示
2．日本芸能演劇史概説
3．芸能の発生について
4．神楽について
5．伎楽・舞楽・散楽について
6．田楽について
7．猿楽について
8．能について
9．狂言について
10．歌舞伎について
11．文楽について
また、学外の舞台芸術を有料で鑑賞することもありうる。

【評価方法】

出席状況と単位認定試験により総合的に評価する。

【テキスト】

日本文化論序説（林和利著　青山社）

現代マナー論

近藤乃芙子

【授業の概要】

人間関係の円滑な親和を保つために必要な基本的マナーを学ぶ。身近な実例をとりあげて講義する。

【授業計画】

講義方式による。授業中、適宜プリントを配布する。

1．マナーの基本
2．会話と傾聴
3．身だしなみとおしゃれ
4．服装　　フォーマルとカジュアル
5．訪問と応接　和風
6．　〃　　洋風
7．茶菓のマナー
8．贈答のマナー
9．冠婚のマナー
10．葬祭のマナー
11．食事のマナー
12．パブリックマナー

【評価方法】

出席状況、授業態度、期末試験等により総合的に評価する。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。

【参考文献・資料】

参考文献・資料はなし。

文章表現

青木 健

【授業の概要】

マルチメディアの発達で文章を書く機会が少なくなっているため、自らの意思を文章で表現することが苦手な人も増えている。文章を作り、書くために必要な基礎知識や構成について具体例を示しながら講義する。

【授業計画】

第１回　人は言葉の織物である。（伝達と表現１）
第２回　現代の口語表現について。（伝達と表現２）
第３回～12回
例文をテキストに、文章の構成、表現技法、話法、リズム、形容修辞法など具体的に講義。
この間に
課題を３回提出し、短文（２～３枚、400字詰）を書かせ、そこから文章表現についての共通の問題点を抽出して講評する。

【評価方法】

出席状況、３回の提出原稿などを基準として評価する。

【テキスト】

高校生のための文章読本（筑摩書房）参考書籍は授業中に数冊指示します。

言語表現

三久保角男

【授業の概要】

音声表現。

マルチメディアの発達で人と人とが直接的な会話をすることが少なくなり、話すことが苦手な人が増えている。人前で話すことや自分の意志を言葉で伝えるための基礎的な技術を身につける講義をする。

【授業計画】

1．話し言葉概論
　　ことばの機能　話し言葉の特徴　共通語と方言
2．日本語の音声 1（発声）
　　呼吸法　音声器官　発声法
3．日本語の音声 2（発音）
　　拍　音素　母音　子音　アクセント
4．話し言葉の表現技法
　　スピード　ポーズ　イントネーション　プロミネンス
5．文を読む
　　朗読
6．話しをする
　　パブリックスピーキング　リポート　スピーチ　インタビュー
7．現在言葉事情
　　敬語　言葉の変化

授業は講義が中心になるが、可能な限り実践を伴うものにする。

【評価方法】

筆記試験。随時のレポートも評価に加味する。

【テキスト】

毎回、レジュメ・資料を配布する。

メディア表現

鎌田基子

【授業の概要】

情報化社会の発達と技術の進歩で、さまざまなメディアが新しい表現を生み、文化を形成している。現在あるメディアの構造と伝達の仕組みやかかわりについて、講義と実践をまじえながら考察する。

【授業計画】

1．どこからどこまでがメディアなのか
2．「編集」がもつ創造力
3．「伝える」と変化する
4．人を動かす力
5．自分との対話
6．「コンセプト」の功罪
7．共感する/させる
8．心を開かなければならないとき

ほぼ毎回WORK SHOPを行なう。一項目に関する講義が複数回にわたる場合もあるので、極力遅刻、欠席のないよう注意してもらいたい。

状況により、可能であればゲストを招いての授業も計画する。

【評価方法】

レポートによる。

【テキスト】

テキストは使用せず、資料を配布する。

全教養

職業と人生

伊藤義明　河合崇欣　中村 薫　都築久義　山脇正雄　伊藤義尚　井上陽介
渡邊一正　古田 弘　神谷利徳　平田節子　伊藤武彦　伊藤健治

【授業の概要】

将来の職業選択に当って参考事項や現代の企業社会の実態、就職するための予備知識、などを話します。

【授業計画】

5年～10年先の社会発展を展望したとき、学生に求められる資質、即ち「職業人としての心構え」「学識」「専門的スキル」などを社会の第一線で活躍中の学識経験者とプロフェッショナルによるオムニバス形式の連続講演により、具体的に語ってもらいます。

第1講：バイカル湖から見る古環境（仮題）　4月13日
　講師：河合崇欣
第2講：仕事をするということ（勤労の意味を考える）　20日
　講師：中村　薫　文学博士　同朋大学大学院教授
第3講：趣味と仕事　27日
　講師：都築久義　愛知淑徳大学教授
第4講：この道一筋（職人の生き方ーものづくりのための人づくり）　5月11日
　講師：山脇正雄　岐阜大学客員教授　前デンソー工業技術研修センター所長（技能オリンピック金メダル選手の指導者）
第5講：自己発見の試み（自分の思考傾向を知り、他者とのコミュニケーション技法を学ぶ）　18日
　講師：伊藤義尚　ブランディングコンサルタント　G-Tech.Resource代表
第6講：生涯教育　「新しい時代のキャリア形成」（自分のキャリアーは自分でつくる）　25日
　講師：井上陽介　株式会社グローブス名古屋マネジャー
第7講：多様な働き方（リクルートの専門家が語る）　6月1日
　講師：渡邊一正　リクルート　メディアプロデュサー　編集長
第8講：専門性を身に着ける（人材派遣と専門性）　8日
　講師：古田弘　株式会社ビーハーフ社長
第9講：専門性を身を着ける（その2ープロフェッショナルの世界）　15日
　講師：神谷利徳　住空間デザイナー　有限会社神谷デザイン事務所長
　（全国的に著名なフードサービスデザイナーに聞く）
第10講：　男女共生参画社会　22日
　講師：平田節子　株式会社ジオコス取締役
第11講：国際化と職業選択（外資系企業の人材教育）　29日
　講師：伊藤武彦　株式会社マーサーヒューマンリソースコンサルタントマネージャー
第12講：インターンシップ　7月6日
　講師：伊藤健治　日本碍子株式会社人事部採用研修マネジャー
第13講　総括：レポート（教室で作成）　13日
第14講：　講評　20日

【評価方法】

最後にアンケート形式のレポートを提出（成績評価します）

【テキスト】

原則使用しない一人によりレジメまたはパワーポイント使用

生涯学習論

五島敦子

【授業の概要】

現代は生涯学習の必要性と重要さが強く説かれている。社会の構造が複雑になるとともに高齢化社会も進む中で、生涯学習の意義と学び方について、身近な事例をふまえて講義する。

【授業計画】

1　生涯学習の理念
2　発達段階と発達課題
3　高齢期の課題と学習支援
4　職業人の学習機会
5　ボランティアとNPO
6　大学開放の進展
7　男女共同参画社会に向けた学習支援
8　生涯学習政策の動向と課題

【評価方法】

レポート、授業内課題、出席状況による総合評価

【テキスト】

テキストとしては使用しない

【参考文献・資料】

新しい時代の生涯学習（関口礼子他編著　有斐閣アルマ）
生涯学習の展開（香川正弘他編著　ミネルヴァ書房）

一般心理学

青柳眞紀子

【授業の概要】

心理学の研究対象と研究方法を明らかにし、行動科学としての心理学を展望する。心理学の一般的方法論や心理学の各領域における基礎的知識を概説する。

【授業計画】

1．ガイダンス、心理学とは
2．無意識の世界,1
3．無意識の世界,2
4．ストレスとタイプA性格
5．錯視の不思議
6．学習,1
7．学習,2
8．パーソナリティ,1
9．パーソナリティ,2
10．対人関係,1
11．対人関係,2
12．集団の心理

【評価方法】

試験の成績、レポート、出席状況などから総合的に評価する。

【テキスト】

随時資料を配布する。

一般心理学

加藤智宏

【授業の概要】

心理学の研究対象と研究方法を明らかにし、行動科学としての心理学を展望する。心理学の一般的方法論や心理学の各領域における基礎的知識を概説する。

【授業計画】

a. 知覚と感覚
b. ノンバーバルコミュニケーション
c. 愛着
d. アイデンティティ
e. 学習と記憶
f. 忘却と変容
g. 防衛機制と無意識
h. 心理療法
i. 心理テスト
j. 個人・社会・環境

以上について、それぞれ1～2回の講義を予定しています。

また応用分野として、環境心理学や犯罪心理学についても紹介していく予定です。

【評価方法】

出席状況と試験の成績によって総合的に評価します。

【テキスト】

使用しません。授業中に資料を配付します。

一般社会学

長濱一夫

【授業の概要】

社会学は人間同士の関係に視座を置いて、個人・社会集団、社会事象について研究する学問である。社会学の領域と一般的研究方法や基礎的知識について概説する。

【授業計画】

以下のそれぞれのテーマを主たる切り口とし（順序は入れ替わることがあります）、私たちの社会生活について考えを深めていきたい。

（1）社会学とはどんな学問か－個人と社会－
（2）都市と農村－地域社会の変容－
（3）都市化の進展－その光と陰－
（4）人々の暮らし－「出稼ぎ」という暮らし方－
（5）現代社会における「豊かさ」と「貧困」
　　－国際社会を視野に－
（6）高齢化社会と家族

授業は講義形式で行いますが、VTRなども随時、利用していきます。また、人数によっては、意見・感想を求めたり、ディスカッションしてもらうこともあります。

【評価方法】

試験（レポートor筆記）および出席状況、平常点によって評価します。

【テキスト】

使用しません。

法律学

大嶽 浩

【授業の概要】

社会生活は「法」という社会規範が網の目のようにはりめぐらされています。そこで、法とは何か、という問題を「文学作品」、「映像作品」、「新聞記事」などを利用して考えてみたいと思います。

【授業計画】

1．法学の入門書と文学作品
2．法学学習と文学作品
3．法学学習の方法
4．法学と政治と文学
5．法学と活字
6．法学と批評

【評価方法】

試験とレポートによる評価。

【テキスト】

使用せず。プリントを配布。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

政治学

西尾林太郎

【授業の概要】

政治体制や政治制度について概括的に学びながら、現実の政治の動態を日本と諸外国と比較しながら学習する。時事問題や日常的な話題にもふれつつ講義を進める。

【授業計画】

1．国内政治と国際政治
　a　国際社会とは?
　b　国民国家、ナショナリズム、外国為替、国際貢献
　c　トランス・ナショナル現象、相互依存性の増大
　d　イスラム原理主義とグローバルスタンダード
2．古典的デモクラシーとマス・デモクラシー
　a　市民社会と大衆社会
　b　立法国家と行政国家
3．現代の政治過程
　a　政治と利益団体、NPO
　b　選挙、官僚、議会
　c　マスメディアとマスコミュニケーション
　d　議会制デモクラシー
4．戦後国際社会と日本の政治
　a　冷戦構造と55年体制
　b　利権の構造

【評価方法】

試験（配布資料と自筆ノートのみ持込可）と出席状況による。

【テキスト】

暮らしから考える政治（姜尚中著　岩波ブックレットNo.564）

【参考文献・資料】

授業においてその都度、指示する。

全教養

数学

岡田克彦

【授業の概要】

数学は膨大な体系を持つ学問体系であるが、主要な分野の入門的、基礎的な事項を解説する。日常生活や他の学問分野はさまざまな数学の恩恵を受けて成り立っているので、例えば、物理学と数学との関連、日常体験と数学の関連性といったことにもふれてみたい。

【授業計画】

以下の各項目について説明し、演習を行う。

1　確率
2　統計、偏差値
3　ベクトル
4　微分
5　積分
6　物理学への応用

【評価方法】

課題及び試験で評価する。

【テキスト】

特に使用しない。随時プリントを配布する。

経済学

細野義晴

【授業の概要】

経済の仕組みと役割について、マクロ経済とミクロ経済の双方の視点から基礎的知識を学ぶ。日常生活や時事問題としての経済学的事象についてもふれ、経済学を身近なものにする。

【授業計画】

1．経済のしくみの全体像
　マクロの経済とミクロの経済、GDP統計のしくみ、有効需要と乗数のメカニズム、など。
2．日本の経済と景気
　日本経済の発展と構造変化、日本の景気変動、など。
3．個人のくらしと経済
　個人の消費行動とその理論、消費と貯蓄、など。
4．企業の経済活動
　企業の生産・投資活動とその理論、需要・供給とモノの値段、失業とインフレーション、など。
5．政府の経済活動
　財政のしくみと役割り、わが国の財政事情と財政政策、など。
6．金融のしくみと経済
　お金と金融機関の役割り、中央銀行の役割りと金融政策、金融のビッグバン、など。
7．日本と世界の経済
　経済のグローバル化と国際収支、国際金融市場と外国為替相場の変動、国際機関の役割り、欧州の通貨統合、など。

【評価方法】

単位認定試験の成績に出席状況を加味して評価する。

【テキスト】

使用しない（資料配布）。

【参考文献・資料】

（1）入門の入門　経済のしくみ（大和総研著　日本実業出版社）
（2）入門　経済学（伊藤元重著　日本評論社）

物理学

坂井貞彦

【授業の概要】

人間の生命に関する分野を除く、自然現象を、数量的、法則的に把握し、普遍的法則や原理を見つけ出すという物理学の基礎を学ぶ。身近な現象の中から物理学的な観察や視野を持てる力を涵養する。

【授業計画】

講義方式による。実験は行わない。テキスト及び授業中に配布するプリントの記述のうち基本的なものを説明し、物理学への関心を高める。

1　はじめに
2　運動と力、力学的エネルギー
3　振動と波動、光と電磁波
4　もののかたち、圧力、強さ
5　流れ、層流と乱流、カオス
6　熱とエネルギー、熱機関
7　電気と磁気
8　相対性理論
9　量子力学、粒子性と波動性
10　素粒子、電子・陽子・光子・中間子・ニュートリノ、クオーク

【評価方法】

おもに期末試験（筆記）による。（毎回出欠席を調査する。欠席回数が多い場合は受験資格を失う。）期中にレポートを提出させた場合は、成績評価に反映させる。

【テキスト】

入門ビジュアルサイエンス・物理のしくみ（小暮陽三　日本実業出版社）

統計学

鈴木有美

【授業の概要】

さまざまな情報が氾濫している現代社会は、情報処理の手段として統計学は不可欠である。統計学の基本的な概念と手法を講義し、社会統計が現代社会にどのようにかかわっているか、いかに必要かを講義する。

1．変数の性質
2．度数分布
3．基礎統計量－代表値・散布度・尖度・歪度
4．正規分布
5．2変量の関係－相関・回帰・連関
6．母集団と標本
7．統計的推定－点推定・区間推定
8．統計的検定－母平均検定・母分散検定
9．平均値の差の検定－t検定・分散分析
10．ノンパラメトリック検定

【授業計画】

講義の内容については、基本的に上記の順に進めるが、受講者の理解・興味に応じて構成していく予定である。また、講義で学んだことについて理解を深めるための課題を随時設ける。

【評価方法】

課題の提出とその結果、および定期試験の結果をあわせて評価する。

【テキスト】

本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本（吉田寿夫著　北大路書房）

【参考文献・資料】

授業中に紹介する。

英語コミュニケーション1（TOEIC Ⅰ）

山田久美子　DYCUS, David C.　他

【授業の概要】

就職などでも考慮されることが多い国際コミュニケーション英語能力テストTOEICに向けての基礎的な能力を、文法や語彙など基本事項に重点を置いて身につける。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、文法や語彙などの基本事項の整理を行うのがこの授業の目標である。この目標を達成するために、この授業では、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システムALC NetAcademy（アルクネットアカデミー）を活用して、文法や語彙などの基本事項を再確認し、その定着を図る。具体的には、以下のように授業を進める。

1．受講生による演習問題への解答
2．授業担当者による問題解説
3．演習問題を利用したディクテーション、シャドーウィング、ペア・プラクティスなど
4．Speed ListeningとSpeed Reading機能を活用した速聴・速読練習
5．確認テストの実施

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

英語コミュニケーション2（Listening Ⅰ）

横関美津紀　SUTHONS, Philip　他

【授業の概要】

短いフレーズを中心とした英語を正確に聞き取れるようになるための基礎的な能力を、LL教材を用いて演習形式で身につける。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、基礎的なリスニング力を養成することがこの授業の目標である。この目標を達成するために、音声教材、CALLシステムなどを活用し、以下の内容で授業を進める。

1．英語のリズムとイントネーションの習得
2．連結・脱落・同化などの聞き取り
3．ディクテーション
4．シャドーイング
5．短文・長文の暗唱
6．ペア・プラクティス

様々な場面における対話や応答、状況説明などの聞き取りを通じて、語彙の増強と基本的な英語表現の習得も図る。

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

英語コミュニケーション3（Listening Ⅱ）

石橋千鶴子　SUTHONS, Philip　他

【授業の概要】

英語をより正確に聞き取り、パラグラフや会話文の要点を把握できるようになるための発展的な能力を、LL教材等を用いて演習形式で身につける。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、会話文・説明文などの内容を正確に把握できるリスニング力を養成することがこの授業の目標である。

この目標を達成するために、さまざまな音声教材、CALLシステムなどを活用し、以下の内容で授業を進める。

1．英語のリズムとイントネーションの習得
2．連結・脱落・同化などの聞き取り
3．数字・地名の聞き取りと、日本人英語学習者が発音・聞き取りを不得手としている音の練習
4．ディクテーション
5．シャドーイング
6．短文・長文の暗唱
7．ペア・プラクティス

授業で取り上げた教材を、何度も繰り返し声に出して発音する練習を通じて、英語らしいリズムとイントネーションの習得とともに、語彙力と表現力も身につける。英語を頭の中で日本語に置き換えるのではなく、英語を英語として聞き理解できるようになるために、大量・高速の英語を聞く。

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

英語コミュニケーション4（Reading Ⅰ）

福本明子　STEPHENSON, Brett　他

【授業の概要】

英文の内容を早く、正確に読みとれる能力を身につけるために、さまざまなタイプの英文を多読・速読する。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、英文の内容を早く、正確に読みとれるようになることがこの授業の目標である。具体的には、1分あたり150語以上のスピードで英文を読み、英語を日本語に訳すのではなく、英語を英語として読み、分からない単語があっても前後の文脈から意味を推測し、パラグラフごとの要点を把握するための訓練を行う。速読の訓練には、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システムALC NetAcademy（アルクネットアカデミー）のSpeed Reading機能も活用する。授業は以下の内容で進める。

1．社会・経済、世界の情報、自然科学、文化、広告文などの実用的な英文などさまざまな分野の英文の読解
2．語彙力の増強
3．文法事項の整理
4．練習問題・確認テストなど

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

英語コミュニケーション5（TOEIC Ⅱ）

太田晶子　DYCUS, David C.　他

【授業の概要】

就職などでも考慮されることが多い国際コミュニケーション英語能力テストTOEICに向けての発展的な能力を身につけ、英語の総合力を高めることを目標とする。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、リスニング力とリーディング力を総合的に向上させることがこの授業の目標である。この目標を達成するために、この授業では、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システムALC NetAcademy（アルクネットアカデミー）を活用して、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。具体的には、以下のように授業を進める。

1．受講生による演習問題への解答
2．授業担当者による問題解説
3．演習問題を利用したディクテーション、シャドーイング、ペア・プラクティスなど
4．確認テストの実施

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

英語コミュニケーション6（Oral Communication Ⅰ）

WILLIAMS, Allen D.　他

【Course Content】

ネイティブ・スピーカーの教員によって、実用英会話の基礎的な力を身に付ける。

This course aims to develop students' basic English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas. Topics commonly included in TOEIC tests will be used as themes for these oral encounters.

Reading, Writing and Listening tasks will be used only as preparation for oral activities. For example, dialogues and role plays may be used to set the scene for further discussion. The dialogues may be text based or student designed (i.e. homework).

【Schedule】

Topics will include such things as: Office Conversations, Travel Situations, Talking about Occupations, On the Telephone, Eating out and other TOEIC type situational conversations.

【Assessment】

25% Attendance
25% Homework
50% Class-work/Participation/Tests

【Textbooks】

To be announced

英語コミュニケーション7（Oral Communication Ⅱ）

HARRIS, Richard S.　他

【Course Content】

ネイティブ・スピーカーの教員によって、実用英会話の応用的な力を身に付ける。

This pre-intermediate course aims to further develop students' English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas. Topics commonly included in TOEIC tests will be used as themes for these oral encounters.

Reading, Writing and Listening tasks will be used only as preparation for oral activities. For example, dialogues and role plays may be used to set the scene for further discussion. The dialogues may be text based or student designed (i.e. homework).

【Schedule】

Topics will include such things as: Leisure and Recreation, The Weather, Advertising, Commuting and Transportation, Banking and Shopping.

【Assessment】

25% Attendance
25% Homework
50% Class-work/Participation/Tests

【Textbooks】

To be announced

英語コミュニケーション8（Reading Ⅱ）

隈井清臣　CURRAN, Beverley　他

【授業の概要】

さまざまなタイプの英文の内容を正しく把握できるように、英文精読のトレーニングを行う。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、目的に応じた英文の読み方があることを知り、ある程度のまとまった長さの英文を読みとれるようになることがこの授業の目標である。パラグラフごとの要点を把握し、異なるパラグラフが論理的にどのような関係にあるのか、筆者の主張・論点・メッセージは何かを理解する必要がある。授業は以下の内容で進める。

1．長文の大意把握
2．語彙力の増強
3．文法事項の整理
4．練習問題・確認テストなど

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

ASU TOEIC Ⅰ G

天野純子　太田晶子

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC Ⅰ」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC Ⅱ」から成る。最高期に2コマ（Ⅰ、Ⅱの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回に2単位とする。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業計画】

第1回　オリエンテーションおよび模擬演習
第2回～第14回　演習・解説、Vocabularyテスト
・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
・演習（文法問題・Reading・リスニング）（30分）
・問題解説（25分）
第15回　模擬テスト
＊宿題　読解演習・文法問題（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計　7時間×13回=91時間）
リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計　7時間×13回=91時間）

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

ASU TOEIC Ⅰ H

天野純子　太田晶子

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC Ⅰ」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC Ⅱ」から成る。最高期に2コマ（Ⅰ、Ⅱの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回に2単位とする。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業計画】

第1回　オリエンテーションおよび模擬演習
第2回～第14回　演習・解説、Vocabularyテスト
・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
・演習（文法問題・Reading・リスニング）（30分）
・問題解説（25分）
第15回　模擬テスト
＊宿題　読解演習・文法問題（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計　7時間×13回=91時間）
リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計　7時間×13回=91時間）

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

ASU TOEIC Ⅱ G

STEPHENSON, Brett　PUDWILL, Larry A.

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC Ⅰ」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC Ⅱ」から成る。半期に2コマ（Ⅰ、Ⅱの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回に2単位とする。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業計画】

第1回　オリエンテーションおよび模擬演習
第2回～第14回　演習・解説、Vocabularyテスト
・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
・演習（リスニング・Reading）（30分）
・問題解説（25分）
第15回　模擬テスト
＊宿題　読解演習・文法問題（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計　7時間×13回=91時間）
リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計　7時間×13回=91時間）

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

ASU TOEIC Ⅱ H

STEPHENSON, Brett　PUDWILL, Larry A.

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC Ⅰ」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC Ⅱ」から成る。半期に2コマ（Ⅰ、Ⅱの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回に2単位とする。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業計画】

第1回　オリエンテーションおよび模擬演習
第2回～第14回　演習・解説、Vocabularyテスト
・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
・演習（リスニング・Reading）（30分）
・問題解説（25分）
第15回　模擬テスト
＊宿題　読解演習・文法問題（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計　7時間×13回=91時間）
リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計　7時間×13回=91時間）

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

上級英語セミナー 2005 A

WRINGER, Paul

【Course Content】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。（ただし、1年生および編入生（1年目）は前期開講の本科目「上級英語セミナー2005A」は受講できない。）

【Schedule】

Topics will be covered over a two to three week period and will include a variety of interesting and motivating themes selected mostly by the teacher.

First semester (AESa)
Personal information
Travel & vacations
Strange phenomena
Entertainment
Crime & capital punishment
Controversy

【Assessment】

Assessment will be continual and based on the following criteria:

ATTENDANCE
CLASS PARTICIPATION / EFFORT
HOMEWORK AND ASSIGNMENTS
END OF SEMESTER REPORTS
TOEIC SCORES

「上級英語セミナー2005A」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。木曜日1限（担当教員：WRINGER, Paul）、金曜日5限（担当教員：CURRAN, Beverley）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

【Textbooks】

To be announced.

上級英語セミナー 2005 B

WRINGER, Paul

【Course Content】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。

【Schedule】

Topics will be covered over a two to three week period and will include a variety of interesting and motivating themes selected mostly by the teacher.

Second semester (AESb)
The past
Current events in the news
Relationships
Food & Health
Fashion
The world of work

【Assessment】

Assessment will be continual and based on the following criteria:

ATTENDANCE
CLASS PARTICIPATION / EFFORT
HOMEWORK AND ASSIGNMENTS
END OF SEMESTER REPORTS
TOEIC SCORES

「上級英語セミナー2005B」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。木曜日1限（担当教員：WRINGER, Paul）、金曜日5限（担当教員：CURRAN, Beverley）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

【Textbooks】

To be announced.

上級英語セミナー 2005 A

CURRAN, Beverley

【Course Content】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。（ただし、1年生および編入生（1年目）は前期開講の本科目「上級英語セミナー2005A」は受講できない。）

【Schedule】

Each week, in my class, a different student will be responsible for selecting a topic and introducing a discussion about it in English. The other students will listen with attention and then continue the discussion through their own questions and comments. The goal in each class is to engage in animated discussion for 90 minutes, giving each student an opportunity to grow more comfortable and confident in initiating and continuing a conversation or discussion in English. Special guests will also be invited to the class to talk about themselves with the students in a relaxed and supportive atmosphere.

【Assessment】

Assessment will be based on participation and effort.

「上級英語セミナー2005A」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。木曜日1限（担当教員：WRINGER, Paul）、金曜日5限（担当教員：CURRAN, Beverley）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

【Textbooks】

No text required.

上級英語セミナー 2005 B

CURRAN, Beverley

【Course Content】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。

【Schedule】

In the second semester, discussions will continue, and students will be encouraged to take more responsibity for engaging in discussion and offering support to the speaker through a thoughtful consideration of the topic. Each week will be a chance to grow closer as a group of engaged language learners whose communal energy will motivate individual student growth in English ability and self- confidence. Special guests will also be invited to the class to talk to the students in English in a relaxed but lively atmosphere.

【Assessment】

Assessment will be based on participation and effort.

「上級英語セミナー2005B」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。木曜日1限（担当教員：WRINGER, Paul）、金曜日5限（担当教員：CURRAN, Beverley）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

【Textbooks】

No text required.

上級英語セミナー 2005 C

横山綾子

【授業の概要】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。（ただし、1年生および編入生（1年目）は前期開講の本科目「上級英語セミナー2005C」は受講できない。）

習得した英語を使い、さらに通訳になるための訓練に進むと、今までの学習内容とは異なったものも要求される事に気がつくでしょう。それは言語の知識、訳出技術に加え論理的思考や外国人と心のcommunicationをしたいと思うか、未知の事柄や社会の問題を知りたいと思う好奇心があるか…等です。

さらに人に頼らず判断し、自分の考えを表現する自主性も大切です。このクラスではニュース記事とテープを使い、時事英語の知識と通訳に欠かせぬFIFO（First in First out）の技術を体得します。さらに自然で美しい日本語への訳し方、学習した時事問題を分かりやすい英語で話す練習もします。

Memoを取りspeedyな訳出も出来るようになって欲しいと思います。最終的には国際的な場面で社会の問題を話し合える知識と技術を身に付ける、そして国際交流に貢献をして欲しいと希望します。

【授業計画】

第一回
　通訳一般概論　Sight translation
第二～十回
　The Student Timesからの記事使用（テープ）
　Shadowing, Sight translation, メモ取り
　逐次通訳演習
　同時通訳入門

【評価方法】

出席状況　平常の実技評価　Translation test

「上級英語セミナー2005C」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。水曜日3限（担当教員：横山綾子）、木曜日5限（担当教員：CHAMBERS,Tim）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

【テキスト】

The Student Times　その他

上級英語セミナー 2005 C

CHAMBERS, Tim

【Course Content】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。（ただし、1年生および編入生（1年目）は前期開講の本科目「上級セミナー2005C」は受講できない。）

In this course the students will use all four language skills to explore the similarities and differences between Japanese and North American cultures. The class activities will include some TOEFL test preparation.

【Schedule】

Not yet determined.

【Assessment】

This will be a combination of attendance, class participation and homework.

「上級英語セミナー2005C」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。水曜日3限（担当教員：横山綾子）、木曜日5限（担当教員：CHAMBERS, Tim）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

【Textbooks】

Rethinking America 1 (the student book), Thomson
The CNN videotape

上級英語セミナー 2005 D

横山綾子

【授業の概要】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。

習得した英語を使い、さらに通訳になるための訓練に進むと、今までの学習内容とは異なったものも要求される事に気がつくでしょう。それは言語の知識、訳出技術に加え論理的思考や外国人と心のcommunicationをしたいと思うか、未知の事柄や社会の問題を知りたいと思う好奇心があるか…等です。

さらに人に頼らず判断し、自分の考えを表現する自主性も大切です。このクラスではニュース記事とテープを使い、時事英語の知識と通訳に欠かせぬFIFO（First in First out）の技術を体得します。さらに自然で美しい日本語への訳し方、学習した時事問題を分かりやすい英語で話す練習もします。

Memoを取りspeedyな訳出も出来るようになって欲しいと思います。最終的には国際的な場面で社会の問題を話し合える知識と技術を身に付ける、そして国際交流に貢献をして欲しいと希望します。

【授業計画】

第一回
　通訳一般概論　Sight translation
第二～十回
　The Student Timesからの記事使用（テープ）
　Shadowing, Sight translation,　メモ取り
　逐次通訳演習
　同時通訳入門

【評価方法】

出席状況　平常の実技評価　Translation test

「上級英語セミナー2005D」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。水曜日3限（担当教員：横山綾子）、木曜日5限（担当教員：CHAMBERS,Tim）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

【テキスト】

The Student Times　その他

上級英語セミナー 2005 D

CHAMBERS, Tim

【Course Content】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。

In this course the students will use all four language skills to explore the similarities and differences between Japanese and North American cultures. The class activities will include some TOEFL test preparation.

【Schedule】

Not yet determined.

【Assessment】

This will be a combination of attendance, class participation and homework.

「上級英語セミナー2005D」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。水曜日3限（担当教員：横山綾子）、木曜日5限（担当教員：CHAMBERS, Tim）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

【Textbooks】

Rethinking America 1 (the student book), Thomson
The CNN videotape

上級英語セミナー 2005 E

横山綾子

【授業の概要】

この科目は、２人の担当教員による週２日の授業で１セット（４単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。４年間続けて履修できる。（ただし、１年生および編入生（１年目）は前期開講の本科目「上級英語セミナー2005 E」は受講できない。）

習得した英語を使い、さらに通訳になるための訓練に進むと、今までの学習内容とは異なったものも要求される事に気がつくでしょう。それは言語の知識、訳出技術に加え論理的思考や外国人と心のcommunicationをしたいと思うか、未知の事柄や社会の問題を知りたいと思う好奇心があるか…等です。

さらに人に頼らず判断し、自分の考えを表現する自主性も大切です。このクラスではニュース記事とテープを使い、時事英語の知識と通訳に欠かせぬFIFO（First in First out）の技術を体得します。さらに自然で美しい日本語への訳し方、学習した時事問題を分かりやすい英語で話す練習もします。

Memoを取りspeedyな訳出も出来るようになって欲しいと思います。最終的には国際的な場面で社会の問題を話し合える知識と技術を身に付ける、そして国際交流に貢献をして欲しいと希望します。

【授業計画】

第一回
　通訳一般概論　Sight translation
第二～十回
　The Student Times からの記事使用（テープ）
　Shadowing, Sight translation,　メモ取り
　逐次通訳演習
　同時通訳入門

【評価方法】

出席状況　平常の実技評価　Translation test

「上級英語セミナー2005 E」は、週２回コースの授業で４単位の科目である。火曜日３限（担当教員：横山綾子）、金曜日４限（担当教員：WOODMAN, Jo-Anne）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

【テキスト】

The Student Times　その他

上級英語セミナー 2005 E

WOODMAN, Jo-Anne

【Course Content】

この科目は、２人の担当教員による週２日の授業で１セット（４単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。４年間続けて履修できる。（ただし、１年生および編入生（１年目）は前期開講の本科目「上級英語セミナー2005 E」は受講できない。）

Good translation / interpretation / communication requires, among other things, an extensive knowledge of vocabulary, so this course will require students to demonstrate a vast improvement in their vocabulary - in both written and spoken forms.

Vocabulary lists / tests will be generated from:
a) teacher presented materials
b) student research - (students will be required to prepare one newspaper article for class discussion each week - this will include preparing an extensive vocabulary list as well as brief background and contextual information about the article).

The course will deal with contemporary issues throughout the world, so emphasis will be placed on encouraging the students to improve their general knowledge of world affairs.

Inherent in this course will be the need for the students to "think on their feet", that is to say they will have to glean as much information as they can from class presentations and then ask questions and participate in discussions.

【Schedule】

The aim of this course is to discuss up-to-date issues, so the schedule will be determined by the current events of the week. However, students should expect to address social, economic, political, religious, environmental, medical and other such issues.

【Assessment】

Assessment will include the following components:
1) Vocabulary tests
2) Preparation for (and participation in) class discussions
3) Listening comprehension activities
4) Attendance

「上級英語セミナー2005 E」は、週２回コースの授業で４単位の科目である。火曜日３限（担当教員：横山綾子）、金曜日４限（担当教員：WOODMAN, Jo-Anne）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー 2005 F

横山綾子

【授業の概要】

この科目は、２人の担当教員による週２日の授業で１セット（４単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。４年間続けて履修できる。

習得した英語を使い、さらに通訳になるための訓練に進むと、今までの学習内容とは異なったものも要求される事に気がつくでしょう。それは言語の知識、訳出技術に加え論理的思考や外国人と心のcommunicationをしたいと思うか、未知の事柄や社会の問題を知りたいと思う好奇心があるか…等です。

さらに人に頼らず判断し、自分の考えを表現する自主性も大切です。このクラスではニュース記事とテープを使い、時事英語の知識と通訳に欠かせぬFIFO（First in First out）の技術を体得します。さらに自然で美しい日本語への訳し方、学習した時事問題を分かりやすい英語で話す練習もします。

Memoを取りspeedyな訳出も出来るようになって欲しいと思います。最終的には国際的な場面で社会の問題を話し合える知識と技術を身に付ける、そして国際交流に貢献をして欲しいと希望します。

【授業計画】

第一回
　通訳一般概論　Sight translation
第二～十回
　The Student Timesからの記事使用（テープ）
　Shadowing, Sight translation,　メモ取り
　逐次通訳演習
　同時通訳入門

【評価方法】

出席状況　平常の実技評価　Translation test

「上級英語セミナー2005 F」は、週２回コースの授業で４単位の科目である。火曜日３限（担当教員：横山綾子）、金曜日４限（担当教員：WOODMAN, Jo-Anne）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

【テキスト】

The Student Times　その他

上級英語セミナー 2005 F

WOODMAN, Jo-Anne

【Course Content】

この科目は、２人の担当教員による週２日の授業で１セット（４単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。４年間続けて履修できる。

Good translation / interpretation / communication requires, among other things, an extensive knowledge of vocabulary, so this course will require students to demonstrate a vast improvement in their vocabulary - in both written and spoken forms.

Vocabulary lists / tests will be generated from:
a) teacher presented materials
b) student research - (students will be required to prepare one newspaper article for class discussion each week - this will include preparing an extensive vocabulary list as well as brief background and contextual information about the article).

The course will deal with contemporary issues throughout the world, so emphasis will be placed on encouraging the students to improve their general knowledge of world affairs.

Inherent in this course will be the need for the students to "think on their feet", that is to say they will have to glean as much information as they can from class presentations and then ask questions and participate in discussions.

【Schedule】

The aim of this course is to discuss up-to-date issues, so the schedule will be determined by the current events of the week. However, students should expect to address social, economic, political, religious, environmental, medical and other such issues.

【Assessment】

Assessment will include the following components:
1) Vocabulary tests
2) Preparation for (and participation in) class discussions
3) Listening comprehension activities
4) Attendance

「上級英語セミナー2005 F」は、週２回コースの授業で４単位の科目である。火曜日３限（担当教員：横山綾子）、金曜日４限（担当教員：WOODMAN, Jo-Anne）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

中国語読解１Ａ

大森信徳　河井昭乃　曹 志偉　周 素芬　楊 衛平

【授業の概要】

身近な実用読解文を多くとりあげた教材を通じて中国語の初級段階を総合的に学習し、中国語の文法面・表現面における全体像がつかめるような基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の２級に受かることを目標に定め、＜中国漢語水平考試大綱＞に規定された400～900前後の語彙力と70項目の文法力を身につける。このことで、中国語の平易な文章の読解が可能になると同時に、履修翌学期からHSK試験対策コースである＜HSK基礎コースA＞＜HSK基礎コースB＞の履修が可能になる。

【授業計画】

1．オリエンテーション
2．母音、数字、挨拶
3．疑問文、形容詞述語文
4．子音、声調、曜日表現
5．省略疑問文、疑問詞疑問文
6．音節、勧誘表現
7．動詞述語文、指示代名詞
8．我姓松本。自己紹介
9．介詞"和"、副詞"也""都"
10．我的家庭。所有・存在の"有"、名詞述語文
11．部分否定文、感嘆表現、変調と軽声
12．我们的大学。介詞"给""在"
13．名詞の修飾表現
14．我的一天。時の表現、方向補語
15．まとめ

【評価方法】

出席、平常点、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語読解１Ａ２（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語会話１Ａ

大森信徳　河井昭乃　曹 志偉　周 素芬　楊 衛平

【授業の概要】

分かりやすい実用会話文を多くとりあげた教材を通じて、中国語の初級段階を総合的に学習し、中国語の音声面・表現面における全体像がつかめるような基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の２級に受かることを目標に定め、HSK試験センターより出されたく中国漢語水平考試大綱＞に規定された400～900前後の語彙力と70項目の文法力を身につける。このことで、一般的な挨拶・自己紹介などが可能になると同時に、履修翌学期からHSK試験対策コースである＜HSK基礎コースA＞＜HSK基礎コースB＞の履修が可能になる。

【授業計画】

初めて中国語を学ぶ学生を対象に日常会話表現の習得を目指す。

第一課　発音（1）
第二課　発音（2）
第三課　発音（3）
第四課　発音（4）
第五課　あいさつ表現
第六課　時間の表し方
第七課　年齢を言う
第八課　家庭を語る
第九課　自分の家を語る
第十課　学校について語る
第十一課　趣味について語る
第十二課　中国へ行く

【評価方法】

出席、平常点、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

愛知淑徳大学生のための中国語会話１Ａ・２（中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語読解１Ｂ

大森信徳　河井昭乃　曹 志偉

【授業の概要】

講義の内容等とカリキュラム上の位置づけは＜中国語読解１Ａ＞とほぼ同じであるが、中国語学習に対して特に関心を示す学生に対して週２回の受講を可能にするため設定された講義である。ただし、文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が＜中国語読解１Ａ＞と異なっている教材を使用する。このことで、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにすることを図る。

【授業計画】

読解に必要な、基礎的な表現や文法事項を、特に日本人の苦手な部分に重点を置いて、半期にわたって講義する。

第一課　発音（1）
第二課　発音（2）
第三課　発音（3）
第四課　発音（4）
第五課　人称代名詞・“是”
第六課　指示代名詞・数詞・量詞
第七課　形容詞と形容詞述語文
第八課　動詞述語文
第九課　“有”・年月日
第十課　場所・時間・数量
第十一課　前置詞（介詞）・“了”
第十二課　能願動詞

【評価方法】

出席、平常点、期末試験。

【テキスト】

愛知淑徳大学生のための中国語読解１Ｂ（中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語会話１Ｂ

大森信徳　河井昭乃　曹 志偉

【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは＜中国語会話１Ａ＞とほぼ同じであるが、中国語学習に対して特に関心を示す学生に対して週２回の受講を可能にするため設定された講義である。ただし、文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定などが＜中国語会話１Ａ＞と異なっている教材を使用する。このことで、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにすることを図る。

【授業計画】

1．オリエンテーション
2．今天星期几？　曜日と疑問詞利用の疑問文
3．我很高兴。省略疑問文、形容詞述語文
4．我学习中文专业。能願動詞“能”
5．現在幾点？　時間表現、語気助詞“了”
6．我的家庭。介詞“在”
7．谈天気。天気表現、選択疑問文、感嘆文、
8．邀请。仮定文、反復疑問文、部分否定文
9．中間テスト
10．我的大学。伝聞の表現
11．找手机。目的語位置換えの“把”、結果補語“到”
12．喜欢什么？　過去の経験表現「V+“过”」
　　結果や程度表現「V+“得”」
13．帮我。能願動詞“会”
14．暇期做什么？　結果補語“好”
15．まとめ

【評価方法】

出席、平常点、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語会話１Ｂ（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語読解 2

大森信徳　河井昭乃　曹 志偉　周 素芬　楊 衛平　陳 惠貞

【授業の概要】

読解学習を通じて中国語の全体像がつかめる基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の３級に受かることを目標に定め、＜中国漢語水平考試大綱＞に規定された900～1500前後の語彙力と140項目の文法力を身につける。HSK試験対策のためには＜HSK基礎コースA＞か、＜HSK基礎コースB＞と並行した履修が望ましく、基礎能力の深度を深めるためには＜中国語会話２＞と並行した履修が望ましい。

【授業計画】

1．就要放暑暇了。語気助詞“了”、介詞“和”
2．伝聞の表現、能願動詞“想”“要”
3．暑暇回家的一天。完了の表現、結果補語“到”
4．使役の表現“让”
5．鈴木一家。能願動詞“会”“能”
6．過去の経験表現「V+“过”」
7．我家的照片。動作の進行・状態の持続などの表現「V+“着”」
8．介詞“离”、連動文
9．終于习慣了。感嘆表現２
10．自己の意見表示
11．我做了一個夢。動作の進行表現の「“在”+V」、程度補語と可能補語
12．副詞用法の“地”
13．我太幸福了。目的語位置換えの“把”、比較の表現、受身文
14．春暇的計画。未完了の表現、許諾の表現
15．まとめ

【評価方法】

出席、平常点、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語読解１Ａ２（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語会話 2

大森信徳　河井昭乃　曹 志偉　周 素芬　楊 衛平

【授業の概要】

主として、身近で分かりやすい実用例文を多くとりあげた会話学習を通じて、中国語の音声面・文法面・表現面における全体像がつかめるような基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の３級に受かることを目標に定め、HSK試験センターより出された＜中国漢語水平考試大綱＞に規定された900～1500前後の語彙力と140項目の文法力を身につける。履修後は、旅先での中国語による買い物などが可能になる。

【授業計画】

中国語会話１をクリアした学生が、さらに深く生きた中国語を話せるようになることを目指す。学生が、中国に留学している気分で学習できるように配慮した。

第一課　部屋を借りる
第二課　換金する
第三課　道を尋ねる
第四課　交通機関を利用する
第五課　市場での買い物の仕方
第六課　デパート
第七課　ホテル
第八課　郵便局
第九課　電話
第十課　中国人宅に訪問する
第十一課　レストラン
第十二課　スピーチの仕方

【評価方法】

出席、平常点、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

愛知淑徳大学生のための中国語会話１Ａ・２（中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK 基礎コースA　※聴解中心

大森信徳　河井昭乃　曹 志偉　王 麗英　杜 英起

【授業の概要】

履修後、HSK基礎試験の２級か３級に受かることを目標に定めた授業である。試験で要求される400～1500前後の語彙量とその語彙量に相応する文法力を身につける。

【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと、練習問題を解いて、練習問題について解説する。各課の文法のポイントは下記の通りである。

1．“了”や“过”の使い方など
2．“时点”の言い方や“时段”の言い方など
3．“小时”や“钟头”の使い方など
4．“方位词表”について
5．“多会儿”や“哪会儿”の使い方など
6．“该”や“应该”の使い方など
7．介词の“朝”、“向”と“往”の使い方
8．比較表現について
9．“是字句”について
10．“愿意”や“想”の使い方など
11．“趋向补语”について
12．“复合趋向补语”である“下来”や“下去”などの意味について
授業の予習としてホームページを利用することができる。

【評価方法】

出席、平常点、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK基礎Ａ（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK 基礎コースB　※読解中心

大森信徳　河井昭乃　曹 志偉　陳 惠貞

【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは＜HSK基礎コースA＞とほぼ同じあるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週２回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が＜HSK基礎コースA＞で用いる教材と異なっている教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと、練習問題を解いて、練習問題について解説する。各課の文法のポイントは下記の通りである。

1．“我”と“你”；“左右”と“前后”など
2．“是”；“语气助词”の“吗”と“呢”など
3．“了”；“形容词谓语句”など
4．“动词+过”と“形容词+过”；“在”など
5．“数量补语”；“头”と“面”など
6．“有字句”；结构助词“地”など
7．“量词的重叠”；“把字句”など
8．“从”と“离”；“一边～一边～”など
9．“都”と“一共”；“程度补语”など
10．“被字句”；“在・正・正在”など
11．“趋向补语”；“多么”など
12．“复合趋向补语”；“是～还是～”など
授業の予習としてホームページを利用することができる。

【評価方法】

出席、平常点、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK基礎Ｂ（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語読解 3

大森信徳　河井昭乃　曹 志偉　湯 海鵬

【授業の概要】

読解中心のテキストを用い、更なる意欲で中国語の表現の学習に励み中国語文の読解力と理解力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初等試験の4級に受かることにねらいを定め、1500～2000前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。HSK試験対策のためには＜HSK初等コースA＞か、＜HSK初等コースB＞と並行した履修が、中国語コミュニケーションの深度を深めるためには＜中国語会話3＞と並行した履修が望ましい。

【授業計画】

1．オリエンテーション
2．应该感谢谁。
3．一件小事。
4．生日宴会。
5．中国人的问候语。
6．在中国过春节。
7．修自行车的张师傅。
8．自行车上的宝宝座儿。
9．雨披。
10．服装与色彩。
11．逛商场。
12．一个特别的“村”
13．学汉语趣事。
14．まとめ
15．復習・テスト

【評価方法】

出席、平常点、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

愛知淑徳大学のための中国語読解3（中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

教場で指示すること、関連参考文献のプリント提出など。

中国語会話 3

大森信徳　河井昭乃　曹 志偉　杜 英起

【授業の概要】

第二外国語として一年間ほど中国語を学んできた学習者が、生活において日常的に取りあげられる話題を中心に構成された会話のテキストを用い更なる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語によるコミュニケーション能力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初等試験の4級に受かることにねらいを定め、1500～2000前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。履修後は家族生活・大学生活などについて語ることができる。

【授業計画】

中国語会話2を履修した学生が、さらに高度な内容について、中国語で円滑に会話が行えるようになることを目指す。

【評価方法】

期末試験、出席状況、平常点から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語会話3（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

言活（中国語）

HSK 初等コースA　※聴解中心

大森信徳　河井昭乃　曹 志偉　杜 英起

【授業の概要】

履修後、HSK初等試験の4級に受かることを目標に定めた授業である。試験で要求される1500～2000前後の語彙量とそれに相応する文法力をマスターしていく。

【授業計画】

各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時には練習問題を解くこととその解説を中心にして、実践能力の向上をめざす。予習を課すこともあり、履修者の積極的な学習が要求される。

学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を一回ないし二回の授業で進めていく。

【評価方法】

期末試験、出席状況、平常点から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK初等A（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK 初等コースB　※読解中心

大森信徳　河井昭乃　曹 志偉　湯 海鵬

【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは＜HSK初等コースA＞とほぼ同じであるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が＜HSK初等コースA＞で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

【授業計画】

各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時には練習問題を解くこととその解説を中心にして、実践能力の向上をめざす。予習を課すこともあり、履修者の積極的な学習が要求される。

学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を一回ないし二回の授業で進めていく。

【評価方法】

期末試験、出席状況、平常点から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK初等B（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語読解 4

大森信徳　河井昭乃　曹 志偉　杜 英起

【授業の概要】

読解中心のテキストを用い、更なる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語の読解力と理解力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初・中等試験の５級に受かることにねらいを定め、2000～2500前後の語彙力とそれに相応する文法力を身につける。HSK試験対策のためには＜HSK中等上級コースA＞か、＜HSK中等上級コースB＞と並行した履修が、中国語コミュニケーションの深度を深めるためには＜中国語会話４＞と並行した履修が望ましい。

【授業計画】

1．接続詞の使い方、用途など。“虽然～但是”など。
2．連動文の構成。主語+動詞フレーズ１+動詞フレーズ２。
3．動詞の繰り返しの構造。AA式：说说;A-A式：说一说等等。
4．挨拶の言葉。“打招呼、问候语”などの基本と応用。
5．構造助詞の使い方。“的、地、得”の使い方、それぞれの違い。
6．名量詞と動量詞の区別。“一个小时”和“一小时”。
7．「宝宝」からの連想ゲーム。“宝贝、宝座、珠宝、心肝宝贝”。
8．疑問文のイロハ。“吗、呢、是吗、是不是、是～不是”。
9．副詞のポイント。“又、再、也、都、一直、已经”。
10．方向動詞の使い方。“上、下、出、回、来、去”を中心。
11．語気副詞の応用。“可、更不用说、真的”。
12．形容詞と副詞の用例。“差不多”の使い方などを。
13．比較の方法。“最、更、比、跟～一样”の使い方と区別。
14．特殊な動詞述語文。“连动式文、兼语式文、把和被の用例”
15．まとめ

【評価方法】

出席、平常点、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

愛知淑徳大学生のための中国語読解４（中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

教場で指示すること、関連参考文献のプリント提示など。

中国語会話 4

大森信徳　河井昭乃　曹 志偉　陳 惠貞

【授業の概要】

一年半ほど中国語を学んできた学習者が、生活において日常的に取りあげられる話題を中心に構成された会話のテキストを用い更なる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語によるコミュニケーション能力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初・中等試験の５級に受かることにねらいを定め、2000～2500前後の語彙力とそれに相応する文法力を身につける。履修後は趣味生活・地域社会などについて語ることができる。

【授業計画】

中国語会話３を履修した学生が、さらに高度な内容について、中国語で円滑に会話が行えるようになることを目指す。

【評価方法】

期末試験、出席状況、平常点から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語会話４（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK 中等上級コースA　※聴解中心

大森信徳　河井昭乃　曹 志偉　陳 惠貞

【授業の概要】

履修後、HSK初・中等試験の５級に受かることを目標に定めた授業である。ねらいの試験で要求される2000～2500前後の語彙力とそれに相応する文法力をマスターしていく。

【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと、練習問題を解いて、練習問題について解説する。学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を一回ないし二回の授業で進めていく。

【評価方法】

期末試験、出席状況、平常点から総合的に判定する。

【テキスト】

HKS中等上級A（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK 中等上級コースB　※読解中心

大森信徳　河井昭乃　曹 志偉　杜 英起

【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは＜HSK中等上級コースA＞と大同小異であるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週２回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が＜HSK初等コースA＞で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと、練習問題を解いて、練習問題について解説する。学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を一回ないし二回の授業で進めていく。

【評価方法】

期末試験、出席状況、平常点から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK中等上級B（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

下記の科目は、本年度開講しません。

中国語作文１

【授業の概要】

第二外国語として２年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心にして習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、みずから平易な中国語文章が書けることにねらいをさだめる。さらに、HSK中等試験の６級または７級に受かることを目標にし、2500～3500前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。

HSK 中等高級コース１Ａ　※聴解中心

【授業の概要】

履修後、HSK中等試験の６級または７級に受かることを目標に定めた授業である。ねらいの試験で要求される2500～3500前後の語彙量とそれに相応する文法力をマスターしていく。

HSK 中等高級コース１Ｂ　※読解中心

【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは＜HSK中等高級コース１Ａ＞と大同小異であるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週２回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が＜HSK中等高級コース１Ａ＞で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

同時通訳入門１

【授業の概要】

第二外国語として２年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心にして習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、初歩的な同時通訳ができる実力を養成する。ねらいは、高度な中国語の運用能力を身につけ、実社会で中国語を使った仕事ができることに定める。さらに、HSK中等試験の６級または７級に受かることを目標にし、2500～3500前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。

言活（中国語）

中国語作文２

【授業の概要】

２．5年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心にして習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、中国語の一般的な文章が書けることにねらいを定める。さらに、HSK中等試験の７級または８級に受かることを目標にし、3500～4000前後の語彙量とそれに相応する文法項目を身につける。履修後は、友人・知人への略式手紙、中国官公署向けの書類作成、中国語による日記・メモの作成などが可能になる。

HSK 中等高級コース２Ａ　※聴解中心

【授業の概要】

履修後、HSK中等試験の７級または８級に受かることを目標に定めた授業である。ねらいの試験で要求される3500～4000前後の語彙力とそれに相応する文法力をマスターしていく。

HSK 中等高級コース２Ｂ　※読解中心

【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは＜HSK中等高級コース２Ａ＞と大同小異であるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週２回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が＜HSK中等高級コース２Ａ＞で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

同時通訳入門２

【授業の概要】

２．5年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心にして習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、平易な同時通訳ができる実力を養成する。ねらいは、高度な中国語の運用能力を身につけ、実社会で中国語を使った仕事ができることに定める。さらに、HSK中等試験の７級または８級に受かることを目標にし、3500～4000前後の語彙量とそれに相応する文法項目を身につける。HSK試験対策のためには＜HSK中等高級コース２Ａ＞か、＜HSK中等高級コース２Ｂ＞と並行した履修が、中国語表現の深度を深めるためには＜中国語作文２＞と並行した履修が望ましい。

韓国・朝鮮語入門

パク ヨンソン　キム ソヨン　尹 大辰

【授業の概要】

ハングル（韓国・朝鮮の文字）の習得、発音のトレーニング、基礎文法の理解など、韓国・朝鮮語の入門段階を総合的に学習し、韓国・朝鮮語の文字・音声・表現における全体像がつかめる能力を養成する。入門段階における集中学習の効果（韓国・朝鮮語は日本語と文法構造がほとんど同じなので、効果的に学習すれば１年間で高校３年の英語力程度の力をつけることができる）をねらい、週２回の履修になっている。

【授業計画】

基礎的名詞および動詞や形容詞を中心にする500語程度の基本語彙、60項目ほどの基礎文法を身につけ、それを用いた短いハングル文の読み書きおよび聞きとり、そして簡単な意思表示と会話上の運用などを可能にする。

第１回　授業の概要説明、韓国・朝鮮語の概説
第２回～第５回　ハングルの読み書き１～４、まとめ
　１）基本母音字（10個）、挨拶１
　２）基本子音字１（平音９個）、挨拶２
　３）基本子音字２（激音５個）、名詞１
　４）合成子音字（濃音５個）、名詞２
第６回～第８回　ハングルの読み書き５～７
　１）合成母音字１（４個）、形容詞１
　２）合成母音字２（７個）、形容詞２
　３）終声子音字（７種）、叙述格助詞「이다」
第９回～第10回　発音のルールとトレーニング１・２、動詞１・２、表現練習、まとめ
第11回～第12回　尊敬形（합쇼체）平叙文・疑問文１・２、助詞１・２
第13回～第14回　尊敬形（합쇼체）否定文、助詞３・４、まとめ
第15回　中間試験
第16回～第17回　上称形（하오체）平叙文・疑問文および否定文、連結語尾１・２
第18回～第20回　１）勧誘および命令文、転成語尾１
　２）禁止および不可能文、変則活用１、転成語尾２
　３）漢数詞、書き取り、表現練習、まとめ
第21回～第23回　１）略対上称形（하게체）、転成語尾３
　２）平常形（해라체）、先語末語尾１
　３）曖昧形（반말체）、先語末語尾２
第24回～第24回　１）変則活用２、先語末語尾３
　２）固有数詞、表現練習、まとめ
第26回　単位認定試験

【評価方法】

出席状況、授業のための準備状況、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

韓国語入門　（曺述燮）

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国・朝鮮語読解１

パク ヨンソン　尹 大辰

【授業の概要】

身近でわかりやすい実用読解文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の基礎過程を総合的に学習し、基礎的な韓国・朝鮮語を読み、書き、理解し、表現する能力を養成する。

【授業計画】

名詞、動詞や形容詞、そして冠詞や副詞などの1,000語程度の基本語彙、120項目ほどの文法力を身につけ、基礎的な単語で短い文章が書けること、ある程度辞書が使えること、そして韓国語能力試験の１級、ハングル能力検定試験の４級に受かることを目指す。

第１回　授業の概要説明、前期の復習
第２回　サッカーがお好きですか。過去の経験の敬語体、理由・原因の表現、単純否定表現と不可能表現
第３回　明日は何をされますか。意志・意図・計画の表現、願望の表現、勧誘の表現
第４回　喫茶店で。「ㅇ」変則、仮定の表現、選択・許容の表現、命令・提案・要求の表現
第５回　韓国料理屋で。「ㅂ」変則、前置きや状況の表現、逆接の表現、助数詞
第６回　道をたずねる。「ㄹ」変則、案内の表現、義務・必要性の表現、比較・対照の表現
第７回　中間試験
第８回　地下鉄の駅で。「ㄹ」変則、可能・能力の表現、不可能・無能力の表現、排除の表現、推量・可能性の表現
第９回　タクシーに乗る。前後関係の表現、意図・予定の表現、決定の意の表現、依頼・要求の表現
第10回　郵便局に行く。用言の連体形
第11回　約束を交わす。状態変化の表現、感動・独白・感想の表現、同時進行の表現
第12回　天気、引用・伝聞の表現、可能性への推測の表現、確認あるいは同意の表現
第13回　単位認定試験

【評価方法】

出席状況、授業のための準備状況、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

韓国語中級（李昌圭　白帝社）

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国・朝鮮語会話１

パク ヨンソン　キム ソヨン

【授業の概要】

使用頻度の多い実用会話体の文章を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の基礎過程を総合的に学習し、基礎的な韓国・朝鮮語を聞きとり、理解し、応対する能力を養成する。

【授業計画】

名詞、動詞や形容詞、そして冠詞や副詞などの1,000語程度の基本語彙、120項目ほどの文法力を身につけ、初歩的な語句を用いてのハングル会話を楽しむと同時に、韓国語能力試験の１級、ハングル能力検定試験の４級に受かることを目指す。

第１回　授業の概要説明、こんにちは（안녕하세요?）
第２回　韓国は初めてですか（한국은　처음입니까?）
第３回　ここが寮です（여기가　숙사에요.）
第４回　３月２日からです（３월２일부터에요.）
第５回　どこで売っていますか（어디에서　팔아요?）
第６回　MTって何ですか（MT가　뭐예요?）
第７回　韓国の歌、表現練習、まとめ、中間テスト
第８回　スタンドランプを見せてください（스탠드　좀　보여주세요.）
第９回　一杯飲みましょう（술　한잔　해요.）
第10回　大学生活はどうですか（학교생활은　어때요.）
第11回　よく聞けば勉強になります（자주　들으면　공부가　되지요.）
第12回　誕生パーティをしましょう（생일　파티를　합시다!）
第13回　単位認定試験

【評価方法】

出席状況、授業のための準備状況、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

初歩の韓国語会話１（曺述燮・李正子・金賢珍）

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国語能力試験対策１

パク ヨンソン　キム ソヨン　尹 大辰

【授業の概要】

韓国語能力試験の１級あるいはハングル能力検定試験の４級に合格することを目標に定めた授業である。ねらいの試験に必ず合格するために、既出問題および新出予想問題のドリル式練習、ポイントの解説、語彙・文法リストの作成などで構成される。

【授業計画】

ねらいの試験で要求される1,000語程度の基本語彙とその語彙量に相当する120項目ほどの文法力を着実に身につけるために、発音と表記、文法、助詞、読解と表現などを模擬試験をとおして習得していく。聞き取り、書き取りの練習も平行する。

第１回　授業の概要説明、前期の復習
　完全制覇５級・挨拶言葉１
第２回　挨拶言葉２、ハングルのカタカナ表記
第３回　日本語のハングル表記、基本語彙と文法１
第４回　基本語彙と文法２、尊敬形と上称形の活用、各種助詞
第５回　漢数詞と固有数詞、助数詞、疑問詞
第６回　韓国語の短文作成および聞き取り、表現練習、まとめ、中間テスト
第７回　完全制覇４級・基本語彙と文法１
第８回　基本語彙と文法２・各種助詞、数詞・助数詞、過去形、尊敬形、単純否定形と不可能形
第９回　基本語彙と文法３・各種活用と変則、接続文、連体形
第10回　基本語彙と文法４・仮定の表現、状況変化の表現、各種語気の表現、動作の先行関係の表現
第11回　韓国語の発音、応用問題１
第12回　応用問題２
第13回　単位認定試験

【評価方法】

出席状況、授業のための準備状況、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

絶対合格のために!!「ハングル」能力検定試験５級・４級（小坂伸顕　白帝社）

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

下記の科目は、本年度開講しません。

韓国・朝鮮語読解 2

【授業の概要】

身近でわかりやすい実用読解文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の初級過程を総合的に学習し、平易な韓国・朝鮮語を読み、書き、理解し、表現する能力を養成する。

韓国・朝鮮語会話 2

【授業の概要】

使用頻度の多い実用会話体の例文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の初級過程を総合的に学習し、平易な韓国・朝鮮語を聞きとり、理解し、応対する能力を養成する。

韓国語能力試験対策 2

【授業の概要】

韓国語能力試験の2級あるいはハングル能力検定試験の3級に合格することを目標に定めた授業である。ねらいの試験に必ず合格するために、既出問題のおよび新出予想問題のドリル式練習、ポイントの解説、語彙・文法リストの作成などで構成される。

韓国・朝鮮語読解 3

【授業の概要】

わかりやすい実用読解文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の中級過程を総合的に学習し、日常生活に必要な一般的な韓国・朝鮮語を読み、書き、理解し、表現する能力を養成する。

韓国・朝鮮語会話 3

【授業の概要】

使用頻度の多い実用会話体の例文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の中級過程を総合的に学習し、日常生活に必要な一般的な韓国・朝鮮語を聞きとり、理解し、応対する能力を養成する。

韓国語能力試験対策 3

【授業の概要】

韓国語能力試験の3級または4級あるいはハングル能力検定試験の準2級または2級に合格することを目標に定めた授業である。ねらいの試験に必ず合格するために、既出問題のおよび新出予想問題のドリル式練習、ポイントの解説、語彙・文法リストの作成などで構成される。

情報技術基礎Ⅰ

西荒井学　他

【授業の概要】

情報技術に関する基礎的かつ実践的な知識ならびに技法を習得する。このため、基本的なハードウェア構成および各周辺機器の機能や特徴をはじめ、ソフトウェアの役割、情報社会の特質や問題点にも触れながら、一般的な情報関連知識ならびに情報倫理観を育てる。特に、情報技術の基礎として不可欠なネットワーク利用技術ならびにデータ処理操作技術について、コンピュータ実習を通じて学習する。

【授業計画】

1．コンピュータの歴史、原理
2．情報の表現（２進数、16進数）
3．ハードウェアの仕組みとソフトウェアの役割
4．情報社会と情報倫理１（ネットワーク犯罪）
5．情報社会と情報倫理２（情報セキュリティ、知的所有権）
6．情報収集と分析
7．情報ツールとマナー
8．インターネット基本操作１（電子メール）　実習
9．インターネット基本操作２（WWW）　実習
10．EXCEL基本操作１　実習
11．EXCEL基本操作２　実習
12．EXCEL基本操作３　実習
13．EXCEL基本操作４　実習

当該科目については、科目履修前に情報技術に関するテストを実施し、受講者を初級クラスと上級クラスに分け、授業を実施していく。また、講義とコンピュータ実習とを約半々の割合で授業を進行していく。コンピュータ実習を伴うため、授業への出席は不可欠な要素である。特に、コンピュータ活用科目の「情報技術基礎III」、「ネットワーク技術入門」、「プログラミング入門」の履修を予定している学生は必ず受講しておくこと。また、実習の際にはフロッピー・ディスク（またはMO）が必要になる。

【評価方法】

出席状況、学期末試験ならびに各コンピュータ実習課題提出内容によって評価する。

【テキスト】

情報技術基礎Ⅰ（愛知淑徳大学情報教育センター編.共立出版）

情報技術基礎Ⅲ

上原 衛　他

【授業の概要】

情報技術基礎Ⅰ、情報技術基礎Ⅱを踏まえ、Windowsの高度操作、WORD、EXCELの高度操作、ACCESSの基本操作を学び、より高度で広範囲な情報技術の知識とスキルを習得する。当授業では、レポートや論文作成、ビジネス文書や表作成などを想定して、実践的なノウハウをコンピュータ実習によって学習する。

【授業計画】

1．デスクトップの高度操作
2．ファイルの高度操作
3．ネットワークの操作
4．学術文書、ビジネス文書の操作（WORD）
5．ビジネス情報処理（EXCEL）
6．マクロ操作（1）
7．マクロ操作（2）
8．ACCESSの概要
9．ACCESSの基本操作（1）
10．ACCESSの基本操作（2）
11．ACCESS総合演習（1）
12．ACCESS総合演習（2）
13．まとめ

【評価方法】

コンピュータ実習を中心に授業を進行する。授業を欠席すると実習内容が理解できなくなるので出席が不可欠である。出席状況、学期末試験、課題内容によって評価する。なお、コンピュータ活用科目の「情報技術基礎Ⅰ」と「情報技術基礎Ⅱ」で習得した知識、技術が必要となる。

【テキスト】

情報リテラシーの応用（伊東俊彦他著.近代科学社）

情報技術基礎Ⅱ

西荒井学　他

【授業の概要】

情報技術の基礎となる基本ソフトウェアならびに応用ソフトに関する知識ならびに技法を習得する。また、情報の処理能力や創造力を培うだけではなく、情報の表現方法や表現手段について、コンピュータ実習授業を通して学習していく。このため、基本的な文書書式、文書表現の方法や特徴をはじめ、実際にプレゼンテーション・ツールを利用した発表の手段や方法についても学習する。情報技術基礎Ⅰと同様、今後のより専門的な情報技術に関する知識ならびに技能習得に向けての礎を築く、基盤となる授業科目である。

【授業計画】

1．Windows基本操作１（キー・タイピングを含む）　実習
2．Windows基本操作２　実習
3．WORD基本操作１　実習
4．WORD基本操作２　実習
5．WORD基本操作３　実習
6．WORD基本操作４　実習
7．プレゼンテーションの概要
8．POWERPOINT基本操作１　実習
9．POWERPOINT基本操作２　実習
10．POWERPOINT基本操作３　実習
11．総合課題（プレゼンテーション資料作成１）　実習
12．総合課題（プレゼンテーション資料作成２）　実習
13．情報発信の管理と運用

当該科目については、情報技術基礎Ⅰと同じく、受講者を初級クラスと上級クラスに分け、授業を実施していく。また講義とコンピュータ実習とを約半々の割合で授業を進行していく。コンピュータ実習を伴うため、授業への出席は不可欠な要素である。特に、コンピュータ活用科目の「情報技術基礎III」、「ネットワーク技術入門」、「プログラミング入門」の履修を予定している学生は必ず受講しておくこと。また、実習の際にはフロッピー・ディスク（またはMO）が必要になる。

【評価方法】

出席状況、学期末試験ならびに各コンピュータ実習課題提出内容によって評価する。

【テキスト】

情報技術基礎Ⅱ（愛知淑徳大学情報教育センター編.共立出版）

情報数学入門

親松和浩　他

【授業の概要】

情報の整理、分析、加工といった処理には、基本的な数学的技術の習得が不可欠である。この講義では、高等学校での数学の復習から始めて、情報処理プログラミングに必要な論理数学、情報量と計算量評価、グラフィック処理で必要となる代数幾何の基礎を学ぶ。

【授業計画】

1．命題と制御処理
2．集合と写像
3．データの表現法と２進法
4．情報量/計算量の評価
5．三角関数
6．2次元ベクトル
7．2次元図形の表現法
8．行列
9．2次元図形の変換
10．3次元ベクトル
11．3次元図形の表現法
12．3次元図形の変換

【評価方法】

出席状況、学期末試験、課題レポートの提出内容によって評価する。

【テキスト】

第１回目の授業にて指示する

CG 入門

川澄未来子　他

【授業の概要】

コンピュータグラフィックス（CG）を含むディジタルコンテンツ制作に関する基礎知識と基礎技術を習得する。CGを効果的に使用した画像・映像は、産業、科学、映画、ゲーム、芸術、教育など多くの分野にみられる。本講では、ディジタルコンテンツを使ったコミュニケーションやプレゼンテーションの基本から具体的な表現・制作技術にいたるまで概説する。

【授業計画】

画像・映像やスライド教材などを活用した講義を中心に、時にはコンピュータ実習や課題制作を交えて進める。扱うトピックスは次のとおりである。

1. コミュニケーションと情報
2. プレゼンテーション
3. Webにおける情報デザイン
4. 映像制作
5. コンピュータグラフィックス１：基礎編
6. コンピュータグラフィックス２：アニメーション編
7. 表現の基礎
8. 技術の基礎

【評価方法】

出席状況、受講態度、課題提出、試験結果などから総合的に評価する。

【テキスト】

『ビジュアル情報表現』－ディジタル映像表現・Webデザイン入門－（CG－ARTS協会）

情報処理技術特殊 I

中野雅晴

【授業の概要】

基本情報技術者試験合格のための教育科目である。

情報技術全般の基礎知識を活用し、情報システム開発においてプログラムの設計・開発を行うとともに、将来高度な技術者を目指す者として、以下の知識・能力を身につける。

1）情報技術全般に関する基本的な用語・内容の知識
2）上位技術者の指導のもとにプログラム設計書を作成する能力
3）プログラミングに必要な論理的思考能力
4）プログラムのテスト手法を理解し実施する能力

【授業計画】

ステップ１　コンピュータ科学基礎
ステップ２　データベース技術
ステップ３　コンピュータシステムの開発と運用
ステップ４　ネットワーク技術
ステップ５　情報と経営
ステップ６　セキュリティと標準化

【評価方法】

出席状況・小テストなどで評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

人工知能入門

高橋信明　他

【授業の概要】

人工知能とは何か、その基本的な考え方ならびに基本技術および情報処理について、その基礎知識を習得する。知識工学という言葉から類推されるように、工学的色彩が高い分野であることから、最も基礎的な内容に範囲を絞り、出来る限り理解しやすい形で授業を進行していく。そのため、システム事例や技術応用例に触れていくと共に、今後の技術展開や今後の応用分野についても触れていくこととする。

【授業計画】

1. 人工知能の基本原理と考え方
2. 知識と知識表現
3. 述語論理と導出原理
4. 問題解決
5. 探索法とアルゴリズム
6. プロダクションシステム
7. 意味ネットワーク
8. 推論
9. 自然言語処理
10. 人工知能用言語
11. エキスパートシステム
12. ニューラルネットワーク
13. 人工知能の応用と展望

【評価方法】

出席状況、学期末試験ならびに各コンピュータ実習課題提出内容によって評価する。

【テキスト】

第１回目の授業にて指示する

情報処理技術特殊 II

中野雅晴

【授業の概要】

ソフトウェア開発技術者試験合格のための教育科目である。

情報システム開発のソフトウェア開発技術者として、外部仕様に基づいて内部設計・プログラム設計・プログラム開発を行い、高品質なソフトウェアを開発するための、以下の知識・能力を身につける。

1）ネットワーク、データベース、システム構成などの情報技術に関する全般的な知識と、上位技術者の指導のもとに情報システムの設計ができる能力
2）内部設計書・プログラム設計書の作成能力
3）プログラミングに必要な高度の論理的思考能力
4）ネットワーク、データベースなどに関する実装技術と知識
5）プログラムのテスト手法を熟知し、単体テスト・結合テストの計画と管理が行え、テストの実施についてはプログラム開発要員を指導できる能力

【授業計画】

ステップ１　コンピュータ科学基礎上級
ステップ２　コンピュータシステム上級
ステップ３　システムの開発と運用
ステップ４　ネットワーク技術
ステップ５　データベース技術
ステップ６　セキュリティと標準化

【評価方法】

出席状況・小テストなどで評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

情報処理技術特殊Ⅲ

黒部晃一

【授業の概要】

「画像情報技能検定試験CG部門（CG検定）」の２級合格を目標として、その対策を会得する。２級問題は、３級レベルのCGに関する総合的な知識の他に、厳密な理論的知識をも要求されるので、VCによるCGプログラミングのサンプルを解読することでそれを理解する。

【授業計画】

配布するサブテキストに基づいて、講義方式で行う。

1．CG概論、CG検定試験２級対策
2．各種CGツールの紹介、そのデモンストレーションと作例紹介
3．VisualC++によるGUIプログラミング
4．VisualC++によるインターフェースの設計
5．平成15年度前期CG検定２級試験問題の検証と分析
6．平成15年度前期CG検定２級試験問題の検証と分析
7．平成15年度後期CG検定２級試験問題の検証と分析
8．平成15年度後期CG検定２級試験問題の検証と分析
9．平成14年度前期CG検定２級試験問題の検証と分析
10．平成14年度後期CG検定２級試験問題の検証と分析
11．演習
12．まとめ

【評価方法】

出席状況で評価

【テキスト】

技術編　CG標準テキストブック（画像情報教育振興協会）
平成16年度版　CG検定２級問題集（画像情報教育振興協会）

【参考文献・資料】

○入門コンピュータグラフィックス（画像情報教育振興協会）
○基礎から学ぶVisualC++プログラミング（山岡祥　CQ出版社）

情報処理技術特殊Ⅳ

黒部晃一

【授業の概要】

「画像情報技能検定試験CG部門（CG検定）」の１級合格を目標として、その対策を会得する。１級問題は、CGプログラミングのスキルを要求されるので、自ら発案するテーマに基づいたプログラミングの実習を行う。

【授業計画】

前半は講義方式で、後半は主に実習形式で行う。

1．CG検定試験１級の概要と対策
2．VisualC++によるGUIプログラミング
3．平成15年度CG検定１級試験問題（マークシート）の検証と分析
4．平成15年度CG検定１級試験問題（記述式）の検証と分析
5．平成15年度CG検定１級試験問題（二次試験）の検証と分析
6．平成15年度CG検定１級試験問題（二次試験）の検証と分析
7．平成15年度CG検定１級試験問題（三次試験）の検証と分析
8．平成15年度CG検定１級試験問題（三次試験）の検証と分析
9．自ら提議したテーマに基づいたプログラミング実習
10．自ら提議したテーマに基づいたプログラミング実習
11．自ら提議したテーマに基づいたプログラミング実習
12．自ら提議したテーマに基づいたプログラミング実習、まとめ

【評価方法】

出席状況で評価

【テキスト】

技術編　CG標準テキストブック（画像情報教育振興協会）
平成16年度版　CG検定１級問題集（画像情報教育振興協会）

【参考文献・資料】

○コンピュータグラフィックス理論と実践
（J.D.Foley、A.v.Dam、S.K.Feiner F.Hughes オーム社）
○基礎から学ぶVisualC++プログラミング（山岡祥　CQ出版社）

簿記Ⅰ

浅野敬志

【授業の概要】
企業の経済活動を貨幣額によって記録・計算・整理して、その結果を明らかにするための技術である複式簿記の基礎理論を学ぶとともに、取引の仕訳・勘定記入といった基礎的な記帳技術を習得する。

【授業計画】
1．簿記の目的と役割
2．貸借対照表と損益計算書
3．取引と勘定
4．仕訳帳と元帳
5．現金・預金取引（1）
6．現金・預金取引（2）
7．商品売買取引（1）
8．商品売買取引（2）
9．掛取引と貸倒れ（1）
10．掛取引と貸倒れ（2）
11．手形取引（1）
12．手形取引（2）
13．その他の債権・債務取引（1）
14．その他の債権・債務取引（2）
15．有価証券・固定資産取引（1）
16．有価証券・固定資産取引（2）
17．伝票と訂正仕訳（1）
18．伝票と訂正仕訳（2）
19．決算手続き（1）
20．決算手続き（2）
21．8桁精算表の作成（1）
22．8桁精算表の作成（2）
23．総合問題（1）
24．総合問題（2）
25．総合問題（3）
26．総合問題（4）

【評価方法】
出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】
新検定簿記講義３級商業簿記〈平成17年版〉（加古宣士・渡辺裕亘編著　中央経済社）
新検定簿記ワークブック３級商業簿記（加古宣士・渡辺裕亘編著　中央経済社）

簿記Ⅰ

石川雅之

【授業の概要】
企業の経済活動を貨幣額によって記録・計算・整理して、その結果を明らかにするための技術である複式簿記の基礎理論を学ぶとともに、取引の仕訳・勘定記入といった基礎的な記帳技術を習得する。

【授業計画】
第１回　簿記の目的と役割
第２回　貸借対照表と損益計算書
第３回　取引と勘定
第４回　仕訳帳と元帳
第５回　現金・預金取引（1）
第６回　現金・預金取引（2）
第７回　商品売買取引（1）
第８回　商品売買取引（2）
第９回　掛取引と貸倒れ（1）
第10回　掛取引と貸倒れ（2）
第11回　手形取引（1）
第12回　手形取引（2）
第13回　その他の債権・債務取引（1）
第14回　その他の債権・債務取引（2）
第15回　有価証券・固定資産取引（1）
第16回　有価証券・固定資産取引（2）
第17回　伝票と訂正仕訳（1）
第18回　伝票と訂正仕訳（2）
第19回　決算手続き（1）
第20回　決算手続き（2）
第21回　８桁精算表の作成（1）
第22回　８桁精算表の作成（2）
第23回　総合問題（1）
第24回　総合問題（2）
第25回　総合問題（3）
第26回　総合問題（4）
第27回　現金預金－日商簿記２級の範囲（1）
第28回　現金預金－日商簿記２級の範囲（2）
第29回　有価証券－日商簿記２級の範囲（1）
第30回　有価証券－日商簿記２級の範囲（2）

【評価方法】
試験によって行う

【テキスト】
現代簿記（中村忠　白桃書房）

簿記Ⅱ

浅野敬志

【授業の概要】
日々の取引記録から財務諸表の作成までの複式簿記の一連の手続についての理解を深めるとともに、現実の経済社会における営利組織の中心である株式会社を念頭に、株式会社に関する簿記処理に焦点を当てる。

【授業計画】
1．現金預金-日商簿記２級の範囲（1）
2．現金預金-日商簿記２級の範囲（2）
3．有価証券-日商簿記２級の範囲（1）
4．有価証券-日商簿記２級の範囲（2）
5．その他の債権・債務取引-日商簿記２級の範囲（1）
6．その他の債権・債務取引-日商簿記２級の範囲（2）
7．手形取引-日商簿記２級の範囲（1）
8．手形取引-日商簿記２級の範囲（2）
9．商品売買取引（1）
10．商品売買取引（2）
11．未着品売買（1）
12．未着品売買（2）
13．委託販売（1）
14．委託販売（2）
15．受託売買（1）
16．受託売買（2）
17．割賦販売（1）
18．割賦販売（2）
19．試用販売（1）
20．試用販売（2）
21．予約販売（1）
22．予約販売（2）
23．固定資産
24．棚卸表の作成と決算整理（1）
25．棚卸表の作成と決算整理（2）
26．株式会社の資本

【評価方法】
出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】
新検定簿記講義２級商業簿記〈平成17年版〉（加古宣士・渡辺裕亘編著　中央経済社）
新検定簿記ワークブック２級商業簿記（加古宣士・渡辺裕亘編著　中央経済社）

簿記Ⅱ

石川雅之

【授業の概要】
日々の取引記録から財務諸表の作成までの複式簿記の一連の手続についての理解を深めるとともに、現実の経済社会における営利組織の中心である株式会社を念頭に、株式会社に関する簿記処理に焦点を当てる。

【授業計画】
第１回　その他の債権・債務取引-日商簿記２級の範囲（1）
第２回　その他の債権・債務取引-日商簿記２級の範囲（2）
第３回　手形取引－日商簿記２級の範囲（1）
第４回　手形取引－日商簿記２級の範囲（2）
第５回　商品売買取引（1）
第６回　商品売買取引（2）
第７回　未着品売買（1）
第８回　未着品売買（2）
第９回　委託販売（1）
第10回　委託販売（2）
第11回　受託売買（1）
第12回　受託売買（2）
第13回　割賦販売（1）
第14回　割賦販売（2）
第15回　試用販売（1）
第16回　試用販売（2）
第17回　予約販売（1）
第18回　予約販売（2）
第19回　固定資産
第20回　税金
第21回　棚卸表の作成と決算整理（1）
第22回　棚卸表の作成と決算整理（2）
第23回　株式会社の資本（1）
第24回　株式会社の資本（2）
第25回　利益の処分及び損失の処理（1）
第26回　利益の処分及び損失の処理（2）
第27回　社債（1）
第28回　社債（2）
第29回　株式会社の決算（1）
第30回　株式会社の決算（2）

【評価方法】
試験によって行う

【テキスト】
現代簿記（中村忠　白桃書房）

工業簿記

林 慶雲

【授業の概要】

製造業における製造過程を貨幣額によって記録・計算・整理する簿記が工業簿記であり、その中心は原価の算定にある。工業簿記の基本的仕組みを理解し、記帳技術を習得する。

【授業計画】

第１回　工業簿記の構造
第２回　材料費の計算
第３回　労務費の計算
第３回　経費の計算
第４回　製造間接費の計算
第５回　部門費の計算
第６回　個別原価計算（１）単純個別原価計算
第７回　個別原価計算（２）部門別個別原価計算
第８回　総合原価計算（１）
第９回　総合原価計算（２）
第10回　標準原価計算（１）
第11回　標準原価計算（２）
第12回　直接原価計算（１）
第13回　直接原価計算（２）
第14回　まとめ
第15回　期末試験

【評価方法】

期末試験の結果を中心に、出席状況等を参考に評価する。

【テキスト】

段階式日商簿記ワークブック２級「工業簿記」新会計基準に対応　改訂版
（岡本清、広本敏郎　中央経済社）

【参考文献・資料】

随時指示

会計学概論

森 恒夫

【授業の概要】

取引の記録から財務諸表の作成に至る一連の手続についての理解を深め、現代の企業会計の基本的な考え方を学習する。そして、現代の会計制度がどのような考え方に基づいて形成されているのか、また現実の経済社会においてどのような役割を果たしているのかを学習する。

【授業計画】

第１回　会計の意義
第２回　管理会計と財務会計
第３回　会計と法律
第４回　企業と会計
第５回　企業会計の技術的特徴
第６回　企業会計の理論的特徴
第７回　企業会計制度（１）
第８回　企業会計制度（２）
第９回　会計基準
第10回　決算の仕組み
第11回　製造業の会計（１）
第12回　製造業の会計（２）
第13回　利益計画と会計
第14回　会計監査
第15回　企業会計と税務

【評価方法】

単位認定試験及びレポートにより評価

財務会計

森 恒夫

【授業の概要】

企業が財務諸表を作成するうえで従わなくてはならない会計処理上の諸規則について、まずその基本的な考え方を学習するとともに、なぜそうした規則が必要であるのか、どのような課題もしくは問題点があるのかを理解する。次に財務諸表の作成・表示に係る諸規則を学習し、現代会計制度についての理解を深める。

【授業計画】

第１回　財務会計の意義
第２回　会計公準
第３回　時価主義と原価主義
第４回　損益計算の原則
第５回　流動資産
第６回　有形固定資産（１）
第７回　有形固定資産（２）
第８回　無形固定資産
第９回　繰延資産
第10回　負債会計
第11回　資本会計
第12回　損益会計（１）
第13回　損益会計（２）
第14回　財務諸表
第15回　中間財務諸表

【評価方法】

単位認定試験及びレポートにより評価する。

原価計算

林 慶雲

【授業の概要】

製造業において製造された製品が１個いくらであるかを知ることはそれほど容易ではない。製品の製造過程において生じた原価を集計する手続きが原価計算であるが、原価の発生をどのように認識・記録するか、そしてそれをどのように集計するのかについて考察する。

【授業計画】

第１回　原価の本質と原価の諸概念
第２回　費目別原価計算
第３回　部門別原価計算
第４回　総合原価計算の意義と諸形態
第５回　工程別総合原価計算
第６回　等級別総合原価計算
第７回　組別総合原価計算
第８回　連産品原価の計算と副産物
第９回　標準原価計算（１）
第10回　標準原価計算（１）
第11回　標準原価差異の分析表示
第12回　直接原価計算
第13回　標準直接原価計算
第14回　原価計算と予算制度
第15回　価格決定と原価

【評価方法】

期末試験の結果を中心に、出席状況当を勘案して総合的に評価する。

【テキスト】

段階式日商簿記ワークブック２級「工業簿記」新会計基準に対応　改訂版
（岡本清、広本敏郎　中央経済社）

【参考文献・資料】

随時指示

管理会計Ⅰ

吉村文雄

【授業の概要】

企業は資源の効果的・効率的な運用を図るため、貨幣額によってこれを測定・評価し、そのデータをもとにさまざまな意思決定を行わなければならない。しかも、企業経営には実績情報だけでなく予測情報も必要不可欠である。こうした情報を適切に把握し、分析するための基本的な考え方を学習する。

【授業計画】

第１回　管理会計の体系
第２回　利益管理のプロセスと利益目標の設定
第３回　損益分岐点分析
第４回　プロダクトミックス
第５回　原価管理
第６回　責任会計
第７回　原価センターと投資センター
第８回　企業予算の意義
第９回　企業予算の編成
第10回　標準原価管理
第11回　原価標準の設定
第12回　原価差異分析
第13回　原価企画
第14回　意志決定会計１
第15回　意志決定会計２

【評価方法】

講義の最終回に試験を行う。自筆ノート、教科書持ち込み可。コピー類の持ち込みは禁止。

【テキスト】

最初の講義でテキストを指示する。

【参考文献・資料】

講義中に随時指示する。講義内容に関する質問は、講義終了後の休憩時間内に受け付ける。

管理会計Ⅱ

吉村文雄

【授業の概要】

企業・組織の計画と管理に役立つ会計情報の特性を理解するとともに、会計データを事業計画の策定や業績評価に活用するための合理的な方法がどのようなものであるのかを、また会計情報システムをどのように設計すべきかを検討する。

【授業計画】

前半で管理会計の発達史と体系を説明し、後半で実践的な管理会計技法の構造と機能を把握するとともに、財務諸表分析の管理的意義を検討する。

概ね、以下の順に講義する。

1．職能部門制組織の成立と管理会計
2．階層組織の発達と管理会計
3．コントローラーシップの発達
4．計画会計と統制会計
5．戦略予算とバランス・スコアカード
6．情報処理と財務諸表分析
7．管理会計論の諸問題

【評価方法】

講義の最終回に試験を行う。自筆ノート、教科書持ち込み可。コピー類の持ち込み禁止。

【テキスト】

最初の講義でテキストを指示する。適宜プリントを配布。

【参考文献・資料】

講義を進めるなかで示す。授業中に常時質問を受け付ける。

国際会計

山川 勝

【授業の概要】

財務諸表を理解するためには、その財務諸表がどのような会計基準に基づいて作成されているのかを知らなければならない。今日、国際的に用いられる会計基準は、国際会計基準または米国会計基準である。本講義では、英文財務諸表を中心とする財務会計の諸領域を取り上げ、日米をはじめとする各国の会計基準の相違について学習する。

【授業計画】

1．日本の会計基準の現状と課題
2．国際会計基準の概要
3．米国会計基準の概要
4．会計基準各論
5．企業の財務情報開示の分析（代表的な日本企業の海外向財務情報開示書類であるアニュアルレポートの分析）
6．会計と監査

【評価方法】

課題に対するレポートの提出を求め、出席状況とあわせて総合的に評価する。

【参考文献・資料】

日本の代表的な有力企業の海外向けに開示された財務情報の実例（アニュアルレポート）をケース・スタディとして使用する。

この授業の履修は、会計学概論又は財務会計論を履修していることが望ましい。

監査論Ⅰ

前川三喜男

【授業の概要】

現代の株式会社制度を支える一つの制度として、専門的な能力を有する独立の第三者による財務諸表の検証とその結果報告が求められている。それが会計監査である。本講義では、公認会計士による財務諸表監査の目的や制度についての基本的な知識を学習する。

【授業計画】

第１回　監査の意義
第２回　監査の類型
第３回　会計士監査の歴史的展開
第４回　監査とディスクロージャー
第５回　監査制度１
第６回　監査制度２
第７回　監査人の資格と要件
第８回　公認会計士制度
第９回　監査人の職業倫理
第10回　監査人の独立性
第11回　監査人が負うべき法的責任
第12回　不正・違法行為と監査人の義務
第13回　粉飾決算と訴訟
第14回　監査基準の必要性
第15回　まとめ

【評価方法】

概ね授業４回ごとに学習した内容に関するテスト（10～15分程度）を実施し、合計３度のテストの結果で評価する。

【テキスト】

なし
レジメで対応

監査論Ⅱ

前川三喜男

【授業の概要】

財務諸表の適正性を判断するためにどのような手続きが必要とされるのかについて、監査基準を中心として学習する。また、会計士監査における課題や問題点を取り上げ、監査の本質についての理解を深める。

【授業計画】

第１回　監査契約
第２回　予備調査
第３回　監査計画
第４回　内部統制
第５回　リスク・アプローチ
第６回　実証的監査手続
第７回　実査
第８回　立会
第９回　確認
第10回　監査調査
第11回　監査結果
第12回　監査意見の形成

【評価方法】

概ね授業４回ごとに学習した内容に関するテスト（10～15分程度）を実施し、合計３度のテストの結果で評価する。

【テキスト】

なし
レジメで対応

経営分析Ⅱ

浅野敬志

【授業の概要】

会計情報による経営分析の基本的な手法についての理解を深め、実際に企業が公表している会計情報をもとに経営分析を行い、企業の安全性・成長性・収益性などを把握するための方法を習得する。

【授業計画】

第１回　企業評価の必要性
第２回　資本利益率（ROA・ROE）の意義と問題点
第３回　株主価値の創造とEVA™
第４回　投下資本利益率（ROIC）と加重平均資本コスト（WACC）
第５回　実例を使ったEVA™計算
第６回　実例を使ったEVA™分析
第７回　財務分析の意義と問題点
第８回　企業評価モデル（１）－DCFモデル－
第９回　企業評価モデル（２）－Ohlsonモデル－
第10回　実例を使った企業評価（１）
第11回　実例を使った企業評価（２）
第12回　株主価値を高める事業戦略（１）
第13回　株主価値を高める事業戦略（２）

【評価方法】

出席状況、課題、単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じて、適宜資料を配布する。

【参考文献・資料】

企業分析シナリオ（西山茂著　東洋経済新報社）

経営分析Ⅰ

浅野敬志

【授業の概要】

企業が公表する財務諸表を中心とする会計情報は企業についての重要な情報の一つである。会計情報から企業の成績を把握するために必要な基本的な技法を学習する。

【授業計画】

第１回　経営分析の必要性
第２回　財務諸表を理解する
第３回　成長性の分析（１）
第４回　成長性の分析（２）
第５回　収益性の分析（１）
第６回　収益性の分析（２）
第７回　採算性の分析（１）
第８回　採算性の分析（２）
第９回　安全性の分析（１）
第10回　安全性の分析（２）
第11回　総合分析（まとめ）
第12回　実例を使っての総合分析（１）
第13回　実例を使っての総合分析（２）
第14回　実例を使っての総合分析（３）
第15回　実例を使っての総合分析（４）

【評価方法】

出席状況、課題、単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

３ステップ式だからキャッシュフロー重視の経営分析がらくらくできる本
（増木清行著　あさ出版）

会計学特論Ⅰ

杉本典之

【授業の概要】

現代の企業に求められる会計情報ないし会計ディスクロージャーの範囲はかなり広い。そうしたニーズに応えるためには従来の企業会計原則や商法だけでは対応しきれない。そのため、制度上もさまざまな会計基準が設けられている。本講義では、そうした会計基準を中心に解説し、現代会計制度に対する理解をより深いものとする。

【授業計画】

下記の事項をそれぞれ複数回に分けて説明し、会計学特論Ⅱへの橋渡しを目指す。

1．株式会社会計を典型とする企業会計
2．情報システムとしての企業会計
3．企業会計の基本的構造と会計基準の位置づけ
4．会計測定の基本的構造と会計基準
5．勘定記録と会計情報

【評価方法】

授業中に実施する複数回のテストやレポートの成績と、学期末試験の成績とを総合して評価する予定。

【テキスト】

各種の教材や下記の拙著のコピーを印刷物にして配布する予定。
『会計理論の探究－会計情報システムへの記号論的接近－』（杉本典之著　同文舘）
『キャッシュフロー計算書－その国際的調和化の現状と課題－』（杉本典之・洪慈乙共著　東京経済情報出版）

【参考文献・資料】

『日本経済新聞』を含む日刊紙の経済面、週刊経済誌、会計関係の月刊誌等にも日頃から目を配り、企業会計の動向やその環境の変化に関心を持つようにしていただきたい。

必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、授業中に具体的に紹介・教示するだけでなく、学生の皆さんからの積極的な問い合わせにも答えたい。

会計学特論Ⅱ

杉本典之

【授業の概要】

企業活動が多様化しグローバル化する中で、より迅速なディスクロージャー、企業グループ全体についての会計情報、資金に関する情報、企業の現在価値に関する情報など、企業に求められる会計情報の内容や質も多様化している。本講義では企業会計に求められる課題や制度上の最近の動向を取り上げる。

【授業計画】

会計学特論Ⅰの続きとして、下記の事項をそれぞれ複数回に分けて説明する。

1．情報システムとしての企業会計
2．会計情報を搬送する決算財務諸表
3．決算財務諸表をめぐる会計基準
4．会計基準の国際的調和化
5．各国の会計基準と国際会計基準

【評価方法】

授業中に実施する複数回のテストやレポートの成績と、学期末試験の成績とを総合して評価する予定。

【テキスト】

各種の教材や下記の拙著のコピーを印刷物にして配布する予定。

『会計理論の探究－会計情報システムへの記号論的接近－』（杉本典之著　同文舘）

『キャッシュフロー計算書－その国際的調和化の現状と課題－』（杉本典之・洪慈乙共著　東京経済情報出版）

【参考文献・資料】

『日本経済新聞』を含む日刊紙の経済面、週刊経済誌、会計関係の月刊誌等にも日頃から目を配り、企業会計の動向やその環境の変化に関心を持つようにしていただきたい。

必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、授業中に具体的に紹介・教示するだけでなく、学生の皆さんからの積極的な問い合わせにも答えたい。

税務会計

森 恒夫

【授業の概要】

税務会計といってもその範囲はかならずしも明確ではない。本講義では、範囲を法人税法および所得税法に絞り、その基本的な考え方や重要な概念・項目などについての解説を行う。

【授業計画】

第１回　税法の意義
第２回　税務会計の概要
第３回　租税法律主義
第４回　税法の体系と税金の種類
第５回　応能負担原則と税の平等問題
第６回　法人税の仕組み
第７回　確定決算主義の意義
第８回　企業利益と課税所得
第９回　寄付金と交際費
第10回　原価償却
第11回　使途秘匿金
第12回　同族会社課税
第13回　別表について
第14回　所得税の仕組み
第15回　連結納税制度

【評価方法】

単位認定試験及び出席などを加味する

英文会計

白木俊彦

【授業の概要】

基本的な英文会計の用語について解説するとともに、国際会計基準および米国FASBの会計基準による財務諸表の用語・様式について講義する。

また、必要な範囲で国際会計基準の条文自体も取り上げるほか、実際の英文による財務諸表と国内基準による財務諸表との比較も行う。

【授業計画】

講義と演習方式で行う。以下の内容について解説し、用語等については演習をして理解を確認しながら進めていく。

1．英語による会計用語の解説
2．国際財務報告基準の用語解説
3．FASB基準書及び国際財務報告基準の内容
4．アニュアルレポートの理解
5．上記以外の理論的な文献解説

【評価方法】

定期試験及び講義の中で行う演習結果と出席状況及び講義中の態度も含めた総合評価による。

【テキスト】

講義の中で指示する。

【参考文献・資料】

国際財務報告基準、FASB基準書
各社ホームページに開示されるアニュアルレポート等

会計実務Ⅰ

遠藤秀紀

【授業の概要】

会計実務上のさまざまな知識や技能を修得することを目的とする。具体的には企業の経理を行う上で必要な帳簿の作成や伝票の処理などの実践的な知識や技能のほか、関係法令の知識を学ぶ。

【授業計画】

1．資産・負債・資本と貸借対照表
2．収益・費用と損益計算書
3．取引と勘定記入
4．仕訳と転記
5．仕訳帳と総勘定元帳
6．現金・預金の取引（現金出納帳・当座預金出納帳・小口現金出納帳）
7．商品売買の取引（仕入帳・売上帳・商品有高帳）
8．売掛金と買掛金（売掛金元帳・買掛金元帳）
9．売買目的有価証券
10．手形の取引（受取手形記入帳・支払手形記入帳）
11．その他の営業取引
12．伝票

【評価方法】

定期試験（60%）、小テストまたはレポート提出（30%）および出席状況（10%）を総合して評価する。

【テキスト】

段階式　日商簿記ワークブック３級
（加古宜士・亀山幹夫監修　税務経理協会）

【参考文献・資料】

必要に応じて指示する。

会計実務Ⅱ

遠藤秀紀

【授業の概要】

会計実務上のさまざまな知識や技能を修得することを目的とする。具体的には企業の経理を行う上で必要な財務諸表の作成やその他法令で必要とされる書類の作成に係る知識や技能を学ぶ。

【授業計画】

1．特殊売買
2．長期的に利用する資産の取引
3．法律上の権利と営業権
4．投資活動などの取引
5．繰延資産
6．社債の発行
7．株式の発行
8．損益計算
9．株式会社の決算
10．総合演習　証券取引法と商法に基づく財務諸表の作成

【評価方法】

定期試験（60%）、小テストまたはレポート提出（30%）および出席状況（10%）を総合して評価する。

【テキスト】

履修者と相談のうえ指示する。

【参考文献・資料】

必要に応じて指示する。

マクロ経済学

村上敬進

【授業の概要】

消費、投資、物価、所得などのマクロ経済変数の分析を通じて、景気や経済全体の動きを理論的に考察する。

【授業計画】

1．マクロ経済学はどんな学問でしょうか？
2．マクロ経済学と日本経済
3．GDP
4．消費と貯蓄
5．企業の投資
6．政府の支出
7．総需要の経済学

【評価方法】

成績評価は定期試験で行う。

【テキスト】

基礎からわかるマクロ経済学（家森信善著　中央経済社）

【参考文献・資料】

基礎からわかるミクロ経済学（家森信善・小川光著　中央経済社）

経済学概論

石坂凌子

【授業の概要】

最初に「経済学とは何か」について述べ、次に「資本主義経済システムの特徴」と「市場経済と政府の役割」について経済学の基礎的知識を与え、さらに「資本主義経済システムの成立と展開」について歴史的視点から考察する。

【授業計画】

1．ガイダンス
2．市場経済システム
3．マーケットメカニズム
　（1）－需要と供給－
　（2）－規制と保護による損失－
4．社会主義の失敗
5．金融仲介機能
6．株式会社
7．競争社会の光と影
8．所得の決定
9．市場の失敗
10．大不況を克服する方法
11．グローバルエコノミー
12．貿易黒字の発生
13．日本型システムの崩壊

【評価方法】

中間試験と期末試験の成績によって評価する。２つの試験の評価比率は、50%ずつである。

【テキスト】

特に指定しない。第１回目の授業において資料を配布する。

【参考文献・資料】

痛快!経済学（中谷 巌著　集英社インターナショナル/集英社文庫）

金融論

藤井正志

【授業の概要】

資金循環勘定と企業の資金調達、直接金融・間接金融に係る金融仲介機関の機能、金融市場と金利等、金融の役割・仕組みについて論ずる。

【授業計画】

第１講　マクロ経済・金融の基礎知識
第２講　デフレ経済の問題点
第３講　日本の金融の問題点
第４講　マクロ金融政策の課題
第５講　金融政策（IS-LM分析）
第６講　金融政策まとめ・ミニテスト
第７講　金融仲介機関の役割
第８講　金利の基本概念
第９講　金融商品
第10講　金融市場
第11講　金融機関・金融市場まとめ・ミニテスト
第12講　プルーデンス政策
第13講　金融ビッグバンと金融システム不安
第14講　今後の金融監督手法の展望

【評価方法】

期末試験、ミニテストなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

金融論講義ノート（マナハウス）を使用する。

ミクロ経済学

村上敬進

【授業の概要】

この講義では、消費者や企業がどのように意思決定し経済活動をしているか、市場の役割等を分かりやすくかつ丁寧に解説していく。

身近な応用例を取り上げながら、経済学の考え方を理解できるように講義をしていく。

【授業計画】

1．イントロダクション：経済学をなぜ勉強するか
2．需要の理論
3．供給の理論
4．需要曲線と弾力性
5．市場の理論
6．需要と供給で解く経済問題
7．余剰分析で解く経済問題
8．市場の失敗

【評価方法】

成績評価は定期試験のみで行う。

【テキスト】

基礎からわかるミクロ経済学（家森信善・小川光著　中央経済社）

【参考文献・資料】

基礎からわかるマクロ経済学（家森信善著　中央経済社）

国際金融論

藤井正志

【授業の概要】

国際金融市場の生成と発展、累積債務問題の発生と国際金融に従事する銀行や投資家のリスクについて考察し、リスク管理の一手法としてのデリバティブの活用法など、基礎と現実の動きを幅広く考察し今後の課題についても検討する。

【授業計画】

第1講　外国為替のしくみと貿易取引
第2講　国際収支
第3講　経常収支の不均衡と国際金融
第4講　シンジケート・ローン
第5講　アジアの通貨・金融危機
第6講　アメリカの対外累積債務
第7講　累積債務問題
第8講　国際資本市場
第9講　外国為替相場
第10講　デリバティブ取引Ⅰ
第11講　デリバティブ取引Ⅱ
第12講　国際金融まとめ

【評価方法】

期末試験、ミニテストなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

国際金融講義ノート（マナハウス）を使用する。

【参考文献・資料】

適宜指定する。

ビジネスとファイナンス

島田舒一

【授業の概要】

経済のグローバル化と企業の海外進出、金融システム改革に伴い、資金の調達方法は多様化し、また、企業の財務戦略もバランスシートの管理、資金の運用、リスク管理と範囲が広がってきている。このような変化の中における企業のファイナンスの動きと内容をビジネスと関連づけて考察する。

【授業計画】

1．企業経営とファイナンスの役割
2．金融資本市場の変化と企業財務
3．資金の調達1　金融市場からの調達
4．資金の調達2　資本市場からの調達
5．事業への投資とその評価
6．バランスシート管理の重要性とその手法
7．資金の運用と管理
8．国際的な取引と資金の管理
9．企業の直面するリスクとその管理
10．プロジェクトファイナンス
11．証券化の活用
12．企業ファイナンスとビジネスの展望

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

企業ファイナンス入門（津森信也著　日経文庫）

【参考文献・資料】

現代ファイナンス入門（現代ファイナンス講座1　中央経済社）
証券化の知識（大橋和彦著　日経文庫）

ファイナンス概論

伊藤義明

【授業の概要】

伝統的な企業財務（銀行借入、リースファイナンス、株式や社債発行など）から最新のファイナンス理論（キャッシュフロー会計と正味現在価値、CAPMとポートフォリオ理論、資本コストとM&A、証券化、デリバティブなど）を含むコーポレート・ファイナンスの流れをマクロ金融理論を加味して学習します。

【授業計画】

1．金融市場と企業財務
2．銀行借入と資本市場
3．リース・ファイナンス
4．株式発行と社債発行
5．キャシュ・フロー会計とNPV（正味現在価値）及びIRR（内部収益率）
6．ポートフォリオと分散投資（CAPM）
7．企業価値と資本コスト
8．加重平均資本コスト（WACC）とM&A
9．財務レバレッジと資本構成
10．株価の評価と投資尺度
11．債券と金利の期間構造
12．資産流動化（証券化）
13．オプションとリアルオプション

（講義によっては関数電卓、EXCELの関数計算機能を使用することがある。）

【評価方法】

学期末試験の結果で評価（出席率は評価対象とはしない）

【テキスト】

入門　企業財務～理論と実践　第2版（津森信也著　東洋経済新報社）

【参考文献・資料】

ファイナンス入門（新井啓著　慶応義塾大学出版会）
ビジネスマンのためのファイナンス入門（山澤光太郎著　東洋経済新報社）

数理ファイナンス

上原 衛

【授業の概要】

この講義ではファイナンス理論の基礎を数理的なアプローチで解説する。実社会での事例や簡単な応用を交え、なるべく平易でわかりやすい解説を試みる。具体的には、金利と現在価値の概念、ポートフォリオ選択問題、オプション、スワップ、先物の各取引を含む金融派生商品（デリバティブ）についての基本的な概念、リスクのコントロールの基礎的な概念について最新の動向を交えながら紹介し解説する。

【授業計画】

1．金利の概念
2．現在価値の概念
3．ポートフォリオ選択問題
4．オプション、スワップ、先物の各取引を含むデリバティブ
5．ブラック＝ショールズ・モデル
6．リスクのコントロール

【評価方法】

出席状況、課題・レポート、期末テストの成績により総合的に評価する。

【テキスト】

金融工学を勉強しよう（足立光生著　日本評論社）

現代ビジネス事情Ⅰ

森下允之

【授業の概要】

世界に独立国（independent）はなく、みな相互依存国（interdependent）である。国内ですべての取引が完結し、海外との接点が全くない、あるいは影響を受けないビジネスはない。現代のビジネスにとり国境の壁は低くなっており、企業は全世界で調達生産・販売している。この実態を企業の海外拡張の側面を有する海外直接投資の視点から分析し、主要投資先国のビジネス環境を紹介し、空洞化問題など、国内産業に与える影響を論ずる。

【授業計画】

第１回　世界貿易の大潮流
第２回　ビジネスの国際化（生産・調達の海外依存度の高まり）
第３回　国際投融資の目的と形態（直接投資、証券投資）
第４回　証券投資の急増とその功罪
第５回　マルチ企業による超大型企業買収合戦の功罪
第６回　日本の対外直接投資（本邦企業の海外進出とグローバル戦略）
第７回　対外直接投資が国内産業に与える影響（産業空洞化問題）
第８回　日本への対内直接投資（日本の優良企業も外資に狙われる）
第９回　WTOと自由貿易協定（日本の対応方針）
第10回　カントリー・リスクとビジネス・リスク
第11回　東南アジア諸国の投資環境
第12回　NIES（韓国、台湾、香港）の投資環境
第13回　中国の投資環境

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

プリントを適時配布する。

【参考文献・資料】

マネー・マーケットの大潮流　（加野忠、砂村賢、湯野勉著　東洋経済新報社）
2004年版ジェトロ貿易投資白書　（日本貿易振興会）

現代ビジネス事情Ⅱ

石坂綾子

【授業の概要】

ヨーロッパ諸国の金融業を中心に、その基本的特徴を具体的事例を挙げて考察する。

【授業計画】

1．ガイダンス
2．銀行・証券・保険業（アメリカ・ヨーロッパ）
3．鉄道業（ヨーロッパ）
4．高級ブランド（ヨーロッパ）
5．航空業（アメリカ・ヨーロッパ）
6．旅客機メーカー（アメリカ・ヨーロッパ）
7．コンピューター産業（アメリカ）
8．鉄鋼業（ヨーロッパ）
9．自動車産業（アメリカ・ヨーロッパ）
10．流通業（アメリカ・ヨーロッパ）
11．通信業（アメリカ・ヨーロッパ）
12．石油産業（アメリカ）
13．単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定しない。授業においてプリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業において適宜提示する。

銀行ビジネス論

森下允之

【授業の概要】

日本の銀行界は未曾有の危機、再編の渦中にあり、日本経済不振の元凶とも非難されている。しかしながら、実際には銀行は加害者でもあり、被害者でもある。金融機関その代表である銀行が再び十分な利益をあげ、日本経済に貢献する方法を論ずる。

【授業計画】

第１講　金融システムの基礎知識
第２講　金融システムにおける銀行
第３講　バブル崩壊と不良資産
第４講　間接償却と直接償却
第５講　金融再編成
第６講　日本の銀行の特徴（なぜ儲からないか）
第７講　ペイオフ問題と中小金融機関
第８講　政府系金融機関の功罪
第９講　郵政民営化
第10講　日本の資金需給の大変化
第11講　金融ビッグバン
第12講　異種業種からの参入
第13講　単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じ、プリントを配布

【参考文献・資料】

図説　わが国の銀行　（全国銀行協会調査部編　財経詳報社）
日経文庫　ベーシック金融自由化入門　（円居総一著　日本経済新聞社）
21世紀日本の金融産業革命　（植田、川北、高月著　東洋経済新報社）
銀行収益革命　（川本裕子著　東洋経済新報社）

証券ビジネス論

島田舒一

【授業の概要】

日本版ビッグバン後、証券市場、証券会社、証券行政などいずれも変革が進みつつあり、また、グローバル化の中で証券ビジネスは質量とも変わってきている。そこで広範囲にわたる証券ビジネスを具体的に論ずるとともに、金融システムや市場の変化の中でどう変わっていくか、その背景と方向性についても考察する。

【授業計画】

第1講　証券市場の機能と役割
第2講　証券の種類と内容
第3講　証券市場の仕組み
第4講　証券会社の業務1　株式業務
第5講　証券会社の業務2　債券業務ほか
第6講　銀行の証券業務
第7講　投資信託業務
第8講　資産運用業務と投資計算
第9講　証券流通市場関連業務
第10講　国際証券業務
第11講　日本版ビッグバンと金融・証券市場の変化
第12講　規制緩和と新しい証券ビジネス

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

プリントを配布

【参考文献・資料】

証券業務の基礎（住友信託銀行著　経済法令研究会）

保険ビジネス論

跡部浩一

【授業の概要】

保険業法の基本事項を学習し、現代の企業経営と日常の生活にとって不可欠な各種保険の意義と役割についての理解を深める。
特に保険業法の法的解釈論よりも、日常の経済活動を通じての保険の現状とその仕組みの解説を中心のテーマに、その法的根拠としての保険業法の基本を理解する。

【授業計画】

第1講　保険と保険業法の概要と授業のすすめ方
　＊保険とは何か・保険業法とは何か
第2講　身近な保険を考える①
　＊米国同時多発テロと海外旅行傷害保険
第3講　損害保険の基礎知識①
　＊自動車保険と自賠責保険
第4講　損害保険の基礎知識②
　＊自動車事故を素材に自動車保険と自賠責保険
第5講　損害保険の基礎知識③
　＊自動車保険のまとめ
第6講　損害保険の基礎知識④
　＊損保の原型＝火災保険と地震・台風
第7講　生命保険の基礎知識①
　＊生命保険とは何か
第8講　生命保険の基礎知識②
　＊どういう生命保険が必要なのか
第9講　身近な保険を考える②
　＊損害保険と生命保険の違い
第10講　身近な保険を考える③
　＊最近の保険犯罪と保険募集のあり方
第11講　身近な保険を考える④
　＊保険の思想と保険業法
第12講　身近な保険を考える⑤
　＊保険と企業経営・リスク管理
第13講　身近な保険を考える⑥
　＊リスクと保険・授業のまとめ
単位認定試験

【評価方法】

1　出席状況と　2　単位認定試験の成績　により、総合的に評価する

【テキスト】

特定の教科書を教材には使用しない。講義ごとにレジメを配布する

【参考文献・資料】

「現代保険概論」（加藤修著　中央経済社）
「損害保険の知識」（玉村勝彦著　日経文庫）
「保険の知識」（真屋尚生著　日経文庫）

以　上

ファイナンス特論

細野義晴

【授業の概要】

資金の需要者と供給者との間には、現在、多種多様な金融機関が存在している。これらの金融構造を学習し、現在の各種金融機関の特色とその役割を理解する。

【授業計画】

1．日本の資金循環と各経済主体の金融行動
　貨幣の機能と日本の資金循環、家計の金融行動、企業の金融行動、政府の金融行動、経済主体別資金過不足の動向、など。
2．わが国の金融機関とその変化
　近代的金融機関の成立、第2次大戦後に確立した金融システムと金融機関の体系、金融の自由化・国際化による金融システムの変化、など。
3．金融機関の業務とその変貌
　中央銀行の機能と金融政策、民間金融機関の業務とその変貌、公的金融機関とその役割の変化、など。
4．わが国の金融構造と金融機関行政の変化
　高度成長時代の金融構造の特色、護送船団方式の金融機関行政、低成長時代への移行に伴う金融構造の変化、市場機能重視の金融機関行政とそこでの金融機関経営、など。
5．金融ビッグバンと金融機関の将来像
　金融ビッグバンの背景とその歩み、金融ビッグバンの金融機関と国民生活への影響、不良債権処理とペイオフ問題、など。

【評価方法】

単位認定試験の成績に出席状況を加味して評価する。

【テキスト】

使用しない（資料配布）。

【参考文献・資料】

1．金融（貝塚啓明・奥村洋彦・首藤恵著　東洋経済新報社）
2．図説、わが国の銀行（全国銀行協会連合会調査部編著　財経詳報社）

外国為替論

森下允之

【授業の概要】

「国際金融」のExchange（交換、為替）の側面。基礎的な概念・理論から今日の制度・為替政策、さらに経済への影響まで触れる。経済的なできごと、変化が外国為替相場にどう影響するか理解できるようにしたい。

【授業計画】

第1講　外国為替の仕組み
第2講　外国為替市場
第3講　外国為替相場の種類
第4講　スワップとアウトライト
第5講　外国為替リスクと回避方法
第6講　外国為替相場と経済の関係
第7講　外国為替相場と国際収支
第8講　オプション取引
第9講　外国為替相場の決定理論
第10講　国際通貨制度
第11講　ユーロ
第12講　アジアと円の国際化
第13講　単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

日経文庫「外国為替の知識」（国際通貨研究所編　日経新聞社）

【参考文献・資料】

国際金融・外為市場（佐久間潮著　財経詳報社）

金融システム論

石坂綾子

【授業の概要】

中央銀行と金融政策、銀行と証券市場、国際的金融制度など金融システムについての基本的特徴をその機能と歴史的背景から考察する。

【授業計画】

1．ガイダンス
2．日本の金融システム
（1） 金融システムの発展とその特徴
（2） 日本銀行と金融政策
（3） 金融業務についての規制・慣行と変化
（4） 金融自由化　－日本版ビッグバン－
3．アメリカの金融システム
（1） 大恐慌の教訓
（2） 金融システムの発展とその特徴
（3） アメリカ金融革命
4．ヨーロッパの金融システム
（1） イギリス　－国際金融市場とビッグバン－
（2） フランス　－国有化と公的金融－
（3） ドイツ　－ユニバーサルバンキングの展開－
5．国際通貨体制
（1） 国際通貨制度の変遷
（2） 現在の国際通貨体制
6．1980・1990年代の金融世界
（1）バブルの陶酔と清算（1985～1994年）
（2）ボーダーレスマネー（1994年）
（3）金融異変（メルトダウン）
7．単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定しない。第１回目の授業において資料を配布する。

【参考文献・資料】

ゼミナール現代金融入門（斎藤 精一郎著　日本経済新聞社）
金融システム（酒井 良清・鹿野 嘉昭著　有斐閣）
金融政策（酒井 良清・鹿野 嘉昭著　有斐閣）

金融工学

上原 衛

【授業の概要】

この講義を受講するにあたり、数理ファイナンスを履修済みか同等の能力があることが望ましい。金融ハイテク商品の開発や市場価格の決定方法、企業の信用力の変動に伴う金融取引のリスクを減らし効率的に利益を得る方法を、高度な数理的・工学的アプローチを駆使して取り扱う「金融工学」について、実社会での事例を用いて平易でわかりやすい解説を試みる。まず、金融のリスクについて考え、ポートフォリオ理論、金融派生商品（デリバティブ）、オプション価格決定についての基礎を解説し、金融工学の応用を最新の動向と具体的な事例を交えて解説する。オプション価格決定のためのブラック＝ショールズ・モデルの解説に当っては、身近な表計算ソフトを利用して例題や演習を解くことにより、その概念を確実に理解することを目指す。

【授業計画】

1．金融のリスクを考える
2．ポートフォリオ理論の本質
3．金融派生商品（デリバティブ）とは
4．オプションの価格決定理論
5．金融工学の応用

【評価方法】

出席状況、課題・レポート、期末テストの成績により総合的に評価する。

【テキスト】

金融工学　マネーゲームの魔術（吉本佳生著　講談社＋α新書）

【参考文献・資料】

Excelで学ぶ金融市場予測の科学（保江邦夫著　講談社）

ファイナンシャルプランニングⅠ

島田舒一

【授業の概要】

ライフスタイルの多様化、少子高齢化社会の到来に伴い、人々のライフプランニングや老後の生活設計に対する関心が高まってきている。Ⅰでは、学習する６分野のうち、金融資産の運用、保険とリスク管理、ライフプランニングと年金などを取り上げて考察するほか、問題練習を通じて理解を深める。

【授業計画】

1．ライフプランニングの重要性
2．社会保険
3．公的年金
4．ライフプランの策定と計画
5．リスクマネージメントと保険
6．生命保険
7．損害保険
8．第３分野の保険
9．金融マーケットと金融商品
10．債券投資
11．株式投資
12．資産運用の考え方

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

パーフェクトFP技能士入門（３級用）（きんざいFP技能研究会編　きんざい）

【参考文献・資料】

パーフェクトFP技能士３級対策問題集・学科編（きんざいFP技能研究会編　きんざい）
パーフェクトFP技能士３級対策問題集・実技編（個人資産相談業務）（きんざいFP技能研究会編　きんざい）

ファイナンシャルプランニングⅡ

島田舒一

【授業の概要】

ライフスタイルの多様化、少子高齢化社会の到来に伴い、人々のライフプランニングや老後の生活設計に対する関心が高まってきている。Ⅱでは、Ⅰで学習した３分野以外のタックスプランニング、不動産、相続・事業承継などを取り上げて考察するほか、問題練習を通じて理解を深める。

【授業計画】

1．所得税の仕組み
2．各種所得
3．所得控除、税額控除と所得税の申告
4．保険、年金、金融商品と税金
5．不動産の見方と不動産取引
6．不動産と法律
7．不動産と税金
8．不動産の有効活用
9．相続と法律
10．相続
11．贈与
12．相続財産の評価

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

パーフェクトFP技能士入門（３級用）（きんざいFP技能研究会編　きんざい）

【参考文献・資料】

パーフェクトFP技能士３級対策問題集・学科編（きんざいFP技能研究会編　きんざい）
パーフェクトFP技能士３級対策問題集・技能編（個人資産相談業務）（きんざいFP技能研究会編　きんざい）

情報処理概論 I

奥村文徳　MAHSUT, Muhtar

【授業の概要】

コンピュータのハードウェア、ソフトウェアの知識、およびプログラミングのアルゴリズム、計測・制御など情報処理の基本機能を実習を通して学習する。

【授業計画】

第1回　ガイダンス
第2回　コンピュータの基礎知識
第3回　エンドユーザーコンピューティングとは
第4回　コンピュータの5大装置
第5回　コンピュータの情報表現
第6回　論理演算と論理回路
第7回　コンピュータの基礎知識のまとめ
第8回　ハードウェアの基礎
第9回　補助記憶装置
第10回　入出力装置
第11回　ソフトウェアの基礎
第12回　オペレーティング・システムの役割
第13回　データ管理と記憶管理
第14回　まとめ
第15回　テスト
（毎回、授業中にパソコン演習を含む）

【評価方法】

出席状況、授業中の課題、ミニテスト等の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

エンドユーザーコンピューティング（ウイネット）

【参考文献・資料】

授業の途中に適宜、資料を配布する。

情報処理概論 II

MAHSUT, Muhtar

【授業の概要】

情報処理システムの各種インターフェース、システム開発、テスト方法、システムの環境整備、運用と管理などについて実習を通して学習する。

【授業計画】

1．システム開発技法
2．ヒューマンインターフェースの設計
3．テスト技法
4．システムの運用と管理
5．プログラム言語と言語処理系
6．CPUの性能計算
7．ネットワークの性能計算
8．システムの構成と評価
9．システムの信頼性
10．コンピュータウイルスとワクチンソフト
11．セキュリティ対策
12．開発と取引の標準化
13．まとめ

【評価方法】

出席状況、レポートおよび試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

システムの運用と管理（ウイネット）

【参考文献・資料】

授業の途中に適宜、資料を配布する。

ネットワーク技術入門

原 伸之　小林久恵

【授業の概要】

ネットワーク（network）という言葉は、人間を中心とする情報交換の仕組みとして使われたり、コンピュータを中心とする情報通信の仕組みにおいて使われたりしているが、両者には「情報のやり取り」という一義的な目的が存在し、ネットワークを流れるデータは人間の行動を左右する必要不可欠な情報となっている。本授業では、コンピュータネットワークに関する理論と技術の両側面における基礎知識を習得し、ホームページの作成、およびCGIプログラミングの実習によって、ネットワークの基本的な考え方、意義、活用方法、有効性を体得する。

【授業計画】

1．ネットワーク理論の基礎知識（1）：ネットワークの仕組みとその意義
2．ネットワーク理論の基礎知識（2）：情報量と通信速度、プロトコル
3．ネットワーク技術の基礎知識（1）：LANの仕組み
4．ネットワーク技術の基礎知識（2）：サーバの種類と仕組み
5．ネットワーク技術の基礎知識（3）：IPアドレスとファイアウォール
6．HTMLとホームページ（1）：HTMLの仕組み
7．HTMLとホームページ（2）：基本タグの設定、ハイパーリンクの設定、画像の表示
8．HTMLとホームページ（3）：サウンドの再生と動画の再生、ファイルの管理方法
9．CGIプログラミング（1）：CGIの仕組みとPerlプログラミングの基礎知識
10．CGIプログラミング（2）：エディタとFTP、パーミッションの設定
11．CGIプログラミング（3）：formタグによるデータ入力フォームの作成
12．CGIプログラミング（4）：環境変数、関数、文字列変換
13．セキュリティと情報倫理：セキュリティ対策と情報倫理の意味と必要性

この授業では、コンピュータ活用科目の「情報技術基礎I」、「情報技術基礎II」で習得した知識、技術が必要になる。

【評価方法】

出席回数、課題提出、期末試験によって総合評価を行う。

【テキスト】

ネットワークリテラシ（三和義秀著　共立出版）

プログラミング入門

三和義秀　小林久恵　佐藤篤司

【授業の概要】

システム開発における基本技術であるプログラミング技術について、BASICまたはC言語を用いてその基礎知識を習得する。このため、プログラミング言語が持つ特徴ならびに機能の学習からはじめ、データ処理におけるアルゴリズムについての考え方、ならびに最終的なコーディング作業に至るまでの一連のプログラミング工程について学習する。なお、プログラミングに関する理解は、実際のプログラミング作業を経験していくことが不可欠であることから、コンピュータ実習を並行して行う。

【授業計画】

1．システム開発におけるプログラミング
2．プログラミング言語の概要
3．プログラミングの基礎、手順
4．アルゴリズムとフローチャート
5．データ構造とデータ型
6．順次構造
7．選択構造
8．繰り返し構造（1）
9．繰り返し構造（2）
10．配列の操作
11．関数の利用
12．事務計算
13．技術計算

講義とコンピュータ実習とを約半々の割合で授業を進行していく。またコンピュータ実習を伴うため、授業への出席は不可欠な要素である。また、実習の際にはフロッピー・ディスクまたはMOが必要になる。

【評価方法】

出席状況、学期末試験ならびに各コンピュータ実習課題提出内容によって評価する。

【テキスト】

第1回目の授業にて指定する

プログラミング応用Ⅰ

石橋善弘

【授業の概要】

情報化社会においては、問題解決のためにコンピュータを活用できることは必須要件である。本科目は、プログラムの設計開発に際して要求される論理的思考能力の養成を目的とする。講義においては、プログラミングの基本的な考え方、手法を解説し、Excel, Visual Basicを用いて日常生活、社会活動、研究活動等において有用な諸プログラムを作成する能力を養成する。

【授業計画】

第１回　プログラミングの基礎
第２回　プログラミングに必要な数学的基礎
第３回　統計学的基礎
第４回　Excelを用いた問題解決、図表化
第５回　Visual Basicによるプログラミングの手順
第６回　Visual Basicの基本操作
第７回　プログラミング（１）式、演算子、変数、関数
第８回　プログラミング（２）くり返し
第９回　プログラミング（３）条件による分岐
第10回　プログラミング（４）作図、グラフ作成
第11回　乱数および乱数を利用したコンピュータシミュレーション
第12回　ツールの利用法（１）
第13回　ツールの利用法（２）
第14回　ゲーム用プログラムの作成
第15回　補足とまとめ

【評価方法】

出席状況およびレポートまたは試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

未定

プログラミング応用Ⅱ

小林久恵

【授業の概要】

情報化社会においては、問題解決のためにコンピュータを活用できることは必須条件である。本科目は、プログラムの設計開発に際して要求される論理的思考能力の養成を目的とする。講義においては、プログラミングの基本的な考え方、手法を解説し、Javaを用いて日常生活、社会活動、研究活動等において有用なプログラムを作成する能力を育成する。

【授業計画】

1．Javaプログラムの基本構造
2．Javaの基本操作
3．一次元配列、二次元配列
4．選択構造（if－else文、switch－case文）
5．反復構造（for文、while文、do－while文）
6．例外処理
7．オブジェクト指向
8．クラスとインスタンス
9．コンストラクタ
10．クラスの継承
11．ファイルへの出力
12．ファイルからの入力
13．まとめ

【評価方法】

出席状況、学期末試験、及びコンピュータ実習課題提出内容によって総合評価する。

【テキスト】

入門Javaプログラミングのテクニック（三和義秀　共立出版）

ビジネスプレゼンテーション

三浦信宏

【授業の概要】

ビジネスの場面における情報メディアと自己表現の効果的な技法を理論面、実践面から学習する。また、プレゼンテーションツール、マルチメディアを活用し実践することにより、プレゼンテーションスキルを習得する。

【授業計画】

第１回　ガイダンス
第２回　プレゼンテーションの概要
第３回　パワーポイントによるスライド構成と基本機能（１）
第４回　パワーポイントによるスライド構成と基本機能（２）
第５回　プレゼンテーション・シナリオの作成
第６回　プレゼンテーション資料の作成（１）
第７回　プレゼンテーション資料の作成（２）
第８回　プレゼンテーション資料の作成（３）
第９回　プレゼンテーション資料の作成（４）
第10回　プレゼンテーション・スキルの整理
第11回　発表と講評（１）
第12回　発表と講評（２）
第13回　発表と講評（３）
第14回　発表と講評（４）
第15回　まとめ

【評価方法】

出席状況、スライド作成の課題、発表等の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

創造するプレゼンテーション（梅田敏文著　弘学出版）

【参考文献・資料】

授業の途中に適宜、資料を配布する。

情報倫理

梅田敏文

【授業の概要】

情報化社会の特徴、ＩＴが社会に及ぼす影響などを考察するとともに、知的財産権、プライバシー、コンピュータ犯罪などを検討し、情報倫理の必要性を理解する。

【授業計画】

第１講　ガイダンス
第２講　情報倫理ベイシック（１）
第３講　情報倫理ベイシック（２）
第４講　情報技術の社会的インパクト
第５講　情報社会における個人・企業・社会の倫理
第６講　情報倫理のフレームワーク
第７講　技術倫理という視座
第８講　企業情報化の進展と倫理
第９講　企業倫理と個人情報保護
第10講　ITガバナンスと情報倫理
第11講　情報倫理の実践－企業と自治体の比較－
第12講　技術による情報倫理の実現
第13講　情報技術の進展と法の整備
第14講　倫理思想と情報技術
第15講　テスト

【評価方法】

出席点とテストで評価する。

【テキスト】

情報倫理（村田潔編　経営情報学会情報倫理研究部会著　有斐閣）

情報システム論Ⅰ

三浦信宏

【授業の概要】

データベースシステムの設計、運用、管理、及び情報検索に関する知識・技能を習得し、関係データベースを利用することによって実践的なスキルを養う。

【授業計画】

第1回　ガイダンス
第2回　情報システムとデータベース
第3回　データベースシステムの基本概念
第4回　データベースの種類と特徴
第5回　業務フローとデータベースの位置付け
第6回　構造化分析（1）
第7回　構造化分析（2）
第8回　構造化分析（3）
第9回　データベース設計（1）
第10回　データベース設計（2）
第11回　データベース設計（3）
第12回　データベース設計（4）
第13回　データベース設計（5）
第14回　まとめ
第15回　テスト

【評価方法】

出席状況、演習課題および試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

なし、プリント配布

情報システム論Ⅱ

伊東俊彦

【授業の概要】

情報システムは情報の入手・処理・活用を行うためのシステムである。近年とみに企業環境の変化の激しさから情報システムの構築がビジネスのニーズに追いつかない面が顕著に現れている。そのため、いままで企業独自に開発してきた情報システムを捨てて統合的なソフト・パッケージを採用した情報システムへの移行も進んでいる。本情報システム論では、はじめにアプリケーションシステムの設計・開発の過程を学習する。その後、簡単な会計システムのプログラミングを行う。具体的なプログラミングをとおして会計システムの機能設計（概要設計を含む）や運用設計の基本も学ぶ。全体を通して、実際の業務とアプリケーションシステムの整合性をどのようにとりシステムを構築・管理をすればよいかの基本を理解することを目標にしている。

【授業計画】

第1回　オリエンテーション（授業の進め方）
第2回　情報システムとはなにか
第3回　情報システム設計・開発の概要
第4回　アプリケーションシステム設計・開発の基礎（1）
第5回　アプリケーションシステム設計・開発の基礎（2）
第6回　情報システムの構造変化
第7回　情報システムとビジネスモデル
第8回　会計情報システムの現状と要求分析
第9回　会計の基礎知識
第10回　会計システムの概要設計
第11回　会計システムの詳細設計
第12回　Excelによる開発演習（1）
第13回　Excelによる開発演習（2）
第14回　Excelによる開発演習（3）
第15回　まとめ

【評価方法】

出席点およびミニテスト（1～2回実施）により評価する。

【テキスト】

テキストは適宜指示する。

【参考文献・資料】

システム構築のための4つの設計（アシストソリューション技術部編著　翔泳社発行）
会計情報入門：Excelによる会計処理と分析（橋本義一・他著　創成社発行）
スーパー入門　簿記と仕訳（城戸広之著　日本実業出版発行）
情報リテラシーの応用（伊東俊彦・他著　近代科学社発行）
会計情報システムの機能と構造（田宮治雄著　中央経済社発行）

情報通信ネットワーク論

伊東俊彦

【授業の概要】

「情報通信」とは、情報を相手に知らせることであり、そのために使われるしくみの中心がネットワークである。現在はインターネットというグローバルなネットワークから個別に構築された個別ネットワークまで大小さまざまなネットワークがビジネスで活用されている。その中で代表的なネットワークについて理解することが企業ビジネスにおいて重要である。

当講義では情報通信ネットワークを情報通信とネットワークの2つの概念の基に取り扱う。情報通信では、「情報とはなにか」から始まり、情報通信の基本である通信回線の種類や伝送方式について学習する。ネットワークでは、LANやインターネットのしくみについて学習する。さらにネットワーク構築の際の運用や管理の知識について学び、最近特に注目されているネットワーク・セキュリティについても学習する。全体を通して情報をいかにうまくビジネスに活用するか、という観点からそのしくみである情報通信ネットワークの役割を理解することを目標にしている。

【授業計画】

第1回　オリエンテーション（授業の進め方）
第2回　情報、情報通信とはなにか
第3回　コミニュケーションとコンピュータネットワーク
第4回　コンピュータネットワークと基本技術
第5回　通信回線の種類
第6回　伝送方式と伝送制御手順
第7回　通信ネットワークと通信サービス
第8回　インターネットのしくみ
第9回　LANとイントラネット
第10回　ビジネスと情報通信
第11回　ネットワークの構築
第12回　ネットワークの運用と管理
第13回　ネットワーク・セキュリティ
第14回　まとめ

【評価方法】

出席点およびミニテスト（1～2回実施）により評価する。

【テキスト】

テキストは授業開始までに指示する。

【参考文献・資料】

コンピュータ・ネットワーク概論（水野忠則・他著　ピアソン・エジュケーション発行）
コンピュータ・ネットワークの運用と管理（水野忠則・他著　ピアソン・エジュケーション発行）
2004年版ネットワーク完全教本（都丸敬介・永井正武著　日本経済新聞社発行）
最新ネットワーク用語辞典（ピーター・ダイソン著　テクニカルコア訳　技術評論社発行）
平成16年版　情報通信白書（総務省編　ぎょうせい発行）

ITと職業倫理

梅田敏文

【授業の概要】

情報化の進展による産業や職業の変化を検討する。情報と関わる職業に要求されるプロフェッショナル倫理を、ケーススタディなどを通して理解を深め、情報化社会における職業観や勤労観を育成する。

【授業計画】

第1講　ガイダンス
第2講　情報化社会の進展
第3講　職業とは
第4講　情報化と職業
第5講　企業活動と情報化
第6講　企業の人材育成
第7講　職業倫理（プロフェッショナル倫理）（1）
第8講　職業倫理（プロフェッショナル倫理）（2）
第9講　職場監視
第10講　内部告発
第11講　事例研究（1）
第12講　事例研究（2）
第13講　事例研究（3）
第14講　まとめ
第15講　テスト

【評価方法】

出席点とテストで評価する。

【テキスト】

適宜、レジュメを配布する。

システムリスク管理論

上原 衛

【授業の概要】

インターネットを中心とする情報通信ネットワークを活用したｅビジネスの進展とともに、企業や金融機関は、ビジネスリスクや通信ネットワークのリスクにさらされるようになった。

本科目では、これらのリスクをシステムリスクとして概観し、とくにネットワークの構築や運用時のリスクと、ネットワーク上でのコミュニケーション時のリスクに焦点をあて実習を通して学習する。

また、リスク低減策としてのセキュリティの知識と技術を習得する。

【授業計画】

1．情報化環境の構築と整備
2．情報化環境の運用と活用
3．情報化環境の管理
4．情報通信ネットワークとコミュニケーション
5．情報システム・経営システムにおけるリスクについて
6．eビジネスの進展に伴うビジネスリスクとシステムリスクの増大
7．リスクの評価とコントロール
8．情報セキュリティ管理（1）
9．情報セキュリティ管理（2）
10. 情報化社会における新たなリスクとリスクマネジメント
11. システムリスク発生時のコンティンジェンシープラン（1）
12. システムリスク発生時のコンティンジェンシープラン（2）
13. 企業経営と全社的リスクマネジメント
14. システムリスク・マネジメントの実践例（1）
15. システムリスク・マネジメントの実践例（2）

【評価方法】

出席状況、課題・レポート、期末テストの成績により総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指定する。

プロジェクト管理

三浦信宏

【授業の概要】

適用業務開発プロジェクトを想定し、情報システムの設計局面、管理局面の作業内容とプロジェクトコントロールの知識と技法を学習する。とくに、画面設計やデータベース設計の作業を取り上げ、設計の作業を実習するとともに、作業の進捗管理、品質管理、変更管理の知識を習得し、情報システムの効果的な設計と管理の技法を学習する

【授業計画】

第１回　ガイダンス
第２回　情報システム開発とプロジェクト
第３回　情報システムの開発プロセス
第４回　プロジェクト実施計画の立案
第５回　情報システムの適用業務分析
第６回　情報システムの適用業務設計
第７回　情報システムのデータベース設計Ⅰ（論理設計と物理設計）
第８回　情報システムのデータベース設計Ⅱ（最適化）
第９回　情報システムの出力（画面、帳票等）設計
第10回　プロジェクト実施局面における進捗管理
第11回　プロジェクト実施局面における品質管理
第12回　プロジェクト実施局面における変更管理
第13回　プロジェクトの評価方法
第14回　国際標準プロジェクトマネジメント（PMBOK）の動向
第15回　テスト

【評価方法】

出席状況、レポートおよび試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

なし、プリント配布

【参考文献・資料】

授業の途中に適宜、資料を配布する。

流通情報システム論

三浦信宏

【授業の概要】

流通サービス産業におけるコンビニエンスストアをとりあげて、情報システムの設計、管理、活用の知識を習得する。とくに、コンビニ経営のためのデータベース設計や情報検索の手法を、実習を通して習得する。また、情報システムを基盤としたコンビニ経営の最新動向を学習する。

【授業計画】

第１回　ガイダンス
第２回　企業経営における情報システムの役割
第３回　流通業における情報システムの変遷
第４回　流通情報システムの特徴
第５回　流通業務フローと業務処理
第６回　流通情報システム事例Ⅰ（企業間取引情報システム）
第７回　流通情報システム事例Ⅱ（企業内情報システム）
第８回　流通情報システムの適用業務設計（DFDによる実習）
第９回　流通情報システムのデータベース設計Ⅰ（論理設計と物理設計）
第10回　流通情報システムのデータベース設計Ⅱ（最適化）
第11回　流通情報システムの運営と管理
第12回　流通業の諸形態と小売業の将来像
第13回　ロジスティクス改革（QR、ECR、SCM）と新流通情報システム
第14回　まとめ
第15回　テスト

【評価方法】

出席状況、演習課題および試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

なし、プリント配布

【参考文献・資料】

流通情報概論（高崎商科大学ネットビジネス研究所編　成山堂）

経営情報システム論

伊東俊彦

【授業の概要】

経営情報システムを情報通信ネットワークの形態やその進展、およびコミュニケーション形態の変遷との関係でとらえ、MIS、意思決定支援システム、SIS、BPRなどの機能と構造をネットワークの構築、運用の観点から学習する。また、経営戦略やビジネスモデルの策定が、通信ネットワークとコミュニケーションにより、どのような影響を受けるのか、実習も含めたセキュリティ対策などを通して学習する。

【授業計画】

第１回　オリエンテーション（授業の進め方）
第２回　情報通信ネットワークの進展と情報システム
第３回　コミュニケーション形態の変遷と情報システム
第４回　経営情報システムとネットワーク
第５回　MISの歴史
第６回　意思決定支援システム
第７回　SIS（戦略的情報システム）
第８回　BPRと情報システム
第９回　ロジスティクスシステム
第10回　SCMとネットワーク
第11回　経営戦略・ビジネスモデルと情報システム
第12回　データベースとデータウェアハウス
第13回　経営情報システム構築手法
第14回　まとめ

【評価方法】

出席点およびミニテスト（１～２回実施）により評価する。

【テキスト】

テキストは授業開始までに指示する。

【参考文献・資料】

新版　図解経営情報システム（佐々木宏著　同文館発行）
経営情報論（遠山暁　他著　有斐閣発行）
経営情報システム　第３版（宮川公男編著　中央経済社発行）
現代経営情報システム開発論（立川丈夫著　創成社発行）

コンピュータシミュレーション

上原 衛

【授業の概要】

情報処理システムを活用してデータの統計処理やシミュレーション機能を学習するとともに、図形処理や画像処理機能を活用して効果的なデータ提示方法を検討する。

【授業計画】

第1回　コンピュータシミュレーションとは
第2回　ウィンドウズでのプログラム、表、グラフの作り方
第3回　乱数とは、一様乱数の発生方法
第4回　オペレーションズリサーチ（OR）とは
第5回　Excelを利用したシミュレーション（OR：線形計画法）
第6回　Excelを利用したシミュレーション（OR：日程計画）
第7回　Excelを利用したシミュレーション（OR：在庫管理）
第8回　Excelを利用したシミュレーション（OR：待ち行列）
第9回　Excelを利用したシミュレーション
（OR：モンテカルロシミュレーション）
第10回　経済性工学、財務管理のシミュレーション
第11回　リスクの計量化、信用リスク管理のシミュレーション
第12回　金融工学、デリバティブズのシミュレーション
第13回　不確実な状況での意思決定のシミュレーション（1）ゲーム理論
第14回　不確実な状況での意思決定のシミュレーション（2）意思決定論
第15回　まとめ

【評価方法】

出席状況、課題・レポート、期末テストの成績により総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指示する。

エンドユーザーコンピューティングⅠ

奥村文徳

【授業の概要】

エンドユーザーコンピューティングの推進活動に必要となるハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク、データベースの基本知識を体系的に学習する。

【授業計画】

1．ネットワークの基礎知識
2．LANの基礎知識
3．インターネットの基礎知識
4．入出力インターフェース
5．情報戦略（経営管理と情報システム）
6．経営工学（品質管理、OR、確立と統計）
7．企業会計（財務、管理会計）
8．関連法規Ⅰ（知的財産権）
9．関連法規Ⅱ（労働、取引、安全などに関する法規）
10．表計算ソフトの利用
11．データベースの基礎知識
12．SQLの利用
13．まとめ

【評価方法】

出席状況、レポートおよび試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

1．エンドユーザーコンピューティング（ウイネット）
2．情報の分析と活用（ウイネット）

【参考文献・資料】

授業の途中に適宜、資料を配布する。

エンドユーザーコンピューティングⅡ

三浦信宏

【授業の概要】

エンドユーザーコンピューティングの推進活動に必要となるシステム開発、運用管理、情報分析と活用の基本知識を体系的に学習する。

【授業計画】

1．演習Ⅰ（仕事とコンピュータ）
2．演習Ⅰ（コンピュータシステムの基礎知識）
3．演習Ⅱ（データの分析と整理の技法）
4．演習Ⅲ（システムの開発と運用）
5．演習Ⅳ（テストおよび検収）
6．演習Ⅴ（EUCにおけるハードウェアの役割）
7．演習Ⅴ（EUCにおけるソフトウェアの役割）
8．演習Ⅴ（表計算とデータベース）
9．演習Ⅴ（ネットワークの役割と利用形態）
10．演習Ⅵ（システム環境整備と運用管理）
11．総合演習（1）
12．総合演習（2）
13．総合演習（3）
14．総合演習（4）

【評価方法】

各回毎の課題を総合して評価する。

【テキスト】

資料を配布する。

【参考文献・資料】

授業の途中に適宜、資料を配布する。

ビジネスとコミュニケーション

小池弘道　大塚英揮

【授業の概要】

コミュニケーション不足で起きたトラブルの事例を踏まえ、コミュニケーションの必要性と限界について説明する。内容は次の3つのトピックから構成される。（1）日本のユニークな生産方式を海外に移植したケースの説明を踏まえ、仕事に対するアプローチの仕方について、欧米と日本の違いとその対応の仕方を解説する。（2）次に、企業間で必要とされるコミュニケーションのあり方を流通現象を例にあげて説明する。（3）企業と消費者との間で見られるコミュニケーションについて、マーケティングのケースを例に解説する。そして、日本のユニークな生産方式を海外に移植したケースの説明を踏まえ、仕事に対するアプローチの仕方について、欧米と日本の違いとその対応の仕方を解説する。

【授業計画】

12回のうち6回を小池弘道、残り6回を大塚英揮が担当する。
小池弘道担当：
コミュニケーションの不足で起きるトラブル
コミュニケーションの取り方と限界
ビジネス社会でのコミュニケーション
国際社会でのチャレンジの仕方ー郷に入って、郷に従う
大塚英揮担当：
企業間のコミュニケーションー流通を例にして
企業と消費者のコミュニケーションーマーケティング・コミュニケーション
企業と社会のコミュニケーションーエコマーケティング

【評価方法】

単位認定試験の成績と出席状況を総合して評価する。

【テキスト】

使用しない（必要に応じて資料配付）

【参考文献・資料】

日本の常識はどこまで通じるか（ジョリー佐々木幸子、小池弘道　風媒社）

ビジネスとジェンダーⅠ

國信潤子

【授業の概要】

主に、産業社会学と開発社会学の視点からビジネス関係におけるジェンダー（社会・文化的性）区分の実態を国内外の男女別統計データなどから検討し、雇用機会均等法、男女共同参画社会基本法などの法制整備がどのように変化しているかについて講じる。家族、地域、就労の３領域におけるジェンダー・バランスについて各種データなどから現状を理解する。

【授業計画】

まずジェンダーという概念が形成されてきた社会背景を紹介する。次に国内外のジェンダー関係の統計データを紹介しながら、男女賃金格差、地位格差、職域区分などを解説する。次いで雇用機会均等法、男女共同参画社会基本法、さらにセクシュアル・ハラスメント防止のための施策、育児・介護休業法などについて紹介する。少子化の進行する日本社会において、ビジネスとジェンダー関係の近年の変容と、男女がともに有償労働・無償労働を均等に分担しつつ社会をささえるためには今どのような新たな政策が推進されているかを検討する。

【評価方法】

履修態度、出席状況、期末レポート、履修者数によっては少人数討議を行い、そこでの貢献度など、総合評価による。

【テキスト】

特になし、随時資料配布

【参考文献・資料】

授業時に随時紹介

ビジネスとジェンダーⅡ

北仲千里

【授業の概要】

産業社会におけるビジネス行為はジェンダー：社会・文化的性によってその役割、評価、影響などが異なる場合がある。特に日本社会においては女性の経済的地位はいまだ脆弱であり、雇用機会均等法の実施も不十分である。近年の経済のグローバル化のなかで職域、職階、賃金のジェンダー格差にどのような変化が見られるかについて統計データから考察する。また、産業界における人間関係についてジェンダーに敏感な視点をもって考察する。さらに職場の人間関係における問題、賃金格差、地位格差、セクシュアルハラスメント訴訟などについて、その内容について詳細に検討し、今後を展望する。

【授業計画】

現代でも女性の平均賃金は男性の約６割でしかありませんし、性別（ジェンダー）は、私たちの人生設計や職業選択などにも大きな影響を与え続けています。この講義では、「働くこと」「職場」「男と女」というテーマを、社会学的な方法で考えていきます。

講義を通じて、社会学的な見方を身につけること、統計データの読み方を身につけることも目指します。

1．統計データから見る仕事とジェンダー
2．ジェンダーという概念
3．職業分類や賃金の基礎知識
4．就職と学歴と性別の関係
5．就業パターンと家事労働との関係を考える
4．「差別」と「区別」を考える～その１　頭の体操　編
5．「差別」と「区別」を考える～その２　法律と裁判からみる
6．男女雇用機会均等法と就職の現状
7．職場でのセクシュアル・ハラスメント
8．社会が変わる、会社が変わる

これらのテーマを１～２週ずつ取り上げていきます。

【評価方法】

毎回ではありませんが、講義の中でミニレポートを書いてもらったり、宿題を課す場合があります。評価はそのミニレポートの提出回数と最後の試験の点数の総合点で行います。

【テキスト】

特に指定しません。講義時に毎回プリントを配布します。

【参考文献・資料】

女性学・男性学（伊藤公雄・樹村みのり・國信潤子　有斐閣アルマ）
竹中恵美子が語る労働とジェンダー（関西女の労働問題研究会　ドメス出版）

ビジネスマナーと異文化

ジョリー佐々木幸子

【授業の概要】

当講座は、21世紀の国際ビジネスパーソンを目指す学生が、海外との取引や異文化における習慣や価値観などを学習することによって、国際ビジネスマナーや、世界に共通するプロトコールについて広範囲にわたり研鑽を積み、将来の国内、海外での商取引をはじめ、国際交流におけるコミュニケーションでの正しいマナーを身につけることを目的とする。

【授業計画】

1．Orientation
2．序章：　国際儀礼の基本的な考え方
3．第１部：　日常生活【社交面】のDo と Don't
4．第２部：　ビジネス【オフィス】のDo と Don't
5．まとめ
6．期末試験

【評価方法】

期末試験、レポート、授業への出席・関与度を総合的に評価判断する。

【テキスト】

国際ビジネスのためのプロトコール（寺西千代子　有斐閣　2000）
世界60カ国比較文化事典（T. モリスン、W.A. コナウエイ、G.A. ボーデン、マクミラン　ランゲージハウス　1999）

【参考文献・資料】

海外のビジネスマナー（ジェトロ　【日本貿易振興会】編　2003）

異文化コミュニケーションⅠ

ジョリー佐々木幸子

【授業の概要】

日本は21世紀のボーダーレス社会において、工業大国と呼ばれながらも、外交や貿易取引、あるいは海外への多額の経済援助にも拘わらず、コミュニケーションの分野でややもすると誤解を受けたり、「顔」が見えないなどの批判を受けている。日本はなぜ世界から理解されないのか？　当コースでは「多文化共生時代」を生きる学生と共に、異文化間でのコミュニケーションのあり方を模索、探求することを目的とする。

【授業計画】

1．Orientation
2．第１章：　世界文化とコミュニケーション：　異文化コミュニケーションのこれからの意義
3．第２章：　国際派コミュニケーターの条件とは?：　多文化共生社会が求める人物像
4．第３章：　真の国際理解はどうしたら可能か：　異文化理解のためのさまざまな方法
5．第４章：　ふだん着のグローバリゼーション：　日常生活のグローバリゼーションを考える
6．第５章：　異文化にみる非言語コミュニケーション：　国際感覚を磨くためのコミュニケーションの方法
7．　期末試験

【評価方法】

期末試験、出席率、授業への参加状況などを総合的に評価判断する。

【テキスト】

多文化共生時代のコミュニケーション力　*The Age of Multicultural Communication Power*（御手洗昭治　ゆまに書房　2004）

【参考文献・資料】

異文化トレーニング：ボーダレス社会を生きる。（八代京子他　三修社　1998.）

異文化コミュニケーションII

福本明子

【授業の概要】

本講義では、日常の検証されない前提やコミュニケーションへの影響を、構築主義・批判主義的視点から探求することを目的とする。「文化」を静止的なものではなく、流動的・構築的なものとして捉え、異文化コミュニケーションⅠで学習した「文化」の概念を再検討する。「日本人の境界」やその境界の影響を中心に、民族や力関係の文化への影響を身近な事例を用いて検証し、多文化共生社会へ向け、コミュニケーションを通じて個人の社会への関与・貢献の可能性を探求する。異文化コミュニケーションⅠを履修すること。

【授業計画】

以下のテーマに沿って異文化コミュニケーションへの社会的「力」の影響を学習します。

1．異文化コミュニケーションの発展と複数のアプローチ
2．「コミュニケーション」と「視点」、Framing、社会的現実の構築
3．「力」についての考察
4．社会のマイノリティーとマジョリティー、whiteness研究
5．「力」とアイデンティティー
6．日本社会、日本文化、日本人論
7．グローバライゼーションと異文化コミュニケーション
8．多文化共生とは

【評価方法】

出席率、課題、ディスカッションやプレゼンテーションの準備や参加度合い等を総合して最終評価を行う。

【テキスト】

初回の授業にて発表。

【参考文献・資料】

多分化社会と異文化コミュニケーション（伊佐雅子　監修　三修社）

ビジネスと社会

國信潤子　原山恵子

【授業の概要】

ビジネスにおける人間関係の諸側面を法制、社会階層、ジェンダー関係そして産業社会学的視点から考察する。近年女性・男性の社会参画が社会のあらゆる側面で進展している。しかし雇用均等法などの法制は十分に浸透しているとは言い難い。そこで２名の講師によるビジネス活動の多面的な考察をおこなう。

（オムニバス方式）

（國信潤子教授）

社会学的統計データ、産業社会学、男女共同参画などの領域でビジネスにおけるジェンダー関係を紹介する。

（原山恵子兼任講師）

法制面でのビジネス関係の変容、特にビジネス活動、経済活動と家庭生活などにおけるジェンダー関係、日本社会における組織、家庭におけるジェンダー関係を法制面から事例的に考察し、雇用機会均等法、家族関係の変容などについて解説する。

【授業計画】

ジェンダーの概念を紹介し、その社会的現象について日本の現状を紹介する。各種統計、調査報告、企業における職域、職階別統計データなどから日本のビジネス界にみるジェンダー区分を考察する。國信が最初の４回、ついで原山によって５～６回、最後にまとめとして國信が２～３回日本のビジネス界おけるジェンダー領域の課題を講じる。

講師２名によるオムニバスである。

【評価方法】

履修態度、出席状況、期末レポート、履修者数によっては少人数討議を行い、そこでの貢献度など、総合評価による。

【テキスト】

特になし。随時資料を配布。

【参考文献・資料】

ジェンダーと職業（亀田ほか　東洋経済社）
新しい産業社会学（犬塚編　有斐閣）
女性学・男性学～ジェンダー論入門～（國信、伊藤ほか　有斐閣）

ビジネスマナー

松田照美

【授業の概要】

一般社会人として、コミュニケーションを円滑に行なうに必要な対人接遇の在り方について、電話による応待、面談の効果的な仕方、文書による表現などについて学習する。

【授業計画】

第１回　オリエンテーション　職業とビジネスマナー
第２回　企業の存立意義
第３回　経営組織について
第４回　仕事の基本原則とすすめ方　～マネジメント・サイクル～
第５回　職場の人間関係とコミュニケーションの理解
第６回　職場における話し方、言葉づかい
第７回　対人接遇の基礎（１）　ビジネス基本行動、来客応対
第８回　対人接遇の基礎（２）　訪問のマナー、紹介の原則
第９回　対人接遇の基礎（３）　ビジネス電話のマナーと実際
第10回　ビジネス文書の作成（１）　文書作成のポイント、社内文書
第11回　ビジネス文書の作成（２）　社外文書、E－mail
第12回　ファイリングの基礎知識
第13回　会議の知識
第14回　慶弔と贈答の心得
第15回　試験

【評価方法】

出席状況・小テスト・課題などによって総合的に評価する。

【テキスト】

社会人のパスポート（東福賢監修　嵯峨野書院）

ビジネスレター

寺本史子

【授業の概要】

経済のグローバル化の進む中、英文ビジネスレターを書く機会は間違いなく増えている。手紙、ファックス、E－メールと形は異なっても、ビジネスレターについて最も大切なものは“50％が文法、のこりの50％は書き手の態度”ともいわれており、明確・簡潔・誠実・友好的に書くことが基本となる。読みやすく、プロフェッショナルにみえる英文ビジネスレターの書き方を、豊富な実例に学び、練習することを通じて、マスターする。

【授業計画】

1．英文手紙の特徴・よい手紙を書くためのルール
2．ビジネスライティングのポイント
3．問い合わせ
4．問い合わせに対する返答
5．注文
6．支払い
7．案内
8．クレーム
9．クレームに対する返答
10．請求
11．請求に対する返答
12．好意・感謝を示す手紙
13．ホテル・旅行業に関する手紙
14．通関に関する手紙

【評価方法】

第一に、課題に取り組む態度を重視するが、出来上がった手紙の内容（正確さと表現の適切さ）そして出席状況等を含め総合的に判断

【テキスト】

最新英文ビジネスレター（ブルース・ハード著　立花久稔訳　松柏社）

交渉術 / ディベート

福本明子

【授業の概要】

本講義は、「交渉術」をmediation（ミディエーション：第３者仲介調停）とDebateを含む広い概念として捉え、交渉術の概要を講義すると同時に、ディベートを中心に据えた技能習得を目的とする。概要にて、文化・感情・面子などの交渉・議論への関与を学習する。その後ディベートを中心に、議論の組み立て方・批判検証のポイント・言語操作の俊敏性などの技能向上を目指す。ディベートの使用言語は様子を見ながら日本語と英語の分量を調整する。

【授業計画】

1．オリエンテーション
2．交渉・説得
3．ディベートの構成要素、模擬ディベート
4．論証・検証のポイントI
5．ディベート（練習I）
6．リサーチ・準備I
7．論証・検証のポイントII、スピーチ・デリバリー
8．ディベート（練習II）
9．リサーチ・準備II
10．ディベート（トーナメント）
11．ディベート（トーナメント）
12．まとめ

【評価方法】

出席率、ディベートへの準備やプレゼンテーション、グループ内の相互評価を総合して最終評価を行う。

【テキスト】

初回の授業にて発表。

【参考文献・資料】

初回の授業にて発表。

英語プレゼンテーション

福本明子

【授業の概要】

本講義は、英語でのプレゼンテーション技能の向上を目指します。スピーチの作成・プレゼンテーションの学習から始め、パワーポイントの操作を習得し、パワーポイントを用いたプレゼンテーションまで学習する。更に、コミュニケーション研究から言語・非言語による信頼性の構築や意味付与等に関する知識を学習する。定期的にプレゼンテーションを伴う課題を体験し、学習した情報を実践し、個々人が「自分らしさ」を伴うプレゼンテーションを探求する。

【授業計画】

1．コミュニケーションモデル
2．自己紹介プレゼンテーションと相互評価のポイント
3．意味付与
4．言語メッセージとプレゼンテーション
5．非言語メッセージとプレゼンテーション
6．スピーチと自分らしさ
7．スピーチと文化
8．パワーポイントとプレゼンテーション

【評価方法】

出席率、授業への参加度合いやプレゼンテーションやクラスメートとの相互評価を総合して最終評価を行う。

【テキスト】

初回の授業にて発表。

【参考文献・資料】

初回の授業にて発表。

Communication Strategies I

JOLLY, James A.

【Course Content】

議論やディベートについて基本的な概念を学びながら、その際の主張や証拠、論理の組立てについて分析し、話し合う。

This course is aimed at aiding students to develop their abilities to communicate more effectively in English as used in international business. Lessons will emphasize training and practice in listening and speaking using model conversations with practical application in social and business situations. Lesson topics and content will also provide students with opportunities for expanding their functional vocabularies in order to gain confidence in expressing themselves. Textbook drills will be supplemented with additional materials and activities to facilitate and enhance conversational skills.

【Schedule】

Basically class sessions will cover one unit of the textbook each week, and each unit will reflect the communication needs in a different business situation. A schedule of class dates and assignments will be provided at the second class meeting. There will be three or four homework assignments related to special lesson topics, and two short quizzes will be given during the class term. A final examination over the whole course will be given after the final lesson.

【Assessment】

The students will be graded on their performance in（1）attendance and class participation,（2）homework assignments,（3）quizzes and,（4）the final examination. Active participation in class will be valued highly.

【Textbooks】

The textbook to be used for this course will be announced at the first class session. Supplementary instruction materials and practice exercises will be provided as necessary. Most importantly, each student is expected to have, bring to class, and actively use his or her own personal Japanese/English dictionary（book or electronic machine）.

【Reference】

To be recommended individually as need arises.

Communication Strategies II

JOLLY, James A.

【Course Content】

議論やディベートについての様々な概念を考察しながら、実際に自分の主張を発表し、その主張を証拠や論拠をあげて反論から守る訓練をする。

The objectives of this course are to provide students with continued review and practice of English as used in international business communication. Class assignments will include practice in written business communications in addition to business conversation practices. Lesson topics and content are designed to provide students with opportunities for expanding their functional vocabulary and to better express themselves in varied business situations. Special handout supplementary materials will be used with the textbook drills to provide broader experience.

【Schedule】

Basically class sessions will cover one unit of the textbook each week, and each unit will reflect the communication needs in a different business situation. A schedule of class dates and assignments will be provided at the second class meeting. There will be three or four homework assignments related to special lesson topics, and two short quizzes will be given during the class term. A final examination over the whole course will be given after the final lesson.

【Assessment】

The students will be graded on their performance in（1）attendance and class participation,（2）homework assignments,（3）quizzes and,（4）the final examination. Active participation in class will be valued highly.

【Textbooks】

The textbook to be used for this course will be announced at the first class session. Supplementary instruction materials and practice exercises will be provided as necessary. Most importantly, each student is expected to have, bring to class, and actively use his or her own personal Japanese/English dictionary（book or electronic machine）.

【Reference】

To be recommended individually as need arises.

ビジネス外書講読Ⅰ

小池弘道

【授業の概要】

新聞、雑誌・本（リーダースダイジェスト、日経ジャーナルなど）の英語版や、放送（BBC、CNNなど）などを教材として基礎的な読書力を養う。内容としては、世界の政治、経済、外交などに関するビッグなニュースを読んで理解するとともに、その出来事の日本および私達の生活への影響を考察する。また景気動向、物価の動き、金融情勢、雇用・失業状況などの経済ニュースを読んで、日本や世界各国の動きを知る。更には、企業の技術革新、収益状況、リストラクチャー、合併統合などに関する記事を読んで、最近の企業動向を理解する。

【授業計画】

下記の内容の載っている記事を読み、読解力を高める。日本及び海外諸国の経済の動向、景気の動向、雇用の動向、物価の動きなど。企業の経営状況・・・決算状況、収益性分析、倒産など。企業再編成・・・合併、統合、提携など。マーケッティング・・・市場調査・解析、新製品開発など。新技術研究。

【評価方法】

単位認定試験の成績と出席状況を総合して評価する。

【テキスト】

必要に応じ資料配布。

【参考文献・資料】

授業の中で、適宜指示する。

ビジネス外書講読Ⅱ

小池弘道

【授業の概要】

ビジネス外書講読Ⅰでの学力向上を踏まえて、新聞、雑誌・本（リーダースダイジェスト、日経ジャーナル、ハーバードビジネスレビューなど）の英語版や、放送（BBC、CNNなど）などを教材として使い、さらにレベルアップを図る。

【授業計画】

下記の内容の載っている記事を読み、読解力を高める。

世界の政治、経済、外交などに関するニュースを読んで理解する。また景気動向、物価の動き、金融情勢、雇用・失業状況などの経済ニュースを読んで、日本や世界各国の動きを知る。更には、企業の技術革新、収益状況、リストラクチャー、合併統合、法律問題、環境問題などに関する分野も取り入れて講義していく。

【評価方法】

単位認定試験の成績と出席状況を総合して評価する。

【テキスト】

必要に応じ資料配布。

【参考文献・資料】

授業の中で、適宜指示する。

ビジネス英語入門

ジョリー佐々木幸子

【授業の概要】

本講義は国際ビジネスに不可欠な英語表現を学び、主として取引の相手との対話、交渉などの実務的口語技術を習得することを目的とする。

【授業計画】

Course Orientation

Unit One： Making Introductions
- L.1 Introducing Yourself to a Business Colleague
- L.2 Making a Self-Introduction at a Business Meeting
- L.3 Introducing Business Guests to Colleagues

Unit Two： Taking and Giving Messages
- L.4 Leaving a Message on an Answering Machine or Voice Mail
- L.5 Leaving a Message by Phone
- L.6 Taking a Message in Person for a Colleague

Unit Three： Going on an International Business Trip
- L.7 Getting Ready to Go: Checking-In at the Airport
- L.8 Getting through Immigration and Customs
- L.9 Settling into your Hotel

Unit Four： Everyday Business Dealings
- L.10 Conducting a Business Meeting
- L.11 Making Appointments with Customers
- L.12 Making Small-Talk with Colleagues

Final Examination

【評価方法】

期末試験、出席率、レポート、授業への参加状況など総合的に判断評価する。

【テキスト】

Business as Usual: An Integrated Approach to Learning English (Todd Jay Leonard, Seibido, 2004)

【参考文献・資料】

グローバル・ビジネス英語教本 *Global Business Communication,*（土農田義明 南雲堂 1999）

国際ビジネスコミュニケーション入門 *English for Business Communication,*（亀山和夫、八尾晃 Seibido 1998）

TOEFL（Writing）

JOLLY, James A.

【Course Content】

本講義はTOEFLテストのwritingのセクションのための基本的技能を培うことを目的とする。TOEFLテストに含まれるエッセイ・ライティングの問題に関し、書き方の方法と技術を一歩一歩学んでいくものである。実際のテストに類似した練習問題が、TOEFLテストの中で期待される質問に慣れるために使われる。英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指すものである。

【Schedule】

A detailed schedule of the lessons and assignments for each class will be provided at the second meeting of the class. The topics to be covered in this course include:

1. Understanding what you are to write about
2. Planning what you will write about (notes and outline)
3. Developing sentences and paragraphs to express your ideas
4. Improving your expressions and writing style
5. Checking and editing your essay

【Assessment】

Assessment will be based on class attendance and participation, completion of homework assignments, and demonstrated improvement in skill in practice tests. Practice written tests will be given at mid-term and at the end of course.

【Textbooks】

The textbook to be used for this course will be announced at the first class session. Supplementary instruction materials and practice exercises will be provided as necessary. Most importantly, each student is expected to have, bring to class, and actively use his or her own personal Japanese/English dictionary (book or electronic machine).

【Reference】

To be recommended individually as need arises.

比較文化特論

國信潤子

【授業の概要】

日本はその援助額では世界的に１～２位にある国際開発支援国である。日本の政府開発援助は世界各国に多大な影響を及ぼしている。またNGO、NPOが多く確立され、政府のみではできない協力、支援を実践している。この開発を「ジェンダーに敏感な視点」でみることが今必要になってきている。異なる文化的背景をもつ地域住民の人権擁護、自立とエンパワーメントをめざした「もう一つの、持続可能な開発」とはどのようなものかについて国際比較統計データ、開発協力事例などから考察する。ビジネスとジェンダーを履修しておくことが望ましい。

【授業計画】

ジェンダーという概念を紹介し、日本社会のジェンダー関係の特徴、近年の国際法における男女平等法をまず紹介する。次いで、開発途上国におけるジェンダー関係の事例をいくつか検討し、日本の政府機関、民間組織による開発協力の実態とその問題点を考察する。その場合、経済活動と異文化接触に焦点をしぼり検討する。

【評価方法】

履修態度、出席状況、期末レポート、履修者数によっては少人数討議を行い、そこでの貢献度など、総合評価による。

【テキスト】

特になし　　資料を随時プリントとして配布する

【参考文献・資料】

ジェンダーと開発（田中ほか　国際協力出版会刊）

異文化コミュニケーション特論

霜田一敏

【授業の概要】

異なったライフ・スタイルや価値観を持った人々との共存が時代の要請であり、異質なもの、異文化的なものを知ることは自国文化の本質を知ることでもある。その意味からも、日本人の常識と社交性の特質を取り上げ、究明するなかから外国人とのコミュニケーションを良くする方途を考えてみたい。

【授業計画】

1．異文化間コミュニケーションの背景
2．異文化間コミュニケーションの領域
3．文化とコミュニケーション
4．非言語コミュニケーション
5．言語と文化的認識
6．言葉の中のジギルとハイド
7．カルチャー・ショック
8．より効果的なコミュニケーション

【評価方法】

授業中の発言や参加度、積極的な態度、最後に期末試験を行い、総合して評価する。

【テキスト】

異文化間コミュニケーション入門（鍋倉健悦著　丸善ライブラリー）

組織心理学

松浦 均

【授業の概要】

組織心理学では、テーマとして「集団と組織の心理学」について講義する。授業では、基本的な心理学の内容を踏まえた上で、できるだけ社会の中の現場で実証された理論や知見を紹介する.学生諸君には、とくに産業組織場面、企業や行政組織に関する場面において生の現代社会の様相を切り取ってくる課題を与える。インターネットや図書雑誌を通して自分で情報を収集し、また現実社会を実感できる機会などを通して理解していくことを目標とする。

【授業計画】

1．オリエンテーション（第１週）
　半年間の授業の進め方を説明する。また学習方法や学習目標を説明し、授業方法、成績評価方法なども説明する。組織の問題に関するビデオ視聴。
2．集団と組織の心理学１「集団について」（第２週～第４週）
　組織問題についての概略説明。集団の意義と定義。人間関係と対人関係の定義。集合と集団の相違。集団の機能。公式集団と非公式集団。集団内コミュニケーション構造・ソシオメトリック構造。
3．集団と組織の心理学２「組織について」（第５週～第７週）
　組織の定義と概念。現代の組織の特徴。組織の原則。組織内コミュニケーションの特徴と問題点。成員の選別と組織社会化。組織行動の統制。組織の改革。硬直化現象と革新指向性。イノベーション。
4．集団に関する実験研究の紹介（第８週～第９週）
　革新の過程：少数者が多数派に及ぼす影響。集団圧力、同調の過程。集団による課題解決、集団浅慮、リスキーシフト。
5．リスクの心理学（第10週～第13週）
　リスク心理学について概略説明とビデオ視聴。リスクの定義、リスク受容行動。リスクのイメージ形成要因とイメージ構造。リスク認知におけるバイアス。リスクに関するマスコミ報道の特質。リスクと災害、緊急時の人間行動

【評価方法】

出席（30%）と期末テスト（70%）による。

【テキスト】

使用しない。プリントを配布する。

異文化教育論

霜田一敏

【授業の概要】

日本においても国際化が進展し、さまざまな国の人たちが急速に増大している。私たちは益々異なった文化と言語を持った人たちと共存して生きていかなければならない。世界の人々との平和的な交流を図る上で、異文化理解はこれからの教育の重要な問題である。この問題を身近な異文化教育の観点から具体的に論究する。

【授業計画】

・身近な異文化の教育論
序．大学入学までの異文化体験
1．大学生活の異文化状況
2．ひとり暮らしの異文化状況
3．方言と風俗習慣の違い
4．都会と田舎の文化の違い
5．アルバイト（世界）の異文化状況
6．世代間・家族間の異文化状況
7．いじめ・ひきこもりの世界
8．障害者の世界
9．インターネットの世界
10．海外旅行・留学での異文化体験
11．その他（転居・転入学など）

【評価方法】

授業中の発言やミニレポート、最後に期末試験を行い、総合的に評価する。

比較文化論Ⅰ（日・米）

鈴木哲至

【授業の概要】

日本とアメリカの文化を比較をするとき、表層のみならず深層文化へ思いをめぐらし考察することにより、日米の人々の意識の違いが浮き彫りになってくるに違いない。この授業では日本とアメリカの文化の中で、変化しつつあるものとそうでないものを見つめながら、深層にある隠れた文化をつきとめる試みをする。

【授業計画】

アメリカ文化関連新聞記事の切り抜きの発表、課題の文献（英語）の要約の発表の後、講義、討論などにより、毎回のテーマの考察をする。また、美しいビデオ映像などにより、視覚的にも日米文化の比較を楽しみながら授業を進める。

パート　1　文化の基盤
1．文化の型
2．自然環境
3．宗教
4．政治
パート　2　文化のスナップショット
5．権力
6．時間
7．多様性
8．性意識
9．新聞
10．買い物とビジネス
パート　3　変わりゆく価値観
11．新しい家族
12．新しい学生
13．新しい働き手

【評価方法】

出席状況、授業態度、レポート、その他を総合的に評価する。

【テキスト】

日本とアメリカ－深層文化へのアプローチ（Exploring Hidden Culture）（Paul Stapleton著　金星堂）
夢のアメリカ合衆国探訪（Wonderful USA）（Timothy Kiggell著　マクミラン ランゲージハウス）

マスコミュニケーション論

小塚哲司

【授業の概要】

新聞、テレビなどによって伝えられるニュースは、国内外で起きる日々の動きを映す鏡である。IT革命と相まって、ますますグローバル化、スピード化する21世紀高度情報社会。マスコミ、マスメディアは、そうした刻々と起きる地球レベルのニュースを、迅速に収集し、公正な価値判断をして、国民に伝えるのが役割である。それは「報道の自由」が保証されてこそ可能だが、逆に厳しい職業倫理も求められる。ジャーナリズムに課せられた責務と職業観、勤労観のほか、主として新聞報道を素材としてのニュースへの理解を深めるため、新聞記者、海外特派員の体験を交え、分かりやすく教えていきたい。

【授業計画】

1．マス・コミュニケーションの役割と機能
　高度情報化時代の中で、マスコミの果たすべき役割。その歴史と日本、世界の新聞事情、デジタル時代を迎えたメディア事情。
2．マスコミの倫理と功罪
　一度に大事件などを多数に伝えられる点で、マスコミは有効だが、一つ誤ると大混乱する。また公平な視点を欠くと、偏った見方を伝えてしまう。加害者、被害者の人権、報道される側のプライバシーに十分な配慮が必要である。加熱報道の実態と背景、厳しく問われる報道倫理。イラク戦争や米大統領選、少年非行、北朝鮮拉致問題など、具体的なニュース報道で検証したい。
3．授業を面白くし、時代を考える手助けとして、毎週、その週の大きなニュースを解説。

【評価方法】

教室での応答、小レポートと期末レポートで総合評価する。

【テキスト】

未定。

【参考文献・資料】

授業の中で、随時紹介する。

異文化トレーニング

福本明子

【授業の概要】

異なる文化背景を持つ人々が共に生活し、問題を解決するために必要な知識・態度・コミュニケーションの習得の為にどのような訓練が有効か、ロールプレイやシミュレーション等を体験しながら任意のトレーニングを立案・実施できるよう訓練する。異文化コミュニケーションⅠを履修すること。

【授業計画】

異文化コミュニケーションⅠで学習する基礎概念を元に、以下のテーマに沿って異文化トレーニングについて学習します。
1．異文化コミュニケーションの発展と前提
2．コミュニケーション能力（communication competence）
3．学習スタイルとトレーニングの手法
4．トレーニングの立案
5．文化の多様性とトレーニング

【評価方法】

出席率、課題、授業中のディスカッションへの準備や参加度合い等を総合して最終評価を行う。

【テキスト】

初回の授業にて発表。

【参考文献・資料】

異文化トレーニング：ボーダレス社会を生きる（八代京子、町惠理子、小池浩子、磯貝友子　三修社）
異文化間コミュニケーション入門（西田ひろ子　編　創元社）
多分化社会と異文化コミュニケーション（伊佐雅子　監修　三修社）

マスメディア論

大西 誠

【授業の概要】

マスメディアの中でもデジタル化の波で、厳しい対応を迫られているのが、放送メディアである。現代社会に欠かせない基幹メディアとしての放送を中心にメディアがどのように変貌しているかに関心を向ける。従来の新聞、出版、映画、広告のいわゆるマス媒体に加えて、活動領域を広げている音楽やゲームなどメディアの横断が見られる境界領域にあるメディア産業も注目したい。その一方で、マスメディアが引き起こす人権侵害や過剰報道など個人との軋轢などの実態を検討し、マスメディアのあるべき姿を展望する。

【授業計画】

講義形式
・マスメディアとは
・マスメディアの現場・新聞
・マスメディアの現場・放送
・マスメディアの現場・出版
・マスメディアの現場・映画
・マスメディアの現場・広告
・マスメディアの現場・音楽
・マスメディアと政治
・マスメディアと人権
・表現の自由とメディア・リテラシー
など
（内容については変更になる場合がある）

【評価方法】

出席状況、小テストと期末のリポートなどによる。

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

授業中に紹介

ビジネス概論Ⅰ

浅井敬一朗

【授業の概要】

我々の生活は企業無しではもはや成り立たない程、企業と深い関係がある。本講義では、ビジネスの中心である企業および企業が抱える問題の全体像を理解することを目的とする。まず企業はどのようなもので、どのような活動をしており、各々の企業が、どのような構造・形態をしてるのかを取り上げる。次に企業は誰のため、何のためにあるのかという、コーポレートガバナンス（企業統治）の視点から企業を分析した上で、企業の社会的責任や社会貢献の問題についても取り上げる。

【授業計画】

第１回　ガイダンス
第２回　企業とは何か
第３～６回　企業の諸形態
第６～９回　株式会社の経営機構
第10～11回　従来の日本型株式会社制度の構造と実態
第12～13回　企業統治
第14～15回　企業の社会的責任

【評価方法】

レポートおよび定期試験によって評価する

【テキスト】

会社入門（上田泰他著　多賀出版）

【参考文献・資料】

企業論（三戸浩他著　有斐閣アルマ）
経営のしくみ（青木三十一著　日本実業出版社）
株式会社のしくみがよくわかる本（北條恒一著　PHP）
※2005年は商法（会社法）が改正される予定なので、関連する新聞、雑誌の記事に注意を払うこと

ビジネス概論Ⅱ

浅井敬一朗

【授業の概要】

ビジネスは変化する経営環境の中で生存するべく、様々なマネジメント活動を行っている。その中でとくに（１）成長戦略、競争戦略といった経営戦略を立案し、（２）いかに分業し調整するという組織構造、組織形態の選択、（３）インセンティブシステムを確立し、いかに人を動かす仕組みを作り上げるかについての決定がなされなければならない。本講義では、これら３つのついての概論を具体的な事例を取り上げながら体系的に講義していく。

【授業計画】

第１回　ガイダンス
第２～８回　企業の経営戦略
・経営戦略の体系
・企業ドメイン
・成長戦略
・競争戦略
第９～12回　企業の組織形態
第13～14回　企業のインセンティブシステム
第15回　まとめ

【評価方法】

レポートおよび定期試験によって評価する

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

経営戦略（大滝精一他著　有斐閣アルマ）
新しい人事労務管理－新版－（佐藤博樹他著　有斐閣アルマ）
経営管理（塩次喜代明他著　有斐閣アルマ）

マーケティングベーシック

大塚英揮

【授業の概要】

『移り気な消費者が求めるものをいかに見出し、いかに売り込むか。』マーケティング戦略の究極の目標はまさにこの一点にある。激烈な販売競争を勝ち抜くために、マーケティング戦略の成功には不可欠であり、そのためには消費者の需要、ライバルとの競争関係といった環境要因を分析し、適切な意思決定を行う能力が求められる。本講義では、先ず現実の企業が行っているマーケティング戦略を紹介し、マーケティングの面白さとは何かについて学習する。そしてケースを随時交えながらマーケティングの「基本的知識」を学習する。

【授業計画】

1．マーケティングとは何か
2．買い物行動を振り返る（1）
3．買い物行動を振り返る（2）
4．CMについて考える（1）
5．CMについて考える（2）
6．モノの値段について考える（1）
7．モノの値段について考える（2）
8．製品について考える（1）－製品ライフサイクル
9．製品について考える（2）－ブランドの基礎知識
10．サービスマーケティングの基礎知識
11．グローバルマーケティングの基礎知識
12．売り場をめぐる闘い（1）
13．売り場をめぐる闘い（2）
14．マーケティングミックス－最適な組み合わせを探せ
15．まとめ

【評価方法】

毎回の小テスト（50％）と期末テスト（50％）の合計で評価します。小テスト以外の出席点はありませんが、連続物の講義なので、休まないで出席してください。

【テキスト】

使用しません。毎回プリントを配布します。

【参考文献・資料】

わかりやすいマーケティング戦略（沼上幹　有斐閣アルマ　1800円）
日経マーケティングジャーナル（旧流通新聞）を時々読んでみることもおすすめします。

マーケティングストラテジー

大塚英揮

【授業の概要】

本講義では、マーケティングベーシックで習得した知識を基礎に、この目標を達成するためにとられる戦略的手法について理解を深めていく。先ず企業の競争戦略を理解するために必要な「考え方」を習得し、その上で個別企業が操作可能な戦略手段である価格、製品、マーケティングチャネル、広告の各手段をそれぞれ取り上げ、これら各手段に関する具体的戦略の理解を深めていく。

【授業計画】

1．オリエンテーション
2．戦略的思考法（1）
3．戦略的思考法（2）
4．戦略的思考法（3）
5．市場構造とマーケティング戦略（1）
6．市場構造とマーケティング戦略（2）
7．戦略的ブランドマネジメント（1）
8．戦略的ブランドマネジメント（2）
9．戦略的ブランドマネジメント（3）
10．知識創造と製品開発（1）
11．知識創造と製品開発（2）
12．消費者心理と広告戦略（1）
13．消費者心理と広告戦略（2）
14．関係性マーケティング
15．ケース分析

【評価方法】

平常点（50％）と期末試験（50％）で評価します。

【テキスト】

使用しない

【参考文献・資料】

授業の中で適宜指示する。

※履修条件：マーケティングベーシックを履修済みのこと

国際ビジネストレンド

真田幸光

【授業の概要】

国際ビジネストレンドの講義に於いては、国際化の進む日本経済の現状を鑑み、日本経済の動向、そして日本企業の国際戦略を意識しつつ、Currentな国際経済情勢を学んでいくことを大きなテーマとしている。従って、その題材は新聞、雑誌等のマスコミ報道や日本政府、国際機関の示すデータや情報から取り上げ、これを担当教員が解説した上で、日本経済に与える影響や日本企業に対するビジネス・チャンスやビジネス・リスクなどについて考察、その上で可能な限り、受講生との意見や視点を引き出すことを心掛け、授業を展開していくことを予定している。

【授業計画】

第１回　ガイダンス、入門基礎レベル確認試験
第２回　国際経済情勢下に於ける日本経済概況の解説
第３回　最新米国経済事情の解説
第４回　最新欧州経済事情の解説
第５回　最新北東アジア経済事情の解説
第６回　最新中国経済事情の解説
第７回　最新東南アジア経済事情の解説
第８回　最新国際経済事情概要の総括
第９回　日本企業の国際ビジネス展開概要の解説
第10回　日本企業の対外投資戦略に関する解説
第11回　日本政府・日本企業の外資誘致戦略、政策に関する解説
第12回　日本の地方自治体政府の地域企業国際化支援策に関する解説
第13回　日本企業の国際ビジネス展開（ケーススタディ１）
第14回　日本企業の国際ビジネス展開（ケーススタディ２）
第15回　理解力確認試験

【評価方法】

試験による評価

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

特になし。必要に応じて、資料を配布する。

ビジネスストラテジー

河合篤男

【授業の概要】

企業を取りまく環境は常に変化している。こうした環境変化に対して、うまく適応して成長を続ける企業もあれば、適応に失敗してしまう企業もある。このような違いがなぜ生み出されるか。それを解明するためのひとつの柱は、経営戦略の立案プロセスの研究である。環境適応に成功している企業が、どのように変化を認識して、次なる経営戦略の立案に結び付けているのか、企業が内部に構築している環境適応のための仕組み、さらには社外からのCEOや経営コンサルティング企業など、外部の力を利用した企業革新について、事例を交えて解説する。

【授業計画】

0．イントロダクション
1．経営戦略について（その１）
2．経営戦略について（その２）
3．企業のドメイン
4．ドメインの変化
5．企業革新のモデル（その１）
6．企業革新のモデル（その２）
7．資源展開（その１）
8．資源展開（その２）
9．企業とパラダイム
10．パラダイムの逆機能
11．企業革新の新機軸
12．企業革新と経営コンサルタント

【評価方法】

試験中心

【テキスト】

組織能力を活かす経営　３Ｍ社の自己超越ストーリー（河合篤男・伊藤博之・山路直人・山田幸三　中央経済社）

【参考文献・資料】

必要に応じて配布する

ヒューマンリソースマネジメント

小池弘道

【授業の概要】

労働法の基礎知識について講義する。それから企業風土、組織について説明する。更に日本的労働慣行の崩壊について解説する。そのうえで、日本と欧米との人事・労務管理の違いなどを踏まえて、今後の人事・労務管理の変化について説明する。

【授業計画】

人というものについて色々な視点から考察する。そのうえで労働基準法などについて講義する。更に企業風土、組織、権限などについて解説する。また日本の強みと言われた終身雇用制度、年功型処遇制度の崩壊とその原因について考察する。更に今後の労働市場の変貌について説明する。また日本と欧米との人事・労務管理の違いについて、役割期待、責任と権限、採用、賃金制度、人事異動、従業員教育、モラル向上などの視点から講義する。

そのようことを踏まえて、今後の人事・労務管理において予想される変化と個人としての対応について解説する。

【評価方法】

単位認定試験の成績と出席状況を総合して評価する。

【テキスト】

必要に応じ資料配布。

【参考文献・資料】

授業の中で、適宜指示する。

プロダクションマネジメント

浅井敬一朗

【授業の概要】

本講義では、プロダクションマネジメントを「スキル」の視点で議論を進める。まず、プロダクションマネジメントが必要となった背景について概観する。また工学技術が進展するに伴って企業の競争力として重要となる。「スキル」の企業経営における意味を明らかにし、スキルの獲得、移転のプロセスについて論じる。

【授業計画】

第１回　ガイダンス
第２回　生産経営の誕生した背景
第３回～６回　生産システムとスキル
・テイラーシステム
・フォードシステム
・トヨタシステム
第７回～９回　日本的生産システムとスキル
第10回～11回　IT化によるスキルの変化
第12回～13回　新たな生産システム
第14回～15回　技術移転と海外での技術の捉え方

【評価方法】

出席、講義での発表、レポートおよび定期試験によって評価する

【テキスト】

特に指定しない

【参考文献・資料】

能力構築競争（藤本隆宏著　中公新書）
ものづくりの技能（小池和男他著　東洋経済新報社）
日本のリーン生産システム（石田光男・藤村博之他著　中央経済社）
生産マネジメント入門Ⅰ・Ⅱ（藤本隆宏著　日本経済新聞社）
セル生産システム（岩室宏著　日刊工業新聞社）

ビジネスマネジメント

辻村宏和

【授業の概要】

起業ブームの裏には低成長率もあることを見逃してはならない。財務テクニックや法律知識、あるいは最新テクノロジーに関して自分の不得意領域をカバーすべく起業には良きビジネス・パートナーが不可欠であるが、「ビジネスであるがゆえに親友（兄弟）の正体を知るはめとなった」最大最悪のトラウマに陥ったケースは枚挙にいとまがない。起業自体はマネジメントにとってほんのプロローグに過ぎず経営者は意外にも起業後の非経済的要因で苦悩する。本講義では、そういった苦悩を“組織の病気”として、事例を交えながら理論的に学習する。

【授業計画】

主要なテーマは以下の通りである。

1．起業の形式的手続き
2．起業前の諸問題
3．起業後に発生するトラブル
　（1）経済的要因によるトラブル
　（2）非経済的要因（ヒューマン・ファクター）によるトラブル
4．ビジネス・パートナーにかかわる諸問題
　（1）同族経営の場合
　（2）親友を共同出資者とした場合
5．創業後２～３年に求められる経営手腕
6．経営のターニング・ポイント：後継者問題
7．二代目経営者の権威
8．組織規模の拡大と経営の変質
9．その他

【評価方法】

期末試験の結果に講義中に取得したポイント数を加味する。

リテールマネジメント

大塚英揮

【授業の概要】

他国に比べて厳しいといわれる「流通規制」に守られていた小売業界も、大店法撤廃、酒販免許緩和などの規制緩和の結果、年々競争が激化する傾向にある。セブンイレブンＶＳローソンのようなコンビニという同じ業態同士の競争のみならず、ユニクロなどの急成長する専門店とイトーヨーカ堂のようなＧＭＳ間の異なる業態間の競争も活発化している。激化する競争にどう対応すればよいのか。本講義では小売業に関する基礎知識を学習した上で、小売業のとりうる競争戦略のパターンについてケースを用いて、より実践的に考察する。

【授業計画】

第１回　小売とは何か
第２回　小売の実態について考える（１）一般小売店と専門店
第３回　小売の業態について考える（２）ＧＭＳと百貨店
第４回　小売の業態について考える（３）コンビニエンス
第５回　小売の「輪」は回る－業態変化のプロセス
第６回　小売の出店戦略（１）
第７回　小売の出店戦略（２）
第８回　売り場を「創る」（１）
第９回　売り場を「創る」（２）
第10回　小売のＩＴ戦略
第11回　メーカーと小売のパートナーシップ（１）
第12回　メーカーと小売のパートナーシップ（２）
第13回　小売の日米比較
第14回　黒船襲来－流通外資の戦略（１）
第15回　黒船襲来－流通外資の戦略（２）

【評価方法】

小テストなどの平常点（60％）＋期末試験（40％）で総合的に評価します。

【テキスト】

使用しない。プリントをその都度配布します。

【参考文献・資料】

ベーシック　流通と商業（原田英生・向山雅夫・渡辺達朗　有斐閣）

マーケティングリサーチ

石原 守

【授業の概要】

企業の対市場創造活動であるマーケティングは、その意思決定過程において消費者や市場についての多種多様なデータ情報を必要としている。その情報を組織的かつ体系的に収集・記録・分析し、戦略策定や課題解決に反映させる活動がマーケティング・リサーチである。本講義では、リサーチの基礎となる考え方と統計的な分析手法の習得に重点を置きながら、ケースを盛り込むことにより理解が深まるように進めたい。尚、講義の内容上、マーケティング及び統計学の基礎知識を有していることが望ましい。

【授業計画】

1．ガイダンス
2．マーケティング・リサーチとは何か?－その意義－
3．マーケティング情報システム
4．マーケティング・リサーチの手法（１）定量調査とその特徴
5．マーケティング・リサーチの手法（２）定性調査とその特徴
6．マーケティング・リサーチの手法（３）インターネット・サーベイ
7．マーケティング・リサーチの手順
8．サンプリングの理論（１）その考え方と方法
9．サンプリングの理論（２）標本数の決定
10．統計的推定（点推定と区間推定、平均値・比率の推定）
11．統計的検定（標本平均値・標本比率の差の検定）
12．多変量解析（１）基準変数解析
13．多変量解析（２）相互依存変数解析
14．総括

【評価方法】

定期試験の成績、レポート課題の提出、及び出席状況により総合的に評価する。

【テキスト】

特に使用せず。毎回の講義時にプリントを配布する。

【参考文献・資料】

マーケティング調査とデータ解析（本多正久著　産能大学出版部）
マーケティング・リサーチの実際（近藤光雄、小田宜夫共著　日本経済新聞社）
マーケティングリサーチの論理と技法　第２版（上田拓治著　日本評論社）

アントレプレナー特論

真田幸光

【授業の概要】

本講義では、ビジネスの原点とも言うべき「起業」、即ち、人々が「業を起こす」という初期過程からビジネスとは何かを考察していくことを目的としている。起業をするには、財務分析等の定量分析的考察のみならず、市場環境調査、労務管理、リーダーシップなど、幅広い視点からビジネスの本質を捉えていく必要が生じ、こうた幅広い視点を研究することによって受講生のビジネスに対する学問的知識の向上と共に実践的な知識・ノウハウの向上を図っていくべく、講義を展開する。尚、実践的知識・ノウハウ向上の為、開講中、３～４人前後の外部講師（外資系企業経営陣、ベンチャー企業経営者、ベンチャーキャピタル経営者、マスコミ関係者、行政関係者などを予定）を招き、講義を受けた後、担当教員とのディベート、更には受講生との意見交換などを組み入れていくことを予定している。

【授業計画】

1．ガイダンス
2．ビジネスとは何か
3．起業の契機
4．コアビジネスの作り方
5．販売戦略
6．コスト部門の効率化戦略
7．人材活用
8．企業組織論
9．ファイナンス
10．中期計画の立て方
11．投資家の視点と起業
12．ケース・スタディー１
13．ケース・スタディー２
14．総括
15．理解力試験

【評価方法】

試験による評価

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

特になし。

チャネルマネジメント

大塚英揮

【授業の概要】

メーカーが自社商品のシェアを高めていく上で、流通チャネルをどう管理していくかは非常に重要な意味を持つ。本講義では次の３つのトピックスについて取り扱う。(a)「チャネル」の形状、「チャネル」を構成する基本要素であるメーカー、卸、小売三者間の取引関係、(b) メーカーが流通業者とどのような取引関係を結び、どう流通業者を管理するのが最適なのか、(c) メーカーと流通業者間の「製販統合」、これら３つのトピックスについて具体的ケースを用いて学習し、流通に関する専門的知識を習得する。

【授業計画】

1．流通チャネルとは何か（1）
2．流通チャネルとは何か（2）
3．流通の基礎理論（1）機能代替可能性、取引数最小化
4．流通の基礎理論（2）取引費用アプローチ
5．流通の基礎理論（3）パワー理論、帰属原理
6．日本型流通システムとは何か
7．日本型流通（1）専売店制
8．日本型流通（2）返品制
9．日本型流通（3）製販統合と製販連携
10. 環境変化と日本型流通の変質（1）流通規制緩和
11. 環境変化と日本型流通の変質（2）流通外資の参入
12. 環境変化と日本型流通の変質（3）流通におけるパワー関係の変化
13. 環境変化と日本型流通の変質（4）流通情報化の進展
14. 環境変化と日本型流通の変質（5）卸売業の機能強化
15. まとめ

【評価方法】

小テストなどの平常点（60%）＋期末試験（40%）で総合的に評価します。

【テキスト】

使用しない。プリントをその都度配布します。

【参考文献・資料】

現代流通（渡辺達朗　有斐閣）
流通原理（田村正紀　千倉書房）

統計基礎

元吉忠寛

【授業の概要】

本講義では、社会調査やマーケティング・リサーチを行う上で必要となる統計の基礎（どのような分析の際にどのような統計手法を使用するか、また結果をどのように解釈するか）について、統計パーケージSPSSを利用しながら学びます。なお、教養教育科目の「統計学」を履修しておくことが必要です。

【授業計画】

1．授業ガイダンス
2．統計的推測とは
3．統計的検定とは
4．SPSSの基本的な使用法
5．2群間の平均の比較
6．相関係数
7．因子分析（1）
8．因子分析（2）
9．回帰分析（1）
10. 回帰分析（2）
10. 分散分析（1）
11. 分散分析（2）
12. カテゴリー変数の関連分析
13. まとめ

【評価方法】

課題レポート、期末試験、出席状況から評価します。

【テキスト】

なし。

【参考文献・資料】

講義中に紹介します。

eビジネス

伊東俊彦

【授業の概要】

前半はe－ビジネスと一般のリアル・ビジネスとの違いをeビジネスのタイプ事例を通して習得し、ビジネスモデル特許の問題やe－ビジネスの現状と課題について学習する。後半はe－ビジネスのしくみをエージェントシステム、オークションをとおして学び、e－ビジネスを支援する情報推薦システムについても見ていく。最後にe－ビジネスのシステムを構築する際の概要を留意点を中心に学んでいく。

【授業計画】

第１回　オリエンテーション（授業の進め方）
第２回　eビジネスとは
第３回　eビジネスのタイプ
第４回　ビジネスモデル特許と課題
第５回　eビジネスの現状と課題（1）
第６回　eビジネスの現状と課題（2）
第７回　eビジネスのしくみ（1）：エージェントシステム
第８回　eビジネスのしくみ（2）：オークション
第９回　eビジネスの支援：情報推薦システム
第10回　日本型eビジネス
第11回　eビジネスのシステム構築概要（1）
第12回　eビジネスのシステム構築概要（2）
第13回　eビジネスのシステム構築概要（3）
第14回　まとめ

【評価方法】

出席点およびミニレポート（1～2回実施）により評価する。

【テキスト】

テキストは授業開始までに指示する。

【参考文献・資料】

eビジネスの理論と応用（菅坂玉美・他著　東京電機大学出版局発行）
e－ビジネス　企業変革のロードマップ（ラビ・カラコタ・他著　渡辺聡監訳　ピアソン・エジュケーション発行）

職業指導論

宮部幸雄

【授業の概要】

職業生活に必要な基本的な能力、態度及び職業観を育成し、自らの将来の生き方や進路について考える。

【授業計画】

第１章　進路指導の歴史と発展
第２章　教育課程と進路指導
第３章　進路指導における組織と体制
第４章　特別活動における進路指導
第５章　進路指導の方法と技術
第６章　進路相談の方法と技術
第７章　進路指導の評価
第８章　資格取得指導
第９章　産業構造、職業構造の変化と進路指導
第10章　職業生涯設計の在り方

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

自作教材

民法入門

西山一博

【授業の概要】

私法の一般法である民法は私的な生活関係を秩序づけている基礎法である。日常生活と関わりの深い民法のうち、まず総則と親族法を中心に取り上げ、権利や法律行為についての理解を深める。事例式で行い、実務的・実際的な解決や考え方を意識したい。また、法令用語や基礎的な事項についても解説し、必要な限りで民法に限らず法学全般の基本的な事項に言及する。

【授業計画】

第１回　民法の原則～私的自治の原則とは。
第２回　契約の成立・意思表示～未成年者の法律行為は取り消せる。
第３回　代理・表見代理～他人が勝手に自分名義で契約を結んだ場合はどうなるか?
第４回　不法行為に基づく損害賠償請求～交通事故でけがをしたら、どんな請求ができるのか?
第５回　債権と物権の違い・物権～担保とは。
第６回　債権総論～保証人はどんな責任を負うのか?
第７回　債権各論～契約の種類。賃貸借契約を中心に。
第８回　契約の効力・拘束力～自己都合で契約を解除したら、どんな請求を受けるのか?
第９回　時効～10年住み続けたら、他人の家が自分のものになるということが本当にあるのか?
第10回　親族法～離婚に伴う金銭問題はどう考えるのか?
第11回　相続法１～相続人と相続分。遺言。
第12回　相続法２～自分だけが故人の面倒をみてきたのに相続分は同じか?
第13回　民法の周辺法規～消費者契約法、破産法等。
第14回　法律事務所における弁護士業務・事務員業務～法律事務所における実務の運用と法律の扱われ方。
第15回　試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験により総合的に評価する。

【テキスト】

Q&Aそうだ!弁護士に聞いてみよう!!（弁護士法人愛知総合法律事務所著　全国書籍出版）

【参考文献・資料】

入門民法（森泉章著・有斐閣ブックス）

民法

石畔重次

【授業の概要】

現代社会においては法との関わりなしに生活していくことはできない。なかでも民法は最も身近な法であり、最も基本的な私法である。売買や賃貸借などの契約、交通事故などの不法行為、物の所有や占有などの物権、さらには夫婦や親子などの家族関係や相続まで、社会生活は基本的に民法によって規律されている。本講では、社会人として必要な民法の基礎知識を習得しながら、法との関わり方を考えていく。

【授業計画】

1　生活と民法、民法の基本原則
2　所有権の内容と効力
3　担保物権
4　契約の成立と効力
5　債務の履行と保証
6　売買
7　賃貸借
8　金銭の消費貸借
9　雇用、請負、委任
10　不法行為と損害賠償
11　夫婦、親子、後見、
12　相続と遺言

【評価方法】

期末試験による。期中にレポートを提出させた場合は、これを加味する。

【テキスト】

生活民法入門（大村敦志著　東京大学出版会）

【参考文献・資料】

ゼミナール民法入門（道垣内弘人著　日本経済新聞社）

会社法Ⅰ

上田純子

【授業の概要】

会社法のうち、まず会社の種類を取り上げ、社員の責任の態様について学習する。株式会社の設立・運営に関して商法はどのような考え方に基づいてどのような規定を設けているのか講義する。株式に係る規定についても解説する。

【授業計画】

1　会社の概念（３週）
2　法人格否認の法理
3　株式会社法の改正経過（３週）
4　株式会社の設立（２週）
5　株式（３週）
6　株式の譲渡（２週）
7　試験

【評価方法】

期末に実施される筆記試験の成績を中心に評価するが、授業への出席状況や授業態度、授業内の提出物の提出状況などを考慮することもある。

【テキスト】

開講時に指示する。

【参考文献・資料】

講義内容の全体をカヴァーする参考図書については、開講時に指示する。特定のテーマについて深く学びたい受講生に対しては、その都度参考文献を指示する。なお、テキストの記述で不足する部分については、適宜補助資料を配布する。

会社法Ⅱ

上田純子

【授業の概要】

会社法のうち、会社の機関と会社の運営に係る規定を中心に取り上げる。会社の経営がいかなる者に任され、その者にどのような義務、責任が課せられるかなど、会社の組織法を中心に講義する。また、企業再編・企業統合等についても可能な限り言及する。

【授業計画】

1　株主総会（２週）
2　株主総会決議の瑕疵
3　取締役と取締役会（２週）
4　取締役の義務（２週）
5　株主代表訴訟（２週）
6　取締役の第三者に対する責任
7　代表取締役
8　監査役・会計監査人
9　委員会等設置会社（２週）
10　試験

【評価方法】

期末に実施される筆記試験の成績を中心に評価するが、授業への出席状況や授業態度、授業内の提出物の提出状況などを考慮することもある。

【テキスト】

開講時に指示する。

【参考文献・資料】

講義内容の全体をカヴァーする参考図書については、開講時に指示する。特定のテーマについて深く学びたい受講生に対しては、その都度参考文献を指示する。なお、テキストの記述で不足する部分については、適宜補助資料を配布する。

国際ビジネス法

JOLLY, James A.

【Course Content】

主権国家間の法として成立した国際法の基本概念を把握した上で、個人、民族、国際機構という新たな主体が登場する現代国際社会で、国際法がいかに変貌しつつあるかを、戦争の規制や人権の保障などの分野を中心に考察する。

The aim of this course is to train students in the basic concepts of business law that are currently used in international trade. This field of law includes the legal principles of various trading nations and the new body of international private law developing from trade treaties and international agreements. A bilingual approach will be used to facilitate acquisition of basic Japanese and English vocabulary of legal terminology to be able to converse in an international atmosphere. The course textbook will be in Japanese and students will be required to read and absorb basic concepts covered in these. Supplemental materials will be provided in Japanese and English to augment the lessons.

【Schedule】

Basically class sessions will cover one chapter of the textbook each week, with lecture and supplemental materials related to the current legal principles discuss in that chapter. A schedule of class dates and assignments will be provided at the second class meeting. Topics to be covered include:

1. Basic concepts of international law（国際取引法の概念）
2. Typical international trade process（物品売買のための貿易実務）
3. International contract terms and terminology（国際契約の留意点）
4. International sales contract（国際売買契約）
5. International business structures: Agency, distributorship, license, plant, joint venture arrangements（代理店、販売店、ライセンス、プラント、合弁解約）
6. National sovereignty and foreign and international legal entities（外国法人、国際法人および国家）
7. Anti-trust law, anti-dumping law, PL law（独店禁止法、アンチダンピング法、製造物責任）
8. Intellectual property rights and WTO（知的財産権、世界貿易機関）
9. International dispute resolution processes（国際紛争の解決手段）

【Assessment】

Assessment will be based upon attendance and participation and scores in quizzes and the final examination. There will be two quizzes given during the course on materials covered in each segment. The final examination will cover the concepts presented in the entire course.

【Textbooks】

国際取引法入門：当事者の視点から（富沢敏勝　窓社　1999年）Each student is also expected to have and use his/her own Japanese/English dictionaries.

【Reference】

To be recommended individually as the need arises.

有価証券法

原 秀六

【授業の概要】

商取引の決済等において重要な役割を果たしている手形について、手形法がどのように規定しているのかについて講義する。高度ではあるが、テキストを用いながら法の基本的な考え方の理解を深める。

【授業計画】

＊手形の振出
＊手形理論
＊手形行為と意思表示の瑕疵と欠缺
＊手形の譲渡方法
＊手形取得者の保護
＊手形の支払と遡求
＊手形行為独立の原則と手形保証
＊為替手形・小切手

【評価方法】

期末試験、出席状況および授業中のパフォーマンス。

【テキスト】

『最新手形小切手法（四訂版）』（田邊光政著　中央経済社）。

【参考文献・資料】

授業中に適宜指示する。

ビジネスと法

上田純子

【授業の概要】

現代企業がビジネスの現場で遭遇すると思われる問題を取り上げ、法律的側面から検討する。また、ビジネスに関する興味深い裁判例を取り上げ、解説するとともに、今後企業が対応すべき新たな領域や問題についても考察する。

【授業計画】

第1回　ビジネスと法律のかかわり
第2回　契約に関する法律知識
第3回　代理と委任
第4回　債権の担保
第5回　債務の履行、時効
第6回　売買契約
第7回　不法行為と損害賠償
第8回　会社組織に関する法律（1）
第9回　会社組織に関する法律（2）
第10回　競争を制限する企業活動に関する法律
第11回　手形と小切手に関する法律
第12回　証券取引に関する法律（1）
第13回　証券取引に関する法律（2）
第14回　企業の倒産に関する法律
第15回　試験

【評価方法】

期末に実施される筆記試験の成績を中心に評価するが、授業への出席状況や授業態度、授業内の提出物の提出状況などを考慮することもある。

【テキスト】

開講時に指示する。

【参考文献・資料】

講義内容の全体をカヴァーする参考図書については、開講時に指示する。特定のテーマについて深く学びたい受講生に対しては、その都度参考文献を指示する。なお、テキストの記述で不足する部分については、適宜補助資料を配布する。

モジュールⅠ・Ⅱ

上原 衛　ジョリー佐々木幸子　杉本典之　福本明子　藤井正志　森下允之
浅井敬一朗　石川雅之　石坂綾子　梅田敏文　大塚英揮　吉村文雄

【授業の概要】

ビジネスに関する基本概念、仕組を学習し、受講者相互のコミュニケーションを通して、自己の考えを自発的、創造的にまとめ、効果的に発表する態度を育成する。

【授業計画】

経済・金融・会計を含むビジネスの幅広い分野についての全体的な理解を得られるように、担当教員が基本的なことがらを説明する。

【評価方法】

出席状況による。

【テキスト】

必要に応じてプリントを配布する。

モジュールⅢ・Ⅳ

上原 衛　ジョリー佐々木幸子　杉本典之　福本明子　藤井正志　森下允之
浅井敬一朗　石川雅之　石坂綾子　梅田敏文　大塚英揮　吉村文雄

【授業の概要】

モジュールⅠⅡを踏まえて、ビジネス分野の基本知識習得をさらに高め、意欲的に、自ら進んで課題に取組む態度を育成する。

【授業計画】

経済・金融・会計を含むビジネスの幅広い分野について担当教員がそれぞれの視点からさまざまなテーマを取り上げる。

【評価方法】

出席状況による。

【テキスト】

必要に応じてプリントを配布する。

基礎演習Ⅰ

浅井敬一朗

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

（1）新聞の経済記事を読む上で最低限必要とされる経済の仕組みについて学ぶ。
入本的なテキストを輪読する。報告者が担当箇所をレジメにまとめ、報告し、質疑応答を行う。
（2）報告者は適宜、関連する新聞、雑誌などの記事をまとめ、解説する。質疑応答を通じて、自分と報告者他との相違点・共通点について検討する。さらに、その意見の前提は何かについて考えるスキルを養う。
（3）3年生と合同でマネジメント・ゲーム実習を行う（春休み、夏休み期間集中）
（4）テキストとは別に適宜、課題図書を指定し、レポートを提出する

【評価方法】

演習での報告、討論の状況（各授業毎に一人一発言を義務づけている）、レポートにより評価する。また各章ごとに小テストを行う。
無断欠席をした場合は単位を認定しない

【テキスト】

適宜指定する

【参考文献・資料】

適宜紹介する

基礎演習Ⅰ

浅野敬志

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

日商簿記検定2級の合格支援を行うと同時に、下記教科書を使用して、ディベートの技法、考える技術・書く技術、プレゼンテーションの技法などを学ぶ。

【評価方法】

ゼミへの参加、取り組みなどを考慮して決定する。

【テキスト】

新検定簿記講義2級商業簿記〈平成17年版〉（加古宜士・渡辺裕亘編著　中央経済社）
新検定簿記ワークブック2級商業簿記（加古宜士・渡辺裕亘編著　中央経済社）
合格テキスト日商簿記2級工業簿記（TAC簿記検定講座著　TAC出版）
考える技術・書く技術（バーバラ・ミント著　ダイヤモンド社）
頭を鍛えるディベート入門（松本茂著　ブルーバックス）

基礎演習Ⅰ

石川雅之

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

学生による発表と講義をおりまぜながら行う。

【評価方法】

レポートに平常点を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

演習の最初に指示する。

基礎演習Ⅰ

石坂綾子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

アメリカ・ヨーロッパ諸国を中心に国際経済、通貨・金融分野でのトピックスを取り上げ、演習参加生の報告と討論を行う。

【評価方法】

出席状況・演習での報告によって総合的に評価する。特に出席状況は重視する。

【テキスト】

第1回目の演習において指示する。

【参考文献・資料】

第1回目の演習において指示する。

基礎演習Ⅰ

石橋善弘

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

日常生活、ビジネスに関わる数学的な問題について、講義、学生の発表、討論をセミナー形式で行う。

【評価方法】

出席状況およびレポートまたは試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

未定

基礎演習Ⅰ

上原 衛

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

ビジネスの世界を「経営」と「情報」と「システム」という切り口から学ぶ。学生の理解度を考慮しつつ、以下の項目について講義を進め、全員で討議していく。

1．情報社会について
2．情報システムとデータの重要性
3．システムリスクについて
4．Excelno応用、VBA
5．ホームページ作成
6．プレゼンテーション、表現力の重要性

【評価方法】

各人の授業と討議への積極的参加度、課題・レポートの提出により総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に別途指示・紹介する。

基礎演習Ⅰ

梅田敏文

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

第1講　ガイダンス
第2講　パワーポイントの構成と機能
第3講　プレゼンテーションとは何か
第4講　プレゼンテーションの計画
第5講　プレゼンテーションの技法
第6講　発表とディスカッション（1）
第7講　発表とディスカッション（2）
第8講　発表とディスカッション（3）
第9講　発表とディスカッション（4）
第10講　発表とディスカッション（5）
第11講　発表とディスカッション（6）
第12講　まとめ

【評価方法】

作成されたプレゼンテーション資料、発表内容、出席を総合的に評価する。

【テキスト】

創造するプレゼンテーション（梅田敏文著　弘学出版）

基礎演習Ⅰ

大塚英揮

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

（1）テキストをゼミ員全員で輪読し、マーケティングに関する基礎理論を習得する。
（2）習得した基礎理論を「使える知識」に変えていくために、理論をケースに当てはめて分析、判断する訓練を行う。
（3）理論によるケース分析の結果得られた「自分自身の考え」を他人にわかりやすく、かつ説得力をもって伝える訓練を行う。

【評価方法】

演習への取り組み姿勢、発表の内容などを総合的に評価する。

【テキスト】

授業の中で適宜指示する。

【参考文献・資料】

授業の中で適宜指示する。

基礎演習Ⅰ

小池弘道

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

個人として必要な能力の習得をめざして、下記のような内容について、実際の演習を行う

ディベート訓練
パブリックスピーキング
プレゼンテーション
QC管理と手法
財務諸表の見方、企業会計原則、経営分析、

【評価方法】

演習への取り組み姿勢、レポート、出席を総合して評価する。

【テキスト】

授業の中で、適宜指示する。

【参考文献・資料】

授業の中で、適宜指示する。

基礎演習Ⅰ

國信潤子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

基礎演習はまずビジネスとジェンダーの接点において、各学生の問題意識、関心領域を意見交流し、それらに沿った資料の講読をおこなう。

原則的に産業社会学、開発社会学の基礎資料の講読をする。各自が分担部分をレジメ作成し、パワーポイントなどを活用し報告・討議する。

1）関心領域の意見交流～ジェンダーとビジネス～
2）産業社会学、開発社会学の基礎文献資料
3）ジェンダーの視点から労働環境、ビジネスシーンの社会分析をおこなう。各種ジェンダー区分された統計資料の考察
4）学生の企画による企業訪問、ディベイト、夏期合宿などを実施
5）国内外の専門家をゲストスピーカーとして招聘し、講演を頂き、討議を行う。

【評価方法】

出席状況、報告内容、討議貢献度、主体的参加度、期末レポート

【テキスト】

特になし

【参考文献・資料】

新しい産業社会学（犬塚　有斐閣）
開発社会学（恩田　ミネルヴァ書房）
職業とジェンダー（岡村他　日本評論社）

基礎演習Ⅰ

真田幸光

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

ビジネスのあり方、経営のチェックポイント、起業に向けての理論武装などについて考察する。

【評価方法】

演習に対する取組姿勢と分析・考察レポートによる。

【テキスト】

無し

基礎演習 I

JOLLY, James A.

【Course Content】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【Schedule】

Basically class sessions will cover one assigned international business topic each week. Assigned textual materials will be mostly in Japanese language, and English language documents will be used as supplementary study sources. Students will be encouraged to discuss and refine their knowledge of each topic in class. A schedule of the study assignments will be provided at the second class meeting. Topics to be covered include:

1. Business structures of companies of international trading countries
2. Basic concepts of international trade arrangements
3. International trade terms (INCOTERMS)
4. Typical international trade process
5. Present-day concepts of international trade and sales laws

【Assessment】

Assessment will be based upon attendance and participation in class discussions, as well as scores attained in quizzes and a final examination. There will be two quizzes given during the course on materials covered in classes. The final examination will cover the concepts presented in the entire course.

【Textbooks】

The textbook to be used for this course will be announced at the first class session. Supplementary materials will be provided throughout the course when appropriate. Most importantly, each student is expected to have, bring to class, and actively use his or her own personal Japanese/English dictionary (book or electronic machine).

【Reference】

To be recommended individually as the need arises.

基礎演習 I

ジョリー佐々木幸子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

1. Orientation
2. L.1： Globalization in Business and Culture
3. L.2： Business Manners: Body Language
4. L.3： Names, Titles, and Terms of Respect
5. L.4： Business Etiquette
6. L.5： Individualism and Group Spirit
7. L.6： Working Overseas
8. L.7： Coping with Language and Culture Shock
9. L.8： Hospitality and Friendship
10. L.9： Negotiations: Cultural Differences
11. L.10： Negotiation for "Win-Win" Solutions
12. L.11： US and Japanese Business: A Case Study
13. L.12： Marketing, Advertising, and Distribution
14. Final Examination

【評価方法】

期末試験、英語でのスピーチ、プレゼンテーション（レポート）、出席率、授業の参加態度などを総合的に評価する。

【テキスト】

1. *Global Understanding: Success in International Business,* (Makoto Shishido and Bruce Allen, Seibido, 2002)
2. 日本の常識はどこまで通じるか：異文化交流で失敗しないために（風媒社 2003）

【参考文献・資料】

異文化にみる非言語コミュニケーション：Vサインは屈辱のサイン?
Nonverbal Communication in Diverse Cultures（御手洗昭治　ゆまに書房　2000）
Nonverbal Communication（S. Kathleen Kitao and Kenji Kitao Ikubundo　2002）

基礎演習 I

島田舒一

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

第1回～6回　証券と証券取引、証券市場など基礎的分野についていくつかのテーマを取り上げて研究し、報告、討論を通じて理解を深める。

第7回～12回　基礎的分野で残されたテーマおよび証券業務、証券ビジネスの中から問題を取り上げて研究し報告、討論を通じて理解を深める。

また、ネットによる株式投資を行うことで証券投資を具体的に理解する。

【評価方法】

参加状況、課題に対する取り組み、報告内容によって評価する。

【参考文献・資料】

証券ビジネスの基礎知識（拙著　中日本教育文化会）
現代日本の証券市場（日本証券経済研究所編集、発行）

基礎演習 I

杉本典之

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

この基礎演習Ⅰの共通テーマは、ビジネス社会の「国際語」である「複式簿記の機構に支えられた企業会計」を学んで、考えよう、ということである。

このような共通テーマに接近するために、さしあたり下記のテキストを教材にして、発表の仕方や討論の仕方等を実践にそくして学習する。学生各人の問題意識が芽生えかつ発展するにしたがって、各人のテーマにもとづいた発表と討論とを積み重ねる。

【評価方法】

演習形式のこの授業では、講義形式の多くの授業とは異なり、学生の皆さんが主役である。各人の主体的・能動的・積極的な行動が授業を活性化させる。よって皆さんの授業活性化への貢献度によって成績を評価する。

【テキスト】

相談して決める。

【参考文献・資料】

『日本経済新聞』を含む日刊紙の経済面、週刊経済誌、会計関係の月刊誌等にも日頃から目を配り、企業会計の動向やその環境の変化に関心を持つようにしていただきたい。

必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、学生からの問い合わせに応じて個別具体的に紹介・教示する。

基礎演習Ⅰ

福本明子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

「視点の多様性」をテーマに、以下の「文化」と「コミュニケーション」の基礎・関連概念を学習します。

1．「コミュニケーション」「文化」とは。ビジネスとの関連性
2．異文化コミュニケーションの発展
3．異文化コミュニケーションへの複数のアプローチ
4．コミュニケーションにおける意味付与
5．コミュニケーションと聞くこと
6．文化と「言語メッセージ」
7．文化と「非言語メッセージ」
8．文化と「コンテクスト」
9．アイデンティティーと自分らしさ
10．文化とグローバライゼーション
11．文化と価値観
12．ステレオタイプと差別

【評価方法】

出席率、課題、ディスカッションやプレゼンテーションの準備や参加度合い等を総合して最終評価を行う。

【テキスト】

初回の授業にて発表。

【参考文献・資料】

多分化社会と異文化コミュニケーション（伊佐雅子　監修　三修社）
異文化トレーニング：ボーダレス社会を生きる（八代京子、町惠理子、小池浩子、磯貝友子　三修社）

基礎演習Ⅰ

藤井正志

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

第１講～第12講　演習の受講者が、経済金融の基礎知識を習得することを目的とする。

テキストを使用し、受講者が交代で自分の担当部分について報告し、質疑応答により進める。

【評価方法】

出席状況と演習への取り組み姿勢から総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指定する。

基礎演習Ⅰ

前川三喜男

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

簿記の基礎知識を理解させる。企業会計に関する基礎知識、仕組を理解させる。実務演習。

【評価方法】

ゼミへの出席状況と発表の仕方、内容で評価

【テキスト】

商業簿記２級レベルの教材
その他レジメで対応

基礎演習Ⅰ

三浦信宏

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

情報技術（IT）の中でもハードウェアについての基礎知識の修得に重点を置く。学生との対話を重視し、グループ作業や個別発表を中心に進める。

【評価方法】

出席状況、発表の内容等を総合的に評価する。

【テキスト】

なし、プリント配布

【参考文献・資料】

授業中に適宜指示する。

基礎演習Ⅰ

森 恒夫

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

会計は原理原則を頭で理解しただけではどうにもならない、身体で覚えて初めて使い物になるという、スキルの要素が多分にある。自分でやってみて体得することが何よりも大切であるから、練習を重ねるとともに、理論的背景及び財務諸表論もあわせて学ぶ。

【評価方法】

出席状況、平常点及びレポート等により評価

【テキスト】

演習時に指示する

基礎演習Ⅰ

森下允之

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

NHK海外放送、CNN、NBC、BBCなどのニュースを通して国内、海外の出来事を英語で把握する。

毎月、事前に特定の番組を留守録画します。これを学生は必ず事前にマルチ・リソース・センターで視聴し、理解につとめる。ゼミでは理解できない箇所をお互いに教え、反復練習をする。

【評価方法】

出席状況と演習への姿勢を総合的に評価する。

基礎演習Ⅰ

吉村文雄

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

最初の演習では、「大学で何を学ぶのか」について討論したり、ビジネスの学問を学習する方法、考え方を身につけるようにする。その後に、ビジネスを支えている諸制度の意味について考えるとともに、計数的管理手段の貢献的機能について検討する。それをとおして、現代経済の動向とビジネス改革のの道筋を見つめてほしいと思う。

【評価方法】

報告、討論の内容およびレポートによって評価する。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業中に適宜指示する。

基礎演習Ⅱ

浅井敬一朗

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

（1）経営戦略の基礎的な文献を輪読する

（2）報告者は適宜、関連する新聞、雑誌などの記事をまとめ、解説する。質疑応答を通じて、自分と報告者他との相違点・共通点について検討する。さらに、その意見の前提は何かについて考えるスキルを養う。

（3）３年生と合同でマネジメント・ゲーム実習を行う（春休み、夏休み期間集中）

（4）テキストとは別に適宜、課題図書を指定し、レポートを提出する

【評価方法】

演習での報告、討論の状況（各授業毎に一人一発言を義務づけている）、レポートにより評価する。また各章ごとに小テストを行う。

無断欠席をした場合は単位を認定しない

【テキスト】

適宜指定する

【参考文献・資料】

適宜紹介する

基礎演習Ⅱ

浅野敬志

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

日商簿記検定２級の合格支援を行うと同時に、下記教科書を使用して、ディベートの技法、考える技術・書く技術、プレゼンテーションの技法などを学ぶ。

【評価方法】

ゼミへの参加、取り組みなどを考慮して決定する。

【テキスト】

新検定簿記講義２級商業簿記〈平成17年版〉（加古宜士・渡辺裕亘編著　中央経済社）
新検定簿記ワークブック２級商業簿記（加古宜士・渡辺裕亘編著　中央経済社）
合格テキスト日商簿記２級工業簿記（TAC簿記検定講座著　TAC出版）
考える技術・書く技術（バーバラ・ミント著　ダイヤモンド社）
頭を鍛えるディベート入門（松本茂著　ブルーバックス）

基礎演習Ⅱ

石川雅之

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

学生による発表と講議をおりまぜながら行う。

【評価方法】

レポートに平常点を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

演習の最初に指示する。

基礎演習Ⅱ

石坂綾子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

アメリカ・ヨーロッパ諸国を中心に国際経済、通貨・金融分野でのトピックスを取り上げ、演習参加生の報告と討論を行う。

【評価方法】

出席状況・演習での報告によって総合的に評価する。特に出席状況は重視する。

【テキスト】

第１回目の演習において指示する。

【参考文献・資料】

第１回目の演習において指示する。

基礎演習Ⅱ

石橋善弘

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

日常生活、ビジネスに関わる数学的な問題について、講義、学生の発表、討論をセミナー形式で行う。

【評価方法】

出席状況およびレポートまたは試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

未定

基礎演習Ⅱ

上原 衛

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

ビジネスの世界を「経営」と「情報」と「システム」という切り口から学ぶ。学生の理解度を考慮しつつ、以下の項目について講義を進め、全員で討議していく。

1．経営管理
2．情報処理と分析力の重要性
3．統計学
4．情報システムを利用した業務の効率化
5．エンドユーザー・コンピューティング

【評価方法】

各人の授業と討議への積極的参加度、課題・レポートの提出により総合的に評価する。

【テキスト】

経営管理（有斐閣アルマ）。その他、授業中に適宜指示・紹介する。

基礎演習Ⅱ

梅田敏文

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

第1講　ガイダンス
第2講　企業の機能と組織
第3講　ケース・スタディの説明
第4講　ケース・スタディへの取り組み
第5講　チーム別作業（1）
第6講　チーム別作業（2）
第7講　チーム別作業（3）
第8講　チーム別作業（4）
第9講　発表とディスカッション（1）
第10講　発表とディスカッション（2）
第11講　発表とディスカッション（3）
第12講　発表とディスカッション（4）
第13講　まとめ

【評価方法】

ケース・スタディの報告書、発表内容、出席を総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に、適宜配布する。

基礎演習Ⅱ

大塚英揮

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

（1）テキストをゼミ員全員で輪読し、マーケティングの各論について学習する。
（2）本から学び取った理論的知識を「使える知識」に変えていくために、理論をケースに当てはめて分析、判断する訓練を行う。
（3）理論によるケース分析の結果得られた「自分自身の考え」を他人にわかりやすく、かつ説得力をもって伝える訓練を行う。
（4）基礎演習の集大成として、他大学とのディベートを行うことで、目的を持ってゼミ員がゼミ活動に取り組めるよう留意する。

【評価方法】

演習への取り組み姿勢、発表の内容などを総合的に評価する。

【テキスト】

授業の中で適宜指示する。

【参考文献・資料】

授業の中で適宜指示する。

基礎演習Ⅱ

小池弘道

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

ビジネスにおける専門知識習得のため、下記のような内容について演習を行う

法律関係
1）労働法（差別問題・セクハラを含む）、
2）商法、税法
3）独占禁止法

品質関係
基本的考え方、QC手法、ISOなど

【評価方法】

演習への取り組み姿勢、レポート、出席を総合して評価する。

【テキスト】

授業の中で、適宜指示する。

【参考文献・資料】

授業の中で、適宜指示する。

基礎演習Ⅱ

國信潤子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

前期授業の継続

原則的に産業社会学、開発社会学の基礎資料の講読をする。

各自が分担部分をレジメ作成し、パワーポイントなどを活用し報告・討議する。

1）ジェンダーの視点から労働環境、ビジネスシーンの社会分析をおこなう。
　各種ジェンダー区分された統計資料の考察
2）学生の企画による企業訪問、ディベイト、夏期合宿などを実施
3）タイ・チェンマイ大学における研修を実施する場合はその事前・事後調査報告書作成
4）英語資料講読：雇用機会均等法の国際比較など
5）国内外の専門家をゲストスピーカーとして招聘

【評価方法】

出席状況、報告内容、討議貢献度、主体的参加度、期末レポート

【テキスト】

特になし

【参考文献・資料】

開発社会学（恩田　ミネルヴァ書房）

開発とジェンダー（田中他　国際開発出版会）

基礎演習Ⅱ

真田幸光

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

前期に作成した各自レポートを発表、これを基に全ゼミ生によるディベートを実施する。

【評価方法】

各自発表内容とディベート参加姿勢による。

【テキスト】

無し

【参考文献・資料】

特になし。

基礎演習Ⅱ

JOLLY, James A.

【Course Content】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【Schedule】

Basically class sessions will cover one assigned international business topic each week. Assigned textual materials will be mostly in Japanese language, and English language documents will be used as supplementary study sources. Students will be encouraged to discuss and refine their knowledge of each topic in class. A schedule of the study assignments will be provided at the second class meeting. Topics to be covered include:

1. International contracts terms and terminology
2. Trends in uniformity of international sales contracts
3. International business arrangements: agency, distributorship, license, plant, and joint venture agreements
4. Regulation of international companies and their subsidiaries
5. International trade agreements and treaties

【Assessment】

Assessment will be based upon attendance and participation in class discussions, as well as scores attained in quizzes and a final examination. There will be two quizzes given during the course on materials covered in classes. The final examination will cover the concepts presented in the entire course.

【Textbooks】

The textbook to be used for this course will be announced at the first class session. Supplementary materials will be provided throughout the course when appropriate. Most importantly, each student is expected to have, bring to class, and actively use his or her own personal Japanese/English dictionary (book or electronic machine).

【Reference】

To be recommended individually as the need arises.

基礎演習Ⅱ

ジョリー佐々木幸子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

1. Orientation
2. L.13：Communication in the "Thumb Generation"
3. L.14：Women in the International Workplace
4. L.15：Changes in Employment Systems
5. L.16：Establishing Trust in International Business
6. L.17：International Business and the Internet
7. L.18：Business and the Law：Foreign Lawsuits
8. L.19：Questions about Globalization and Free Trade
9. L.20：What is Success in the Global Business World?
10. Speeches/Presentations（1）
11. Speeches/Presentation（2）
12. Speeches/Presentations（3）
13. Speeches/Presentations（4）
14. Final Examination

【評価方法】

期末試験、英語でのスピーチ、プレゼンテーション（レポート）、出席率、授業の参加態度などを総合的に評価する。

【テキスト】

1. *Global Understanding: Success in International Business*
   (Makoto Shishido and Bruce Allen　Seibido　2002)
2. 日本の常識はどこまで通じるか：異文化交流で失敗しないために（風媒社 2003）

【参考文献・資料】

異文化にみる非言語コミュニケーション：Vサインは屈辱のサイン?（*Nonverbal Communication in Diverse Cultures*）（御手洗昭治　ゆまに書房　2000）

Nonverbal Communication S. Kathleen Kitao and Kenji Kitao Ikubundo　2002)

基礎演習Ⅱ

島田舒一

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

第1回～6回、証券会社の経営、証券市場の国際化、金融・証券の新ビジネスの中からテーマを選択し成果をまとめて報告、討論を通じて理解を深める。

第7回～12回、証券ビジネスと経営、証券市場の諸問題を経済・金融の動向、政策およびマーケットと関連づけて分析し、理解を深める。

【評価方法】

参加状況、課題に対する取り組み、報告内容によって評価する。

【参考文献・資料】

証券経営の新ビジネスモデル（資本市場研究会編　清文社）
現代日本の証券市場（日本証券経済研究所編集、発行）
証券経営のフロンティア（資本市場研究会編　清文社）

基礎演習Ⅱ

杉本典之

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

この基礎演習Ⅱの共通テーマも、基礎演習Ⅰのそれと同じく、ビジネス社会の「国際語」である「複式簿記の機構に支えられた企業会計」を学んで、考えよう、ということである。

基礎演習Ⅰの成果として学生各人が自覚するようになった問題意識を、さらに明確化させかつ発展させる。そして、そのような各人のテーマにもとづいた発表と討論とを積み重ねる。

【評価方法】

この基礎演習の主役は学生自身に他ならない。よって学生である皆さんの授業活性化への貢献度によって成績を評価する。

【テキスト】

相談して決める。

【参考文献・資料】

『日本経済新聞』を含む日刊紙の経済面、週刊経済誌、会計関係の月刊誌等にも日頃から目を配り、企業会計の動向やその環境の変化に関心を持つようにしていただきたい。

必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、学生からの問い合わせに応じて個別具体的に紹介・教示する。

基礎演習Ⅱ

福本明子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

基礎演習Iを踏まえ、以下のテーマに沿って「視点の恣意性」を学習します。

1.「コミュニケーション」と「視点」、Framing、社会的現実の構築
2.「力」についての考察
3. 日本文化と日本人論への視点
4. 英語普及への視点
5. 企業活動におけるイメージ・現実の構築
6. 日本社会と多文化共生

【評価方法】

出席率、課題、ディスカッションやプレゼンテーションの準備や参加度合い等を総合して最終評価を行う。

【テキスト】

初回の授業にて発表。

【参考文献・資料】

多分化社会と異文化コミュニケーション　（伊佐雅子　監修　三修社）

基礎演習Ⅱ

藤井正志

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

第1講～第12講　エクセルを使って現実の経済金融のデータ分析を行い、経済金融に関する理解を深める。

【評価方法】

出席状況と演習への取り組み姿勢から総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指定する。

基礎演習Ⅱ

前川三喜男

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

簿記の基礎知識を理解させる。企業会計に関する基礎知識、仕組を理解させる。実務演習。

【評価方法】

ゼミへの出席状況と発表の仕方、内容で評価

【テキスト】

商業簿記２級レベルの教材
その他レジメで対応

基礎演習Ⅱ

三浦信宏

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

情報技術（IT）の中でもソフトウェアについての基礎知識の修得に重点を置く。学生との対話を重視し、グループ作業や個別発表を中心に進める。

【評価方法】

出席状況、発表の内容等を総合的に評価する。

【テキスト】

なし、プリント配布

【参考文献・資料】

授業中に適宜指示する。

基礎演習Ⅱ

森 恒夫

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

（1）基礎演習Ⅰに引き続き個別論点の理解を深める。
（2）決算の簿記をマスターして、諸会計法規に準拠した財務諸表の作成を学ぶ。

【評価方法】

出席状況、平常点及びレポートにより評価

【テキスト】

演習時に指示

基礎演習Ⅱ

森下允之

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

NHK海外放送、CNN、NBC、BBCなどのニュースを通して国内、海外の出来事を英語で把握する。

毎月、事前に特定の番組を留守録画します。これを学生は必ず事前にマルチ・リソース・センターで視聴し、理解につとめる。ゼミでは理解できない箇所をお互いに教え、反復練習をする。

【評価方法】

出席状況と演習への姿勢を総合的に評価する。

基礎演習Ⅱ

吉村文雄

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

少人数の構成であるので、自分の考えをまとめて発表し、他人の意見に耳を傾けながら、ビジネスについて学びつつ討論の楽しさを身につける。ビジネス社会で役立つ知識を身につけるため、ここでは何よりもまず管理のための計数的手段を取り上げ、その機能を組織の文化的・経済的諸要因との関係においては把握する。なお、大学生活を送るにあたって悩んでいることや、履修上の問題を抱えている者は、相談してほしい。

【評価方法】

協調性、レポートの内容などを総合的に判断して評価する。

【テキスト】

プリントを使うことになるだろう。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

専門演習Ⅰ

浅井敬一朗

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

（1）経営戦略、人事労務、国際経営など、企業経営の基礎について、テキスト、雑誌の記事を輪読し、実際の事例を交えながら考察する
（2）生産経営の基礎についてイノベーションをキーワードにして分析する
（3）グループごとに共同レポートを作成し、パワーポイントを使用し、定期的に発表する
（4）マネジメントゲームを２年生と合同で行う（春休み、夏休み集中）

【評価方法】

演習での報告、討論の状況、レポートにより評価する。特に質問者からの質問に答えるだけではなくいかに議論を引き出し、リードするかという点を重視する。
無断欠席をした場合は単位を認定しない。

【テキスト】

経営戦略の経済学（浅羽茂著　日本評論社）他、適宜指示する
この他については適宜指示する

【参考文献・資料】

イノベーションダイナミクス（アッターバック著　有斐閣）
イノベーションのジレンマ（クレイトン・クリステンセン著　ハーバードビジネスプレス）
イノベーションの解（クレイトン・クリステンセン著　ハーバードビジネスプレス）

専門演習Ⅰ

浅野敬志

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

バーチャル株式投資をしながら、会計、ファイナンス、経済学、経営学などを幅広く学習し、企業・景気・その時々のトピックなどを深く分析・議論する。また、同時に、様々な手法を用いて、実際に企業を深く分析する。

【評価方法】

ゼミへの参加、取り組みなどを考慮して決定する。

【テキスト】

必要に応じて、適宜資料を配布する。

【参考文献・資料】

ゼミナール現代会計入門（伊藤邦雄著　日本経済新聞社）
すぐわかる株式投資2005年度版（日本経済新聞社編著　日本経済新聞社）
ビジネス・アカウンティング－MBAの会計管理－（山根節著　中央経済社）

専門演習Ⅰ

石川雅之

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

学生による発表を中心に行う。

【評価方法】

レポートに平常点を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

演習の最初に指示する。

専門演習Ⅰ

石坂綾子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

アメリカ・ヨーロッパ諸国を中心に国際経済情勢、通貨・貿易体制についてのトピックスを取り上げ、演習参加生の報告と討論を行う。

【評価方法】

出席状況・演習での報告・レポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

第１回目の演習において指示する。

【参考文献・資料】

第１回目の演習において指示する。

専門演習Ⅰ

石橋善弘

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

日常生活、ビジネスに関わる数学的な問題について、講義、学生の発表、討論をセミナー形式で行う。

【評価方法】

出席状況およびレポートまたは試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

未定

専門演習Ⅰ

上原 衛

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

ビジネスの世界を「経営」と「情報」と「システム」という切り口から学ぶ。基礎演習で基礎固めを行った知識を更に高め、新たなIT技術や情報処理に関する知識を習得する。学生の理解度を考慮しつつ、以下の項目について講義を進め、全員で討議していく。

1．ACCESSの基礎と応用
2．Excelの応用とVBA
3．ホームページ作成
4．経営情報論
5．株式投資シミュレーション

【評価方法】

各人の授業と討議への積極的参加度、課題・レポートの提出により総合的に評価する。

【テキスト】

経営情報論（有斐閣アルマ）。その他、授業中に適宜指示・紹介する。

専門演習Ⅰ

梅田敏文

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

第１講　ガイダンス
第２講　インターネットを活用した情報収集と情報発信
第３講　HTMLの機能（1）
第４講　HTMLの機能（2）
第５講　HTMLの機能（3）
第６講　ホームページの作成（1）
第７講　ホームページの作成（2）
第８講　ホームページの作成（3）
第９講　ホームページの発表と評価（1）
第10講　ホームページの発表と評価（2）
第11講　ホームページの発表と評価（3）
第12講　まとめ

【評価方法】

作成されたホームページ、そのプレゼンテーション、発表内容、態度、出席などを統合的に評価する。

【テキスト】

最初に全体のプリントを配布する。
授業の途中に、適宜、資料を配布する。

専門演習Ⅰ

小池弘道

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

基礎演習Ⅰ、Ⅱでの学習内容を踏まえ、国内及び国際社会で必要な、人事労務管理、効率化の進め方、問題解決手法などの能力・知識を深める学習をするとともに、国際社会での仕事の進め方について取り組んでいく。

【評価方法】

出席状況、演習への取り組み姿勢、レポートなどを総合して評価する。

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

演習の中で、適宜紹介する

専門演習Ⅰ

國信潤子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

基礎演習で学習したことを踏まえて、和英資料講読、資料調査の継続

各自の問題意識領域の掘り下げる。論文執筆方法の指導。卒業論文執筆のためのテーマとなる各自の関心領域の画定。

テーマの例

1）女性の就労継続と家族
2）ファミリーフレンドリー企業とは
3）雇用機会均等法と実態
4）女性・男性のキャリア形成
5）開発途上国との協力関係
6）女性・男性の社会的地位の国際比較

【評価方法】

出席状況、報告内容、討議貢献度、主体的参加度、期末レポート

【テキスト】

特になし

【参考文献・資料】

特になし

専門演習Ⅰ

真田幸光

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

東アジア経済の現状を分析、その上で日本と東アジア経済の関わり合いを考案する。

その後、各ゼミ生が特定地域を分析し日本との関係について考察する。

【評価方法】

演習に対する取組姿勢と分析・考察レポートによる。

【テキスト】

無し

【参考文献・資料】

特になし。

専門演習Ⅰ

島田舒一

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

第１～６回　資金運用と投資戦略などを中心に、いくつかの課題を取り上げ、理論とビジネスの両面から研究し、その報告をもとに討論を行う。

第７～12回　資金調達とファイナンスを中心とする諸問題について、理論に加え、実務的な取り扱いを含め研究し、報告、討論を通じて理解を深める。

なお、上の学習と並行して、その時々のマーケットの動きを取り上げ、現実的な感覚と対応の仕方についても習熟させる。

【評価方法】

参加状況、課題に対する取り組み、報告内容によって評価する。

【参考文献・資料】

証券投資論（日本アナリスト協会編　日本経済新聞社）

現代ファイナンス入門（現代ファイナンス講座１　中央経済社）

専門演習Ⅰ

霜田一敏

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

基礎演習で明確になった各人の研究テーマをどのように展開するか、その計画を相互に検討して明確にしていく。

1．問題意識の具体化
2．研究計画の作成
3．資料収集の方法
4．参考文献の収集と理解
5．調査方法の検討
6．論文作成の書き方

などを一人一人に即して具体的に検討する。

【評価方法】

各人のレポートと発表、討論への態度、最後の提出する論文によって評価する。

【テキスト】

使用しない。その都度プリント資料を配布する。

【参考文献・資料】

講義のなかで紹介する。

専門演習Ⅰ

杉本典之

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

この専門演習Ⅰの共通テーマは、企業会計の構造と機能ないし会計制度の国際化についての学習と卒業論文の準備、である。

基礎演習ⅠとⅡの成果として学生各人が自覚するようになった問題意識を明確化・発展させ、各人のテーマにもとづいた発表と討論とを積み重ねる。これらの作業を通じて、卒業論文のテーマを模索する。

【評価方法】

この専門演習の主役は学生自身に他ならない。よって学生である皆さんの授業活性化への貢献度によって成績を評価する。

【テキスト】

相談して決める。

【参考文献・資料】

『日本経済新聞』を含む日刊紙の経済面、週刊経済誌、会計関係の月刊誌等にも日頃から目を配り、企業会計の動向やその環境の変化に関心を持つようにしていただきたい。

必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、学生からの問い合わせに応じて個別具体的に紹介・教示する。

専門演習Ⅰ

藤井正志

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

第1講〜第12講　エクセルを使って現実の経済金融のデータ分析を行い、経済金融に関する理解を深める。

【評価方法】

出席状況、演習への取組姿勢等から総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指定する。

専門演習Ⅰ

前川三喜男

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

財務諸表（貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書等）が読解できる知識の習得。新会計基準の仕組を理解させる。

【評価方法】

ゼミへの出席状況と発表の仕方、内容で評価

【テキスト】

貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書等の解説書
その他レジメで対応

専門演習Ⅰ

三浦信宏

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

情報システムとその開発方法についての基礎知識の修得に重点を置く。学生との対話を重視し、グループ作業や個別発表を中心に進める。

【評価方法】

出席状況、授業中の課題討議、発表等の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

なし、プリント配布

専門演習Ⅰ

森 恒夫

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

我々の経済生活の中で会計学は欠くべからざる存在であり、会計学なくして企業は成立し得ない。基礎演習では、財務諸表の作成を中心に学んできたが、専門演習では、一部作成とその利用に主軸を移す。

「主な予定」

（1）工業簿記演習
（2）管理会計
（3）監査の概要
（4）会計に関するNEWSについて討論

【評価方法】

出席状況、平常点により評価

専門演習Ⅰ

森下允之

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

教師の指導のもと学生が選択した国について政治・経済状況、企業進出を中心に学生が調べ、発表する。

【評価方法】

出席状況と演習への姿勢を総合的に評価する。

【テキスト】

国に応じ演習中に指示する。

専門演習Ⅱ

浅井敬一朗

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

（1）経営戦略、人事労務、国際経営など、企業経営の基礎について、テキスト、雑誌の記事を輪読し、実際の事例を交えながら考察する
（2）生産経営の基礎についてイノベーションをキーワードにして分析する
（3）グループごとに共同レポートを作成し、パワーポイントを使用し、12月中に完成、発表を行う
（4）マネジメントゲームを２年生と合同で行う（春休み、夏休み集中）
（5）論文・レポートの書き方についての書籍を輪読し、なるべく早い時期に卒業論文のテーマと文献リストを決定し、３年次終了時までに概要についてのレポートを提出する
（6）エントリーシートや１分間自己PRについてゼミのメンバーの原稿を検討する

【評価方法】

演習での報告、討論の状況、レポートにより評価する。特に質問者からの質問に答えるだけではなくいかに議論を引き出し、リードするかという点を重視する。

無断欠席をした場合は単位を認定しない。

【テキスト】

適宜指定する

【参考文献・資料】

イノベーションダイナミクス（アッターバック著　有斐閣）
イノベーションのジレンマ（クレイトン・クリステンセン著　ハーバードビジネスプレス）
イノベーションの解（クレイトン・クリステンセン著　ハーバードビジネスプレス）

専門演習Ⅱ

浅野敬志

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

バーチャル株式投資をしながら、会計、ファイナンス、経済学、経営学などを幅広く学習し、企業・景気・その時々のトピックなどを深く分析・議論する。また、同時に、様々な手法を用いて、実際に企業を深く分析する。

【評価方法】

ゼミへの参加、取り組みなどを考慮して決定する。

【テキスト】

必要に応じて、適宜資料を配布する。

【参考文献・資料】

企業分析シナリオ（西山茂著　東洋経済新報社）
ゼミナール現代会計入門（伊藤邦雄著　日本経済新聞社）
すぐわかる株式投資2005年度版（日本経済新聞社編著　日本経済新聞社）

専門演習Ⅱ

石川雅之

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

学生による発表を中心に行う。

【評価方法】

レポートに平常点を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

演習の最初に指示する。

専門演習Ⅱ

石坂綾子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

アメリカ・ヨーロッパ諸国を中心に国際経済情勢、通貨・貿易体制についてのトピックスを取り上げ、演習参加生の報告と討論を行う。

【評価方法】

出席状況・演習での報告・レポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

第１回目の演習において指示する。

【参考文献・資料】

第１回目の演習において指示する。

専門演習Ⅱ

石橋善弘

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

日常生活、ビジネスに関わる数学的な問題について、講義、学生の発表、討論をセミナー形式で行う。

【評価方法】

出席状況およびレポートまたは試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

未定

専門演習Ⅱ

上原 衛

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

ビジネスの世界を「経営」と「情報」と「システム」という切り口から学ぶ。基礎演習で基礎固めを行った知識を更に高め、新たなIT技術や情報処理に関する知識を習得し、分析手法の応用としてのコンピュータ・シミュレーション、ケース・スタディーを利用した実社会の経営戦略の研究、経営情報理論を学ぶ。学生の理解度を考慮しつつ、以下の項目について講義を進め、全員で討議していく。

1．コンピュータ・シミュレーション
2．経営情報論
3．経営戦略ケース・スタディ

【評価方法】

各人の授業と討議への積極的参加度、課題・レポートの提出により総合的に評価する。

【テキスト】

経営情報論（有斐閣アルマ）
ケースに学ぶ経営学（有斐閣ブックス）

専門演習Ⅱ

梅田敏文

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

第1講　ガイダンス
第2講　論文とは何か
第3講　論文の構成
第4講　個人別作業割り当て
第5講　発表とディスカッション（1）
第6講　発表とディスカッション（2）
第7講　発表とディスカッション（3）
第8講　発表とディスカッション（4）
第9講　発表とディスカッション（5）
第10講　発表とディスカッション（6）
第11講　発表とディスカッション（7）
第12講　まとめ

【評価方法】

トピックスの発表、討議内容、文書の再作成の結果、出席などを総合的に評価する。

【テキスト】

授業の開始時にレジュメを配布する。
授業の途中に、適宜、資料を配布する。

専門演習Ⅱ

小池弘道

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

学生各自の問題意識にそったテーマを絞り込み、主体的に資料収集、文献による学習、ヒヤリングなどに取り組んでもらい、知識・考え方を深める。必要に応じて企業経営、国際企業経営など関する講義を織り交ぜる。

【評価方法】

出席状況、演習への取り組み姿勢、レポートなどを総合して評価する。

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

演習の中で、適宜紹介する。

専門演習Ⅱ

國信潤子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

基礎演習1、2、専門演習1で学習したことを踏まえて、和英資料講読、資料調査の継続。

各自の問題意識領域をさらに掘り下げる。卒業論文執筆のための基礎的資料の調査。

テーマは産業構造の変化と雇用機会均等、開発におけるジェンダー視点、職業にみるジェンダー区分などのテーマについて資料調査を継続。

リサーチ進行状況を各自がレジメ、資料を準備し、発表し、討議、コメントを学生相互が行う。

【評価方法】

出席状況、報告内容、討議貢献度、主体的参加度、期末レポート

専門演習Ⅱ

真田幸光

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

前期に作成した各自レポートを発表、これを基に全ゼミ生によるディベートを実施する。

【評価方法】

各自発表内容とディベート参加姿勢による。

【テキスト】

無し

【参考文献・資料】

特になし。

専門演習Ⅱ

島田舒一

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

第1～6回　金融工学など新しい金融技術を学ぶとともに、デリバティブや証券化などのビジネスについても実務的な面から研究し、討論する。

第7～12回　また、証券関連の法律や慣行、証券税制など制度的な面についても研究し、討論を通じて理解を深め、実務的な応用力を高める。

【評価方法】

参加状況、課題に対する取り組み、報告内容によって評価する。

【参考文献・資料】

デリバティブ入門（高橋誠、新井富雄著　日本経済新聞社）

証券化の知識（大橋和彦著　日経文庫）

専門演習Ⅱ

霜田一敏

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

基礎演習で明確になった各人の研究テーマをどのように展開するか、その計画を相互に検討して明確にしていく。

1．問題意識の具体化
2．研究計画の作成
3．資料収集の方法
4．参考文献の収集と理解
5．調査方法の検討
6．論文作成の書き方

などを一人一人に即して具体的に検討する。

【評価方法】

各人のレポートと発表、討論への態度、最後の提出する論文によって評価する。

【テキスト】

使用しない。その都度プリント資料を配布する。

【参考文献・資料】

講義のなかで紹介する。

専門演習Ⅱ

杉本典之

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

この専門演習Ⅱの共通テーマも、専門演習Ⅰのそれと同じく、企業会計の構造と機能ないし会計制度の国際化についての学習と卒業論文の準備、である。

専門演習Ⅰでの作業を通じて模索した学生各人の卒業論文のテーマを絞り込み、必要な参考文献や資料の収集に努め、専門演習Ⅲへつなげるように準備する。

改めて論文の書き方に関する解説書を学習する。

【評価方法】

この専門演習の主役は学生自身に他ならない。よって学生である皆さんの授業活性化への貢献度によって成績を評価する。

【テキスト】

相談して決める。

【参考文献・資料】

『日本経済新聞』を含む日刊紙の経済面、週刊経済誌、会計関係の月刊誌等にも日頃から目を配り、企業会計の動向やその環境の変化に関心を持つようにしていただきたい。

必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、学生からの問い合わせに応じて個別具体的に紹介・教示する。

専門演習Ⅱ

藤井正志

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

第１講～第12講　エクセルを使って現実の経済金融のデータ分析を行い、経済金融に関する理解を深める。

【評価方法】

出席状況と演習への取り組み姿勢から総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指定する。

専門演習Ⅱ

前川三喜男

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

財務諸表（貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書等）が読解できる知識の習得。新会計基準の仕組を理解させる。

【評価方法】

ゼミへの出席状況と発表の仕方、内容で評価

【テキスト】

財務諸表に関する解説書
その他レジメで対応

専門演習Ⅱ

三浦信宏

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

IT革命と社会・生活に関する知識修得に重点を置く。学生との対話を重視し、グループ作業や個別発表を中心に進める。

【評価方法】

出席状況、授業中の課題討議、発表等の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

なし、プリント配布

専門演習Ⅱ

森 恒夫

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

専門演習Ⅰに引き続き下記の如く予定
（1）財務諸表の読み方
　有価証券報告書
　営業報告書
（2）経営分析の基礎

【評価方法】

出席状況、平常点により評価

【テキスト】

演習時に指示

専門演習Ⅱ

森下允之

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

教師の指導のもと学生が選択した国について政治・経済状況、企業進出を中心に学生が調べ、発表する。

【評価方法】

出席状況と演習への姿勢を総合的に評価する。

【テキスト】

国に応じ演習中に指示する。

専門演習Ⅲ

浅井敬一朗

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

日本企業の経営システムに関する文献の輪読を行う

エントリーシートや1分間自己PRについてゼミのメンバーの原稿を検討する

【評価方法】

出席回数、演習での報告、討論の状況、レポートにより評価する

特に重視するのは、どのようなディスカッションポイントを提示し、議論をいかにリードしていくかという点である。

【テキスト】

適宜指定する

【参考文献・資料】

適宜紹介する

専門演習Ⅲ

浅野敬志

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

これまでの総復習として、企業およびその業界の分析を行う。その際に、総資本利益率等、様々な比率を計算し、企業の問題点を導出するだけでなく、同業他社や市場の分析等を通じて、当該問題点の改善策も検討する。

【評価方法】

ゼミへの参加、取り組みなどを考慮して決定する。

【テキスト】

必要に応じて、適宜資料を配布する。

【参考文献・資料】

企業分析入門（第2版）（パレプ他著　東京大学出版会）

企業分析（増補版）（山口孝他著　白桃書房）

要説　経営分析（青木茂男著　森山書店）

専門演習Ⅲ

石川雅之

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

学生による発表を中心に行う。

【評価方法】

レポートに平常点を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

演習の最初に指示する。

専門演習Ⅲ

石坂綾子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

アメリカ・ヨーロッパ諸国を中心に国際経済情勢、通貨・貿易体制についてのトピックスを取り上げ、演習参加生の報告と討論を行う。

【評価方法】

出席状況・演習での報告・レポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

第１回目の演習において指示する。

【参考文献・資料】

第１回目の演習において指示する。

専門演習Ⅲ

石橋善弘

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

日常生活、ビジネスに関わる数学的な問題について、講義、学生の発表、討論をセミナー形式で行う。

【評価方法】

出席状況およびレポートまたは試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

未定

専門演習Ⅲ

伊東俊彦

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

企業においてビジネス活動を支援する道具としての情報技術（IT）の研究を枠組みとして、各自が希望するテーマを研究していただく。研究は原則として前期・後期を通して行う。ゼミ全体の大テーマは「ビジネスにおける情報技術の活用」である。

テーマとしてはたとえば、「e－ビジネス」「電子商取引」「Webマーケティング」「インターネットとビジネス」「電子コミュニケーション」「ビジネスモデル特許」「業務のアウトソーシング」「ASPの活用」「サプライチェーンマネジメント」「ビジネスインテリジェンス」「モバイル・ビジネス」「ERP（統合業務パッケージ）」「経営情報システム」「意思決定支援システム」「BPRと情報技術」「ベンチャービジネスの起業」「e－ラーニング」などが挙げられるが、これ以外でもなんらかの形でITに関連するテーマであれば研究可能である。

〈前半〉
各自のテーマに基づく素材集めとしての研究と発表
〈後半〉
各自のテーマに基づく研究と発表
〈最終〉
最後に小レポートを作成・提出する。

【評価方法】

出席点、ゼミへの貢献および小レポートの内容により評価する。

【テキスト】

テキストは適宜指示する。

【参考文献・資料】

各自の研究内容に応じて適宜指示する。

専門演習Ⅲ

上原 衛

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

企業がどのように情報を経営に活用すべきかという点に関して、「経営」と「情報」と「システム」という切り口から検討する。また、企業が抱えるさまざまなビジネスリスクに対してどのように対応すべきかというリスクマネジメントについて、実践に即したケース・スタディをとおして研究する。そして、学生各自の調査と分析を行い、報告・討議を行う。

【評価方法】

各人の授業と討議への積極的参加度、課題の提出と発表により総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指定する。

専門演習Ⅲ

梅田敏文

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

第１講　ガイダンス
第２講　問題とは何か
第３講　問題の分析
第４講　解決策の策定
第５講　問題解決セッション（1）
第６講　問題解決セッション（2）
第７講　問題解決セッション（3）
第８講　問題解決セッション（4）
第９講　問題解決セッション（5）
第10講　問題解決セッション（6）
第11講　問題解決セッション（7）
第12講　まとめと講評（1）
第13講　まとめと講評（2）

【評価方法】

発表態度、内容、ディスカッションの参画度合、出席などで評価する。

【テキスト】

授業の途中に、適宜、資料を配布する。

専門演習Ⅲ

小池弘道

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

それぞれの学生が選択した分野において取り組んだ内容を授業において発表し、その指導をしていく。

【評価方法】

出席状況、演習への取り組み、および取り組んだ結果を総合的に評価する。

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

適宜紹介する。

専門演習Ⅲ

國信潤子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

基礎演習１、２、専門演習１、２で学習したことを踏まえて、各自のリサーチテーマにそって和英資料講読、資料調査の継続。

各自の問題意識領域をさらに掘り下げる。卒業論文執筆の開始とリサーチの継続。

テーマは産業構造の変化と雇用機会均等、開発におけるジェンダー視点、職業にみるジェンダー区分などのテーマについて資料調査を継続。就職活動と並行して論文執筆を進める。

リサーチ進行状況を各自がレジメ、資料を準備し、発表し、討議、コメントを学生相互が行う。

【評価方法】

出席状況、報告内容、討議貢献度、主体的参加度、期末レポート

専門演習Ⅲ

真田幸光

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

各授業に於いて毎回、それぞれの学生に対して個別指導をしていく形式をとる。

【評価方法】

平常点及び提出物で評価する

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献・資料】

特になし。

専門演習Ⅲ

島田舒一

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

第1～6回　日本と外国の証券市場改革を比較検討することにより、資本市場の現状と課題を深く理解させる。

第7～12回　専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱで取り上げた資金運用や投資戦略について、金融工学的な手法の実務的な応用力を高めるため、事例研究を通じて理解を深めさせる。

【評価方法】

参加状況、課題に対する取り組み、報告内容によって評価する。

【参考文献・資料】

金融システム改革と証券取引制度（証券取引法研究会編　日本証券経済研究所）

アメリカの資本市場改革（淵田康之・大崎貞和編　日本経済新聞社）

図説　ヨーロッパの証券市場（日本証券経済研究所）

専門演習Ⅲ

霜田一敏

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

学生の関心と問題意識を重視して、次のような手順で専門演習を行う。

1．各人のこれまでの学習経験や関心領域を整理してレポートに作成し、発表する。
2．それぞれのレポートに基づく発表を集団で検討し、指導を行う。
3．関連する参考資料や文献を収集する方法、調査する場合は調査方法について指導する。
4．各人で上記の作業や文献購読を行う。
5．中間まとめをしながら期末にレポートとして集約する。その際、論文の書き方の指導を行う。
6．期末にこれまでの研究のまとめを行い、演習時に発表し、論文としてまとめる。

【評価方法】

演習への参加度と研究に対する態度及び研究成果とレポートについて総合的に評価する。

専門演習Ⅲ

杉本典之

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

この専門演習Ⅲの共通テーマも、専門演習Ⅰ及び専門演習Ⅱのそれとほぼ同様に、「企業会計の構造と機能ないし会計制度の国際化についての学習と論文の準備」である。

論文を卒業論文として作成することに挑戦する学生は、「卒業論文・制作」という授業も履修することになるので、その授業での成果を折々に発表する。

それ以外の学生も、専門演習Ⅰ及び専門演習Ⅱでの作業を通じて模索してきた論文のテーマを絞り込み、必要な参考文献や資料の収集に努め、作業の進捗状況と論文の構想について折々に発表する。

いずれの学生も、改めて論文の書き方に関する解説書を学習する。

【評価方法】

この専門演習の主役は学生自身に他ならない。よって学生である皆さんの授業活性化への貢献度によって成績を評価する。

【テキスト】

共通のテキストは指定しない。

【参考文献・資料】

必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、学生各人に対する個別指導の中で個別具体的に紹介・教示する。

専門演習Ⅲ

藤井正志

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

第1講～第12講　学生の選択するテーマに添って卒業論文の指導を行う。レポートを選択する学生に対してもテーマに添って指導を行う。

【評価方法】

出席状況と演習への取り組み姿勢から総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指定する。

専門演習Ⅲ

前川三喜男

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

有価証券報告書実例分析
新会計基準の実例研究
監査報告書の実例研究

【評価方法】

ゼミへの出席状況と発表の仕方、内容で評価

【テキスト】

有価証券報告書
監査小六法

専門演習Ⅲ

森 恒夫

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

激変している会計の現状を学ぶとともに、従来にはなかった会計の分野も研究する。

（1）商法等の改正による会計への影響問題
（2）会計に関するNEWSについての分析
（3）会計領域の拡大及び現代の問題

【評価方法】

出席状況及び平常点により評価

【テキスト】

演習時に指示

専門演習Ⅲ

森下允之

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

学生の関心度と重要性から、対象地域・国・テーマを学生ごとに選択させ、卒論に耐えられるような報告書を作成する。

【評価方法】

出席状況と演習への姿勢（自分の分のみでなく、他の学生の報告書への意見表明も含む）を総合的に評価する。

専門演習Ⅳ

浅井敬一朗

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

各自の関心のある企業における基本的な財務データ、経営戦略、人事制度、海外展開などについて調べ、同業他社との比較を行う。書籍、雑誌、新聞記事等のデータに加え、必要に応じて各自ヒアリング調査を行う。各自4回の中間発表を行うこと。

【評価方法】

演習での報告、討論の状況、レポートにより評価する。
卒業論文・制作を履修しない者は1万字程度の単位認定レポートを提出すること。

【テキスト】

使用しない

【参考文献・資料】

適宜紹介する

専門演習Ⅳ

浅野敬志

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

これまでの総復習として、企業およびその業界の分析を行う。その際に、総資本利益率等、様々な比率を計算し、企業の問題点を導出するだけでなく、同業他社や市場の分析等を通じて、当該問題点の改善策も検討する。

【評価方法】

ゼミへの参加、取り組みなどを考慮して決定する。

【テキスト】

必要に応じて、適宜資料を配布する。

【参考文献・資料】

企業分析入門（第２版）（パレプ他著　東京大学出版会）
企業分析（増補版）（山口孝他著　白桃書房）
要説　経営分析（青木茂男著　森山書店）

専門演習Ⅳ

石川雅之

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

学生による発表を中心に行う。

【評価方法】

レポートに平常点を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

演習の最初に指示する。

専門演習Ⅳ

石坂綾子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

アメリカ・ヨーロッパ諸国を中心に国際経済情勢、通貨・貿易体制についてのトピックスを取り上げ、演習参加生の報告と討論を行う。

【評価方法】

出席状況・演習での報告・レポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

第１回目の演習において指示する。

【参考文献・資料】

第１回目の演習において指示する。

専門演習Ⅳ

石橋善弘

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

日常生活、ビジネスに関わる数学的な問題について、講義、学生の発表、討論をセミナー形式で行う。

【評価方法】

出席状況およびレポートまたは試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

未定

専門演習Ⅳ

伊東俊彦

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

企業においてビジネス活動を支援する道具としての情報技術（IT）の研究を枠組みとして、各自が希望するテーマを研究していただく。研究は原則として前期に続けて行う。ゼミ全体の大テーマは「ビジネスにおける情報技術の活用」である。

テーマとしてはたとえば、「e－ビジネス」「電子商取引」「Webマーケティング」「インターネットとビジネス」「電子コミュニケーション」「ビジネスモデル特許」「業務のアウトソーシング」「ASPの活用」「サプライチェーンマネジメント」「ビジネスインテリジェンス」「モバイル・ビジネス」「ERP（統合業務パッケージ）」「経営情報システム」「意思決定支援システム」「BPRと情報技術」「ベンチャービジネスの起業」「e－ラーニング」などが挙げられるが、これ以外でもなんらかの形でITに関連するテーマであれば研究可能である。

〈前半〉
各自のテーマに基づく研究の進捗発表
〈後半〉
研究レポートの進捗発表
〈最終〉
研究レポートの作成と発表会

【評価方法】

出席点、ゼミへの貢献および期末レポートの内容により評価する。

【テキスト】

テキストは適宜指示する。

【参考文献・資料】

各自の研究内容に応じて適宜指示する。

専門演習Ⅳ

上原 衛

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

企業がどのように情報を経営に活用すべきかという点に関して、「経営」と「情報」と「システム」という切り口から検討する。また、企業が抱えるさまざまなビジネスリスクに対してどのように対応すべきかというリスクマネジメントについて、実践に即したケース・スタディをとおして研究する。そして、学生各自の調査と分析を行い、報告・討議を行う。

【評価方法】

各人の授業と討議への積極的参加度、課題の提出と発表により総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指定する。

専門演習Ⅳ

梅田敏文

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

第１講　ガイダンス
第２講　プレゼンテーションの概念
第３講　プレゼンテーションの計画
第４講　プレゼンテーションの技法
第５講　論文orレポート発表（1）
第６講　論文orレポート発表（2）
第７講　論文orレポート発表（3）
第８講　論文orレポート発表（4）
第９講　論文orレポート発表（5）
第10講　論文orレポート発表（6）
第11講　論文orレポート発表（7）
第12講　論文orレポート発表（8）
第13講　論文orレポート発表（9）

【評価方法】

発表態度、内容、ディスカッションの参画度合、出席で評価する。

【テキスト】

授業の途中に、適宜、資料を配布する。

専門演習Ⅳ

小池弘道

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

それぞれの学生が取り組んだ内容を授業において発表し、まとめができるように討議・指導していく。

【評価方法】

出席状況、演習での報告、およびレポート内容を総合的に評価する。

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

適宜紹介する。

専門演習Ⅳ

國信潤子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

基礎演習１、２、専門演習１、２、３で学習、リサーチしたことを踏まえて、論文執筆の継続。

各自の問題意識領域をさらに掘り下げる。

テーマは産業構造の変化と雇用機会均等、開発におけるジェンダー視点、職業にみるジェンダー区分、開発途上刻への開発協力とジェンダー視点など。

就職活動と並行して論文執筆。

リサーチ進行状況を各自がレジメ、資料を準備し、発表し、討議、コメントを学生相互が行う。

【評価方法】

出席状況、報告内容、討議貢献度、主体的参加度、期末レポート

専門演習Ⅳ

真田幸光

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

各授業で学生が順次発表を行い、議論を展開していく。

【評価方法】

平常点及び提出物で評価する

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献・資料】

特になし。

専門演習Ⅳ

島田舒一

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

第１～６回　資金調達とファイナンス理論について事例研究を通じて理解を深め、応用力をつけさせる。

第７～12回　企業経営とビジネスについての総合的な知識を習得させるため、ベンチャー企業の設立とそれに伴う課題への対処を事例研究中心に行う。

【評価方法】

参加状況、課題に対する取り組み、報告内容によって評価する。

【参考文献・資料】

ベンチャー企業株式公開への道（エンゼル証券株式会社、監査法人アイ・ピー・オー編著　清文社）

ベンチャー企業の経営と支援（早稲田大学アントレプレヌール研究会編　日本経済新聞社）

専門演習Ⅳ

霜田一敏

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

専門演習Ⅲでの研究成果を踏まえて、各人の研究を発展的に展開する。

1．前期で明確になった研究上の問題点を検討整理してその克服のために新たな資料の発掘と文献の購読を行う。
2．演習に参加している学生同士の検討と相互支援を行う。
3．最終レポート作成上の留意点や注意を行う。
4．共同研究としてまとめる場合は、その分担を明確にし、論理的統一性を保つよう指導する。
5．何度かの個人指導で修正を行い、最後に論文形式としてのレポートを作成し、提出する。

【評価方法】

研究論文としての完成度と独創性を評価する。

専門演習Ⅳ

杉本典之

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

この専門演習Ⅳの共通テーマも、専門演習Ⅲのそれと同じく、「企業会計の構造と機能ないし会計制度の国際化についての学習と論文の準備」である。

論文を卒業論文として作成することに挑戦する学生も、それ以外の学生も、各自が目指す論文のテーマと目次を定め、収集してきた参考文献や資料を駆使して論文の草稿を執筆し、その草稿を何度も書き直して論文を完成させる。そのような一連の作業の節目をとらえて、論文の進捗状況について複数回発表する。

【評価方法】

この専門演習の主役は学生自身に他ならない。よって学生である皆さんの授業活性化への貢献度によって成績を評価する。

【テキスト】

共通のテキストは指定しない。

【参考文献・資料】

必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、学生各人に対する個別指導の中で個別具体的に紹介・教示する。

専門演習Ⅳ

藤井正志

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

第１講～第12講　学生の選択するテーマに添って卒業論文の指導を行う。レポートを選択する学生に対してもテーマに添って指導を行う。

【評価方法】

出席状況と演習への取り組み姿勢から総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指定する。

専門演習Ⅳ

前川三喜男

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

有価証券報告書実例分析
新会計基準の実例研究
監査報告書の実例研究

【評価方法】

ゼミへの出席状況と発表の仕方、内容で評価

【テキスト】

有価証券報告書
監査小六法

専門演習Ⅳ

森 恒夫

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

専門演習Ⅲの計画をⅣにおいても引き続き行う予定

【評価方法】

出席状況及び平常点により評価

【テキスト】

演習時に指示

専門演習Ⅳ

森下允之

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業計画】

学生の関心度と重要性から、対象地域・国・テーマを学生ごとに選択させ、卒論に耐えられるような報告書を作成する。

【評価方法】

出席状況と演習への姿勢（自分の分のみでなく、他の学生の報告書への意見表明も含む）を総合的に評価する。

卒業論文・制作

浅井敬一朗

【授業の概要】

専門演習Ⅰ、Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業計画】

各自の卒業論文のテーマに沿って、下記の（1）～（4）の提出期限前に最低各２回、計８回以上のの中間報告を行う。必要に応じ個別指導を行う。

（1）５月上旬までに論文骨子の提出
（2）７月下旬までに論文概要の提出
（3）11月上旬までに第１稿の提出
（4）最終稿提出（12月中～下旬）

【評価方法】

卒業論文の内容および、中間報告のレポート内容、討論の状況により評価する。授業計画にある（1）～（4）を全て提出しなければ単位を認定しない。

【テキスト】

使用しない

【参考文献・資料】

必要に応じて紹介する

卒業論文・制作

浅野敬志

【授業の概要】

専門演習Ⅰ、Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業計画】

卒論の制作・発表を中心に、ゼミの総まとめを行う。

【評価方法】

卒論の内容およびその発表を考慮して決定する。

【テキスト】

卒論の内容に応じて必要な資料を配布する。

卒業論文・制作

石川雅之

【授業の概要】

専門演習Ⅰ、Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業計画】

個々人の卒論の進捗度合に応じて対処する。

【評価方法】

卒業論文によって評価する。

卒業論文・制作

石坂綾子

【授業の概要】

専門演習Ⅰ、Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業計画】

卒業論文テーマの決定、参考文献の収集と読解、論文の執筆を進める。論文骨子、論文概要、初稿作成の過程において個別指導を行い、完成度を高めていく。

【評価方法】

卒業論文によって評価する。

【テキスト】

必要に応じて学術論文の作成方法にかんするテキストを指示し、プリントを配布する。

【参考文献・資料】

卒業論文のテーマに対応して個別に指示する。

卒業論文・制作

石橋善弘

【授業の概要】

専門演習Ⅰ、Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業計画】

基礎演習、専門演習を通じて習得した知見をもとに、卒業論文を制作させる。また論文作製のための技術、論文口頭発表のための技術を習得させる。

【評価方法】

日常の勉学態度および作製された卒業論文の良否によって評価する。

卒業論文・制作

伊東俊彦

【授業の概要】

専門演習Ⅰ、Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業計画】

〈前期〉

・各自の研究計画書の作成と発表

・論文テーマの先行研究と第１次中間報告

〈後期〉

・論文テーマの研究と第２次中間報告

・論文の最終報告

・論文発表会

【評価方法】

出席点、ゼミへの貢献および論文の内容により評価する。

【テキスト】

テキストは適宜指示する。

【参考文献・資料】

各自の研究内容に応じて適宜指示する。

卒業論文・制作

上原 衛

【授業の概要】

専門演習Ⅰ、Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業計画】

卒業論文テーマの決定を行い、テーマに沿った資料・事例・データ・文献の収集・調査と分析方法について指導する。論文骨子の作成、論文概要の作成、初稿作成の過程に従い、学生各自に個別指導を実施する。

【評価方法】

卒業論文作成への取り組み姿勢、卒業論文内容により総合的に評価する。

研究の新規性・独創性、有用性に加え論旨の展開、従来研究の調査、研究成果の意義が明確であるかを重視する。

【テキスト】

指定しない。

卒業論文・制作

梅田敏文

【授業の概要】

専門演習Ⅰ、Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業計画】

卒業論文の作成について小グループごとに個別指導を行なう。
各種の提出期限を遵守して、学生は必要な書類を提出すること。

【評価方法】

論文の形式、内容の観点から評価する。

【テキスト】

特になし。

卒業論文・制作

小池弘道

【授業の概要】

専門演習Ⅰ、Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業計画】

個人別の指導を行なう。

【評価方法】

卒業論文により評価する。

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

適宜紹介する。

卒業論文・制作

國信潤子

【授業の概要】

専門演習Ⅰ、Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業計画】

1）卒論テーマの画定と研究方法の決定。
2）論文執筆方法の指導と論文構成作成
3）テーマの例
　雇用機会い均等法と実施状況
　女性管理職のキャリアコース
　男女の家族的責任
　国際開発協力におけるジェンダー視点　など

【評価方法】

完成論文による評価

卒業論文・制作

真田幸光

【授業の概要】

専門演習Ⅰ、Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業計画】

各授業に於いて学生各位に対して個別指導を実施する。

【評価方法】

卒業論文により評価する

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献・資料】

特になし。

卒業論文・制作

島田舒一

【授業の概要】

専門演習Ⅰ、Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業計画】

第１～３回　関心のある分野、課題の中から議論を通じて取り組み目的を明確にしたうえでテーマを選定する。

第４～12回　テーマに沿った参考文献・資料の収集、使い方について助言をしながら論文作成に取り組ませる。

第13～20回　論文の素案がまとまった段階で中間発表をさせ、不十分な箇所および全体の構成を修正のうえ、より充実した論文作成にあたらせる。

第21～24回　最終的な内容、資料などを点検のうえ論文を完成させる。

【評価方法】

課題に対する取組み、参考文献、資料の利用の仕方、論理の展開および論文内容などを総合的に勘案して評価する。

卒業論文・制作

霜田一敏

【授業の概要】

専門演習Ⅰ、Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業計画】

専門演習Ⅲ、Ⅳと絶えず関連させながら、発展的に研究を展開する。

1．各人の問題意識と目的に応じた卒業論文の書き方の指導を行う。
2．論文構成をどのようにしたらよいか、具体的な論文を事例を通して指導する。
3．各人の研究の進展と論文作成について具体的な作業を行う。
4．各章ごとの内容について集約する。
5．序章から順次執筆にかかる。その都度指導を行う。
6．中間まとめを行い、再度全体構成について検討を図る。
7．全体を書き上げ、見直し、数度の推敲を行う。
8．一冊の論文として完成させる。

【評価方法】

研究方法と論文構成について、また研究成果について評価する。

卒業論文・制作

杉本典之

【授業の概要】

専門演習Ⅰ、Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業計画】

杉本典之が担当する専門演習Ⅰないし専門演習Ⅳの共通テーマは、一貫して「企業会計の構造と機能ないし会計制度の国際化についての学習と卒業論文の準備」である。そのような共通テーマの下で卒業論文の作成に挑戦する学生は、５月中に自らの卒業論文のテーマを明確にし、夏休みが終わるまでに必要な参考文献や資料を収集し、秋には卒業論文の草稿を実際に執筆したうえで、12月初めまでに卒業論文を完成させるように努める。

学生各人による中間研究発表は、卒業論文作成のための上記作業の節目ごとに行う。つまり、少なくとも、卒業論文のテーマを絞り込んだ段階、参考文献や資料を収集して一読し終わった段階、そして、論文の草稿を一応書き上げた段階、のそれぞれの段階で中間発表する。

論文の書き方に関する解説書の学習は、すでに２年次の基礎演習の段階から学生各自が折々に心掛けてきたはずであるが、論文作成作業の具体的な進展に併行して改めて学習し直す。

【評価方法】

卒業論文の出来栄えによって成績を評価する。

【テキスト】

共通のテキストは指定しない。

【参考文献・資料】

必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、学生各人に対する個別指導の中で個別具体的に紹介・教示する。

卒業論文・制作

藤井正志

【授業の概要】

専門演習Ⅰ、Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業計画】

卒業論文の骨子の提出を求め、骨子に添って卒業論文の指導を行う。

【評価方法】

卒業論文に対する取り組み姿勢から総合的に評価する。

【テキスト】

指定しない

卒業論文・制作

前川三喜男

【授業の概要】

専門演習Ⅰ、Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業計画】

ゼミ生が選んだ卒論の内容について、研究の仕方、参考図書のアドバイスを行う

卒論内容の添削

【評価方法】

卒論の内容で評価

【テキスト】

なし

卒業論文・制作

森 恒夫

【授業の概要】

専門演習Ⅰ、Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業計画】

1．テーマの選択
2．テーマへのアプローチの仕方について
3．テーマの論点
4．論文の構成

【評価方法】

論文の創造性及び論理性などを勘案して評価

卒業論文・制作

森下允之

【授業の概要】

専門演習Ⅰ、Ⅱを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習Ⅲ、専門演習Ⅳにおいての研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業計画】

和文のみならず英文資料を読解、利用しながら、質の高い論文作成を指導。この課程で、英語の専門用語の習得も目指す。

【評価方法】

卒論への姿勢（自分の分のみでなく、他の学生の卒論への意見表明も含む）および卒論の内容と水準などを総合的に評価する。

インターンシップ

上原 衛

【授業の概要】

2週間程度の短期間であるが、企業に出向き実際の会社での業務に触れて、実社会での活動を体験する。これまで主として座学によって学んだ理論や事柄が、どのように応用されているかを理解する。また、実社会でビジネスパーソンとしてどのような心構えを持つべきかを自分なりに考えかつ体得する。

【授業計画】

原則として、夏期1～2週間程度の期間、企業や公共機関でインターンシップ研修を実施し、実社会を体験する。その前後に、下記の事前講義および事後の研修報告と成果発表を行い、研修の準備ならびに総括を行う。

1．ガイダンス（インターンシップについて、心構え等）
2．職業と人生について
3．各種業種について（学生各自の調査と発表も実施）
4．日本の企業経営について
5．ビジネスマナー講座
6．研修後の報告レポートの作成と成果報告（発表会を実施）

【評価方法】

出席状況、企業での実地研修状況、成果報告書の作成と発表の3つにより総合的に評価する。

【テキスト】

随時資料を配布する。

資本市場と証券投資（野村證券提供講座）

上原 衛

【授業の概要】

現在、証券業務に従事している各分野のプロが、基礎から最先端かつ専門的な資本市場と証券投資について実践的な講義を行います。直接金融への期待が高まる現在、資本市場に求められる役割とは何かについて考え、金融ビッグバン以降、激変する日本の資本市場の全容と投資とリスク・リターンの考え方、株式投資・債券投資・分散投資・グローバル証券投資・分散投資の方法などを実務の観点から解説します。

【授業計画】

（1）ガイダンス
（2）経済情報の捉え方
（3）経済成長と金融資本市場
（4）これからの日本と資本市場の果たす役割
（5）証券投資のリスク・リターン
（6）ポートフォリオ・マネジメント
（7）債券市場の役割と投資の基礎知識
（8）株式市場の役割と投資の基礎知識 1
（9）株式市場の役割と投資の基礎知識 2
(10) 投資信託の役割とその仕組み 1
(11) 投資信託の役割とその仕組み 2
(12) 資本市場における投資家心理
(13) 資産運用とライフプランニング
※授業はオムニバス形式で毎回講師が来て行われる。

【評価方法】

出席状況と毎回の授業で提出するレポートにより総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じてそのつど関連資料を配布する。

【参考文献・資料】

証券投資の基礎（野村證券投資情報部編　丸善株式会社）
日本の資本市場（氏家純一編　東洋経済新聞社）

教職入門

後口伊志樹

【授業の概要】

本講義は、教員という職業がどのような意義を持っているのか、学校での教師の職務と役割がどのようなものであるかを、学生の被教育体験を生かしながら具体的に解説する。職務の個々の内容について、現在の中学高校の実態を踏まえて詳説する。その上で、今日の学校が抱えている問題解決の方途や、中教審、教課審の答申を学び、求められている教師像を明らかにすることによって教職につくかどうか、自らの適性を見極めて決定するための情報と機会を提供したい。

【授業計画】

1　教育現場はいま
2　教師像の変遷
3　現代の理想的教師像
（1）　教科指導者としての教師
（2）　特別活動の指導者としての教師
（3）　教師とカウンセリング
（4）　学級経営者としての教師
（5）　教師と校務
（6）　共生社会における教師の仕事
4　市民としての教師
5　子どもの未来を開く魅力ある人間としての教師
6　まとめ

【評価方法】

レポート、期末考査及び出席率を総合する。

【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

教職入門

小栗正彦

【授業の概要】

本講義は、教員という職業がどのような意義を持っているのか、学校での教師の職務と役割がどのようなものであるかを、学生の被教育体験を生かしながら具体的に解説する。職務の個々の内容について、現在の中学高校の実体を踏まえて詳説する。その上で、今日の学校が抱えている問題解決の方途を、中教審、教課審の答申を学び、求められている教師像を明らかにすることによって教職につくかどうか、自らの適性を見極めて決定する情報と機会を提供したい。

【授業計画】

1　教育現場はいま
2　教師像の変遷
3　現代の理想的教師像
（1）　教科指導者としての教師
（2）　特別活動の指導者としての教師
（3）　教師とカウンセリング
（4）　学級経営者としての教師
（5）　教師と校務
（6）　共生社会における教師の仕事
4　市民としての教師
5　子どもの未来を開く魅力ある人間としての教師
6　まとめ

【評価方法】

レポート、期末考査及び出席率を総合する。

【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

教師論

佐藤実芳

【授業の概要】

日本おける明治維新以降の教員養成制度について、教員免許・資格、教員に求められていた資質等の歴史を学習する。

多様化と個性化、国際化、情報化、高学歴化等の現代社会の急激な社会変化の中において期待される教員像を求め、学生の被教育体験を交えて模索することによって、教職への理解を深め、目的意識をもって教職への道を歩む人材の育成を目指す。

【授業計画】

1．日本における教員養成の制度
（1）教員養成の歴史と現在（2）教職課程の仕組（3）教員の採用
2．教師について考える
（1）教科指導（2）生徒指導（3）教員の研修
3．種々な教師に学ぶ

【評価方法】

課題の提出、学習態度、出席状況などにより、総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

教育原理

佐藤実芳

【授業の概要】

高等教育機関への高い進学率を誇っている日本では、教育といえば学校教育を思いうかべることが多いであろう。しかし、学校教育を受けるのは、人生の一時期にしかすぎない。しかも学校教育をめぐり様々な問題が生じている今日、学校とは何か、教育とは何か、そのあるべき姿を真剣に考える必要がある。

本講義では、教育の歴史及び教育思想から現在の教育問題まで幅広く紹介する中で、教育の本質と目的を中心に教育とは何かを考察していく。

【授業計画】

1．教育とは何か
2．人間と教育
動物学からみた人間の特殊性/人間の成長と環境/教育の重要性/人間形成の場
3．教育の本質
注入主義（ソフィスト～本質主義）/開発主義（ソクラテス～進歩主義）
4．教育の目的
教育目的とは/教育目的の歴史的変遷（古代ギリシャ～現代）
5．現代の教育

【評価方法】

定期試験、課題の提出、受講態度などにより総合的に評価する。

【テキスト】

資料を配布する。

【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

教育思想史

梅村敏郎

【授業の概要】

教育は、人間の本質的な営みの一つであって、既に古代から哲学者や思想家の考察の対象となってきた。これらの思想は、思想家たちが生きた時代や文化の主要な潮流や思想家自身の思考方法の特徴によって極めて多様な思想や理論が形成された。

この授業では、古代から現代まで各時代を代表するような偉大な教育思想を時代順に辿るのではなくて、現代の教育についての基本的な考え方や主要な概念に直接的な影響を与え、そのため現代教育と直接的なつながりを持つと思われる17世紀のコメニウスを出発点として、それ以後今日に至るまで最も重要と考えられてきた教育者たちの思想を取り上げる。

その際、学生はそれらの思想についての他人の解釈や解説を聴くことも必要ではあろうが、むしろそれらの思想と直接に対決することがより大切である。

専門的な研究者にとっては、それらの思想はそれが書かれた元の言語で読まれるべきであろうが、初歩の学生は先ずそれらの書物の良い日本語訳によって、これらの思想に直接触れることが必要である。

【授業計画】

1．教育思想史を勉強することの意義
2．教育思想史を17世紀から取り扱う理由
3．コメニウス
4．ルソー
5．ペスタロッチ
6．ヘルバルト
7．フレーベル
8．デューイ
9．教育思想と教育実践

【評価方法】

評価はリポートの提出、あるいは資料持ち込み自由の筆答試験による。

【テキスト】

特定のテキストは使用しない。

【参考文献・資料】

参考文献は授業中に適宜紹介する。

欧米教育文化史

渡辺かよ子

【授業の概要】

欧米教育文化史における「近代化」の意味を、子どもの生活の変遷に着目しつつ、比較教育史的に明らかにし、今日の世界の教育文化と教養の問題を検討する。

【授業計画】

1．欧米教育文化史の視点と課題
2．中世後期の欧米教育文化とルネサンス、宗教改革
3．近代教育文化の生誕と展開（啓蒙思想と市民革命、産業革命）
4．大学の誕生と展開
5．西洋的教養と学校制度の確立
6．欧米教育文化と今日の世界の教育

【評価方法】

レポート。

【テキスト】

子どもの教育の歴史（江藤恭二他編　名古屋大学出版会）

【参考文献・資料】

子供とカップルの美術史（森洋子　日本放送出版協会）
歴史のなかの子どもたち（森良和　学文社）
教養の復権（沼田裕之他　東信堂）

教育心理学Ⅰ

小池理穂

【授業の概要】

中学・高校生についての理解を深めるために乳幼児期から青年期までの発達の姿を概観し、発達課題について考えると共に、障害児への理解を通して発達の可能性について考えていく。その上で、教育を受ける側と教育する側との相互の人間関係の中で展開される「教育」の営みについて、学習のメカニズムや動機づけの理論を通して考え、心理学的知見を実践の中に生かしていくことを目的としたい。

【授業計画】

1．教育心理学を学ぶということ
　・教育の機能と教育心理学の位置づけ
2．発達について考える
　・生涯発達の視点
　・障害の意味と発達可能性
　・発達段階と発達課題
　・認知の発達
3．学習の過程を考える
　・学習の成立過程
　・学習における知識の役割
　・学習意欲を育てる
　　外発的動機づけと内発的動機づけ/原因帰属をめぐって/知的好奇心の喚起/報酬の意味/目標のありかた

【評価方法】

筆記試験またはレポートに加えて、授業への参加関与度を考慮する。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

教育心理学Ⅱ

冨安玲子

【授業の概要】

人間を発達可能性のある存在として生涯発達の視点から考えながら、一人ひとりが自分の教育観・発達観の基礎づくりをすることを目的にしたい。自己意識の発達などのプロセスを辿りながら、教育的働きかけとの関わりを考え、今日的問題への理解を深めると共に、自分自身の自己形成のプロセスへの関心も深め、自己理解を促進していくことも視野にいれて学んでいく。

【授業計画】

1．発達の心理学を学ぶ/発達の心理学から学ぶ
2．青年期の意味
3．発達と教育
4．「自分」の諸相
5．「自分でない」世界の認識から
6．第一「反抗」期の意味
7．自我と他我
8．他律的規範への順応
9．第二の誕生
10．アイデンティティの確立
11．生涯発達の視点と生き方
12．自分探しの旅と人間関係

【評価方法】

期末試験によるが、授業への参加関与度を考慮する。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

障害児の教育

加藤文子

【授業の概要】

障害児についての基本的理解をし、障害児の教育的環境、福祉施設の役割などの実情を理解する。また、就学指導の仕組みを理解し、特別支援教育の現状と課題を認識する。

【授業計画】

1 心身障害児の理解
2 心身障害児の種類と程度
　心身障害児とは
　学校教育で対象とする障害児と児童福祉施設で対象とする障害児
　視覚・聴覚・肢体不自由・知的障害・病弱・虚弱児等の程度と発生原因
　言語障害・情緒障害・重複障害児の発生原因と教育
3 心身障害児の早期教育、後期中等教育の重要性
　なぜ早期発見、早期教育が必要か
　社会自立に向けた後期中等教育の重要性
4 心身障害児の就学指導の仕組み
5 まとめ

【評価方法】

出席状況・授業態度・レポート・期末試験の成績により総合的に評価する

【テキスト】

テキストは使用せず。必要に応じて資料を配布する

教育制度

佐藤実芳

【授業の概要】

社会の変化にともなう学校の誕生や変化に基づき、社会において学校教育が果たしてきた役割について考えるとともに、学校教育制度の類型的比較及び学校教育制度の歴史的変遷から、学校教育制度の基本的な事項を理解する。さらに、学校経営や教育行政に関する規定がある教育法規を取り上げ、現在の日本の教育制度の特徴を考察していく。

【授業計画】

1．教育制度の意義
2．現代学校教育制度の起源
3．学校教育制度の類型
4．日本の学校教育の変遷
5．現在の日本の学校教育制度と教育行政制度
6．外国の学校教育制度

【評価方法】

定期試験、課題の提出、受講態度などにより総合的に評価する。

【テキスト】

資料を配布する。

【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

学級経営

前田勝洋

【授業の概要】

学級崩壊、担任不信等学校を取り巻く教育環境が問題となっている今日の教育状況を正しく理解し、学級担任として、どのように生徒に接したらよいか、どのようにして生徒の信頼を回復するのか探求するとともに、楽しい、生き生きした学級作りを具体的な事例から求めて行きたい。

【授業計画】

小学校、・中学校の学級経営事例に学びながら、教師の資質向上を図る方策を探っていきたい。
（1）学級づくりと学級こわしの関係
（2）生徒理解と学級担任の役割
（3）共感的学級経営の実践
（4）成就型教育観と参加型教育観
（5）学級担任と言葉の問題
（6）カルテ（個人記録）と一人ひとりを生かす経営
以上のような視点を軸にしながら、互いに事例について意見交換を行うなど、担任教師としての資質を磨きたい。

【評価方法】

毎回の受講感想レポートと「事例に対する意見記述」を中心に行いたい。

【テキスト】

後日、必要に応じて採用し、活用する。

比較教育論

渡辺かよ子

【授業の概要】

進展する国際化・情報化の中にあって、人間は次世代にどのような夢や願いを託すことができるのか。教育は自らが社会問題であると共に、貧困や不平等などの社会問題に対する有力な解決方策でもある。本講では、日本を含む各国の教育と全世界的教育の状況の比較研究を通じて、日本の教育の特徴と現代教育の課題を明らかにしていく。

【授業計画】

1．比較教育学の基礎理論
2．社会発展論と教育
3．近代化と各国の教育制度（識字と就学）
4．「発展途上」国と「先進」国の教育の実態
5．近現代日本の教育制度の成立と特徴
6．文化と教育、異文化交流としての教育
7．人権としての教育
8．比較教育と教育改革

【評価方法】

レポート。

【テキスト】

比較教育学の基礎（田中圭治郎編著　ナカニシヤ出版）

【参考文献・資料】

比較国際教育学（石附実編著　東信堂）
世界の学校（二宮晧編著　福村出版）
多文化教育（中島智子編著　明石書店）
学歴社会　新しい文明病（ドーア著　岩波書店）
被抑圧者の教育学（フレイレ著　亜紀書房）
国際歴史教科書対話（近藤孝弘著　中公新書）
世界の教育開発（米村明夫　明石書店）

教育課程

後口伊志樹

【授業の概要】

特定の発達段階にいる子どもを対象として、各レベルの学校がその教育目的・目標を十分に達成するために、子どもにどの種の教科・教材をどのように学習させるか、またどの種の活動をどう体験させるかについての全体的な教育計画である教育課程(カリキュラム)について学習する。

なお、各学校が教育課程を編成する場合に、広範な人間の文化領域のなかから、子どもが学習・体験すべき内容・要件を選択し組織化する原理が何であるかという問題についても焦点をあてる。

【授業計画】

1．教育課程とは
（1）教育課程の原理と理論
（2）教育課程の構造と種類
（3）教育課程の歴史的変遷
2．諸外国の教育課程の概観
3．わが国の教育課程
（1）戦前の教育課程の構造
（2）戦後の教育課程の構造
（3）現在の中学校の教育課程の改正の趣旨と構造
（4）現在の高等学校の教育課程の改正の趣旨と構造
4．総合的な学習の時間の設定の趣旨と具体的な展開
5．まとめ
（1）教育課程研究と教師
（2）望ましい教育課程の展開

【評価方法】

レポート及び期末考査、出席率を総合する。

教育課程

小栗正彦

【授業の概要】

特定の発達段階にいる子どもを対象として、各レベルの学校がその教育目的・目標を十分に達成するために、子どもにどの種の教科・教材をどのように学習させるか、またどの種の活動をどう体験させるかについての全体的な教育計画である教育課程(カリキュラム)を学習する。

なお、各学校が教育課程を編成する場合に、広範な人間の文化領域のなかから、子どもが学習・体験すべき教育内容を選択し組織化する原理が何であるかという問題に焦点をあてて教育課程について考察する。

【授業計画】

1．教育課程とは
（1）教育課程の原理と理論
（2）教育課程の構造と種類
（3）教育課程の歴史的変遷
2．諸外国の教育課程の概観
3．わが国の教育課程
（1）戦前の教育課程の構造
（2）戦後の教育課程の構造
（3）現在の中学校の教育課程の改正の趣旨と構造
（4）現在の高等学校の教育課程の改正の趣旨と構造
4．総合的な学習の時間の設定の趣旨と具体的な展開
5．まとめ
（1）教育課程研究と教師
（2）望ましい教育課程の展開

【評価方法】

レポート及び期末考査、出席率を総合する。

商業科教育法Ⅰ

宮部幸雄

【授業の概要】

高等学校学習指導要領の改定の趣旨とその内容を学習し、教科指導に必要な基本的な知識と技法を指導する。

【授業計画】

1　学習指導要領と商業教育
（1）学習指導要領の性格及び構成
（2）商業の目標・組織・学科
2　教育課程の編成
3　指導計画の作成と内容の取扱い
年間指導計画・学習指導案の作成
4　各科目の内容とねらい
「ビジネス基礎」「課題研究」「総合実践」
5　授業の具体的展開
教材作成、AV機器の利用、学習評価、副教材の活用

【評価方法】

授業内で発表する。

【テキスト】

商業科教育法　(吉野弘一　著　実教出版株式会社)

商業科教育法Ⅱ

宮部幸雄

【授業の概要】

商業科教育も国際化、情報化、サービス経済化の進展に対応しその内容が変化してきた現実をふまえ、各科目群の教育目標とその具体的な展開について学習し、教科指導に必要な知識や指導技術の向上を図る。

【授業計画】

1　学習指導と評価
（1）学習指導の一般原則
（2）学習指導の形態と方法
（3）商業教科の評価
2　各科目の内容とねらい
流通ビジネス科目群、国際経済科目群、簿記会計科目群、経営情報科目群
3　資格取得指導の現状と課題
4　商業高校における進路指導の視点　進学・就職
5　商業教育の将来

【評価方法】

授業内で発表する。

【テキスト】

商業科教育法（吉野弘一　著　実教出版株式会社）

情報科教育法Ⅰ

松薗重弘

【授業の概要】

本授業においては、高度情報化社会における学校教育における情報科教育の意義、役割を認識し、情報科の学習指導要領に示された教育の目的を理解するとともに、情報科担当者に要求される教育目標達成に必要な基礎的な知識、技能について実習を織りまぜながら学習する。授業はすべてコンピュータ実習室で行なう。

教育実習に参加する学生がある場合には、授業計画を変更することがある。

【授業計画】

1．情報科教育の史的展開と意義の概観
2．情報倫理、セキュリティの指導法
（1）情報科社会に正しく、主体的に参画する態度
（2）情報の受信と発信における個人の責任
3．高度情報化社会における職業倫理、職業観の指導法
（1）高度情報化の進展と職業及び職業人としてのあり方
（2）情報に関するスペシャリストに求められる諸資格
4．コンピュータ及び情報に関する基本的な知識・技能の指導法
5．情報システムの設計、管理、運用に関する知識・技能の指導法
6．情報通信ネットワークの構築、運用管理、活用に関する知識・技能の指導法
7．マルチメディアを活用した表現・処理に関する知識・技能の指導法

【評価方法】

提出された報告書により評価する。

【テキスト】

高等学校学習指導要領解説（情報編）（文部省　海隆堂出版　2000）
全員必須とする。

【参考文献・資料】

随時紹介する。

情報科教育法Ⅱ

松薗重弘

【授業の概要】

本授業においては、情報科教育法Ⅰにおいて学習した事項について、授業者として、実際の学校の授業でどのように展開するかを学習することを目的として、効果的な授業を実施するに必要な、学習指導案、教材・教具の開発と活用、教育方法について、授業計画の作成と模擬授業を行ない実践的な学習を実施する。

授業はすべてコンピュータ実習室で行なう。

【授業計画】

1．情報Aの指導法
（1）教育目標と教育計画
（2）教材・教具の活用と開発
（3）学習指導案の作成と模擬授業の実践
2．情報Bの指導法
（1）教育目標と教育計画
（2）教材・教具の活用と開発
（3）学習指導案の作成と模擬授業の実践
3．情報Cの指導法
（1）教育目標と教育計画
（2）教材・教具の活用と開発
（3）学習指導案の作成と模擬授業の実践
4．専門教科「情報」の指導法
（1）教育目標と教育計画
（2）教材・教具の活用と開発
（3）学習指導案の作成と模擬授業の実践
5．総合的な学習の時間と情報化教育について、情報機器を活用した効果的な授業の具体的な展開
6．情報化技術の発展と学校における情報教育のあり方

【評価方法】

提出された学習指導案、レポート等により評価する。

【テキスト】

高等学校学習指導要領解説（情報編）（文部省　海隆堂出版　2000）
全員必須とする。（前期と同じテキストです。）

【参考文献・資料】

随時紹介する。

特別活動指導法

小林春治

【授業の概要】

中学校・高等学校の特別活動の変遷とその具体的な活動として学級活動、ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事についての指導法を考察、演習する。

そのなかで望ましい人間関係、基本的な生活習慣の形成を通して個人及び社会の一員としての在り方、生き方に関する指導の充実を図ることを学習の目標とする。

【授業計画】

1．教育課程の位置と目標
特別活動は、各教科、道徳とともに教育課程を構成する領域の一つであり、これらそれぞれの充実と相まって、中学校・高等学校の教育目標を達成することができることを学習する。
2．戦後の教育状況と教育改革
敗戦直後の教育状況と教育基本法・学校教育法の施行（六・三・三制の実施）にいたる大要を、GHQのとった教育政策にも注目しながら学習する。
3．特別活動の変遷
特別活動の変遷を中学校・高等学校の学習指導要領を通して論じ、その社会的背景についても具体的な資料に基づいて学習する。
4．特別活動の基本となる指導法
中学校の学級活動、高等学校のホームルーム活動が、生徒会活動、学校行事などと相互に関連していることの学習を通して、これらの集団生活の在り方、心身ともに健康で安全な生活習慣の形成などを基本にした指導法を、現状にも注目しながら考察する。

【評価方法】

期末試験の成績とレポートの評価及び出席率を総合する。

【テキスト】

高等学校学習指導要領解説　特別活動編（文部省　東山書房　予価130円）

特別活動指導法

不破民由

【授業の概要】

中学校・高等学校の特別活動の変遷とその具体的な活動として学級活動、ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事についての指導法を考察、演習する。

そのなかで望ましい人間関係、基本的な生活習慣の形成を通して個人及び社会の一員としての在り方、生き方に関する指導の充実を図ることを学習目標とする。

【授業計画】

1．自由度の高い特別活動の可能性
2．特別活動の歴史的変遷
3．学級活動
4．生徒会活動
5．学校行事
（1）儀式的行事　（2）学芸的行事　（3）健康安全・体育的行事
（4）遠足・集団宿泊的行事　（5）勤労生産・奉仕的行事　等

以上の内容の他に、各自のサークル、ゼミ、学園祭等の大学における活動を話題としてとり入れる。

【評価方法】

数回のレポート

【テキスト】

どくとるマンボウ青春記（北杜夫　新潮文庫）

【参考文献・資料】

特別活動（高旗正人・倉田侃司編著　ミネルヴァ書房）
教科外活動を創る（折出健二他編　労働旬報社）
<教育>の誕生
（フィリップ・アリエス　中内敏夫・森田伸子訳　新評社、藤原書店）
<子供>の誕生
（フィリップ・アリエス　杉山光信・杉山恵美子訳　みすず書房）
教養主義の没落（竹内洋　中公新書）
立身出世主義（竹内洋　NHKライブラリー）
立志・苦学・出世（竹内洋　講談社現代新書）
日本の近代12　学歴貴族の栄光と挫折（竹内洋　中央公論新書）
近現代日本の教養論（渡辺かよ子　行路社）
学級経営の歴史（志村廣明　三省堂）
「勉強」時代の幕開け（江森一郎　平凡社）
運動会と日本近代（吉見俊哉他編　青弓社）
教育には何ができないか（広田照幸　春秋社）
近代日本の公民教育（松野修　名古屋大学出版会）
教育に関する私の方法叙説（不和de民由　新風舎）

他

教育方法

霜田一敏

【授業の概要】

今日親も教員も子供の本当の姿が見えなくなり、確かな指導の手だてが見出せず苦悩している。この現状を打破するためには、子供理解を深め、子供の立場に立って教材を開発し、教育方法を構築し、実践する力量が求められている。

テキストを中心に、ビデオ教材、学生同士の討議を加えた参加型授業形態で行い、教員としての教育的力量を培う教育方法を解明したい。

【授業計画】

1．人間回復の学力と教師の在り方
（1）中学・高校における学力論と教師論の検討
（2）生徒の思考の発展を目指す授業方法
（3）生徒の自主的な学習を育てる学習指導法
（4）生徒の側に立った学習指導技術
2．情報機器及び教材の活用の方法
（1）情報機器の特色とその効果的な利用方法
（2）視聴覚教材の特色とその効果的な活用方法
（3）メディアの進歩と新しいリテラシーの育成方法
3．学習者にとって個を生かす学習集団とは
（1）多様化した生徒への対応の仕方
（2）中学校における個を生かす学習集団
（3）高等学校における個を生かす学習集団

【評価方法】

学生の積極的な授業参加と毎時提出するミニレポート、期末に行う論文試験等によって評価する。

【テキスト】

子どもの側に立つ授業論（霜田一敏著　明治図書　2,370円）

生徒指導（進路指導を含む）

加納篤憲

【授業の概要】

生徒指導は、学習指導以外のいっさいの教育的指導を指すが、そのねらいは、生徒一人一人が主体的・自律的な人間としての自己実現をなしとげることができるよう、自己指導能力と自己指導的態度すなわち自己教育力を育成するところにある。

したがって、授業内容は、生活指導・進路指導・集団指導（HRなど）・個別指導など多岐にわたるが、そのほかにも、青年期の特徴・教育観や人間観の歴史などの学習を通じて、生徒理解と教師としての在り方にもふれる。

【授業計画】

1．現代日本における青年期の特徴と問題点
2．日本における教育観の変遷と21世紀の教育観
3．生徒指導の基本的観点と今日的課題
4．生徒指導の方法――集団指導（HR指導を中心に）
5．生徒指導の方法――個別指導・問題行動をもつ生徒の指導
6．進路指導の基本的観点と進学・就職指導
7．人間の在り方を求めて――ヨーロッパ・アジア・日本

以上の項目について学習するが、生徒たちが生きている日本や世界の情勢にも、常に関心を持つことが大切である。

【評価方法】

期末試験、レポートの成績と出席状況を総合して評価。

【テキスト】

自作プリント教材（付資料）

【参考文献・資料】

学期始めに課題図書数冊を指定。『教師をめざす若者たち』（大橋功）など。

生徒指導（進路指導を含む）

小栗正彦

【授業の概要】

生徒指導を管理監督、非行の防止といった消極的な視点からではなく、21世紀に生きる青少年の健全な育成を目指す。個人の尊厳と人格を尊重した生徒指導により生徒の生きる力を養う生徒指導の在り方を求める。

進路指導においては、その理念及び目的を具体的に学習する。

これらの学習をとおして、生徒指導にあたる教員の在り方及び人間観について具体的に指導する。

【授業計画】

1．生徒指導
現代社会における構造変化に注目し生徒指導を考える。
（1）社会集団の教育機能の低下と学校における生徒指導の役割
（2）青少年非行と矯正教育
（3）中学校における生徒指導の在り方と留意点
（4）高等学校における生徒指導の在り方と留意点

2．進路指導
進路指導の基本理念及びその目的を学習する。
（1）進路指導における教員の在り方と留意点
（2）進路に関する情報伝達と進路相談
（3）中学校における進路指導の在り方と留意点
（4）高等学校における進路指導の在り方と留意点

【評価方法】

期末試験の成績と、レポートの評価及び出席率を総合する。

教育相談（カウンセリングを含む）

冨安玲子

【授業の概要】

教育相談の役割が認識されるようになった背景からその必要性を考え、教育相談への理解を深めて実践につなげていきたい。教育相談は生徒一人ひとりに関心をもつところから始まる。そこで生徒理解のあり方や不適応行動への対応について考えたい。また、傾聴の大切さを中心にして情報提供や助言の仕方なども含めた面接の進め方を学び、カウンセリングの基礎知識も併せて学んでいく。

【授業計画】

1．今、なぜ「教育相談」「カウンセリング」か
2．「自分」は他者との関係の中で育つ
3．教師- 生徒の相互影響過程
4．生徒理解
5．学校における教育相談
6．教育相談の進め方
7．相談とカウンセリング
8．適応と不適応
9．問題行動のとらえ方とその対応
10．不登校を考える
11．いじめを考える
12．非行を考える

【評価方法】

期末試験によるが、授業への参加関与度を考慮する。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

教育相談（カウンセリングを含む）

小池理穂

【授業の概要】

教育相談の役割が認識されるようになった背景からその必要性を考え、教育相談への理解を深めて実践につなげていきたい。教育相談は生徒一人ひとりに関心をもつところから始まる。そこで生徒理解のあり方や不適応行動への対応について考えたい。また、傾聴の大切さを中心にして情報提供や助言の仕方なども含めた面接の進め方を学び、カウンセリングの基礎知識も併せて学んでいく。

【授業計画】

1．今、なぜ「教育相談」「カウンセリング」か
2．教師と生徒の人間関係
　・「自分」は他者との関係の中で育つ
　・教師ー生徒の相互影響過程
　・生徒理解
3．教育相談
　・学校における教育相談
　　教育相談の位置づけ
　　教育相談の特質
　・教育相談の進め方
　　カウンセリングの基礎
4．学校という生活環境と適応
　・適応と不適応
　・問題行動のとらえ方とその対応
　・学校への不適応を考える
　・非行・いじめを考える

【評価方法】

筆記試験またはレポートに加えて、授業への参加関与度を考慮する。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

カウンセリング

冨安玲子

【授業の概要】

我々が人の話を傾聴するとき、その話を自分にとって都合のよいように切り取って聞いているか、反対に自分に都合の悪い部分を切り捨てて聞いているか、という事実がある。そうした事実を体験的に理解し、傾聴について学んでいく。ロジャースのいう受容、共感、自己一致の中でも受容と共感に力点が置かれてきたように思われるので、自己一致の重要性についても考えていきたい。

【授業計画】

「教育相談」での学習を更に進めて、実習を取り入れながら、「聴く」ことの意味と「聴く」人である自分について考えていきたい。

1．教育相談とカウンセリングを巡って
2．カウンセリングの歴史
3．カウンセリングの人間観
4．カウンセリングの理論
5．カウンセラーに必要な基本的態度・行動
6．共感的理解のエクササイズ
7．正確に「聴く」とは
8．カウンセリングの実際例
9．話しやすさの源は聴き上手：かかわり技法
10．応答訓練
11．ロールプレイ
12．カウンセリングにおける諸問題

【評価方法】

期末試験とロールプレイ・レポートに、授業への出席・関与度を加えて評価する。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

総合演習

小栗正彦　後口伊志樹　加藤文子　佐藤実芳
霜田一敏　冨安玲子　渡辺かよ子　羽場俊秀

【授業の概要】

社会構造や家族構造の変化する現代社会において、青少年をとりまく現実的な課題について分析及び検討することにより、総合的な見地に立って未来に生きる中学生、高校生をどのように教育するか、その方法を探究し、総合的な指導力を備えた教員の育成をめざし、次の７テーマに別れて演習を行なう。（各テーマ20名以内）

（1）学校におけるクライシス・マネージメントの問題（後口伊志樹）
（2）みんなの学校問題（小栗正彦）
（3）福祉ー障害のある人も健常な人も共に生きるコミュニティについてー（加藤文子）
（4）社会と子育て（佐藤実芳）
（5）高齢者福祉の実態と未来（霜田一敏）
（6）ジェンダーと教育（冨安玲子）
（7）生涯学習における学校（渡辺かよ子）
（8）国際化を考える

【授業計画】

※印は後期日程（於　星ヶ丘）

1．全体、各テーマ別　８月５日　※１月10日
　（1）総合演習とは、これからのすすめ方
　（2）各テーマの概要説明（各担当者）
　（3）希望テーマ提出、テーマ別編成
　（4）各テーマ別に課題設定と学習法の指導
2．8月26日　※２月10日
　課題レポートの提出（必要部数の印刷）
3．各テーマ別　９月２日　※２月17日
　（1）課題レポートについて報告（１人10～15分）
　（2）質疑応答、問題点について討議
4．各テーマ別　９月９日　※２月24日
　（1）問題点について分析検討
　（2）グループとして課題について整理、代表者の選出
5．全体　９月16日　※３月３日
　（1）グループ代表者の発表（１名15～20分）
　（2）担当教員の指導
　（3）感想文の作成と提出

【評価方法】

レポートと感想文、出席状況によって総合的に評価する。

教育実習指導（介護体験事前指導を含む）

加藤文子

【授業の概要】

教育実習前の指導として、学校教育全般にわたる基本的理解並びに教育実習の意義、実習生としての望ましい態度・技能を習得する。また、介護体験実習にむけて個人の尊厳、社会連帯の理念に関する認識を深めさせる。

【授業計画】

1．教育実習の意義と目的
　・前年度実習者からのアンケート結果
　・「先輩からの一言」
2．教育実習の内容と方法
　・教育実習の領域
　・教育実習の方法
3．教育実習記録
　・実習記録の意義
　・実習記録の方法
4．授業研究
　・教材研究、教具の意義
　・学習理解を深めるための発問・板書の活用方法
5．教育実習についての全般的諸注意並びに事後指導
6．介護体験事前指導
　・社会福祉施設等の理解と社会連帯の理念
　・特別支援教育諸学校教育の理解
　・障害児（者）介護への心構え
7．介護体験事後指導
8．まとめ、アンケート実施

【評価方法】

毎時間の授業態度、課したレポート内容、期末試験の結果（実習・体験評価を参考）により総合的に評価する。

【テキスト】

教育実習指導では使用せず、必要に応じて資料を配布。
介護体験事前指導では、介護体験ガイドブック「フィリア」（全国特殊学校長会編著　ジアーズ教育新社）使用。

教育実習指導（介護体験事前指導を含む）

宮部幸雄

【授業の概要】

教育実習前の指導として、学校教育全般にわたる基本的理解並びに教育実習の意義、実習生としての望ましい態度・技能を習得する。また、介護体験実習にむけて個人の尊厳、社会連帯の理念に関する認識を深めさせる。

【授業計画】

1．教育実習の意義と目的
2．教育実習の内容と方法
3．教育実習記録
4．授業研究
・教材研究、教具の意義
・学習理解を深めるための発問・板書の活用方法
5．教育実習についての全般的諸注意並びに事後指導
6．介護体験事前指導・事後指導

【評価方法】

授業内で発表する。

【テキスト】

教育実習を成功させよう　2005年版（小松喬生・次山信男編　一ツ橋書店）

教育実習Ⅰ

加藤文子

【授業の概要】

教科に関する専門科目及び教職に関する専門科目で学習した成果を実践し、検証する機会である。

実習校での３週間の教育実習を通じて、教師という専門職としての自覚と誇りを高めるとともに、生徒から親愛と信頼の念をもって迎えられる実習生となるよう、努力と工夫をして３年間の成果を存分に発揮してほしい。

【授業計画】

実習校において、教師としての仕事を行う。

（1）学級担任として
朝の打合せ、STの諸連絡と生徒観察にはじまり、帰りの清掃指導にいたるまでの仕事内容を理解し、生徒指導にあたる。
また、道徳教育、総合的な学習の指導にあたるとともに学級事務を担当する。

（2）教科担任として
前半においては、指導教官の授業参観と授業案の作成及び教材の準備を行う。
後半においては、授業案にもとづいて授業を実施し、指導教官の指導と助言をえて、授業をより充実させるよう努める。

（3）特別活動として
学級活動、生徒会活動、学校行事、クラブ・部活動に積極的に参加する。

【評価方法】

実習校の評価（生徒指導、学習指導、実習態度）に基づいて評価する。

【テキスト】

「教育実習指導」の授業時に配付の『教育実習記録』を活用する。

教育実習Ⅱ

小栗正彦

【授業の概要】

教科に関する専門科目及び教職に関する専門科目で学習した成果を実践し、検証する機会である。

実習校での２週間の教育実習を通じて、教師という専門職としての自覚と誇りを高めるとともに、生徒から親愛と信頼の念をもって迎えられる実習生となるよう、努力と工夫をして３年間の成果を存分に発揮してほしい。

生涯学習概論

羽場俊秀

【授業の概要】

現代社会は、情報化、高齢化、生命・健康、環境などの分野において様々な問題に直面している。また、価値観の多様化に対する寛容さが以前にもまして必要とされる時代になってきている。

このような状況下において、諸問題を解決し、人々が主体的に生活していくためには学校教育で身につけた学力を基礎として、広く社会において学び続けることが大切である。学校教育との有機的関連をもった生涯学習に広がりと深まりが求められるゆえんがそこにある。この講義では、学校教育と関連した生涯発達支援としての生涯学習の原理、実践等について具体的な事例をもとに考察する。

【授業計画】

生涯学習理念の成立と発展
生涯学習実践の課題
生涯学習と社会
生涯学習と人間
社会教育の意義
社会教育施設の概要
社会教育の内容・方法・形態
社会教育指導者
総括

【評価方法】

おもに期末試験（筆記）により評価するが、開講中にレポートを課した場合はこれを評価に加味する。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。授業中に参考文献を適宜紹介する。

【参考文献・資料】

なし

生涯学習概論

古野有隣

【授業の概要】

生涯学習という言葉は最近かなり知名度が高くなってきているが、その意味や意義については必ずしも正確に理解されているとはかぎらない。

この講義では生涯学習の意味するところを、その理念の提唱時からの推移の説明ならびに学校教育との連関をまじえて、理解を深めることをねらいとしたい。また、先の長い人生を持っている自分にとって学校教育を基礎とする、それを含めた生涯学習とは何なのかを考える契機となればとも思っている。

1．生涯教育の理念～推移を含めて～
　ユネスコ以降わが国における推移
　生涯教育のめざすもの
　生涯教育と生涯学習の関係
2．生涯教育と社会教育・学校教育との関係
　生涯教育と社会教育
　生涯教育と学校教育
3．社会教育の内容・方法・形態：学校教育との違いと連関
　行政社会教育の主要領域
　社会教育の内容・方法・形態
4．生涯学習関連施設の現状と展望：学校教育との相補性
　生涯学習関連施設の範囲
　社会教育施設の種類と現状
5．生涯学習指導者：学校教師を越えて
　生涯学習指導者の範囲
　生涯学習指導者の役割

【授業計画】

講義。

【評価方法】

テスト。

【テキスト】

資料集（予価500円）を開始時に頒布。

道徳指導法

加藤文子

【授業の概要】

道徳とはなにか、わが国の道徳教育の基盤、義務教育における道徳教育の在り方を探求する。その上で、今日の道徳教育に至るまでの歴史的変遷を学び、さらに道徳性の発達理論を考察する。また、道徳指導の実際についての具体例をとりあげ、その理解を深める。

【授業計画】

1　道徳と道徳教育
2　児童・生徒を生かす道徳教育
3　公教育における道徳教育の歴史
　・明治５年学制公布から明治23年教育勅語発布までの過程
　・戦後の道徳教育の変遷
4　道徳性の発達理論と学校道徳教育
5　学校における道徳教育の実際
　・道徳教育の目標
　・道徳教育の内容
　・「道徳の時間」の指導計画、指導案の作成
　・「道徳の時間」の指導の実際、VTR視聴
　・まとめ

【評価方法】

期末試験の成績に、毎時間の出席状況、授業中の態度、課したレポート内容を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

講義資料を配布

国際理解教育論

羽場俊秀

【授業の概要】

日本の近代化の過程において、どのような経路により先進諸国の文明が導入されたかを考察する。その考察を踏まえ、日本の国際化について教育の視点から考察する。そして、どのように国際理解教育を展開すべきかを考えてみたい。

【授業計画】

1．日本の近代化の過程における外国文明の摂取
　（1）近代化への萌芽
　（2）海外視察と帰国後の動向
　（3）外国人教員の雇用とその教育への影響
　（4）技術伝習による日本の産業の近代化
2．現代の学校教育における国際化
　（1）学校教育における国際理解教育
　（2）海外留学生等の派遣と受け入れ

【評価方法】

レポートにより評価を行う。

【テキスト】

授業中に紹介する。

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

学校経営と学校図書館

小栗正彦

【授業の概要】

学校教育における学校図書館の教育的意義を確認し、より効果的な学校図書館の活用を目指し、教職員のみでなく、生徒会及びPTAとの連携を視野に入れた望ましい学校図書館の組織と運営はいかにあるべきかを、次の点に視座をあてて、具体的な成功実例を紹介し学習する。

【授業計画】

1．学校図書館の理念と教育的意義
　（1）学校教育における学校図書館の役割
　（2）館種別にみた図書館の世界
2．学校図書館の発展と課題
　（1）学校図書館法の成立と展開
　（2）国内外の先進事例
　（3）レファレンスサービスの実践
3．教育行政と学校図書館
4．学校図書館の経営
　（1）学校図書館の経営組織のあり方
5．司書教諭の役割とその問題点
6．学校図書館メディアの内容と構成
7．学校図書館活動と社会のつながり

【評価方法】

出席状況及び課題による。

【テキスト】

プリント配布。

学習指導と学校図書館

加納篤憲

【授業の概要】

学校図書館は、教育に必要な資料を生徒及び教員の利用に供することによって、（1）学校の教育課程の展開に寄与するとともに、（2）生徒の健全な教養を育成することを目的としている。

この授業では、（1）の目的を達成するために学校図書館はどのようなものでなければならないかを、蔵書構成や利用指導の現状と実践例、教科学習や総合学習における図書館利用の方法と実践例について学ぶ。

また、司書教諭の役割とこれからの学校教育に占める重要性について学習するとともに、利用指導の図書館実習を体験することによって、司書教諭の仕事への理解を深める。

【授業計画】

1．教育課程と学校図書館
2．学習活動を促進する学校図書館――実践例
3．学校図書館の現状と問題点――蔵書冊数・蔵書構成・図書館利用
4．各教科・科目の学習指導と図書館――実践例
5．「総合学習」における図書館利用
6．図書館利用における学級担任及び生徒図書委員の役割
7．図書館実習――テーマ学習における司書教諭の指導について
8．討論――中学・高校時代の経験を踏まえて、学校図書館及び司書教諭の望ましいあり方について考える。

【評価方法】

期末試験、レポートの成績と出席状況を総合して評価。

【テキスト】

自作プリント教材（付資料）

【参考文献・資料】

特になし

学校図書館メディアの構成

中村和夫

【授業の概要】

情報化の著しい進展と共に、従来の活字メディア中心の学校図書館は児童生徒の活字離れにより、大きく変容を迫られている。これからの学校図書館は、児童生徒が喜んで利用できるよう、そのニーズに応え、多様なメディアを取り入れなければならない。この点を中心にして、これからの学校図書館のメディア構成を考えてみたい。

【授業計画】

1．児童生徒が喜んで利用するメディア構成
　（1）現在の学校図書館メディアの実態分析
　（2）児童会・生徒会図書委員会と学校図書館の資料選定
　（3）児童生徒が学校図書館に期待するものは何か
2．教育課程にマッチしたメディア構成
　（1）教養図書中心から教科学習に必要な資料の収集へ
　（2）「総合学習の時間」の視点からのメディア構成
　（3）「情報」、「オーラル英語」等新しい教科科目への対応
3．情報化時代にふさわしいメディアの特質の理解
　（1）ビデオ、DVD、CD等の視聴覚的メディア
　（2）FD、CD－ROM等の活字メディアに代わるもの
　（3）Webサイトに代表されるネットワーク系メディアの活用と問題点
4．学校図書館メディアの組織化
　（1）分類の意義と分類作業の基本
　（2）目録の種類と目録作業の基本、目録の機械化

【評価方法】

出席状況及びレポート等による。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

学校図書館メディアの構成（小田光宏編　樹村房）
分類・目録法入門（木原通夫・志保田務　新改訂第3版　第一法規）

読書と豊かな人間性

梅田卓夫

【授業の概要】

現在、児童生徒の読書離れの傾向は拡大し、まったくと言っていいほど本を読まなくなってきた。

児童生徒の読書離れの要因と実態を解明するとともに、学校図書館が「読書と豊かな人間性」の視点に立って、どのような役割を果たすべきかを、具体的な実例を紹介するとともに、一方的な講義に終わることなく、受講者自身の体験も取り入れ、以下のような視座に立った参加型授業を展開する。

【授業計画】

1．読書のよろこび
　（1）人はどのようにして読書の楽しみと出会うのか
　（2）代表的な先人の読書経験から学ぶもの
　（3）受講者自身の学校図書館での本との出会い
2．人間形成と読書
　（1）幼児期における読み聞かせの教育的意味
　（2）少年期・青年期の決定的・運命的な読書との出会い
　（3）読書における、内省、思索の意義
3．学校教育における読書指導
　（1）教師による本の紹介、読み聞かせ
　（2）「十分間読書」「朝の黙読」等の実践例
4．読書と仲間作り
　（1）家庭での読書についての親子の対話
　（2）友達同士の読書グループ、読書会
　（3）学区図書館を利用した共同研究
5．読書の技術
　（1）情報化時代の読書のあり方
　（2）愛読書、好きな作家

【評価方法】

出席状況及びレポートによる。

【テキスト】

使用しない。

情報メディアの活用

東浦信博

【授業の概要】

学校図書館の高度情報化は21世紀には避けて通れない状況である。現在の状況は必ずしも満足はできないが、学校図書館に将来関係すると思われる新しいメディアの運用についての基礎知識と技能は、今後学校図書館の仕事に携わる教員にとって必須だと言える。以上の観点から、次のテーマで実践的な学習を行ない、これからの情報化される学校図書館の効果的な活用を目標とする。

【授業計画】

1．学校図書館と情報機器
　（1）学校図書館におけるコンピュータの役割と活用
　（2）学校図書館に設置する情報機器
2．学校図書館とコンピュータとの関わり
　（1）図書検索とコンピュータ（OPAC）
　（2）インターネットを使用しての資料の収集
3．学校図書館の情報メディアの活用
　（1）視覚メディアとしてのVTR等
　（2）聴覚メディアとしてのDVD、CD等
　（3）活字メディアに代わるCDRom、マイクロフィルム等

【評価方法】

出席状況及び試験による。

【テキスト】

使用しない。

生涯学習概論

古野有隣

【授業の概要】

生涯学習という言葉は最近かなり知名度が高くなってきているが、その意味や意義については必ずしも正確に理解されているとはかぎらない。

この講義では生涯学習の意味するところを、その理念の提唱時からの推移の説明ならびに学校教育との連関をまじえて、理解を深めることをねらいとしたい。また、先の長い人生を持っている自分にとって学校教育を基礎とする、それを含めた生涯学習とは何なのかを考える契機となればとも思っている。

1．生涯教育の理念～推移を含めて～
　ユネスコ以降わが国における推移
　生涯教育のめざすもの
　生涯教育と生涯学習の関係
2．生涯教育と社会教育・学校教育との関係
　生涯教育と社会教育
　生涯教育と学校教育
3．社会教育の内容・方法・形態：学校教育との違いと連関
　行政社会教育の主要領域
　社会教育の内容・方法・形態
4．生涯学習関連施設の現状と展望：学校教育との相補性
　生涯学習関連施設の範囲
　社会教育施設の種類と現状
5．生涯学習指導者：学校教師を越えて
　生涯学習指導者の範囲
　生涯学習指導者の役割

【授業計画】

講義。

【評価方法】

テスト。

【テキスト】

資料集（予価500円）を開始時に頒布。

生涯学習概論

羽場俊秀

【授業の概要】

現代社会は、情報化、高齢化、生命・健康、環境などの分野において様々な問題に直面している。また、価値観の多様化に対する寛容さが以前にもまして必要とされる時代になってきている。

このような状況下において、諸問題を解決し、人々が主体的に生活していくためには学校教育で身につけた学力を基礎として、広く社会において学び続けることが大切である。学校教育との有機的関連をもった生涯学習に広がりと深まりが求められるゆえんがそこにある。この講義では、学校教育と関連した生涯発達支援としての生涯学習の原理、実践等について具体的な事例をもとに考察する。

【授業計画】

生涯学習理念の成立と発展
生涯学習実践の課題
生涯学習と社会
生涯学習と人間
社会教育の意義
社会教育施設の概要
社会教育の内容・方法・形態
社会教育指導者
総括

【評価方法】

おもに期末試験（筆記）により評価するが、開講中にレポートを課した場合はこれを評価に加味する。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。授業中に参考文献を適宜紹介する。

【参考文献・資料】

なし

図書館情報学概論Ⅰ

櫻木貴子

【授業の概要】

この科目は、図書館情報学に関する学習の基礎固めのためのものである。Ⅰでは、図書館情報学における基本的な考え方および分野の特徴について概説する。

【授業計画】

1．情報と知識の研究と実務に関わる分野
　図書館学/情報学/図書館情報学
　図書館情報学を学ぶための情報源/指定図書
2．情報の概念
　概念・考え方・観点・立場
　定義の多様性と現象の多面性
　情報概念の歴史/情報・知識・データ
　定義の整理のための枠組み/構造的な理解
　認識・認知・こころ/人間・人・ヒト
3．情報検索の過程

【評価方法】

平常点、レポート、試験によって評価する。

注：「図書館情報学概論Ⅰ」の単位を取得済でない学生については、「同Ⅱ」の単位を認定しない。

【テキスト】

図書館情報学用語辞典（丸善　3,800円税別定価）および配布資料

図書館情報学概論Ⅱ

櫻木貴子

【授業の概要】

この科目は、図書館情報学に関する学習の基礎固めのためのものである。Ⅱでは、図書館・情報サービスの実際に関して、最低限知っておくべき事項を紹介し、今後の学習への指針を提供する。

【授業計画】

1．情報の流通過程
　情報の流れと情報メディア/学術情報の流通過程
2．図書館・情報サービスの世界
　構成要素と機能/情報システムとしての図書館
3．協力と競合
　図書館ネットワーク/競合する情報サービス
4．図書館員と情報専門職の世界
5．図書館情報学の未来

【評価方法】

平常点、レポート、試験によって評価する。

注「図書館情報学概論Ⅰ」の単位を取得済でない学生については、「同Ⅱ」の単位を認定しない。

【テキスト】

図書館情報学用語辞典（丸善　3,800円税別定価）および配布資料

図書館経営論

松下 鈞

【授業の概要】

図書館の技術的な面―分類・目録等―資料組織とは別に図書館運営上の諸問題―司書の専門職制の問題、図書館の地域サービスと図書館網計画、図書館の経営評価と見直し等、を図書館経営論として論述する。

【授業計画】

0．オリエンテーション・図書館の経営論の意義　1回
1．図書館館種別の経営上の問題点と管理原則　1回
2．行政と図書館経営　1回
3．図書館学の五法則と図書館員の関わり　1回
4．図書館の自由に関する宣言　1回
5．図書館員の倫理綱領　1回
6．図書館員と労働基準法解説　1回
7．図書館関係法規と図書館のサービス基準解説　1回
8．図書館サービスの測定と評価（実例課題によるレポート提出）　1回
9．図書館計画の立案と実例解説　2回
10．ネットワーク、コンソーシアム　1回
11．図書館建築・施設及び設備　1回
12．生涯学習と図書館及び利用者教育　2回
13．情報専門職の養成、アウトソーシング　1回
※講義の中から関心のある事項についてレポート提出　2回

【評価方法】

期末テスト実施―記述式、前期全体の講義の中から問題を２～３問と、提出されたレポートと記述試験の採点とを併せて評価する。

【テキスト】

講義シラバスを配付する。

情報サービス基礎論Ⅱ

松下 鈞

【授業の概要】

「情報サービス基礎論Ⅰ」の履修を前提とする。
あなたが図書館員であると仮定し、図書館の現場で利用者からの期待に応えるさまざまな業務と施設を計画立案し、実施、評価するケーススタディなどを交え、より具体的に図書館サービスについての理解を深めることを目的とする。

【授業計画】

1．イントロダクション「図書館のフロアデザイン」
2．自分の好きな図書館のコーナー
3．図書館を設置する環境
4．情報を求める人たち
5．こどもと情報
6．高齢者と情報
7．ビジネスマンと情報
8．大学生と情報
9．研究者と情報
10．機能と機器（什器）
11．情報、資料
12．スタッフ

情報サービスを、環境、施設・設備、機能などの観点から検討してみたいと思います。皆さんがこれまで使ってきた図書館の目的、対象、機能などについて、建築プラン、フロアデザイン、家具、機器などハードウェアの面と、蔵書構築や目録作成、もろもろのサービスなどソフトウェアの面から見直し、理想とする図書館建築プランを構想してみましょう。
授業は、講義とグループ研究によって行ないます。
受講に先立って、さまざまなタイプの図書館を見学しておくことを望みます。

【評価方法】

小レポート、グループ研究、最終レポートによるほか、授業への積極的な参加態度を加味して評価します。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

適宜、紹介する。

情報サービス基礎論Ⅰ

松下 鈞

【授業の概要】

電子情報技術の急速な発展とグローバルな広がりを背景として、人と情報との関わりが変化してきた。社会はあらゆる面で急速な変化の様相を見せている。「情報サービス基礎論Ⅰ」では、社会の多様化と情報の多様化と厖大化及び情報流通の変化に直面する「図書館」のサービスについて、主として公共図書館のサービスを念頭において諸問題を概観する。

【授業計画】

1．イントロダクション「自分史のなかの図書館」
2．さまざまな情報サービス
3．情報環境の変化
4．こどもと図書館、老人と図書館
5．情報環境のデザイン
6．情報の連環
7．情報源
8．情報評価法
9．コミュニケーション・スキル
10．ネットワーク、コンソーシアム
11．指定管理者制度、アウトソーシング
12．求められる情報専門家

皆さんの生まれた1985年前後から2005年までの、およそ20年の間に急速に発達した電子情報技術は、私たちの日常生活や大学生活に大きな変化をもたらしています。この授業では、人々と情報との関わりの大きな節目に置かれている図書館の諸問題を、グローバル化、多様化する情報社会という視点と、私たちの日々の暮らしにおける図書館との関わり、という二つの視点から概観してみたいと思います。

授業は講義を中心としますが、グループ研究、研究発表を課します。受講に先立って以下のことをしておくこと。
a）「インタネット講習会」を受講しておくこと。
b）インタネット検索エンジンを使いこなせるようにしておくこと。
c）近隣の複数の公共図書館を訪問し、そこの施設・設備、資料、サービスの概要を把握しておくこと。
d）愛知淑徳大学図書館のレファレンス・カウンターに相談のうえ、近隣の大学図書館を訪問し、その施設・設備、資料、サービスの概要を把握しておくこと。
e）自分史における本やAV資料との出会い、図書館の利用などについて思い出しておくこと。

【評価方法】

小レポート、グループ研究、期末レポートに授業への積極的な参加態度を加味して評価する。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

適宜、紹介する。

レファレンスサービス論

櫻木貴子

【授業の概要】

図書館における情報サービスの中核を成してきたレファレンスサービスに関して、レファレンスコレクションの構築、レファレンス質問からその回答にいたる一連のレファレンスプロセス、サービス組織のあり方、等について理解を深めることを主な目的として講義を進める。この科目は、「情報検索演習Ⅲ（情報と文献の探索）」と相互に補完するものとして扱う。

【授業計画】

1．レファレンスサービスの特徴・機能・組織
2．レファレンスプロセス
　・質問の受付から内容の確認へ
　・質問内容の分析から探索の実行へ
　・質問回答とレファレンスプロセスの終結
3．レファレンスサービスのための情報源

【評価方法】

平常点、レポート、試験によって評価する。

【テキスト】

使用せず（配付資料）。

【参考文献・資料】

講義において指示する。

情報検索演習Ⅱ（学術情報の探索）

櫻木貴子

【授業の概要】

学術論文を対象として、オンライン情報検索システムの活用に必要な知識と技術を習得することを目的とする。テーマ検索の実習に基づき、検索過程の把握や検索ツールの利用、および検索結果に対する評価について理解する。

LAN講習会を必ず受講すること。

【授業計画】

1．情報検索とは
2．学術情報の検索
　学術論文
　抄録・索引誌
3．CD－ROM検索
4．シソーラス、統制語彙
5．オンライン情報検索システム
6．テーマ検索

【評価方法】

平常点、小テストと、レポート作成の総合評価。

【テキスト】

使用せず（プリント配布）。

情報検索演習Ⅱ（学術情報の探索）

松井美紀

【授業の概要】

学術論文を対象として、情報検索での用語の理解とともに、オンライン情報検索システムの活用に必要な知識と技術を習得することを目的とする。テーマ検索の実習に基づき、検索過程の把握や検索ツールの利用、および検索結果に対する評価について理解する。

LAN講習会を必ず受講すること。

【授業計画】

1．情報検索とは
2．学術情報の検索
　学術論文
　抄録・索引誌
3．CD-ROM検索
4．シソーラス、統制語彙
5．オンライン情報検索システム
6．テーマ検索

【評価方法】

平常点、小テストと、レポート作成の総合評価。

【テキスト】

使用せず（プリント配布）。

情報検索演習Ⅲ（情報と文献の探索）

中島玲子

【授業の概要】

情報検索演習Ⅰ（1年次必修）および情報検索演習Ⅱ（2年次）を基礎とし、より高度な情報検索技術の習得を目標とする。

本科目で扱う情報源は、図書館を中心とした情報提供機関において利用可能なものとし、特にレファレンス業務に必要な情報源探索技能を養うため、検索対象のメディア別に特徴、機能、検索に必要な技術の紹介、実習を伴う課題解決演習を行う。さらにレファレンス質問を事例にして，利用者インタビュー，利用者の情報要求の確認，適切な情報源の選定，検索，回答の評価などの一連の作業について実習する。演習には情報検索室の書誌データベースと本学図書館所蔵の印刷体二次資料を併用する。

【授業計画】

［演習予定の検索対象ファイル（データベースサービス）］
1．文献探索と情報探索
2．各種情報源の特徴
2．1　雑誌記事（書誌情報）検索
　MAGAZINE PLUS（NICHIGAI ASSIST）、ISA（DIALOG）、JST Plus（J Dream）、大宅壮一文庫雑誌記事索引CD-ROM版
2．2　雑誌記事横断検索：DIALINDEX複数ファイル横断検索（DIALOG）
2．3　シソーラスを利用した検索
　JST Plus（J Dream）、ERICファイル（DIALOG）、MEDLINE（DIALOG）
2．4　引用関係を利用した検索：Social SciSearch（DIALOG）
2．5　一次資料が入手可能なシステムの検索
　NACSIS-IR（NII）、OCLC ArticleFirst（OCLC FirstSearch）、PubMed（NLM/NCBI）
2．6　ネットワーク情報資源検索・アクセス：LISA（CSA-IDS）
2．7　図書（所蔵/目次情報）検索
　Webcat（NII）、BOOKPLUS（NICHIGAI　ASSIST）、WorldCat（OCLC FirstSearch）
2．8　新聞記事（全文記事）検索：各種新聞ファイル（日経テレコン21）
2．9　人物情報検索：人物情報横断検索（G-Search）
3．レファレンス質問を事例とした問題解決プロセス

【評価方法】

出席点、課題点、試験によって評価する。

【テキスト】

使用せず（配付資料）。

情報検索演習Ⅲ（情報と文献の探索）

松井美紀

【授業の概要】

情報検索演習Ⅰ（1年次必修）および情報検索演習Ⅱ（2年次）を基礎とし、より高度な情報検索技術の習得を目標とする。

本科目で扱う情報源は、図書館を中心とした情報提供機関において利用可能なものとし、特にレファレンス業務に必要な情報源探索技能を養うため、検索対象のメディア別に特徴、機能、検索に必要な技術の紹介、実習を伴う課題解決演習を行う。さらにレファレンス質問を事例にして，利用者インタビュー，利用者の情報要求の確認，適切な情報源の選定，検索，回答の評価などの一連の作業について実習する。演習には情報検索室の書誌データベースと本学図書館所蔵の印刷体二次資料を併用する。

【授業計画】

［演習予定の検索対象ファイル（データベースサービス）］
1．文献探索と情報探索
2．各種情報源の特徴
2．1　雑誌記事（書誌情報）検索
　MAGAZINE PLUS（NICHIGAI ASSIST）、ISA（DIALOG）、JST Plus（J Dream）、大宅壮一文庫雑誌記事索引CD-ROM版
2．2　雑誌記事横断検索：DIALINDEX複数ファイル横断検索（DIALOG）
2．3　シソーラスを利用した検索
　JST Plus（J Dream）、ERICファイル（DIALOG）、MEDLINE（DIALOG）
2．4　引用関係を利用した検索：Social SciSearch（DIALOG）
2．5　一次資料が入手可能なシステムの検索
　NACSIS-IR（NII）、OCLC ArticleFirst（OCLC FirstSearch）、PubMed（NLM/NCBI）
2．6　ネットワーク情報資源検索・アクセス：LISA（CSA-IDS）
2．7　図書（所蔵/目次情報）検索
　Webcat（NII）、BOOKPLUS（NICHIGAI　ASSIST）、WorldCat（OCLC FirstSearch）
2．8　新聞記事（全文記事）検索：各種新聞ファイル（日経テレコン21）
2．9　人物情報検索：人物情報横断検索（G-Search）
3．レファレンス質問を事例とした問題解決プロセス

【評価方法】

出席点、課題点、試験によって評価する。

【テキスト】

使用せず（配付資料）。

情報検索演習Ⅲ（情報と文献の探索）

櫻木貴子

【授業の概要】

情報検索演習Ⅰ（1年次必修）および情報検索演習Ⅱ（2年次）を基礎とし、より高度な情報検索技術の習得を目標とする。

本科目で扱う情報源は、図書館を中心とした情報提供機関において利用可能なものとし、特にレファレンス業務に必要な情報源探索技能を養うため、検索対象のメディア別に特徴、機能、検索に必要な技術の紹介、実習を伴う課題解決演習を行う。さらにレファレンス質問を事例にして，利用者インタビュー，利用者の情報要求の確認，適切な情報源の選定，検索，回答の評価などの一連の作業について実習する。演習には情報検索室の書誌データベースと本学図書館所蔵の印刷体二次資料を併用する。

【授業計画】

［演習予定の検索対象ファイル（データベースサービス）］

1．文献探索と情報探索
2．各種情報源の特徴
2．1　雑誌記事（書誌情報）検索
　MAGAZINE PLUS（NICHIGAI ASSIST）、ISA（DIALOG）、JST Plus（J Dream）、大宅壮一文庫雑誌記事索引CD-ROM版
2．2　雑誌記事横断検索：DIALINDEX複数ファイル横断検索（DIALOG）
2．3　シソーラスを利用した検索
　JST Plus（J Dream）、ERICファイル（DIALOG）、MEDLINE（DIALOG）
2．4　引用関係を利用した検索：Social SciSearch（DIALOG）
2．5　一次資料が入手可能なシステムの検索
　NACSIS-IR（NII）、OCLC ArticleFirst（OCLC FirstSearch）、PubMed（NLM/NCBI）
2．6　ネットワーク情報資源検索・アクセス：LISA（CSA-IDS）
2．7　図書（所蔵/目次情報）検索
　Webcat（NII）、BOOKPLUS（NICHIGAI　ASSIST）、WorldCat（OCLC FirstSearch）
2．8　新聞記事（全文記事）検索：各種新聞ファイル（日経テレコン21）
2．9　人物情報検索：人物情報横断検索（G-Search）
3．レファレンス質問を事例とした問題解決プロセス

【評価方法】

出席点、課題点、試験によって評価する。

【テキスト】

使用しない（プリント配布）。

情報メディア基礎論Ⅰ

櫻木貴子

【授業の概要】

情報流通における情報メディアの役割について論じる。各種メディアの生産から流通までを対象に，その過程での問題点について議論し，より効果的な情報流通のための情報メディアのあり方を検討する。

【授業計画】

1　情報流通と情報メディア
2　学術情報の流通モデル
3　情報メディアの特徴と問題点
（1）図書
　出版流通過程と制度
　オンライン書店、オンデマンド出版
（2）雑誌
　学術雑誌の機能、査読制度
　雑誌論文の構成
　抄録作成法、引用法、
　プレプリント、e－print
　レター、editorial comment
（3）新聞
　新聞の流通制度
　新聞記事の構成
（4）会議資料
　学会、会議録
（5）特許資料
　特許制度
　パテントファミリー、引用特許
（6）規格票
　規格制度、情報関連の標準化活動
（7）データベース
　情報検索システムの歴史
　検索技術、シソーラス
（8）インターネット
　ネットワーク情報資源の特徴
　WWWの評価
　Web citation、メタデータ
　ウェブ・アーカイビング
4　情報流通モデルの修正
5　電子環境下における情報メディア

【評価方法】

平常点、レポートおよび試験によって評価する。

【テキスト】

使用せず（配付資料）。

情報メディア基礎論Ⅱ

櫻木貴子

【授業の概要】

情報流通における情報メディアの役割について論じる。各種メディアの生産から流通までを対象に，その過程での問題点について議論し，より効果的な情報流通のための情報メディアのあり方を検討する。

【授業計画】

1　情報流通と情報メディア
2　学術情報の流通モデル
3　情報メディアの特徴と問題点
（1）図書
　出版流通過程と制度
　オンライン書店、オンデマンド出版
（2）雑誌
　学術雑誌の機能、査読制度
　雑誌論文の構成
　抄録作成法、引用法、
　プレプリント、e－print
　レター、editorial comment
（3）新聞
　新聞の流通制度
　新聞記事の構成
（4）会議資料
　学会、会議録
（5）特許資料
　特許制度
　パテントファミリー、引用特許
（6）規格票
　規格制度、情報関連の標準化活動
（7）データベース
　情報検索システムの歴史
　検索技術、シソーラス
（8）インターネット
　ネットワーク情報資源の特徴
　WWWの評価
　Web citation、メタデータ
　ウェブ・アーカイビング
4　情報流通モデルの修正
5　電子環境下における情報メディア

【評価方法】

平常点、レポートおよび試験によって評価する。

【テキスト】

使用せず（配付資料）。

情報メディア論Ⅳ（人文社会情報メディア）

櫻木貴子

【授業の概要】

人文・社会科学分野における情報メディアの特徴から，学問分野における学術情報の生産と利用について検討することを目的とする。

【授業計画】

1　学問分野と情報メディア
2　自然科学分野と人文・社会科学分野
3　人文・社会情報メディア
　3．1　美術分野
　3．2　音楽分野
　3．3　文学
　3．4　ビジネス分野
　3．5　法律分野
　3．6　心理学
　3．7　図書館情報学
4　情報メディアからみた情報の生産と利用

【評価方法】

平常点およびレポートよって評価する。

【テキスト】

使用せず（配付資料）。

資料組織論

櫻木貴子

【授業の概要】

情報の組織化に関する理論と概念について理解することを目的とする。様々な情報資源を念頭において、資料組織業務の標準化と統一化の流れを把握し、目録の機能を理解することを目指す。

目録に関する用語と、英米目録規則、日本目録規則、主要な分類表および主題件名標目表を網羅する。

【授業計画】

第１回　情報の組織化
第２回　目録
第３回　書誌コントロール
第４回　書誌ユーティリティ
第５回　目録規則
第６回　記述目録（１）AACR２r、NCR
第７回　記述目録（２）アクセス・ポイントの選定；標目形；典拠コントロール
第８回　記述目録（３）各種記述フォーマット
第９回　メタデータ
第10回　主題目録（１）概要
第11回　主題目録（２）分類法
第12回　主題目録（３）主要分類法
第13回　主題目録（４）主要件名標目表
第14回　期末テスト

【評価方法】

平常点、レポート、試験

【テキスト】

初回時にテキスト配布。

【参考文献・資料】

書誌コントロールの課題（国立国会図書館編　日本図書館協会、2002）
文献世界の構造：書誌コントロール論序説（根本彰著　勁草書房、1998）
図書館ネットワーク―書誌ユーティリティの世界―（宮澤彰　丸善、2002）

資料組織演習

松井美紀

【授業の概要】

資料組織論で学んだ理論について、演習を通してより深い理解と習得することを目的とする。

講義内容は、記述目録法と主題目録法の２部から成り、オムニバス形式で授業を進める。

記述目録では、目録規則の適用について学ぶ。ISBDや記述目録の基本を復習し、オンライン目録の実習を通して、書誌ユーティリティを利用したオンライン目録作業について理解を深める。主題目録法では日本十進分類法、国際十進分類法、基本件名標目表を取り上げる。主に図書資料を対象として、書誌レコードを作成する。

本科目の履修については、「資料組織論」の履修を条件とする。

【授業計画】

・目録作業の概要
・主題目録法
　分類：NDC、UDC
　主題件名標目表：BSH
・記述目録法
　ISBD
　書誌ユーティリティ（NACSIS/MARC）を利用したMARCレコード作成
　アクセス・ポイント
　典拠コントロール

【評価方法】

出席、実習およびレポート提出の総合評価

【テキスト】

資料組織演習　改訂新版（北克一著　M.B.A,2003年）

【参考文献・資料】

「資料組織論」で配布したテキスト

資料組織演習

櫻木貴子

【授業の概要】

資料組織論で学んだ理論について、演習を通してより深い理解と習得することを目的とする。

講義内容は、記述目録法と主題目録法の２部で構成される。

記述目録では、目録規則の適用について学ぶ。ISBDや記述目録の基本を復習し、オンライン目録の実習を通して、書誌ユーティリティを利用したオンライン目録作業について理解を深める。主題目録法では日本十進分類法、国際十進分類法、基本件名標目表を取り上げる。主に図書資料を対象として、書誌レコードを作成する。

本科目の履修については、「資料組織論」の履修を条件とする。

【授業計画】

・目録作業の概要
・主題目録法
　分類：NDC、UDC
　主題件名標目表：BSH
・記述目録法
　ISBD
　書誌ユーティリティ（NACSIS/MARC）を利用したMARCレコード作成
　アクセス・ポイント
　典拠コントロール

【評価方法】

出席、実習およびレポート提出の総合評価

【テキスト】

資料組織演習　改訂新版（北克一著　M.B.A.　2003年）

【参考文献・資料】

「資料組織論」で配布したテキスト

図書館学特殊Ⅲ（児童サービス論）

近藤洋子

【授業の概要】

図書館における児童サービスの理論と実際について、基礎的理解を図る。具体的には、日本の読書推進政策の現状を踏まえ、児童用資料の特性、利用者としての児童の特性、公立図書館・学校図書館における児童サービスおよび、図書館の周辺領域における児童へのサービスについても広くとりあげる。

【授業計画】

１公立図書館の児童サービス
（１）子どもの読書と児童図書館
（２）児童図書館の意義と歴史
（３）児童用資料の種類と特性（１）絵本・文学
（４）児童用資料の種類と特性（２）ノンフィクション・その他
２児童サービスの実際
（５）児童室の企画・運営、児童室施設・設備、展示・広報活動
（６）資料収集・蔵書構成、選書、貸出
（７）予約・レファレンス、ブックトーク
（８）よみきかせ、ストーリーテリング、集会活動
３　児童サービスの対象
（９）乳幼児・ヤングアダルト・一般・研究者
４　類縁機関との連携
（10）学校・保育園・幼稚園・病院・文庫等
５　児童図書館員の専門性
（11）養成と採用　ボランティア
６（12）児童サービスの現在と今後　見学レポートによる
７（13）実習・ストーリーテリング

【評価方法】

出席状況　平常点　図書館見学等レポートを総合評価

【テキスト】

児童サービス論（中多泰子編著　樹村房）

【参考文献・資料】

児童サービス論（佐藤凉子編　教育史料出版会）
クシュラの奇跡（ドロシー・バトラー著　のら社）
児童図書館のあゆみ（児童図書館研究会編　教育史料出版会）

情報学Ⅲ（図書館と情報検索の歴史）

松井美紀

【授業の概要】

図書館情報学分野に関わる歴史を概観する。『図書館情報学ハンドブック』第2版（丸善刊）において示された枠組みに基づき、図書及び図書館史の範囲を拡張し、<人類の情報環境の発達過程を概観する>というコンセプトを掲げ、図書館情報サービスの発達ならびに書誌・目録・分類およびレファレンスブックに代表される知識の組織化過程の発達を中心に、<情報・知識の伝達・継承のために人類がどのような活動を行なってきたか>という問題を探求する。

具体的には、まず情報活動のための背景要因となるメディア技術（情報・通信技術）の発達過程を概観し、つぎに情報流通の制度・機構（とくに図書館等の情報サービス機関や、図書館員等の情報専門職）、および書誌・索引作成や目録・分類法等の情報の蓄積・検索の技術・技法が整備されていった過程を詳述する。それらは、人類にとって一種の環境要因である。その上で、そうした環境要因と人間との関わり（とくに情報の社会的蓄積・継承の問題）を展望する。

Ⅲでは、古代から中世までを対象とし、Ⅳに引き継ぐ。

【授業計画】

1．古代文明のメディアと情報・知識活動
2．ギリシア・ローマにおける進展
3．中世の学術と書物・図書館
4．印刷革命

【評価方法】

定期試験　※穴埋め・訂正問題、論述問題

【テキスト】

歴史のなかの科学コミュニケーション（勁草書房　税別定価3,800円）
図書館情報学用語辞典（丸善　税別定価3,800円）

情報メディア論Ⅰ（マルチメディア）

松井美紀

【授業の概要】

現代社会ではあらゆる組織においてコンピュータ等情報機器が不可欠のツールとなっている。これら情報機器を使いこなすことにより、情報のより効果的な利用が可能となる。

この授業では、情報メディア・情報機器に関する基礎的なことを解説する。また、情報技術について図書館・情報サービスにおける導入・活用の実例を示しながら解説する。

情報技術活用のための基礎を身につけることを目標とする。

【授業計画】

1）ガイダンス：授業の目的、方法、授業計画について説明
2）メディアとは何か
3）情報機器の発展経緯と種類、機能
4）情報メディアの発展経緯と特性
5）視聴覚メディアの種類と特性
6）コンピュータの基本的な仕組み
7）図書館の機械化
8）データベースと情報検索
9）メディアの多様化と情報技術
10）インターネットについての基礎知識
11）インターネットによる情報発信
12）電子情報と知的所有権

【評価方法】

（1）出席状況（2）定期試験（またはレポート）
以上の結果により評価を行う。

【テキスト】

授業時に提示する。

情報学Ⅳ（図書館と情報検索の歴史）

松井美紀

【授業の概要】

図書館情報学分野に関わる歴史を概観する。『図書館情報学ハンドブック』第2版（丸善刊）において示された枠組みに基づき、図書及び図書館史の範囲を拡張し、<人類の情報環境の発達過程を概観する>というコンセプトを掲げ、図書館情報サービスの発達ならびに書誌・索引・目録・分類およびレファレンスブックに代表される知識の組織化過程の発達を中心に、<情報・知識の伝達・継承のために人類がどのような活動を行なってきたか>という問題を探求する。

具体的には、まず情報活動のための背景要因となるメディア技術（情報・通信技術）の発達過程を概観し、つぎに情報流通の制度・機構（とくに図書館等の情報サービス機関や、図書館員等の情報専門職）、および書誌・索引作成や目録・分類法等の情報の蓄積・検索の技術・技法が整備されていった過程を詳述する。それらは、人類にとって一種の環境要因である。その上で、そうした環境要因と人間との関わり（とくに情報の社会的蓄積・継承の問題）を展望する。

Ⅳでは、Ⅲの知見を踏まえた上で、近・現代を対象とする。なお、マスメディアおよびコンピュータやネットワーク等の情報通信技術は背景要因の一部として扱うのみなので、それらの内容に期待する学生には、別の科目や参考書等を紹介する。

【授業計画】

1．印刷のもたらした近代
　学術情報流通システムの成立/新聞と雑誌/読書大衆
2．図書館の世紀
3．書誌とドキュメンテーション
4．情報メディア技術の発達
5．20世紀の情報流通システムと情報検索
6．図書館学と情報学
7．未来を索めて：Vannevar BushのMemex構想をもとに

【評価方法】

定期試験　※穴埋め・訂正問題、論述問題

【テキスト】

歴史のなかの科学コミュニケーション（勁草書房　税別定価3,800円）
図書館情報学用語辞典（丸善　税別定価3,800円）

博物館概論

長谷川銹治

【授業の概要】

博物館とは何か、発達の歴史をたどり、世界と日本の博物館を概観する。

【授業計画】

ア　はじめに…博物館学とは何かなど学習の基礎を説明する。
イ　博物館の定義…ICOMの定義、博物館法の定義を中心に考えていく。
ウ　博物館の始原… 博物館の始原をたずねてみる。
エ　博物館の萌芽…ルネサンス期からの博物館的な施設の形を探る。
オ　近代博物館の出発Ⅰ…王権の誇示としての財宝の展示から考える。
カ　近代博物館の出発Ⅱ…市民への公開がなされていく過程を考える。
キ　ヨーロッパの博物館…近世からの主要な博物館を例にとり、特徴をまとめる。
ク　アメリカの博物館…合衆国独立から現代までの特徴を探る。
ケ　博物館の新しい波…企業博物館、エコ・ミュージアム、テーマ・パークなど新しい動きをひろってみる。
コ　日本の博物館…日本の博物館の歴史を概観する。
　・幕末から明治期にかけての博物館の出発
　・国威の宣揚と博物館
　・通俗教育による教化と博物館
　・十五年戦争と博物館

【評価方法】

・数回にわたるテストとリポートの提出で評価する。
・出席率も重要な評価対象である。

【テキスト】

新訂博物館学概説（長谷川銹治　戸谷印刷）

博物館概論

早川正一

【授業の概要】

「博物館概論」とは、愛知淑徳大学が文部省（現在の文科省）の認可のもとに、学芸員と呼ぶ博物館や美術館に不可欠な専門職員になるため、基礎知識をカリキュラムを通じて取得させる基幹の学科目である。したがって、この養成課程の当初に受講させるので真剣に取り組まないと脱落しかねない。充分な心構えが肝要である。

次のような単元のもとに講義を展開してゆく予定である。

【授業計画】

博物館や美術館の基本概念と必要性
専門職員としての「学芸員」とは何か
博物館と美術館の発達とその時代背景
博物館と呼ぶ施設の機能と多様性
博物館の分類と現代性
博物館の日常的な組織と運営の局面への学芸員のかかわり方、そして館外活動への配慮
博物館の相互協力と情報の活用
毎時間、入念にノートをさせる。コピーは許さない。
無用な欠席は不合格につながるので、注意されたい。
長谷川銹治『博物館学論考』(1995) をはじめ、大学図書館に所蔵の関連文献を通読しておくこと。

【評価方法】

学期末の筆記試験をはじめ、毎時間の出席状況、受講態度などで総合評価する。資格認定のため厳格である。

【テキスト】

新訂博物館学概説（長谷川銹治　戸谷印刷）を参照することをすすめる。

博物館学各論Ⅰ

長谷川銹治

【授業の概要】

博物館について、学芸員資格にかかわる基本的事項を学習する。

【授業計画】

ア　博物館の機能…生涯学習のための施設の一つと定義されていることを念頭におき考える。
イ　博物館の分類…分類わけをとおして、博物館の役割やあり方を考えていく。
ウ　博物館の組織…公立博物館を例にとり、典型的な組織をみていく。
エ　博物館の運営…名古屋市博物館を例にとり、運営の実際を知る。
オ　学芸員考…学芸員の実態などに焦点をあて、「学芸員」はいかにあるべきかを考える。
カ　予算など…博物館のマネージメントについて考える。
キ　博物館の施設・設備…設置基準をもとに施設・設備についてみる。
ク　博物館と情報…情報化社会の発展、情報技術の進歩と博物館のあり方を探ってみる。
ケ　博物館の協力…大学・研究機関などとの連携についても考える。
コ　文化財の保護…わが国の文化財保護の現状と問題点について考察する。あわせて世界遺産についても考える。

【評価方法】

・数回にわたるテストとリポートの提出で評価する。
・出席率は重要な評価対象である。

【テキスト】

新訂博物館学概説（長谷川銹治　戸谷印刷）

博物館学各論Ⅰ

早川正一

【授業の概要】

愛知淑徳大学の学芸員課程委員会が計画したカリキュラムに準拠し、前段階の「博物館概論」を修得した学生に受講させる。したがって、この講義も基幹をなす学科目であるから、年次計画を考慮し、真面目に受講しないと、資格取得につながらないので、注意が肝要である。

【授業計画】

次の単元を土台として講義を展開する予定である。
博物館や美術館の展示と陳列構造
博物館がとり扱う資料の収集と保存
博物館と所属する学芸員のおこなう調査と研究
博物館や美術館のおこなう普及活動と教育
文化財の種類と保護にかかわる諸問題
生涯学習の必要性と博物館の関連事業
毎時間、入念にノートさせる。コピーは許さない。
無用な欠席は不合格につながるので、注意してほしい。
博物館学論考（長谷川銹治　1995）をはじめ、大学図書館に所蔵の関連文献を通読しておくこと。

【評価方法】

本学の学長の名において資格を認定する以上、定期試験を厳格に実施し、出席状況や受講態度を含めて総合評価する。

【テキスト】

新訂博物館学概説（長谷川銹治　戸谷印刷）を参照することをすすめる。

博物館学各論Ⅱ

長谷川銹治

【授業の概要】

博物館資料とは何かの定義づけからはじめ、資料の取扱い方を含めて学習する。また、博物館における調査・研究についても考える。

【授業計画】

ア　博物館の資料…「物」が博物館資料と位置づけられるのはどのようなことかを考える。

イ　博物館資料の実際…資料について実技を含めて具体的に学ぶ。

1　資料の収集

2　資料の取扱い

・掛軸

・古文書　・和装本

・やきもの　・茶碗

・瓦など

3　資料の整理・保存

4　資料の保全

ウ　資料情報の管理…資料情報の管理についてその実際を探る。

エ　調査・研究…博物館における調査と研究、成果の公表について考える。

【評価方法】

・数回にわたるテストとリポートの提出で評価する。

・出席率も重要な評価対象である。

【テキスト】

博物館学概説（長谷川銹治　戸谷印刷）

博物館学各論Ⅱ

松村冬樹

【授業の概要】

「資料」をもたない博物館はあり得ない。では、「モノ」をもっていれば博物館といえるだろうか？「モノ」と「資料」はどう違うのだろうか？

この講座では、「博物館資料」の考え方にはじまり、資料取扱の基本までを、実習を中心に学習する。

【授業計画】

かび臭い貴重品という「博物館資料」のイメージをくつがえし、博物館や美術館見学時に役立つ基本知識や心構えを修得する。

ア　「資料」とはなにか

イ　博物館と資料

ウ　収集の方法

エ　資料の取扱（理論と実際）

オ　整理と分類（観察とドキュメンテーション）

カ　調査と研究

キ　保管と保全

ク　管理と活用

ケ　資料情報の公開

コ　資料と学芸員

【評価方法】

実習中心のため、適切な受講定員を設定する。

実際の美術品を用いた実習が主体となるので、出席と実習態度を重視する。

基礎的知識の修得度と、文化財取扱に対する心構え（適性）を評価する。

【テキスト】

『博物館学概説』（長谷川銹治　戸谷印刷　青本）

随時プリントを配布する。

博物館学各論Ⅱ

秋元悦子

【授業の概要】

博物館の活動の基礎は「資料」にあり、それを有効活用することではじめて博物館と言えよう。本講座では、その収集・取り扱い・整理・保存・活用について具体的事例や実習を取り入れながら学んでいく。

【授業計画】

1．博物館資料とは……「博物館資料」とは、何を指すか、理念およびその具体的種類を知る。

2．資料収集……資料の収集に際しての、収集方針の重要性、収集方法の事例を学ぶ。

3．資料の取り扱い……基本資料の取り扱いを実習し、習得するとともに、その構造を知り展示方法等も学ぶ。

やきもの、和装・巻子本、掛け軸その他で実習する。

4．資料整理……資料の整理について、分類方法やその整理登録方法を考え、資料カードの作成を実習する。

5．資料情報……整理された資料の情報、二次的資料の情報の管理運営について考える。

6．資料保管……資料の保管に関しての、保存条件や方法、問題点などを学ぶ。

7．資料活用……資料を活用した調査研究活動の実際とその意義を知る。

また、4年次の「博物館実習」に備えた情報や、館務実習の準備について説明する。

【評価方法】

出席、実習態度、レポートおよび小テストで評価する。

【テキスト】

博物館学概説（長谷川銹治　戸谷印刷）

必要に応じてプリントを配布し、ビデオ等も利用する。

博物館実習

長谷川銹治

【授業の概要】

学芸員の基本的な役割について、講義、展示演習、内外の博物館見学、館務実習などを通して、実践的に学習する。

【授業計画】

ア　展示論……展示についての学問的側面、実際の運びなどをみていく。

1　展示とは

2　展示のポイント

・動線　・視線　・照明　・温度　・湿度

3　展示の施設

4　展示のプロセス

5　展示と保全

イ　普及・教育論……生涯学習が重要課題となっている現代社会にあって、博物館が果たす役割はどんなものかを探っていく。

ウ　博物館見学……土・日曜日に展覧会や施設の見学に出かける。

エ　館務実習……夏休み中に各博物館に依頼して館務実習を行う。

オ　海外特別実習……夏休み中に希望者と海外の博物館に出かけ学習する。

カ　県外実習……エ、オに参加できない者は、9月に県外へ見学に出かける。

【評価方法】

・実習はもちろん、学外での研修にはかならず参加し、それぞれリポートを提出。評価の対象とする。

・その都度、提出させるリポートを中心に実習態度なども勘案して評価する。

【テキスト】

博物館学概論（長谷川銹治　戸谷印刷）

博物館実習

秋元悦子

【授業の概要】

学芸員資格を取得するにあたって、展示演習、博物館見学、博物館実習を中核に、具体的な学芸員活動を様々な観点から学習する。

【授業計画】

1．展示とは……展示という手法について、その実際と未来像を考える。
2．展示の実際……計画から、手法、条件などの展示の実際の概要を具体的事例をふまえながら、学んでゆく。
3．展示にかかわる事業……展示をとりまく、様々な事業（解説、広報、印刷物、講座など）の存在を知る。
4．展示の企画および実習……各自で企画した展覧会の計画書を作成し、また展示方法やその活用法を実習する。
5．展示と教育普及事業……展示を通じての生涯学習機関として、博物館の今後をになう役割と未来を探る。

授業以外に、

●土曜日に、博物館の展示・施設見学を行う。
●夏休み中に、各博物館に依頼し館務実習を行う。

【評価方法】

授業および学外での研修の出席・レポート、各自の展示企画についての口頭発表およびその計画書で評価する。

【テキスト】

博物館学概論（長谷川銹治　戸谷印刷）
必要に応じてプリントを配布し、ビデオ等も利用する。

生涯学習概論

羽場俊秀

【授業の概要】

現代社会は、情報化、高齢化、生命・健康、環境などの分野において様々な問題に直面している。また、価値観の多様化に対する寛容さが以前にもまして必要とされる時代になってきている。

このような状況下において、諸問題を解決し、人々が主体的に生活していくためには学校教育で身につけた学力を基礎として、広く社会において学び続けることが大切である。学校教育との有機的関連をもった生涯学習に広がりと深まりが求められるゆえんがそこにある。この講義では、学校教育と関連した生涯発達支援としての生涯学習の原理、実践等について具体的な事例をもとに考察する。

【授業計画】

生涯学習理念の成立と発展
生涯学習実践の課題
生涯学習と社会
生涯学習と人間
社会教育の意義
社会教育施設の概要
社会教育の内容・方法・形態
社会教育指導者
総括

【評価方法】

おもに期末試験（筆記）により評価するが、開講中にレポートを課した場合はこれを評価に加味する。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。授業中に参考文献を適宜紹介する。

【参考文献・資料】

なし

博物館実習

川合 剛

【授業の概要】

「展示」は、博物館と利用者とを結ぶインターフェイスであり、博物館の「顔」といえる。この授業では、「展示」に関わる知識・技術を学び、各種博物館の見学を通じて、その実践例を見る。

【授業計画】

「展示」を実施する際の各場面を疑似体験できるよう、「実技」の時間を多くとる。また、ビデオなど視聴覚教材を用いて、具体的なイメージでとらえられるようにする。

(a) 展示とは
(b) 展示のプロセス
(c) 展示の構成要素
(d) 展示と資料保全
(e) 着想から実施まで
(f) 解説の方法と印刷物
(g) まとめ

＊1　土曜日に近隣の博物館の展示見学、施設見学を行う（年5～6回程度）。
＊2　夏休み中に各博物館に依頼し、館務実習を行う。
＊3　夏休み中に海外博物館見学の研修を行う。
＊2、＊3に参加しなかった者は、県外博物館の見学を行う。

【評価方法】

実技を行うので出席状況を重視する。あわせて、レポートと課題の提出、（時間内）小テストの結果などにより評価する。

【テキスト】

『博物館学概論』（長谷川銹治　戸谷印刷）。

【参考文献・資料】

授業の進行状況に応じ、文献・論文などを指示する。

視聴覚教育メディア論

東浦信博

【授業の概要】

「学芸員のための」を前提としながらも幅広く視聴覚教育メディア全般の特性を検討し、最近のマルチメディアまでの各視聴覚教育メディアを論ずる。

【授業計画】

1．視聴覚教育の意義と効果
2．博物館と視聴覚教育メディア（手段としてのメディア、目的物としてのメディア）
3．視聴覚教育メディア各論
　領域と種類
　録音メディア（レコード・テープ・CD等）
　映像メディア1（スライド・OHP等）
　映像メディア2（映画・ビデオ等）
　マルチメディアと情報ネットワーク

講義中心であるが、OHP、ビデオを多用する。

【評価方法】

論述式定期試験（テキスト・ノート持込み可）。

【テキスト】

視聴覚メディアと教育（樹村房　¥1,800＋税）

教育学概論

羽場俊秀

【授業の概要】

教育学の基本的な知識や概念の習得とそれに基づく具体的な諸問題について考察を進めていくことにする。とりわけ、人間の社会生活と教育との関連に力点をおいて、本来の教育の意義や望ましい教育の作用を明らかにするように努めていくことにする。その際、取り上げる題材としてプリントやVTRを使用して理解を深めていきたい。

【授業計画】

1－2　教育学の概念
3－4　教育学の歴史
5　教育学の課題
6－8　学校と教育
9－11　社会と教育
12－14　家庭と教育
15　総括

【評価方法】

主に期末試験により評価するが、講義中にレポートを課した場合はこれを評価に加味する。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

民俗学

谷沢 明

【授業の概要】

なにげなくくりかえしている日々の暮らしの中に、古い生活の投影がある。現代人の物の見方、考え方の中にも、伝統的な生活文化が反映している。民俗学においては、日本人はいかなる文化をつくりあげて今日にいたったかを、民衆の立場にたち、民衆の生活の中から、社会・経済・儀礼・信仰などの伝承をとおして具体的にみつめていきたい。また、古いものが今日の暮らしの中にどのように残存しているか、新しく変わった部分はどこで、何が新しくさせていく力になったかも考えてみたい。

【授業計画】

1．民俗学を学ぶ～方法論と調査研究法～
2．稲作と日本文化～伝統的文化のとらえかた～
3．農耕儀礼～田遊びを中心に～
4．年中行事～正月行事を中心に～
5．年中行事～盆行事を中心に～
6．人生儀礼～人生の折り目にあたって～
7．暮らしの中の習俗～海に生きる人々～
8．暮らしの中の習俗～山に生きる人々～
9．庶民信仰を探る～絵馬に託された願い～
10．庶民信仰を探る～庚申信仰～
11．日本民俗学のあゆみ～柳田國男の役割～
12．日本民俗学のあゆみ～宮本常一のまなざし～

学外教育としてフィールドワークを行う。

【評価方法】

中間レポート及び授業内小テスト・試験による

【テキスト】

フィールドワークで探る民俗と地域文化

美術史

角田美奈子

【授業の概要】

日本の美術の歴史にはたくさんの不思議があります。例えば、今、私たちが美術館で目にする「絵画」が、「日本画」と「洋画」に区別して紹介されていたりするのはどうしてでしょう。また、それはいつからのことでしょう。

このような不思議を手がかりに日本の美術の歴史をたどり、理解を深めるとともに、作品鑑賞を豊かにする視点や問題意識を育みます。

必要にあわせて東洋や西洋の美術の歴史も参照します。

【授業計画】

ワーク・シートを配布し、設問に答えるところから全体の授業をはじめる。

不思議を授業を通して発見する。

講義は、不思議の背景などを説明し、また新たな不思議を見出すはたらきかけとする。

解説プリント、ワーク・シート、感想・質問・要望などを記すフィードバック・シートを適宜配布する。

【評価方法】

ワーク・シートやフィードバック・シートを回収し、出欠の確認に代えるとともに、内容を評価する。

これらを使用しないときは、出欠を確認し、評価に反映させる。

授業で自分の考えや答えを発表してもらう。授業に参加する姿勢もあわせて評価する。

内容の評価には、回答の正しさを必ずしも求めない。取り組みの姿勢や理解の深まりなども評価の対象とする。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

必要により、授業で紹介する。

文化史

秋元悦子

【授業の概要】

本講座は、歴史・文化が地理的背景とどのように関係してきたか、中国を例にさまざまな角度から検討するものである。

授業では、古典文献・地形図・考古学などの情報を利用しながら文化的特質を考察してゆく。

また、学芸員課程の一環として各資料の所在調査の方法や活用法も紹介していく。

教材としてプリントを配布し、視覚資料（ビデオ・OHCなど）を多用し、地域と歴史の様相をより具体的に示していきたい。

【授業計画】

1．履修に関するガイダンス・オリエンテーション
2．歴史地理学概説
3．中国と日本のの自然地理を知る
4．自然地理と歴史の関係概説　史前期から近代まで
　ユーラシア大陸の歴史と中国の王朝交代
　中国歴代王朝と都の位置
5．中国人の地域概念
　『禹貢』の世界から現代の地理意識まで
6．古代中国の地域と現状
　夏殷周三代の歴史とその遺跡
7．中国の気候変遷と歴史の関係
8．地形図にみる地域と歴史
　中国地形図の種類と現状

【評価方法】

おもに期末試験（筆記）により評価する。（毎回出欠調査する。欠席回数が多い場合は受験資格を失う。）期中にレポートを提出させた場合は、これを成績評価に反映させる。

【テキスト】

なし。授業中に配布するプリントを使用。

【参考文献・資料】

世界の歴史と文化　中国（陳舜臣・尾崎秀樹監修　新潮社）

また、授業中に各種文献を紹介する。

考古学

赤羽一郎

【授業の概要】

学問としての考古学の主な対象は先人が遺した遺跡・遺物であり、それらを確認・資料化するための方法は発掘調査に拠っている。遺跡・遺物には、いつ造られ使われそして廃棄されたかという情報、即ち「時計」と、誰がどこでどのような材料で造ったかという情報、即ち「戸籍」が内包されている。その「時計」と「戸籍」を解明することが、考古学ではまず求められる。このために、近年は自然科学的分野との共同研究が活発化している。また、遺跡・遺物が先人の生活でどのような役割を担っていたかを知る上で、民俗学の知見も有効である。このように、考古学も他の学問領域との共同作業、学際の道を歩んでいる。

しかし、遺跡・遺物に内包されている「時計」「戸籍」を解き明かすことだけが考古学の目的ではない。何故なら、考古学は歴史学の一分野として、単に先人の足跡を追跡するにとどまらず、それがどのような現代的意味、私たちが生きていく上での指針を持っているかを学ぶものだからである。特に、博物館などで資料として遺跡・遺物を活用する際に必要不可欠な視点であると考えたい。

講義では、西欧に端を発した考古学の理念、日本での考古学研究の歩みと今日の研究の到達点、さらには遺跡・遺物の文化財としての保存・活用について考えていく。

【授業計画】

1　考古学の理念と方法論
2　日本考古学の発展　ア　原始
3　　〃　　イ　古代・中世
4　　〃　　ウ　近世以降
5　文化財としての遺跡・遺物

随時、スライド、OHPを用いて視覚による理解を促す。

【評価方法】

出席状況、レポートにより判定する。

【テキスト】

講義の都度、レジュメを配布する。

【参考文献・資料】

特になし。

英語海外セミナーⅠ（米国）

担当者未定

【授業の概要】

語学学習と異文化体験を目的とする、アメリカ北東部のウエスト・バージニア大学における海外英語研修プログラム。全学を対象に実施される。参加者は、キャンパス近辺のホテルに滞在し、約３週間の集中授業を受ける。週末のホームステイ、小旅行、現地学生および留学生との交流なども用意されている。出発前に行われる数回のオリエンテーションおよび事前事後のライティング課題なども含めて全てを修了すれば、本学の単位が与えられる。

期間は２月中旬から３月中旬の約１ヶ月、定員は約30名。面接およびTOEICスコアにより選考を行う。

2004年度実施研修プログラムにおける１日（９:00～15:20）の学習内容は、以下の通り：

午前　少人数制英会話クラスと総合英語の授業

午後　アメリカ文化の授業とプロジェクト（音楽/芸術・ニューズレター作成などのプロジェクトから、各自が興味のある分野を選択し、英語による意見交換を行いながら仕上げていき、修了パーティーで発表する。）

【授業計画】

この研修は、ウエスト・バージニア大学が本学学生のために用意する特別プログラムである。（全期間の学習および生活面全ての指導は、現地教員およびプログラムスタッフがあたる。期間中、本学教職員は滞在しない。）

【評価方法】

ウエスト・バージニア大学授業担当者の評価および研修前後の課題から総合的に判断する。

【テキスト】

現地にて用意される。

【参考文献・資料】

オリエンテーションで指示する。

英語海外セミナーⅡ（オーストラリア）

NORRIS, Harry T.

【Course Content】

Students will be in an English Emersion course with Canberra University. Students will study English and English usage in class, have many English activities out of class and weekly excursions to places of interest around canberra. Students will home-stay for the entire period in Canberra.

【Schedule】

After welcome and introductions on the first day. Daily schedules will include morning classes with afternoon activities. Wednesday afternoons will be set aside for excursions to places of interest such as a farm, the National gallery and Questacon.

The course will conclude with a 2 day excursion to Sydney, including sight seeing and a theatre show.

【Assessment】

Assessment will be based on Canberra University's standards. These standards are based on ability to use English, willingness to try to use English and improvement in English ability.

【Textbooks】

No text, as necessary worksheets will be given.

米国 NPO インターンシッププログラム

榎田勝利

【授業の概要】

米国ワシントンD.C.にあるCivil Society Consulting Group（CSCG）との共同プログラムとして実施する。米国の民間非営利組織（NPO）でのインターンシップの体験を通して米国社会が抱える深刻な社会問題を理解し、その問題解決の方法を学ぶ。インターンシップの期間中は、一般の米国人の家庭でのホームステイをし、日常生活を体験する。インターンシップの受け入れ場所は、ワシントンD.C.および周辺地域で、学生の関心分野、英語力、専門的知識、経験等を考慮し、受け入れ団体を決める。実践の場を通して、異文化コミュニケーション能力と情報技術能力の向上を図り、学生の将来のキャリア形成の一助ともなる機会を提供する。

（活動可能な分野）老人、児童・青少年、自然・環境、識字教育、障害者、家族、ホームレス、ジェンダー、文化・芸術、スポーツ、バイリンガル教育、外国人支援、国際交流・国際協力、博物館・美術館、図書館、その他。

（米国側協力団体）Civil Society Consulting Group（CSCG）

【授業計画】

（事前研修）・インターンシップの活動分野の決定・日米のNPO、ボランティア団体等の現状学習・日本のNPO、ボランティア団体へのフィールドワーク・英会話のトレーニング・米国側ディレクターによる合宿オリエンテーション

（現地プログラム）・オリエンテーション合宿・基本的に月曜から金曜までの５日間のインターン・１日特別研修プログラム・インターンシップの体験報告書の作成と提出・評価会、修了式、さよならパーティ

（事後研修）・フォローアップ研修、報告書作成

【評価方法】

現地での評価（受け入れ団体、ホストファミリー等と報告書）を考慮し総合評価を行う。

【テキスト】

米国側提出の英文資料

【参考文献・資料】

研修時にその都度資料を提供する

中国語海外セミナーⅠ（中国）

馮 富榮

【授業の概要】

この授業では、言語実践を通して、言葉を知り、理解し、発信し、理解されることの楽しさを体験することができる。また南京師範大学に滞在して生活することで、中国に対する単なる傍観者・観察者ではなく、客観的な目をもった共感者になることを目指す。

1．南京師範大学において４週間の中国語研修を行う。

◎　月曜～金曜の午前中は８：00～11：30まで中国語の授業。日本語のできない先生が中国語で授業するが、分かるのが不思議。内容は会話表現中心。

◎　午後は課外活動として南京市内見学（中山陵、南京博物館、玄武湖、夫子廟、南京大屠殺記念館など）を通して、南京の風俗、歴史を学び、日本語学科の学生との交流会などを通して中国人同世代の人の考え方や生活を学ぶ。

◎　夜は予習復習に追われる。みんな教室に集まって、黙々と勉強。

◎　土曜と日曜は言語実践の日。南京の街へ飛び出そう!

◎　風光明媚な「瘦西湖」で名高い楊州への一日旅行。

2．言語文化論Ⅰの講義内容と呼応した５日間ほどの研修旅行。

3．定員は20名程度。

4．今年度の２月中旬から３月中旬にかけて実地する。

5．終了者に２単位を認定する。

【授業計画】

４月のガイダンスで研修の内容などを説明する。後期開講科目であるが、履修登録を必要とせず、参加したことによって単位が取得できる。９月下旬頃、参加募集を掲示に出し、10月中旬頃に参加者を決定する。その後、説明会を２回ほど、オリエンテーションを１回実施する。詳しくは掲示を見る。２月中旬に出発し、３月中旬に帰国する。費用は25万程度。

【評価方法】

引率者は平常点で評価する。

【テキスト】

南京師範大学の研修授業の担当先生が決めるテキストを使用する。

韓国・朝鮮語海外セミナーⅠ（韓国）

チョ スルソップ

【授業の概要】

韓国語の学習と韓国文化の体験、そして韓国の大学生との交流を目的に設けられた研修です。韓国屈指の名門、ソウルの梨花女子大において実施されます。梨大（イデ）の言語教育院が主催する「韓国語短期過程」に合流する形での韓国語の授業、韓国の文化と社会を理解し体験できるための韓国文化の各講座、韓国の庶民生活がじかに体験できる２泊３日におよぶホームステイ、そしてこの国際時代の未来をともに生きる韓国の若者と一緒に語りあい、活動しあえる日韓学生共同プログラムなどが正規のメイン企画です。その他、ソウル随一の学生街、おしゃれ街として知られる新村での一夏の生活もこの研修の大きな魅力の一つです。

期間：夏期休暇の８月中の３～４週間
内容：
1．韓国語研修
　a．梨大（イデ）の言語教育院が主催する「韓国語短期過程」に合流
　b．実生活での意思疎通のための集中的韓国語の学習
　c．入門の１段階から最上級の６段階に分けられたクラス編成
　d．専門教授陣による自分の能力に見合ったクラスでの研修
2．韓国文化研修
　a．芝居鑑賞
　b．板門店の訪問
　c．ホームステイ（２泊３日）
3．日韓学生共同プログラム
　a．毎週１回程度の頻度
　b．テーマごとに、韓日の大学生が協同参加で活動する大学生との交流行事
　c．テーマ、「韓国と日本の大学生活を語る」、「地域探訪（文化財踏査）」、「韓国の民俗と礼節」など
4．その他の課外活動

【授業計画】

４～５月：ガイダンス、参加者の募集および決定
６～７月：数回の事前研修
８月：現地研修
９～11月：事後研修および報告書のまとめ

【評価方法】

現地教員、プログラムの関連スタッフ、および引率教員の総合評価による。

【テキスト】

現地研修の韓国語教材「Pathfinder in Korean 1,2,3,4,5」（梨花女子大学校出版部）中
その他は特になし

Japan's Global Interface

藤井正志　太田浩司　宮田 Susanne　ブイ チ トルン
國信潤子　梅田敏文　JOLLY, James A.　石橋善弘

【授業の概要】

本講義は、国際交流・国際協力・国際ビジネスなどのテーマを通して日本の文化や社会の理解を深める。受講対象者は、特別科目等履修生（ただし交換留学による者）・留学生別科生・一定の資格を満たす学部生・大学院生（含む外国人留学生）である。

This omnibus lecture will be conducted in English and introduce students to cultural exchange, international cooperation and international business, and the part Japan plays in these intercultural movements. Along with increasing an awareness of Japan' s global interface will come a deeper understanding of Japanese culture and society. This lecture is open to: -Special Credit-Auditors (exchange students only)-Students enrolled in the Japanese Studies Program at the Center for Japanese Language and Culture-Undergraduate students, graduate Students and overseas students. (Basic English skills are required.)

【授業計画】

1	FUJII, Masashi	Introduction
2	OTA, Hiroshi	Language Use in Japan
3	OTA, Hiroshi	Language Use in Japan
4	MIYATA, Susanne	Intercultural Communication from a Psychological Point of View
5	MIYATA, Susanne	Intercultural Communication from a Psychological Point of View
6	BUI, Chi Trung	Intercultural Communication Through NPO Activities
7	KUNINOBU, Junko	Gender Relations in Japanese Society
8	UMEDA, Toshifumi	Information Technology and Information Ethics
9	UMEDA, Toshifumi	Information Technology and Information Ethics
10	JOLLY, James	Developing International Business Practices
11	JOLLY, James	Developing International Business Practices
12	ISHIBASHI, Yoshihiro	Statistics in Social Sciences
13	ISHIBASHI, Yoshihiro	Statistics in Social Sciences

【評価方法】

Assessment will be based on attendance and/or a paper.
出席点及び教員ごとにレポートを課し、総合的に評価する。

【テキスト】

To be announced

【参考文献・資料】

To be announced

スポーツ特殊講座（ボウリング）

松田秀子

【授業の概要】

ボウリングを通して、基礎技術の向上と知識の習得を目標とし、生涯スポーツの実践へとつなげる。

【授業計画】

〔ボウリング〕
1．期日
　実習　平成17年９月７日（水）・８日（木）・９日（金）
　　12日（月）・13日（火）・14日（水）
　　計６日間　午前中のみ
2．説明会　平成17年７月６日（水）12：30～13：15
　　実習に必要な諸手続きを行ないますので、必ず参加すること。
3．場所　星ヶ丘ボウル
4．実習費　6,000円（平成16年度のものですので変更する場合があります。）
5．定員　60名
6．内容
　１日目　開講式、ボウリング学習の意義と特質、用具説明
　２日目　ボウリングの歴史、基本動作
　３日目　ボールのコントロール、軌道調整
　４日目　アジャスティングの基本と実践、３－２－１理論
　５日目　レーンコンディションとボールの曲がり
　　ストライクアングルの実践練習
　６日目　競技会説明、競技会（アメリカン方式３ゲーム）、閉講式

【評価方法】

出席状況と実習中の技術の上達度により総合評価する。

スポーツ特殊講座（スケート）

松田秀子

【授業の概要】

スケートを通して、基礎的技術の向上と、知識の習得を目標とし、楽しさを学び生涯スポーツの実践へつなげる。

【授業計画】

〔スケート〕
1．期日
　実習　平成18年２月８日（水）・９日（木）
　　10日（金）・13日（月）
　　14日（火）・15日（水）
　　計６日間　午前中のみ
2．説明会　平成18年１月11日（水）12：30～13：15
　　実習に必要な諸手続きを行ないますので、必ず参加すること。
3．場所　名古屋スポーツセンター（大須）
4．実習費　7,200円（平成16年度のものですので変更する場合があります。）
5．定員　40名
6．内容
　１日目　開講式、床で歩行練習、基本姿勢、氷上歩行・両足滑走
　２日目　自然滑走、正しい押し出し
　３日目　フォアスケーティング・カーブ滑走
　４日目　ストップ、バックスケーティングの基本
　５日目　クロスステップ、フォアからバックへのターン
　６日目　総合練習、実技テスト、閉講式

【評価方法】

出席状況と実習中の技術の上達度により総合評価する。

外国語教育センター主催の英語、中国語、韓国・朝鮮語科目および情報教育センター主催のコンピュータ科目は、それぞれ言活（英語）、言活（中国語）、言活（韓国・朝鮮語）、コン活のページを参照ください。